

本書の見かた

本書ではお車の各装置や装備の正しい取り扱いかたと、快適ドライブ情報やお手入れのしかた、万一のときの応急処置などを記載しています。

- ◎ **お車を安全・快適にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。**
- ◎ 「警告」「注意」は安全のために特に重要です。
よく読んでお守りください。
- 本書の中で使用しているマークと意味は次のようになっています。

安全のために守っていただきたいこと。

 警告	守らないと生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。
 注意	守らないと傷害または事故につながるおそれがあります。

お車のために守っていただきたいこと。

 アドバイス	守らないと車両破損につながるおそれや本来の性能を確保できないことがあります。
--	--

お車を使ううえで知っておいていただきたいこと。

 知識	知っておくとお車やいろいろな装備を上手に使うことができ便利です。
---	----------------------------------

- コントロールパネルのスイッチは****、操作画面に表示されるメニューと項目は****と表示しています。
- 参照して読んでいただきたいページなどを、➡マークで表示しています。
- 日産販売会社で取り付けられた装備（ディーラーオプション）については、その装備に付属の取扱説明書をお読みください。
- 点検・整備、保証については別冊のメンテナンスノートをお読みください。
- 別冊のナビゲーションシステム取扱説明書も合わせてお読みください。
- その他、ご不明な点はカーライフアドバイザーにお申しつけください。

- 交通ルールやマナーを守って運転しましょう。
- 自然環境保護に配慮してください。
- 本書と別冊のメンテナンスノートはお車の中に保管してください。
- お車をゆずられるときは次に所有される方のために、本書をお車に付けておいてください。
- 車両の仕様変更により、本書の内容が実車と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

■ 外観フロント .2	■ 外観リヤ .3	■ 車室内 .4
■ 運転席まわり .5	■ インストルメントパネル① .6	■ インストルメントパネル② .7

イラスト目次

P.2

■ SRSエアバッグについて .11	■ ポップアップエンジンフードについて .24	■ お子さまの安全のために .28
■ 運転する前に .38	■ 始動する .65	■ 走行する .67

運転をするときは

P.9

■ メーターの見かた .224	■ 警告灯・表示灯 .229	■ アドバンスドドライバアシストディスプレイの見かた .240
-----------------	----------------	---------------------------------

メーター

P.223

■ ドアの施錠と解錠 .266	■ 各部の開閉 .281	■ ウィンドーの開閉 .288
■ エアコンの使いかた .295	■ スイッチの操作 .296	■ 室内装置 .309

各部の操作

P.265

■ タイヤのパンク .334	■ ドア／トランクが開かない .336	■ 始動しないとき .337
■ 各種警告機能について .346	■ くもりが取れない .354	■ オーバーヒートしたとき .356
■ 動かないとき .358	■ 故障したとき .364	

トラブルがおきたときは

P.333

■ 点検・整備 .368	■ 清掃・お手入れ .404	■ サービスデータ .412
--------------	----------------	----------------

メンテナンス

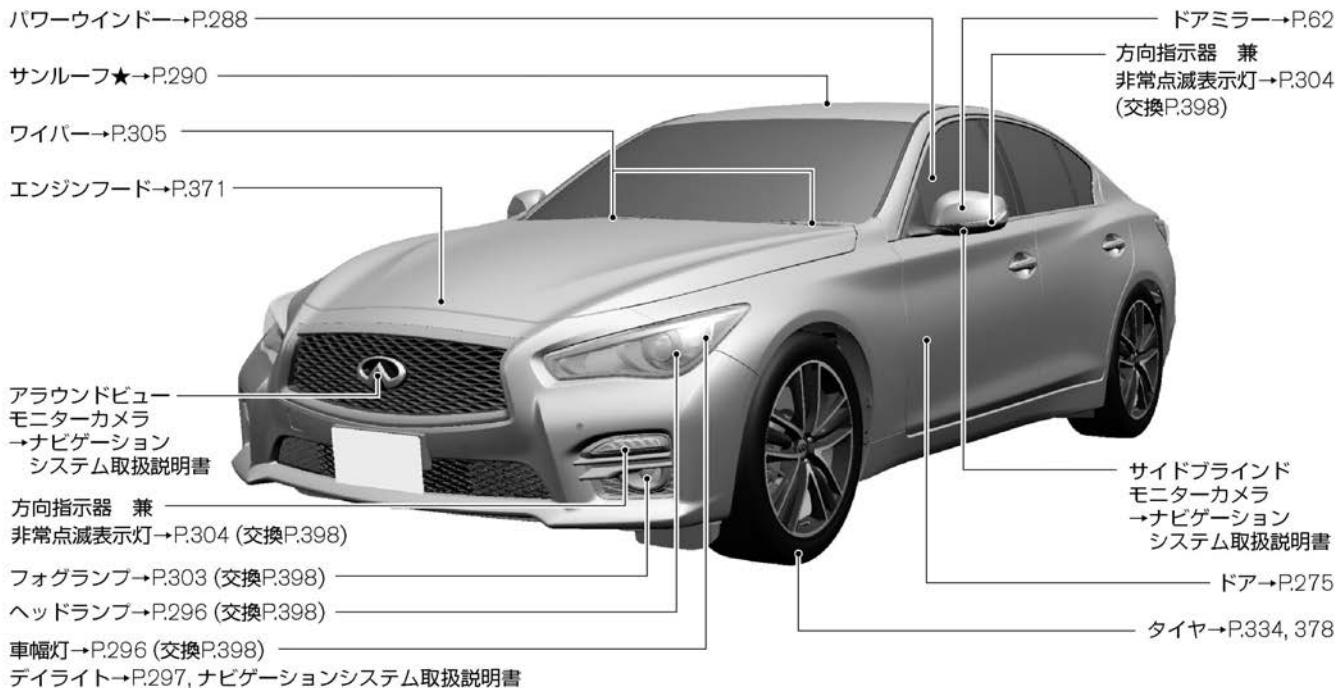
P.367

索引

P.419

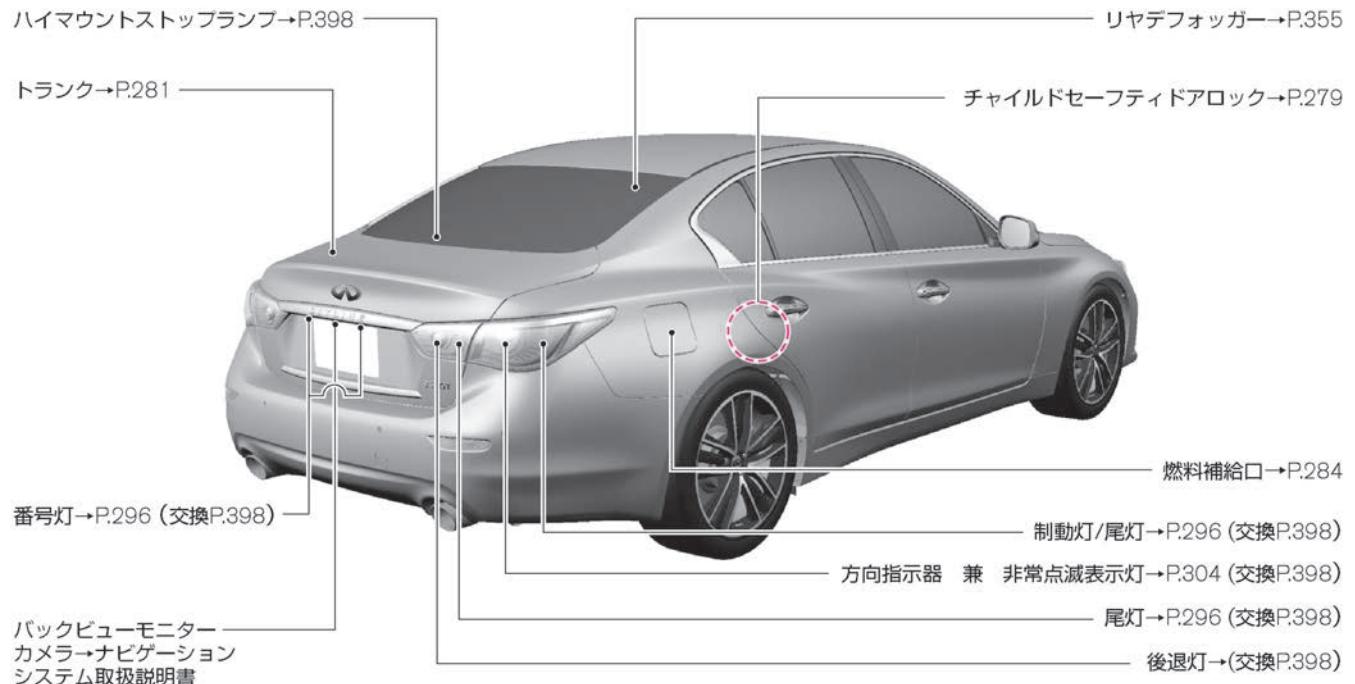
外観フロント

車両前方から見た外観の名称と配置図です。



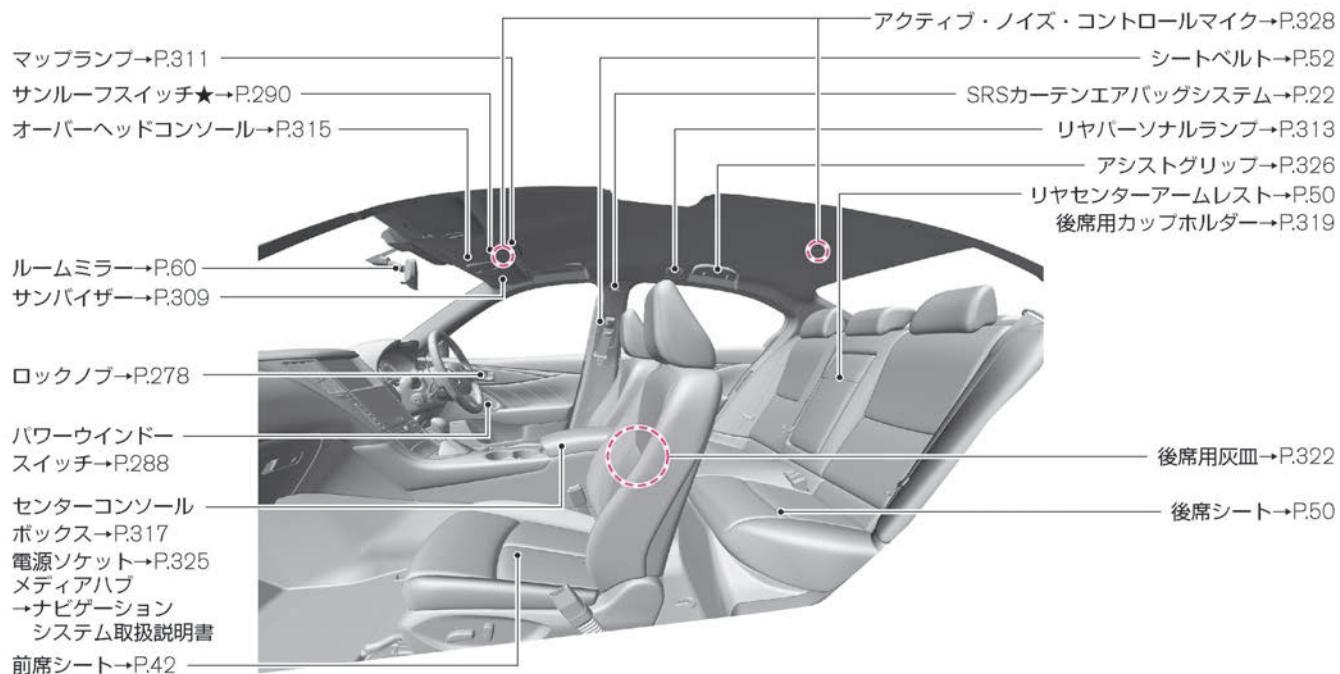
外観リヤ

車両後方から見た外観の名称と配置図です。



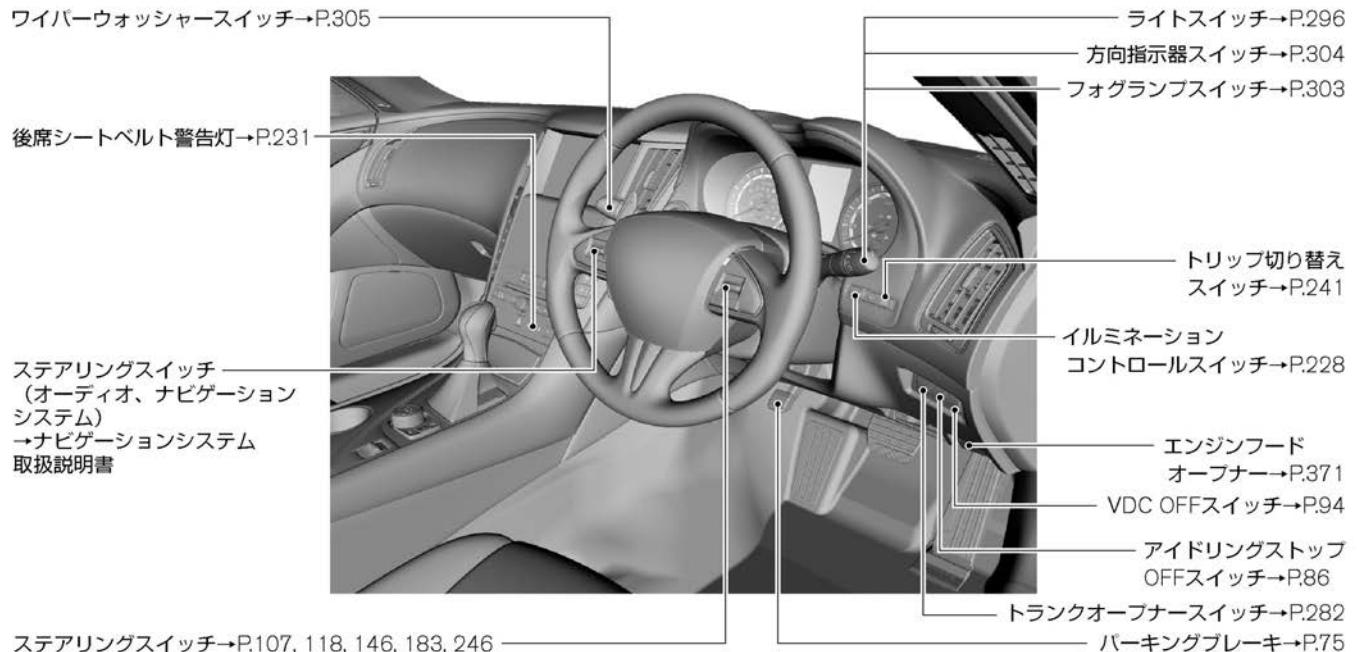
車室内

車室内的名称と配置図です。



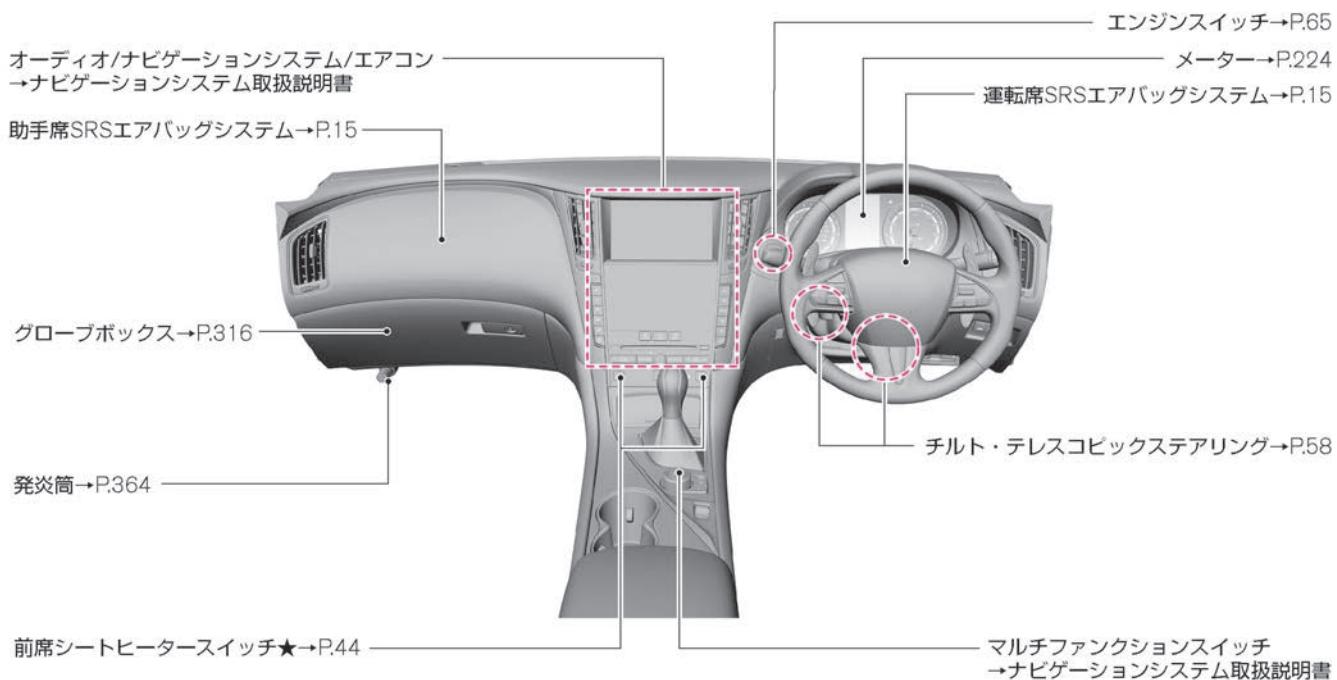
運転席まわり

運転席まわりの名称と配置図です。



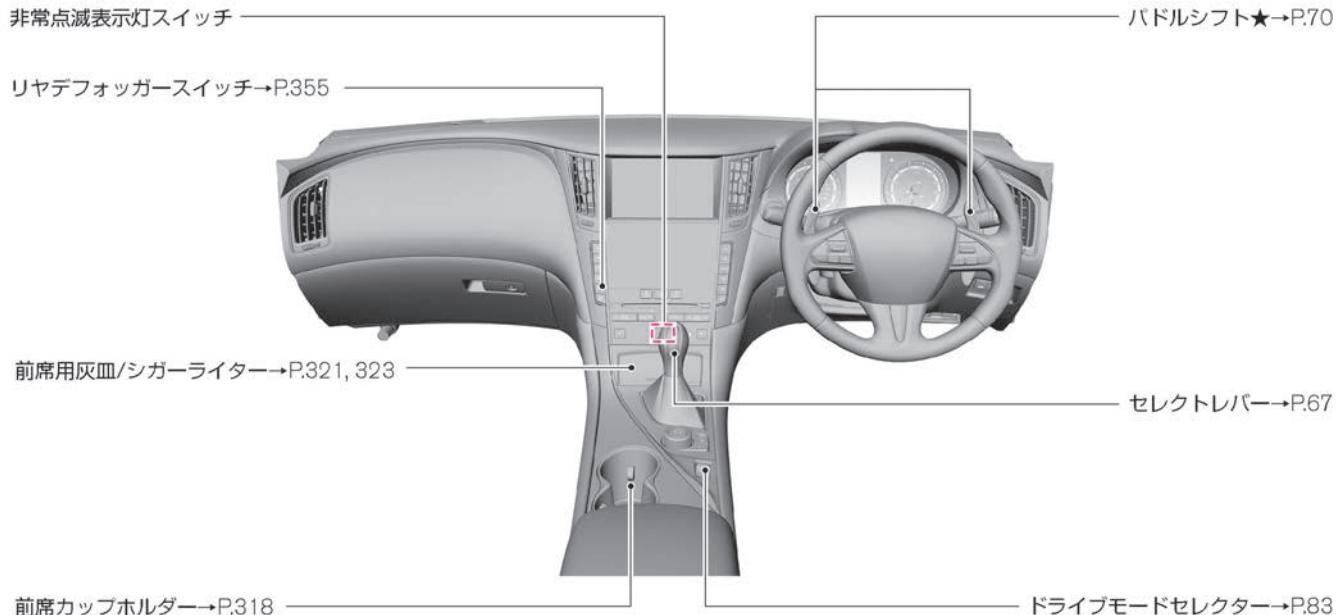
インストルメントパネル①

インストルメントパネルまわりの名称と配置図です。



インストルメントパネル②

インストルメントパネルまわりの名称と配置図です。



MEMO

運転をするときは

SRSエアバッグについて

SRSエアバッグ	P.11
運転席・助手席SRSエアバッグシステム	P.15
運転席・助手席SRSサイドエアバッグシステム	P.20
SRSカーテンエアバッグシステム	P.22

ポップアップエンジンフードについて

ポップアップエンジンフード	P.24
---------------	------

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは	P.28
チャイルドシート	P.31
チャイルドシート適合表	P.35

運転する前に

運転するときに注意すること	P.38
正しい運転姿勢	P.41
シート	P.42
ELR（緊急固定）付3点式シートベルト	P.52
ハンドル	P.58
ルームミラー	P.60
ドアミラースイッチ	P.62

始動する

エンジンスイッチ	P.65
----------	------

走行する

セレクトレバー	P.67
パーキングブレーキ	P.75
発進	P.76
走行	P.79
停車・駐車	P.81
ドライブモードセレクター	P.83
アイドリングストップ	P.85
VDC（ビークルダイナミクスコントロール）	P.92
コーナリングスタビリティアシスト機能	P.96
ヒルスタートアシスト	P.97
ダイレクトアダプティブステアリング★	P.99
アクティブブレーンコントロール (ダイレクトアダプティブステアリング付車)	P.102
LDW（車線逸脱警報）／LDP (車線逸脱防止支援システム)	P.107
BSW（後側方車両検知警報）／	
BSI（後側方衝突防止支援システム）	P.118
BCI（後退時衝突防止支援システム）	P.136

運転をするときは

インテリジェントクルーズコントロール	P.146
ナビ協調機能 (インテリジェントクルーズコントロール)	P.169
定速制御機能 (インテリジェントクルーズコントロール)	P.175
インテリジェントペダル (ディスタンスコントロールアシスト)	P.183
ナビ協調機能 (インテリジェントペダル)	P.199
エマージェンシーブレーキ	P.207
PFCW (前方衝突予測警報)	P.214
エマージェンシーストップシグナル	P.220
ABS (アンチロックブレーキシステム)	P.221

SRSエアバッグについて

SRSエアバッグ

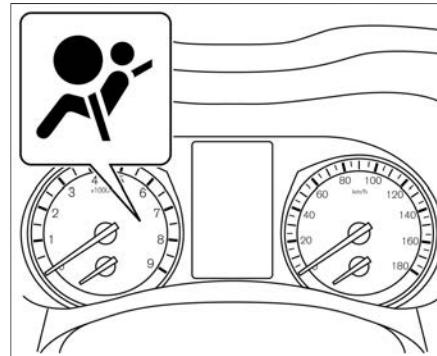
SRSエアバッグは、シートベルトと併用することで安全性を高めます。
シートベルトは必ず着用してください。

SRSエアバッグの作動

SRSエアバッグは、電源ポジションがONのときに作動可能です。

電源ポジションをONにしたあと、約7秒間はメーター内のSRSエアバッグ警告灯が点灯します。その間はシステムチェックを行うため、SRSエアバッグは作動しません。警告灯が消灯してから走行してください。

SRSエアバッグは、正面衝突時や側面衝突時において、乗員がシートベルトを正しく着用していても重大な傷害を受けるおそれのあるような衝撃を受けた場合に作動します。しかし衝撃が車体で吸収または分散され、車両の損傷は大きくても乗員への衝撃が強くならない場合には、作動しないことがあります。



警告

- 電源ポジションをONにしてもSRSエアバッグ警告灯が点灯しないときや、点灯または点滅を続けるときは、放置したまま走行しないでください。SRSエアバッグが正常に作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 廃車にするときやSRSエアバッグを廃棄するときは必ず日産販売会社にご相談ください。
- SRSエアバッグは、一度ぶくらむと再使用できません。日産販売会社で交換してください。

知識

- SRSとは、「Supplemental Restraint System」の略でシートベルトの補助拘束装置の意味です。

SRSエアバッグについて

SRSエアバッグ

SRSエアバッグの注意事項



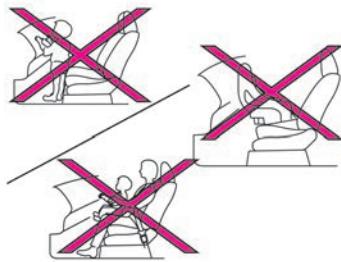
警告

- SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置です。SRSエアバッグだけでは、身体の飛び出しなどを防止することはできません。SRSエアバッグの効果を発揮させるため、必ずシートベルトを正しい姿勢で正しく着用してください。
- 乗車するときは必ず次のことをお守りください。守らないと、SRSエアバッグが誤って作動したり正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。
 - ハンドルまわり、車両前部、インストルメントパネルまわり、フロントシートまわり、センターピラー（ロックピラー）まわり、センターコンソールまわり、ルーフサイド部などのSRSエアバッグ格納部を修理するときは、日産販売会社にご相談ください。また、SRSエアバッグ格納部に傷がついていたりひび割れがあるときは、そのまま使用せず日産販売会社で交換してください。
 - SRSエアバッグ格納部に過度の衝撃を与えないでください。
 - 電気テスターを使ってSRSエアバッグの回路診断をしたり、回路を変更しないでください。
 - エアロパーツなどを取り付けたりサスペンションを改造するときは、日産販売会社にご相談ください。不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。
- 助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けることはできません。SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートができるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

☞ チャイルドシート (P.31)

⚠ 警告

- 走行する前にチャイルドシートが確実に固定されていることを確認してください。固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



SRSエアバッグについて SRSエアバッグ

⚠ 注意

- SRSエアバッグはふくらんだあと高温になるため、30分以内はさわらないでください。やけどをするおそれがあります。
- SRSエアバッグは高温のガスにより高速でふくらむため、事故の状態によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- SRSエアバッグがふくらむとき、作動音や白煙が出ますが火災ではありません。また、発生するガスによりむせることができますが毒性はありません。ただし、SRSエアバッグ作動時の残留物（カス）などが目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方などは、まれに皮膚に刺激を感じことがあります。

SRSエアバッグについて

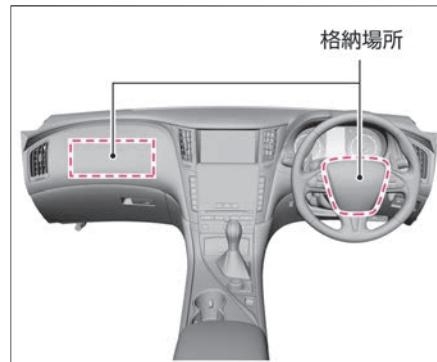
運転席・助手席SRSエアバッグシステム

車両前方から強い衝撃を受けたときSRSエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の頭部にかかる衝撃を緩和します。

■ 格納場所

運転席SRS エアバッグは、ハンドル部に格納されています。

助手席SRS エアバッグは、助手席側インストルメントパネル部に格納されています。
乗員がいなくても運転席と同時に作動します。



■ SRSエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 25km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき
- 車両前方左右、約30°以内の方向から強い衝撃（上記と同等）を受けたとき

次のような車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。（車両の損傷は少なくとも乗員への衝撃は強いとき）

- 高速で縁石などに衝突したとき
- 深い穴や溝に落ち込んだとき
- ジャンプして地面にぶつけたとき

△ 注意

- 助手席SRSエアバッグが作動した衝撃で前面ガラスが割れることがあります。

□ 知識

- 運転席、助手席SRSエアバッグはふくらんだあとすぐにしほむので、視界の妨げになることはありません。

SRSエアバッグについて 運転席・助手席SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

衝突したものが変形したり移動したときや、衝突した物の形状や衝突の状態によって衝突時の衝撃が緩められたときは、作動しにくくなります。

- 停車している同クラスの車に約50km/h以下速度で衝突したとき
- 衝突時に折れない電柱などに約30km/h以下速度で正面衝突したとき
- トラックなどの荷台の下にもぐり込んだようなとき
- 斜め前方からガードレールなどに衝突したとき

SRSエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 横方向や後ろから衝突されたとき
- 横転、転覆したとき

SRSエアバッグについて 運転席・助手席SRSエアバッグシステム

運転をするときは

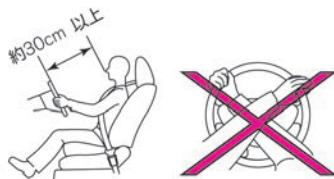
■ 運転席・助手席SRSエアバッグシステムの注意事項



警告

運転席SRSエアバッグシステム

- ハンドルから顔をできるだけ（約30cm 以上）離し、ハンドルにもたれかかるなど SRSエアバッグ格納部に手や顔、胸などを不必要に近づけないでください。また、内がけでのハンドル操作はしないでください。

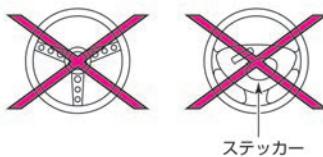


- 不適正なハンドルに交換したり、センターパッド部（SRSエアバッグ格納部）にステッカーなどを貼らないでください。

SRSエアバッグについて 運転席・助手席SRSエアバッグシステム



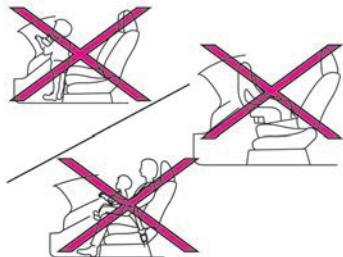
警告



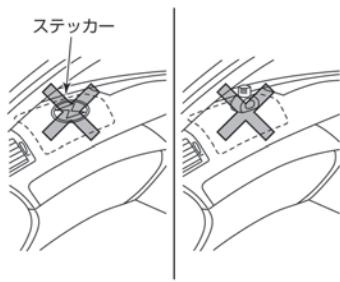
- 前面ガラスにアクセサリーなどを付けないでください。

助手席SRSエアバッグシステム

- インストルメントパネル（SRSエアバッグ格納部）に手や足を置いたり、顔や胸などを近づけないでください。また、お子さまをSRSエアバッグ格納部の前に立たせたりひざの上に抱いたりせず、後席に乗せてください。
- チャイルドシートは後席シートに取り付けてください。やむを得ず助手席シートに取り付けるときは、シートができるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。乳児用チャイルドシートなど後ろ向きにしか使用できないシートは必ず後席シートに取り付けてください。
- 走行する前にチャイルドシートが確実に固定されていることを確認してください。固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

⚠ 警告

- インストルメントパネル上面および前面にステッカーなどを貼ったり、アクセサリーや芳香剤などを置かないでください。



SRSエアバッグについて

運転席・助手席SRSサイドエアバッグシステム

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の主に胸部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSサイドエアバッグは、シート背もたれ側面（外側）に格納されています。助手席は乗員がいなくても作動します。



警告

- ドアにもたれるなど、前席シート背もたれ側面（外側）のSRSサイドエアバッグ格納部に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、前席シートの背もたれを抱えたりしないように注意してください。
- 前席ドアをガラスが割れるほど強く閉めないでください。SRSエアバッグが誤作動するおそれがあります。
- 前席シートのSRSサイドエアバッグ格納部付近に傘やカバンなどを置かないでください。
- シートカバーは、前席シート背もたれ側面を覆わないものをお使いください。日産純正シートカバーをおすすめします。

SRSエアバッグについて

運転席・助手席SRSサイドエアバッグシステム

SRSサイドエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRSサイドエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

衝突したものが変形したり移動したときや、衝突した物の形状や衝突の状態によって衝突時の衝撃が緩められたときは、作動しにくくなります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- エンジンルーム（トランクルーム）に衝突されたとき
- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRSサイドエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

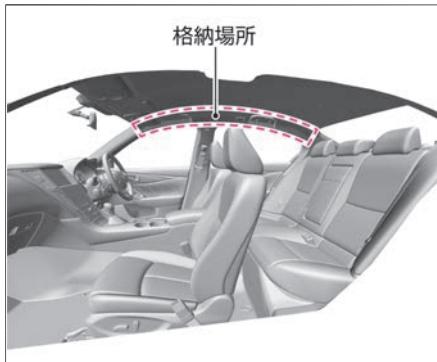
- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

SRSエアバッグについて SRSカーテンエアバッグシステム

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSカーテンエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の主に頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSカーテンエアバッグは左右のルーフサイドに格納されています。助手席側は乗員がいなくても作動します。



警告

- ドアにもたれるなど、SRSカーテンエアバッグ格納部に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、前席シートの背もたれを抱えたりしないように注意してください。
- 前席ドアをガラスが割れるほど強く閉めないでください。SRSエアバッグが誤作動するおそれがあります。
- センターピラー（ロックピラー）まわり、ルーフサイド部などのSRSカーテンエアバッグ格納部付近に、アクセサリーやハンガーなどを取り付けないでください。

SRSカーテンエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRSエアバッグについて

SRSカーテンエアバッグシステム

SRSカーテンエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

衝突したものが変形したり移動したときや、衝突した物の形状や衝突の状態によって衝突時の衝撃が緩められたときは、作動しにくくなります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- エンジンルーム（トランクルーム）に衝突されたとき
- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRSカーテンエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

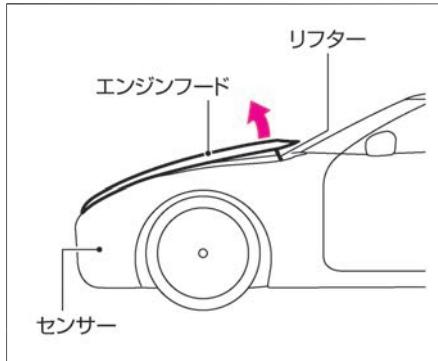
- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

ポップアップエンジンフードについて ポップアップエンジンフード

歩行者と衝突したときにエンジンフードの後端を瞬時に持ち上げ、エンジンフード下の部品との空間を広く保つことで、歩行者の頭部がエンジンフードへ衝突したときの衝撃を緩和します。

■ ポップアップエンジンフードについて

- 衝突によりセンサーがある一定以上の衝撃を感じると、システムが作動し、リフターによりエンジンフードの後端が瞬時に持ち上がります。
- 電源ポジションがONのとき作動します。



⚠ 警告

- ポップアップエンジンフードが作動した直後は、リフターが高温になるため触れないでください。やけどをするおそれがあります。

ポップアップエンジンフードについて

ポップアップエンジンフード

■ ポップアップエンジンフードが作動するとき

次のような衝撃を受けたときに作動します。

- 約20~60km/hの間で走行中、フロントバンパーに歩行者と同等、もしくはそれ以上の衝撃を受けたとき
(衝突したときにフロントバンパーに痕跡が残らないような場合でも、ある一定のレベルを超えた衝撃が加われば作動します。また、軽い物・小動物・雪のかたまりや他の小さな物体でも、衝突の状況、速度によっては作動することがあります。)
- 次のような車両下部やバンパー下部に衝撃を受けたときも作動することがありますので、車両下部やバンパー下部に衝撃を受けそうな路面を走行するときは速度を落として注意して走行してください。
- 縁石に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ち込んだとき
- ジャンプして地面にぶつけたとき
- 駐車場のスロープや落下物などにフロントバンパーをぶつけたとき
- 踏み切りなどのうねりのある路面にフロントバンパーをぶつけたとき

⚠ 警告

- ポップアップエンジンフードが作動したときは、フードオープナーを引かないでください。
フードオープナーを引くと、さらにフードが上がり視界の妨げとなるため危険です。また、フードを無理に押し戻さないでください。作動したフードは手動で下げることができないため、フードが変形したり、思わずケガをするおそれがあります。ポップアップエンジンフードが作動したときは、必ず日産販売会社にご相談ください。

■ アドバイス

- ポップアップエンジンフードは、一度作動すると再使用できません。日産販売会社で交換してください。

ポップアップエンジンフードについて ポップアップエンジンフード

■ ポップアップエンジンフードが作動しにくいとき

次のような場所に衝突したときは衝撃を感じにくいため、作動しないことがあります。

- 走行中、フロントバンパーの左右の角や側面に歩行者がぶつかったとき
- 車両が横滑りするなどして、車速が正しく検知できないとき

■ ポップアップエンジンフードが作動しないとき

一度、ポップアップエンジンフードが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときにも作動しません。

- ポップアップエンジンフードが作動する速度の範囲外で走行中フロントバンパーに衝撃を受けたとき
- 横方向や後ろから衝撃を受けたとき
- 横転、転覆したとき

ポップアップエンジンフードについて

ポップアップエンジンフード

■ ポップアップエンジンフードの注意事項

⚠ 警告

- ポップアップエンジンフードの部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってシステムの回路診断をしないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパーの交換やエアロパーツの取り付けなどを行うときは、日産販売会社にご相談ください。不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。
- 不適正なエンジンフードに交換しないでください。正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパーに衝撃が加わったときは、ポップアップエンジンフードが作動しなくてもセンサーが故障している可能性があるため、必ず日産販売会社にご相談ください。

⚠ 注意

- 電源ポジションをON後、約7秒間はメーター内のポップアップエンジンフード警告灯が点灯します。その間はシステムチェックを行うため、ポップアップエンジンフードは作動しません。警告灯が消灯してから走行してください。
- 廃車にするときやポップアップエンジンフードのアクチュエータを破棄するときは、必ず日産販売会社にご相談ください。アクチュエータの作動により、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

お子さまの安全のために お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことに注意してください。

■ お子さまは後席に

- 助手席に乗せるのは避けてください。お子さまの動作が気になったり、スイッチ、レバー類のいたずらなど安全運転の妨げになるおそれがあります。また、助手席SRSエアバッグの格納部に近づいていると、万一の事故などでSRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ お子さまにもシートベルトを着用

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。お子さまを抱いていると、衝突時などに支えることができず重大な傷害を受けるおそれがあります。
 [シートベルトのつけかた \(P.52\)](#)
- シートベルトが首や顔に当たったり、腰骨に掛からないような小さなお子さまには、チャイルドシートをお使いください。
 [チャイルドシート \(P.31\)](#)

お子さまの安全のために お子さまを乗せるときは

■ チャイルドシートは後席に

- チャイルドシートは後席に取り付け、走行する前に確実に固定されていることを確認してください。固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- 助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けることはできません。SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートができるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。
- チャイルドシートは使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、荷室などに収納してください。車室内に放置したままにすると、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。



お子さまの安全のために お子さまを乗せるときは

■ ドア、ウインドーなどは大人が操作

- ドア、ウインドーなどの開閉は、お子さまには操作させないでください。開閉時に手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドセーフティードアロック（☞P.279）やパワーウィンドーロックスイッチ（☞P.288）を使用し、お子さまが操作できないようにしてください。

窓やサンルーフ★から手や顔を出さない

- お子さまが手や顔を出さないように注意してください。急ブレーキ時に窓枠などにぶつかったり、車外の障害物に当たったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

車室内にお子さまだけを残さない

- 車から離れるときは、必ずお子さまと一緒に降ろしてください。炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。
- お子さまのいたずらで車の発進、火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまの安全のために チャイルドシート

チャイルドシートの固定機構を使ってチャイルドシートを固定することができます。

チャイルドシートの種類

乳児用チャイルドシート：UN R44基準のグループ0、0⁺に相当します。

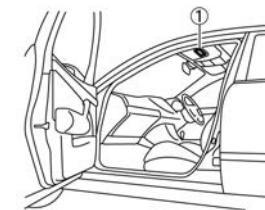
チャイルドシート：UN R44基準のグループ0⁺、Iに相当します。

ジュニアチャイルドシート：UN R44基準のグループII、IIIに相当します。

- 乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートの総称として「チャイルドシート」と呼んでいます。
- この車はUN R44の基準に適合したISO FIX対応チャイルドシート固定専用アンカーを標準装備しています。

警告

- 助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けることはできません。SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートができるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。



① エアーバッグ警告ラベル



お子さまの安全のために チャイルドシート

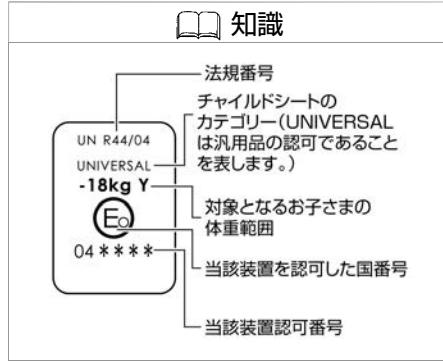
⚠ 注意

- お子さまの年齢や体格にあつた、適切なチャイルドシートをお選びください。
- 固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- ISO FIX対応のチャイルドシートをすでにお持ちの場合、ご使用前にUN R44の基準に適合していることを確認してください。詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書を参照してください。

📖 知識

- UN R44はチャイルドシートに関する国際法です。UN R44の基準に適合した汎用（ユニバーサル）チャイルドシートには、認可マークが貼られています。

📖 知識



お子さまの安全のために チャイルドシート

運転をするときは

■ チャイルドシートの質量グループ

UN R44の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次のように分類されます。

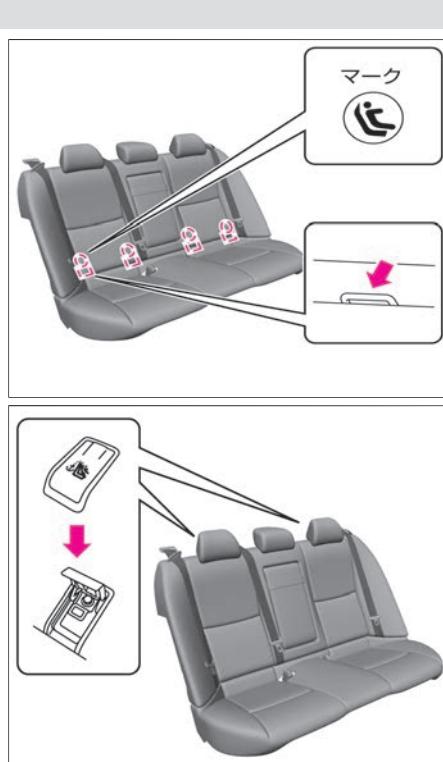
質量グループ	お子さまの体重
グループ0	0kgまで
グループ0 ⁺	13kgまで
グループI	9~18kgまで
グループII	15~25kgまで
グループIII	22~36kgまで

お子さまの安全のために チャイルドシート

アンカーの位置

後席シートの左右にはISO FIX対応チャイルドシートを取り付けるためのアンカー（固定装置）が装備されています。

- ISO FIX対応チャイルドシート用ロアアンカーは、マークの下側にあります。
- テザーアンカーは、リヤパーセルにあります。
- 取り付けたおよび取り外しかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。



警告

- チャイルドシートを取り付けるときは、アンカーパー周辺に異物がないことや、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどをかみ込むとチャイルドシートが固定されず、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルドシートは確実に固定してください。確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

注意

- ISO FIX対応チャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストをロックする位置まで上げてください。

お子さまの安全のために チャイルドシート適合表

チャイルドシートの固定方法には、シートベルトで取り付ける方法と、ISO FIX対応チャイルドシート固定専用アンカーで取り付ける方法があります。次の表から各着席位置でどのチャイルドシートが使用できるかを確認してください。

シートベルトで取り付けるチャイルドシートについて

■ 選択の目安

質量グループ	着席位置		
	前席（助手席）	後席	
		左右席	中央席
0 (10kgまで)	X	U	X
0+ (13kgまで)	X	U	L
I (9~18kg)	UF ^{※1}	U	X
II (15~25kg)	UF ^{※1}	U	X
III (22~36kg)	UF ^{※1}	U	X

U : この質量グループでの使用を認可された汎用（ユニバーサル）区分のチャイルドシートに適合しています。

UF : この質量グループでの使用を認可された汎用（ユニバーサル）区分の前向きチャイルドシートに適合しています。

L : 次の表に記載されている日産純正チャイルドシートの取り付けが可能です。

X : チャイルドシートを取り付けることはできません。

※1 : チャイルドシートを取り付けるときは、必ず座面を最上段にしてください。

⇒ 前席シートの調節 (P.42)

■ 日産純正チャイルドシート

質量グループ	取り付け向き	商品名
0+ (13kgまで)	後向き	チャイルドセーフティシート (E4 04443812)

お子さまの安全のために チャイルドシート適合表

運転をするときは

ISO FIX専用アンカーで取り付けるチャイルドシートについて

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISO FIX位置（車両側）
			後席左右
キャリコット	F	ISO/L1	X
	G	ISO/L2	X
I (10kgまで)	E	ISO/R1	X
0 ⁺ (13kgまで)	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	X
	C	ISO/R3	X
	D	ISO/R2	X
	C	ISO/R3	X
I (9~18kg)	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/P2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
II (15~25kg)	-	(1)	X
III (22~36kg)	-	(1)	X

IUF : この質量グループでの使用を認可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きチャイルドシートに適合しています。

IL : この質量グループでの使用を認可された、次の表に記載されている「日産純正 ISO FIX対応ベビーシート」に適合しています。

X : チャイルドシートを取り付けることはできません。

(1) : サイズ等級表示の無いチャイルドシートの各シート位置でのISO FIX対応チャイルドシート固定機構の取り扱いについては販売業者にご相談ください。

警告

- チャイルドシートを取り付けるときは、アンカーベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどをかみ込むとチャイルドシートが固定されず、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルドシートは確実に固定してください。確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

お子さまの安全のために
チャイルドシート適合表

■ 日産純正ISO FIX対応チャイルドシートについて

質量グループ	サイズ等級	固定具	商品名	取り付け向き	カテゴリー
0 ⁺ (13kgまで)	E	ISO/R1	日産純正 ISO FIX対応ベビーシート (H8000-79923)	後向き	準汎用

⚠ 注意

- 日産純正ISO FIX対応ベビーシートの取り付けには別売りのベースキットが必要です。

運転をするときは

運転する前に 運転するときに注意すること

各種注意事項について

! 警告

- 診断機接続用のコネクターには、後付け用品を取り付けないでください。バッテリーがあがったり、警告灯が点灯するなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

! 注意

- ガソリンや可燃性ガスの入ったスプレー缶などは積まないでください。引火や爆発するおそれがあり危険です。
- ウィンドーにアクセサリーを取り付けると、視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたり、SRSエアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでケガをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジン本体、駆動系などこの車両の持っている性能を十分に引き出すためには、なし運転が必要です。
走行距離約1,600kmまでは適度な車速、エンジン回転数で運転してください。
- 車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自己流のエンジン調整や配線、市販の不適合品のマフラー取り付けなどを行わないでください。故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 日産が国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
- 次のような場合には日産販売会社にご相談ください。
 - 適切でない電装品などを取り付けないでください。電子機器部品に悪影響を及ぼしたり、誤った配線は故障や火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、バッテリー端子に電装品やアース線などを直接つながないでください。バッテリーが上がる可能性があります。
 - ハンドルの取り外しや交換を不適切に行なうと、SRSエアバッグが正常に作動しなかつたり、不意に作動したりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

運転する前に

運転するときに注意すること

⚠ 注意

- 排気音が大きくなったときは、排気管が腐食したり路面干渉などで損傷しているおそれがあるため、日産販売会社で点検を受けてください。排気管に穴が開いたまま走行を続けると、高温の排気ガスが漏れ、排気ガスが車内に侵入したり、火災につながるおそれがあります。
- 事故などでランプが破損したまま走行しないでください。内部に水などが入ると、発煙し火災につながるおそれがあります。
- 無用な空ぶかしをしたり、エンジンをかけたまま仮眠をしないでください。万一、セレクトレバーが P 以外に入っていると、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故やエンジン過熱による火災などにつながるおそれがあり危険です。
- 操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ライターの着火ボタンが押されてガスが噴出し、火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。
- 灰皿を使ったあとは、マッチやタバコの火が消えていることを確認し、ふたを必ず閉めてください。また、紙くずなど燃えやすいものは入れないでください。出火するおそれがあります。

⚠ 警告

- 排気ガスには無色無臭で有害な一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素を吸い込むと一酸化炭素中毒になり、重大な健康障害におよぶか、死亡につながるおそれがあります。
- 次の状況では、暖機運転をしたりエンジンをかけたままにしたりしないでください。排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりするおそれがあります。
 - 雪が積もった場所に駐停車するとき
 - 降雪時に駐停車するとき

運転する前に 運転するときに注意すること

⚠ 警告

- 車庫や屋内、壁などに囲まれた換気が悪い場所に駐停車するとき
- 仮眠や長時間の駐車をするととき
- 排気管が腐食または損傷しているおそれがあるとき
- 他車の排気口が近くにあるとき
- 走行する前にトランクが確実に閉まっていることを確認してください。走行中に排気ガスが侵入するおそれがあります。
- 車室内に排気ガスが侵入したと感じたときは、窓を開けて十分に換気をしてください。
- 排気管に穴や亀裂がある場合や排気音に異常があるときは、日産販売会社で点検を受けてください。排気ガスが車室内に侵入するおそれがあります。

アドバイス

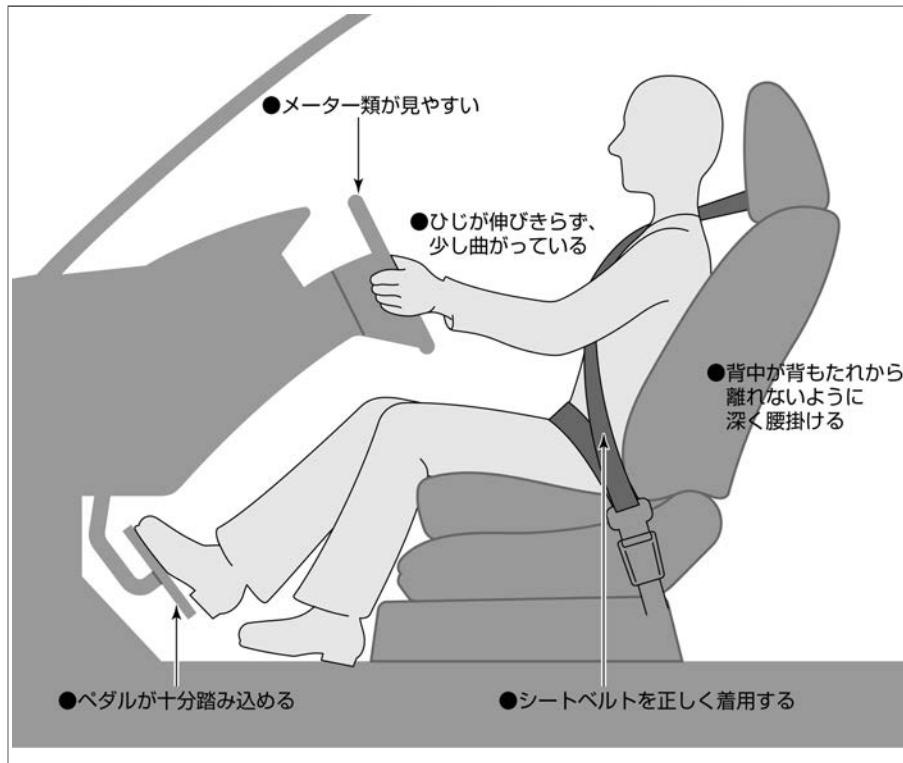
無線送信機の取り付けについて

- お車に無線送信機を取り付けると、電装システムに影響をおよぼす可能性があります。悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ず日産販売会社にご相談ください。お客様のご要望により、無線送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）を日産販売会社にてご提供します。

運転する前に 正しい運転姿勢

正しい運転姿勢をとれるよう、ハンドル、シート、ミラーを調節してください。

正しい運転姿勢について



★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告

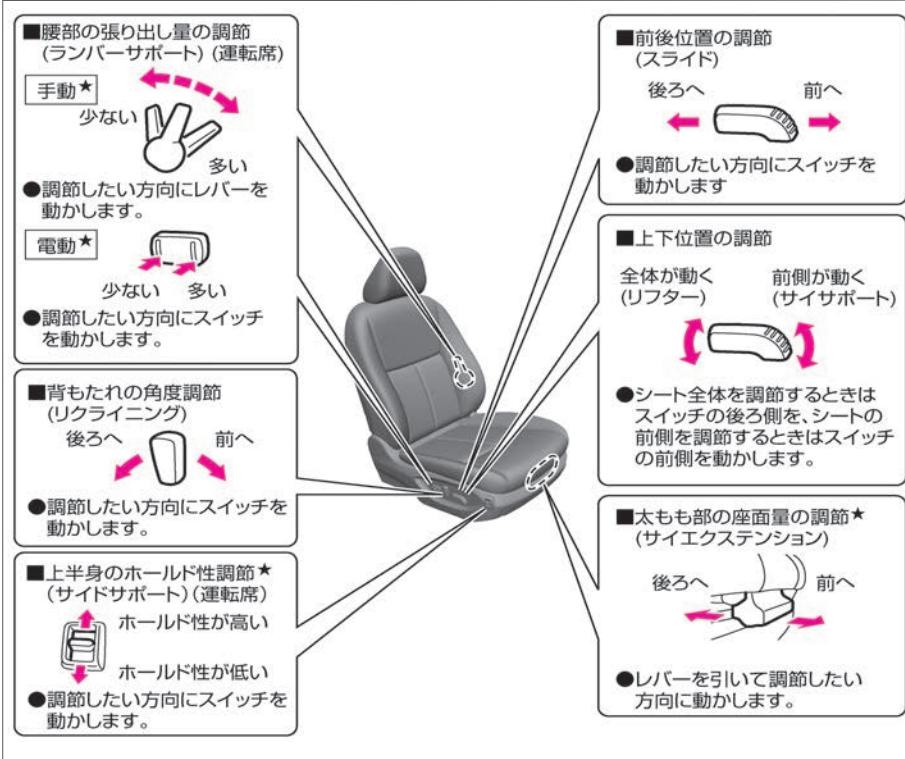
- シート、ハンドル、ミラーの調節は、安全のため必ず走行前に行ってください。走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 調節したあとは、確実に固定されていることを確認してください。シートやハンドルが固定されていないと運転姿勢が突然変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転する前に シート

前席シートの調節



警告

- 背もたれを倒したまま走行しないでください。シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

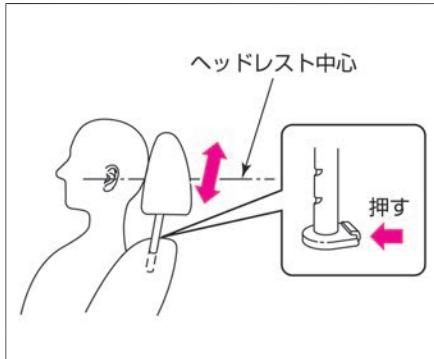
注意

- 調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけないでください。挟まれてケガをするおそれがあります。
- 背もたれの角度調節をするときは、背もたれを支えながら調節してください。顔や身体にあたり思わぬケガをするおそれがあります。
- 車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分に注意してください。シートレールやシートフレームに当たりケガをするおそれがあります。

■ ヘッドレストの使いかた

ヘッドレストの中心が、耳の高さになるように調節します。

- 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げ、下げるときは、ボタンを押しながらヘッドレストを下げます。



■ ヘッドレストの脱着

- 取り外すときは、ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。
- 取り付けるときは、ボタンを押しながらヘッドレストを差し込みます。

⚠ 警告

- ヘッドレストは外したまま走行しないでください。万一のとき、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 取り付けるときは、前後の向きを間違えないでください。
- 取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認してください。万一のとき、ヘッドレストが効果を十分発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

運転する前に シート

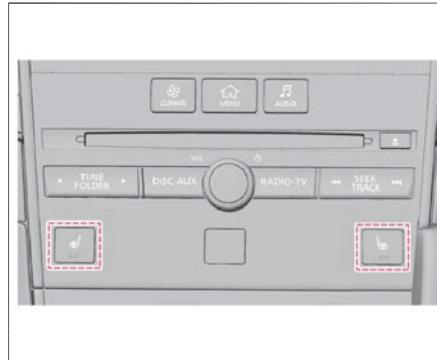
■ シートヒーター★

フロントシートを温めます。
電源ポジションがONのときに使えます。

■ シートヒーターの使いかた

- スイッチを押すと、作動します。
(スイッチの表示灯が点灯)
- スイッチを押すごとに、AUTO ⇒ Hi ⇒ Mid ⇒ Lo ⇒ OFFが切り替わります。

スイッチ位置	働き
AUTO	車室内の温度に応じて 温度調節およびON/ OFFを自動的に切り替え
Hi	強
Mid	中
Lo	弱
OFF	停止



知識

- ナビゲーションシステムのエアコン操作画面で をタッチしても、AUTO、Hi、Mid、Lo、OFFを切り替えることができます。

■ シートヒーターの設定のしかた

- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、AUTO機能の設定温度調節ができます。

MENU ⇒ **設定** ⇒ **その他** ⇒ **エアコン**

詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「エアコン、オーディオ」の章をお読みください。

運転する前に シート

■ シートヒーターについて

⚠ 注意

- 長時間の連続使用は低温やけどの原因となります。特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方、眠気をもよおす薬を服用された方、深酒や疲労の激しい方は注意してください。
- シートに毛皮や座布団を載せたり、日産純正以外のシートカバーを使わないでください。過熱するおそれがあります。
- 硬くて重い物や突起がある物をシートに載せたり、ピンや針などの鋭い物でシートを突き刺したりしないでください。
- シートを清掃するときは、シンナー、ベンジン、アルコールなどの有機溶剤を使用しないでください。
- 水などをこぼしたときは、乾燥した布ですぐにふき取ってください。

🚗 アドバイス

- バッテリー上がりを防止するため、エンジンをかけた状態で使ってください。また、アイドリング状態での連続使用は避けてください。

運転する前に シート

■ パーソナルドライビングポジションメモリーシステム★

パーソナルドライビングポジションメモリーシステムは、パーソナルアシスタント機能で認識されたユーザーのドライビングポジションを自動的に復帰させることができ、次のような機能があります。

❸ パーソナルアシスタント機能 (P.273)

- シートおよびハンドルの退避・復帰機能
- パーソナルアシスタント連動メモリー機能
- スイッチメモリー機能



知識

- すべての機能は、セレクトレバーが P のときに作動します。
- エンジン始動時は作動が一時停止しますが、エンジン始動後に再開します。
- 以下のいずれかの操作を行うと作動が停止します。
 - セレクトレバーを P 以外にしたとき
(シートの復帰機能は停止しません。)
 - シート、ハンドル、ドアミラーの調節スイッチを操作したとき
 - セットスイッチ、メモリースイッチのいずれかを押したとき

■ シートおよびハンドルの退避・復帰機能

運転席シートとハンドルが自動的に動き、乗り降りを楽にします。

退避機能

電源ポジションをOFFにして運転席ドアを開けると、運転席シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に動きます。

復帰機能

電源ポジションをONにすると、運転席シートとハンドルが選択しているユーザーの設定した位置に戻ります。

■ パーソナルアシスタント運動メモリー機能

次の手順でパーソナルアシスタント機能(☞P.273)に運転ポジション（シート、ハンドル位置、ドアミラー鏡面角度）を記憶することができます。

- ① あらかじめユーザー登録の完了しているインテリジェントキーを携帯し、電源ポジションをONにします。
- ② 運転席のシートポジション、ハンドルの位置、ドアミラーの鏡面角度を調節し、電源ポジションをOFFにします。

次回から、インテリジェントキーを携帯して電源ポジションをONにすると、自動的に記憶した運転ポジション（シート、ハンドル位置、ドアミラー鏡面角度）を呼び出します。

知識

- 退避した位置でシート又はハンドルを調節すると、復帰機能は作動しません。
- 電源ポジションがACCのときは、携帯しているインテリジェントキーを前回使用したユーザーが、設定していた位置に戻ります。

知識

- パーソナルアシスタント機能には運転ポジション以外（エアコン、ナビゲーションシステムなど）の設定も記憶されます。
- ☞ パーソナルアシスタント機能
(P.273)

運転する前に シート

■スイッチメモリー機能

2名分の運転ポジション（シート、ハンドル位置、ドアミラー鏡面角度）をスイッチに記憶させ、呼び出すことができます。

記憶のしかた

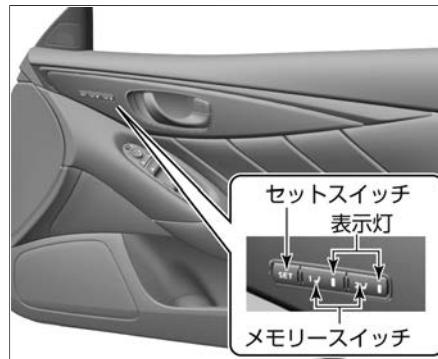
- ① 正しい運転姿勢が取れる運転ポジションに調節します。
 - ➡ ハンドル位置の調節 (P.58)
 - ➡ 前席シートの調節 (P.42)
 - ➡ ドアミラースイッチ (P.62)
- ② セットスイッチを押し、押してから5秒以内に記憶させたい方のメモリースイッチを1秒以上押します。
記憶が完了すると、ブザーが鳴るとともに記憶させたスイッチの表示灯が5秒間点灯します。

呼び出しあた

セレクトレバーを **P** にします。

記憶を呼び出したいメモリースイッチを呼び出しが開始するまで押し続けます。

呼び出し中はスイッチの表示灯が点滅し、完了すると約5秒間点灯します。



知識

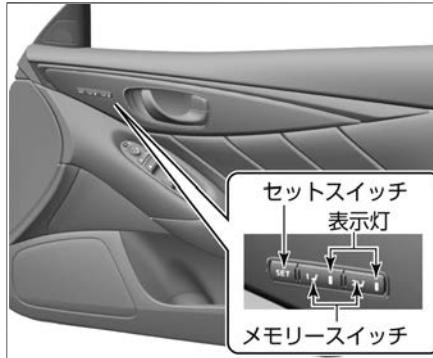
- パーソナルアシスタント機能で記憶した運転ポジションとは別にスイッチに記憶されます。
- 運転ポジション以外の設定はスイッチに記憶しません。
- セットスイッチを押したとき、記憶されていると約5秒間表示灯が点灯します。
- 状況により、メモリースイッチを押してから呼び出しが開始するまで数秒かかることがあります。

運転する前に シート

■ 設定の切り替え

シートおよびハンドルの退避・復帰機能の作動・非作動を切り替えることができます。

- ① 電源ポジションをLOCKにします。
☞ 各電源ポジションの働き (P.65)
- ② セットスイッチを10秒以上押し続け、作動と非作動を切り替えます。



知識

- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、シートおよびハンドルの退避・復帰機能の設定を切り替えることができます。

MENU ⇒ **設定** ⇒ **車両設定** ⇒
 降車時シート退避 /
 降車時ステアリング跳ね上げ

詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

運転する前に シート

■ 後席シートの調節

■ ヘッドレストの使いかた

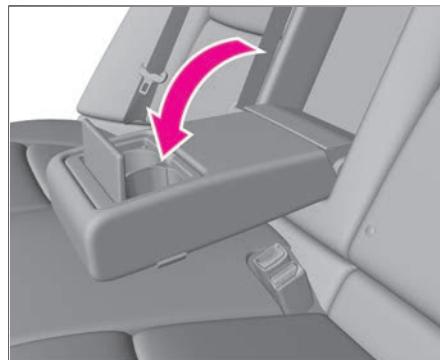
- ヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。
- 脱着のしかたは、前席シート（⇒P.42）と同じです。

⚠ 注意

- ヘッドレストはロック位置まで上げ、確実に固定されていることを確認してから使用してください。格納状態では機能が十分に発揮できません。

■ リヤセンターアームレストの使いかた

- アームレストを前に倒して使えます。
- 格納するときは引き上げます。



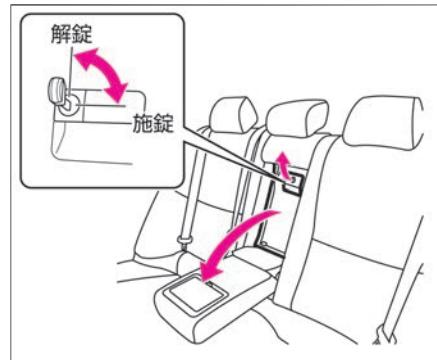
運転する前に シート

■ リヤセンターアームレストスルー機構

- トランク内の小物の取り出しや長めの荷物の収納などができます。
- アームレストを前に倒したあと、奥のノブを引いてトレーを倒すとアームレストスルーになります。

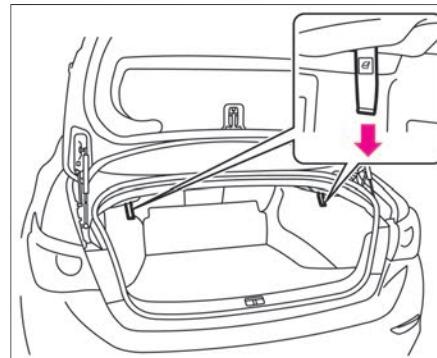
施錠・解錠のしかた

- メカニカルキー（☞P.336）をキー穴に差し込み、右に回すと施錠し、中立位置に戻すと解錠します。



■ 背もたれの倒しかた*

- 左右別々に倒すことができます。
- トランクルーム内にあるストラップを引き、背もたれを倒します。
- 元に戻すときは、背もたれを起こし、手で後方に押しつけてロックします。



* : 車両型式、オプションなどで異なる装備

警告

- 車を使用しないときは、ドアを施錠し、トランクを閉め、後席シートのアームレストスルーはトレーを背もたれに格納し、穴をふさいでおいてください。車のキーはお子さまの手の届かないところに保管してください。

知識

- メカニカルキーは半分ぐらい差し込んだ状態で止まります。

運転する前に

ELR（緊急固定）付3点式シートベルト

通常は身体の動きに合わせて伸縮しますが、衝突時など強い衝撃を受けると、ベルトが自動的にロックし身体を固定します。

シートベルトのつけかた

1	タングを持ってベルトをゆっくり引き出します。ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、たるみがないように密着させます。	
2	ベルトがねじれないようにして、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。	
3	アンカーの高さを調節します。（前席のみ） ● ノブを押しながらアンカー部を上下させ、ベルトが肩に確実に掛かる位置に調節し手を離します。 ● 手を離したあと、“カチッ”と音がするまで動かし固定させます。	
4	外すときは、バックルのボタンを押し、タングを持ってゆっくり戻します。	

⚠️ 警告

- ベルトが肩に確実に掛かる位置にアンカーの高さを調節してください。また、アンカーが確実に固定されていることを確認してください。ベルトが肩から外れたり、万一のときシートベルトが十分効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

🚗 アドバイス

- ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。

■ ロードリミッター付プリテンショナーシートベルト（後席中央を除く）

- 正面衝突など車両前方から強い衝撃を受けたとき、装着したシートベルトを瞬時に巻き取るプリテンショナーと乗員に加わるシートベルトの拘束力を一定レベルに保つロードリミッターが付いています。
- 運転席・助手席SRSエアバッグシステムと同時に作動します。
-  SRSエアバッグ (P.11)
- 運転席および助手席にはダブルプリテンショナー機構が付いています。ラップアウタープリテンショナーが腰部シートベルトの緩みを引き込み、肩部のロードリミッター付プリテンショナーと合わせて乗員の拘束性能を高めます。



警告

- プリテンショナーシートベルトの部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってプリテンショナーのシステムの回路診断をしないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなることがあります。



注意

- 電源ポジションをON後約7秒間はシステムチェックを行うため、プリテンショナーは作動しません。SRSエアバッグ警告灯が消灯してから走行してください。



アドバイス

- 廃車にするときやプリテンショナーシートベルトを廃棄するときは、必ず日産販売会社にご相談ください。
- プリテンショナーが作動したとき作動音や白煙が出ますが、火災ではありません。
- プリテンショナーは、一度作動すると再使用できません。衝突を起こしたときは必ず日産販売会社で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

運転する前に

ELR（緊急固定）付3点式シートベルト

■ 前席緊急ブレーキ感応型プリクラッシュシートベルト

走行中、次のような場合に電動モーターでシートベルトを巻き取り、ベルトのたるみを減少させます。

- 走行中（約15km/h以上）に運転者のブレーキ操作が緊急ブレーキであることをシステムが判断したとき
- エマージェンシーブレーキ（❷P.207）が作動したとき
- カーブを走行中（約30km/h以上）に車両が横滑りを起こしそうな状況であることをシステムが判断したとき
- 走行中（約60km/h）に運転者のハンドル操作が緊急回避であることをシステムが判断したとき

⚠️ 警告

- 使用方法は通常のシートベルトと同じです。正しく着用しないと、システムの効果が十分発揮できず、重大な傷害につながるおそれがあります。
- システムを過信しないでください。常に周囲の状況、天候、路面状況に注意し、急ブレーキをかけなくとも停止できるように心がけてください。

📖 知識

コンフォート機能

- 次の場合には、電動モーターでシートベルトの巻き取りを補助します。
 - シートベルトを着用したとき
 - シートベルトを外したとき
 - 前席ドアを開けたとき
- コンフォート機能を連続作動させると、システム保護のために一時的に連続作動が行えなくなります。数分後に通常の作動に戻ります。
- シートベルトを外した場合に上記のシステム保護以外でシートベルトの巻き取りが作動しないときは、プリ

 知識

クラッシュシートベルトのシステムに異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

運転する前に

ELR（緊急固定）付3点式シートベルト

走行する前に全員が必ずシートベルトを着用してください。シートベルトは正しい姿勢で正しく着用しないと、シートベルトの効果が十分発揮できなかつたり、ベルトによりケガなどをされるおそれがあります。
使用方法、警告に従って正しく着用してください。

■ シートベルトの注意事項



警告

- 走行する前に全員がシートベルトを着用してください。着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、生命にかかる重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトを正しく着用しないと、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。着用するときは以下のことを必ずお守りください。
 - 運転者は正しい運転姿勢で、同乗者は正しい着座姿勢で着用してください。
 - ベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使わないでください。
 - ベルトはねじれた状態で着用しないでください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、万一のとき衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けることがあります。
 - 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。ベルトが腰骨からはずれていると、腹部に強い圧迫を受けることがあります。
 - 肩ベルトは脇の下を通さず、確実に肩に掛けてください。肩に十分掛かっていないと、上半身を拘束しないことがあります。
 - シートベルトをクリップなどで故意にたるみをつけ、身体から浮いた状態に調節しないでください。ベルトにたるみがあると、十分な効果を発揮しないことがあります。
- シートの背もたれを倒したまま走行しないでください。シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに身体がシートベルトの下に入り込み、ベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。
- バックルや巻き取り装置の中に異物を入れないでください。シートベルトが正常に機能を発揮せず、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。
- 妊娠中や疾患のある方も、万一のときのためにシートベルトを着用してください。ただし、局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰部ベルトを腹部から避けて腰部のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩ベルトは、確実に肩を通して、腹部を避けて胸部

運転する前に

ELR（緊急固定）付3点式シートベルト



警告

に掛かるように着用してください。

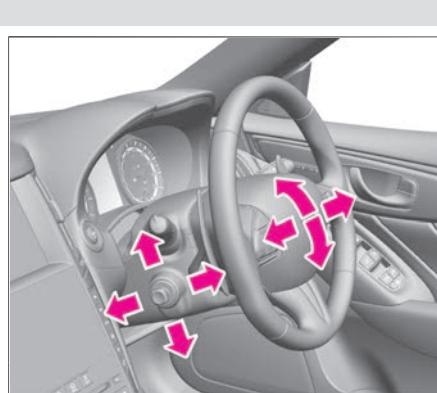
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートをお使いください。
② チャイルドシート (P.31)
- 一度強い衝撃を受けたシートベルトやベルト部分に傷がついたり破れたりしているシートベルトは、機能を十分発揮しないことがあります。事故などにより衝撃を受けたり傷がついた場合は、日産販売会社に点検を依頼してください。
- シートベルトの清掃は中性洗剤かぬるま湯で行い、乾かしてからお使いください。ベンジンやガソリンなどの有機溶剤は絶対に使わないでください。ベルトの性能が落ち、シートベルトが機能を十分発揮しないことがあります。

運転する前に ハンドル

■ ハンドル位置の調節

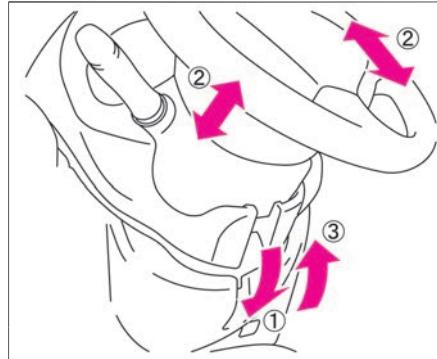
電動チルト・テレスコピックステアリング★

スイッチを前後上下に押して調節します。



手動チルト・テレスコピックステアリング★

- ① レバーを押し下げます。
- ② ハンドルを前後・上下に動かし、適切な位置で止めます。
- ③ レバーを引き上げ固定します。

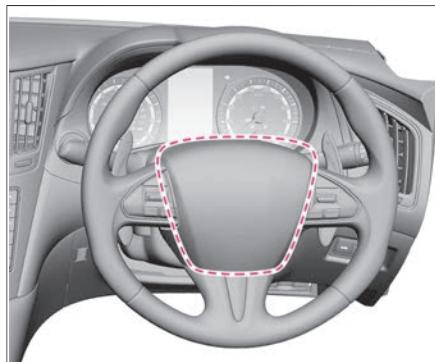


⚠ 警告

- ハンドルの調節は、安全のため必ず走行前に行ってください。走行中に調節をすると、前方不注意となり危険です。
- 調節したあとは、確実に固定されたことを確認してください。ハンドルが固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ ホーンの使いかた

ホーンを鳴らすには、ハンドル中央のパッド面を押します。

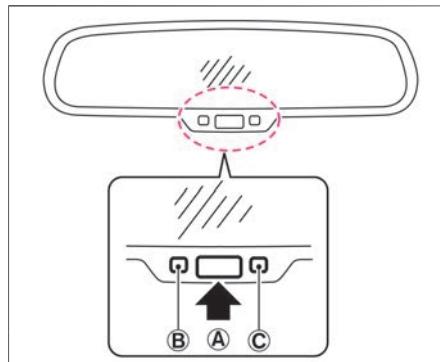


運転する前に ルームミラー

自動防眩式ルームミラー★

自動防眩式ルームミラーは、後続車両のヘッドライトの明るさに応じて反射率を自動的に調整します。

- ミラー本体を持ち、角度を調節して適切な位置に合わせます。
- 電源ポジションをONにすると自動防眩が作動し、後続車両のヘッドライトによるまぶしさが軽減されます。
(インジケーター④が点灯)
- スイッチ④を押すと、自動防眩がOFFになります。
(インジケーター④が消灯)
- もう一度スイッチ④を押すか、一度電源ポジションをOFFにし、再度電源ポジションをONにすると自動防眩がONになります。



⚠ 警告

- ミラーの調節は安全のため必ず走行前に行ってください。また、防眩への切り替えは必要なときのみ行ってください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

🚗 アドバイス

- ルームミラーに物をかけたり、ガラスクリーナーを使用しないでください。センサー④の感度が低下し、作動不良の原因となるおそれがあります。

■ 手動防眩式ルームミラー★

ミラー本体を持ち、角度を調節して適切な位置に合わせます。

夜間など後続車のヘッドライトがまぶしいときは、防眩切り替えレバーを手前に引くと反射が弱くなります。

昼間など通常走行時は防眩切り替えレバーを元の位置に戻してお使いください。



⚠ 警告

- ミラーの調節は安全のため必ず走行前に行ってください。また、防眩への切り替えは必要なときのみ行ってください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転する前に ドアミラースイッチ

ドアミラースイッチは運転席のアームレストにあります。
電源ポジションがACCまたはONのときに操作できます。

角度の調節

- ① 左右切り替えスイッチを調整する側に動かします。
(左側はL、右側はR)
- ② 角度調整スイッチを前後・左右に押して、後方が十分確認できる位置に調節します。



⚠️ 警告

- ドアミラーの調節は走行前に行ってください。走行中の調節は前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

🚗 アドバイス

- ミラーの映像は実際より遠くに見えるので注意してください。

📖 知識

ヒーター付ドアミラー

- 電源ポジションがONのとき、➡️リヤデフォッガースイッチ (P.355)を押すと、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し霜やくもりを取ります。

運転する前に ドアミラースイッチ

■ 格納のしかた

開閉スイッチの左側を押すと、左右のミラー本体が格納されます。

開閉スイッチの右側を押すと、元に戻ります。



注意

- ミラーが動いているときは手を触れないでください。手を挟んだり、ミラーが故障するおそれがあります。
- ミラーを格納したまま走行しないでください。後方確認ができないため危険です。
- 手動で開閉すると走行中ミラーが前方または後方に倒れるおそれがあります。手動で開閉したあとは、走行前に開閉スイッチで開閉操作を行ってください。

知識

- 開閉スイッチ操作を連続して行うと、途中で停止することがあります。が、故障ではありません。しばらくしてから作動させてください。
- 手動で開閉した場合、開閉スイッチの位置により、電源ポジションをACCまたはONにしたときにミラーが動き出すことがあります。

運転する前に ドアミラースイッチ

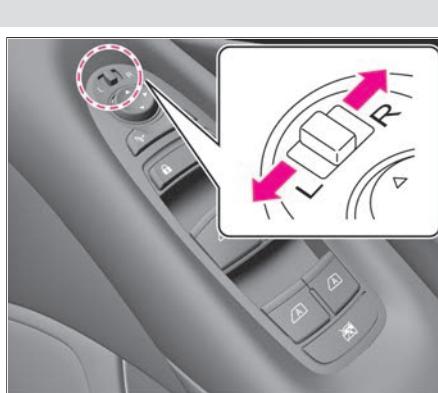
■ リバース運動下向きドアミラー★

セレクトレバーを **R** にすると(後退時)、左右のドアミラーの角度が両側同時に後輪の外側付近を映すように作動します。

左右切り替えスイッチを左右どちらかにすると作動し、中立にあると作動が停止します。

- ① 電源ポジションをONにし、左右切り替えスイッチを左右どちらかに動かします。
- ② セレクトレバーを **R** にすると、ドアミラーが下向きに作動します。

セレクトレバーを **R** 以外にするか、左右切り替えスイッチを中立位置にすると元の角度に戻ります。



知識

- 電源ポジションをON以外にしてもドアミラーは元の角度に戻ります。
- 使用している鏡面角度によっては、リバース時に鏡面が作動範囲まで動いたあとも動こうとしますが異常ではありません。

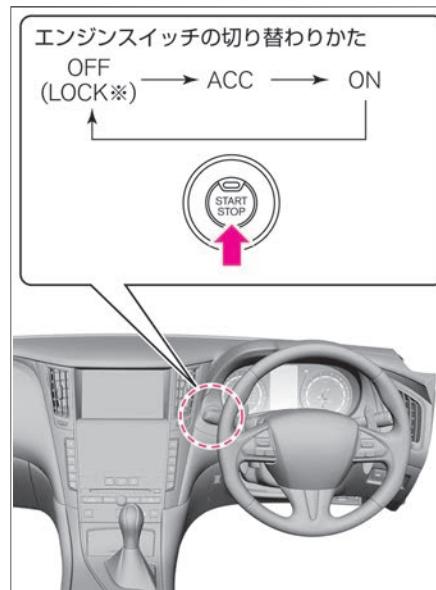
始動する エンジンスイッチ

運転をするときは

各電源ポジションの働き

インテリジェントキーを携帯しているとき、ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと電源ポジションが切り替わります。

電源ポジション	働き
OFF (LOCK※)	電源が切れるポジション ※いずれかのドアを開閉するとハンドルがロックされます
ACC	オーディオ、ドアミラーなどが使えるポジション
ON	すべての電装品が使えるポジション



★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバイス

- 次の条件がそろった状態で約30分経過すると自動的に電源ポジションがOFFになります。
 - 電源ポジションがACCのとき
 - 全ドアが閉まっているとき
 - セレクトレバーがPのとき

知識

- ブレーキペダルを踏みながらエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動します。
⇒ 始動のしかた (P.76)
- 電源ポジションがOFFのとき、いずれかのドアを開けるか、または閉めるとハンドルがロックされます。

始動する エンジンスイッチ

■ エンジンの非常停止のしかた

緊急時など、走行中にエンジンを強制的に停止させるときは、次のいずれかの操作を行ってください。

- エンジンスイッチをすばやく3回押す
- エンジンスイッチを2秒以上押し続ける

⚠ 警告

- 非常停止を行うときは、可能な限り減速してから行ってください。エンジンを停止するとブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、車両のコントロールが難しくなります。

■ イモビライザー（盗難防止装置）

車両の盗難に対する防御性能を高めるために、インテリジェントキーに送信機を内蔵し、あらかじめ登録されているインテリジェントキー以外での始動を禁止するシステムです。

- イモビライザーが働いているときは、セキュリティーアンジケーターが点滅します。

セキュリティーアンジケーター
(P.239)



アドバイス

- 電源ポジションをONにしたときにセキュリティーアンジケーターが点灯し続ける場合は、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。

知識

- インテリジェントキーに登録された信号は、インテリジェントキーごとに異なります。

セレクトレバーの操作

電源ポジションがONのとき、すべてのシフトポジションに切り替えることができます。



セレクトレバー操作	
➡	ブレーキペダルを踏んだままボタンを押して操作します。
➡	ボタンを押さずにそのまま操作します。
➡	ボタンを押して操作します。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告

- 次のような操作は、トランクミッションを破損し、思わぬ事故につながるおそれがありますので、絶対にしないでください。
 - 車が完全に停止する前にPに入れると
 - 車を前進させているときにRに入れると
 - 車を後退させているときにD、マニュアルシフトゲートに入れる

アドバイス

- ➡の操作は、ボタンを押さないで操作する習慣をつけてください。ボタンを押して操作すると、意に反してP、Rに入れてしまうおそれがあります。
- Pから操作するとき、ボタンを押したままブレーキペダルを踏むと、セレクトレバーを動かせないことがあります。ボタンは、ブレーキペダルを踏んでから押してください。

走行する セレクトレバー



知識

- セレクトレバーを**R**に切り替えるとブザーが鳴ります。

■ 各シフトポジションの働き

シフトポジション	役割
P	駐車およびエンジンを始動するときのポジション 電源ポジションをOFFに切り替えることができます。 (P 以外ではハンドルをロックできません。)
R	後退するときのポジション 車内でブザーが鳴り運転者に知らせます。 (車外の人に注意するものではありません)
N	動力が伝わらない状態のポジション (N でも停車中であればエンジンを始動できますが、安全のため P で始動してください。)
D	通常走行するときのポジション 速度に応じて1速～7速に自動変速します。
マニュアルモード	マニュアルモード走行するときのポジション 走行中に手動でシフトポジションを切り替えることができます。

■ マニュアルモードの使いかた

セレクトレバーをマニュアルシフトゲートに入れるとマニュアルモードになります。
(ポジションインジケーターに、シフトポジションを表示します。)



知識

- 安全や走行性能を確保するために、セレクトレバーまたはパドルシフト★を操作しても希望するギヤに変速しなかったり、シフトポジションが自動的に切り替わる場合があります。
- 車両が停止すると、1速へ自動的にシフトダウンします。

走行する セレクトレバー

■ 各シフトポジションの働き

シフトポジション	働き
1	1速に固定されます。より強いエンジンブレーキが必要なときに使います。
2	2速に固定されます。強いエンジンブレーキが必要なときに使います。
3	3速に固定されます。エンジンブレーキが必要なときに使います。
4	4速に固定されます。下り坂で軽いエンジンブレーキをかけたいときなどに使います。
5	5速に固定されます。上り坂でなめらかな走行をしたいときなどに使います。
6	6速に固定されます。
7	7速に固定されます。

走行する セレクトレバー

■ 各シフトポジションの限界速度

シフトポジションを切り替えるときは、エンジンを回転させすぎないために、下表の速度を超えないようにしてください。

エンジン	シフトポジション					
	1	2	3	4	5	6
2.0L ターボ ガソリン エンジン	60	90	130	180	180	180

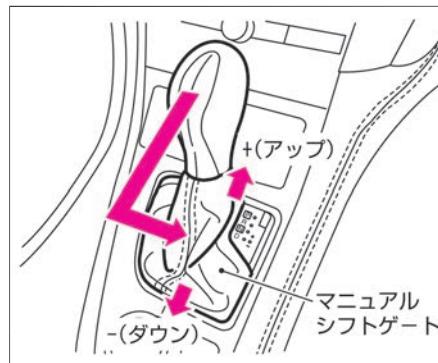
注意

- 限界速度を超えると、エンジンが破損するおそれがあります。

■ 切り替えかた

セレクトレバーで操作するとき

- セレクトレバーをマニュアルシフトゲートに入れ、前後に操作します。
 - シフトポジションアップ:
セレクトレバーを+（アップ）側に動かします。
 - シフトポジションダウン:
セレクトレバーを-（ダウン）側に動かします。



パドルシフト★で操作するとき

- パドルシフトを手前に引いて操作します。
 - シフトポジションアップ
右側のパドルシフトを引きます。
 - シフトポジションダウン
左側のパドルシフトを引きます。



知識

パドルシフト付車

- セレクトレバーが □ で左側のパドルシフトを引くと、上限ギヤ制限（レンジリミット）モードに切り替わります。
- セレクトレバーが □ で右側のパドルシフトを引いたときは、□ が継続されます。

■ 解除のしかた

- セレクトレバーをマニュアルシフトゲートからメインゲートに戻します。

走行する セレクトレバー

■ 上限ギヤ制限（レンジリミット）モード[★]について

上限ギヤ制限（レンジリミット）モードは登坂路や一時的に加速したいときなどに使用します。

セレクトレバーが**D**で左側のパドルシフトを引くと、上限ギヤ制限（レンジリミット）モードに切り替わります。

- 上限ギヤ制限（レンジリミット）モードになるとシフトポジションが1つ下がり、そのシフトポジションより上のギヤへはシフトアップしなくなります。
シフトアップするときは右側のパドルシフトを引いてください。
- 上限ギヤ制限（レンジリミット）モードになると、ポジションインジケーターに上限となるシフトポジションが表示されます。
- 上限ギヤ制限（レンジリミット）モード中に左側のパドルシフトを引くと、上限となるシフトポジションが1つ低くなります。
- 上限ギヤ制限（レンジリミット）モード中に右側のパドルシフトを引くと、上限となるシフトポジションが1つ高くなります。
- 上限ギヤ制限（レンジリミット）モードで6速のとき右側のパドルシフトを引くと**D**に切り替わり、上限ギヤ制限（レンジリミット）モードが解除されます。
- 解除するときは、次のいずれかの操作をします。
 - ポジションインジケーターに**D**と表示されるまで、右側のパドルシフトを数回押す
 - ポジションインジケーターに**D**と表示されるまで、右側のパドルシフトを引き続ける
 - セレクトレバーをメインゲートからマニュアルシフトゲートに入れ、再度メインゲートに戻す

知識

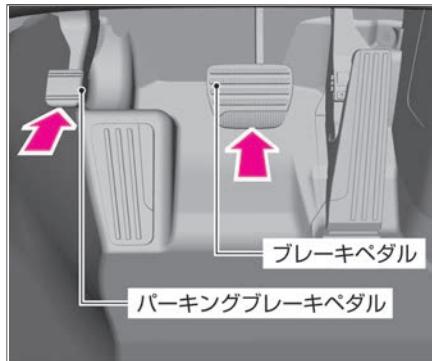
- 上限ギヤ制限（レンジリミット）モードでは、減速時のシフトダウンは自動的に行います。

走行する パーキングブレーキ

パーキングブレーキをかけると後輪が固定されます。

■ パーキングブレーキのかけかた

- パーキングブレーキをかけるときは、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいに踏み込みます。



■ パーキングブレーキの解除

- 解除するときは、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み、ゆっくりと離します。

⚠ 警告

- パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキが過熱することによってブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

🚗 アドバイス

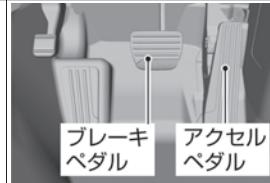
- 駐車するときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。
- パーキングブレーキをかけたあとにパーキングブレーキをかけ直したいときは、一度解除してから踏み込み直してください。

走行する 発進

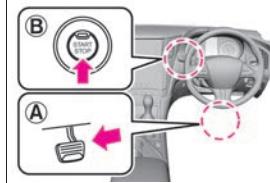
インテリジェントキーが作動範囲内にあるときは、キーを取り出すことなく始動できます。
インテリジェントキーは、必ず運転者が携帯してください。

始動のしかた

- 1** アクセルペダルとブレーキペダルの位置を確認し、正しい運転姿勢（☞P.41）がとれるようにハンドル、シート位置を調節します。



- 2** ブレーキペダルⒶをしっかりと踏みながら、エンジンスイッチⒷを1回押します。



- 3** エンジンが始動します。

⚠ 警告

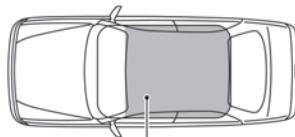
- ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。右足でアクセルペダルとブレーキペダルを交互に踏み、その位置を確実に覚えてください。
- 換気の悪い場所では、暖機運転をしたりエンジンをかけたままにしたりしないでください。排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 始動するときは、必ず運転席に座って行ってください。車外から行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- ブレーキペダルを踏んだり離したりしたとき、“カチッ”と音が聞こえることがあります。異常ではありません。
- インテリジェントキーによるエンジン始動の作動範囲は車室内です。（トランク内は除きます。）



作動範囲（車内）

走行する 発進

発進のしかた

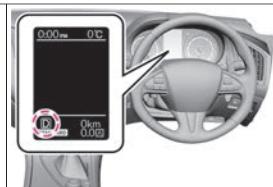
1

ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、ボタンを押してセレクトレバーを動かします。前進するときは**D**、またはマニュアルシフトゲートに入れます。後退するときは**R**に入れます。



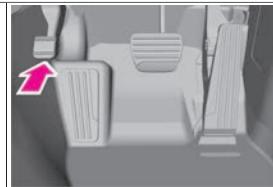
2

シフトポジションが切り替わったことを目で確認します。



3

パーキングブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキを解除します。



4

ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。



警告

- 発進時は、絶対にアクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

注意

- セレクトレバーが**P**、**N**以外にあると、クリープ現象で車が動き出しますので、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

知識

- 急な上り坂で発進するときは、**●ヒルスタートアシスト(P.97)**が作動します。

■ 走行のしかた

- セレクトレバーを **D** またはマニュアルシフトゲートにしたまま走行します。
- アクセルペダルとブレーキペダルの操作で、加速、減速を行います。
アクセルペダルの踏みかげんと走行速度や走行状況などにより、適切なギヤに自動变速されます。
- 高速道路の入り口などで急加速したいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。
キックダウンし急加速します。
- 下り坂では、エンジンブレーキを併用して走行します。セレクトレバーが **D** のときブレーキペダルを踏むと坂の勾配に応じてシフトダウンし、エンジンブレーキが効きやすい状態になります。
また、坂の勾配に応じてマニュアルモードに入れます。強いエンジンブレーキが必要な場合は、マニュアルモードの2速または1速にします。
- 勾配のゆるい下り坂では、マニュアルモードの4速または3速にすると、軽いエンジンブレーキが得られます。

⚠ 警告

- セレクトレバーが **D** のときは、低速ギヤを保持してエンジンブレーキが効きやすい状態に制御しますが、スピードが出すぎるときは坂の勾配に応じてマニュアルモードに入れてください。フットブレーキだけを使い続けると、フットブレーキに負担がかかり、過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
- 走行開始直後でトランスミッションの油温が暖まっていないときや、アクセルペダルを深く踏み込んだ高負荷な状態で長く走り続けると低速ギヤを保持しない場合があります。その場合には、坂の勾配に応じてマニュアルモードを低速ギヤに入れてください。
- 滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキは効かせないでください。タイヤがスリップするおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- 走行中はセレクトレバーを **N** にしないでください。エンジンブレーキが全く効かなくなり、思わぬ事故につながるおそ

走行する 走行

⚠ 注意

れがあります。また、トランスミッションが故障する原因となります。

- 上り坂ではクリープ現象を利用した停車や、アクセルペダルを踏みながら停車状態を保つような停車はしないでください。
- 上り坂でセレクトレバーを**D**またはマニュアルシフトゲートのまま故意に車両を後退させたり、下り坂で**R**のまま故意に車両を前進させたりしないでください。事故につながるおそれがあります。
- 冠水路など深い水たまりは無理に走行しないでください。エンジン破損や車両故障につながるおそれがあります。

📖 知識

- 極端に低車速で走行すると、車速がわずかに変化する場合がありますが、システム特有の動きで異常ではありません。

■ 停車・駐車のしかた

1

停車するときは、セレクトレバーは**D**のままで、ブレーキペダルをしっかりと踏みます。



2

そのまま駐車するときは、ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。



3

セレクトレバーを**P**に入れ、目で確認します。セレクトレバーを**P**に入れると駆動輪が固定されるため、車が動き出す心配がなく安全です。



4

エンジンスイッチを1回押します。
電源ポジションがOFFになり、エンジンが停止します。



⚠ 警告

- 停車中の空ぶかしはしないでください。万一、セレクトレバーが**P**、**N**以外にあると急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。停車後の再発進は、セレクトレバーのポジションを目で確認してください。
- 換気の悪い場所では、エンジンをかけたままにしないでください。排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 枯れ草、紙、木材、油など燃えやすい物の上や近くには駐・停車しないでください。排気管や排気が入は高温になるため着火するおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずセレクトレバーを**P**に入れ、エンジンを停止してください。エンジンが作動したままで、セレクトレバーが**P**、**N**以

走行する 停車・駐車

⚠ 注意

外に入っていると、クリープ現象で車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込むことによって急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 長期間車両を駐車していると、小動物が巣を作り、思わぬ火災につながる可能性があります。

アドバイス

- 上り坂で停車するときは、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 炎天下で駐車するときは、車室内にライターや炭酸飲料の缶、サングラス、カメラなどを置いたままにしないでください。車室内が高温になり、爆発したり変形するおそれがあります。

走行する

ドライブモードセレクター

ドライブモードセレクターは4種類のドライブモード（PERSONAL、SPORT、STANDARD、SNOW）を備え、モードを選択することにより、エンジンやトランスミッションなどを各モードに適した特性で制御するシステムです。

ドライブモードの働き

ドライブモード	特徴	推奨する使用環境
PERSONAL	お好みの運転特性を設定したドライブモード	次の機能をお好みの設定で走行したいとき <ul style="list-style-type: none"> ● エンジン・トランスミッション ● ハンドルの重さ ● アクティブブレーンコントロール★ ● コーナリングスタビリティアシスト機能のON/OFF ※1
SPORT ※2	レスポンスが良い特性のドライブモード	登坂時やワインディングなどで、スポーティな走行をしたいとき
STANDARD ※3	幅広い走行状況に適したドライブモード	通常走行 ※4
SNOW	滑りやすい路面環境に適したドライブモード	雪道やぬかるみなどの滑りやすい路面を走行するとき

※1 PERSONALでの運転特性は、ナビゲーションシステムで次の操作をして設定します。

MENU ⇒ [ドライブモードセレクター] ⇒ [PERSONALモード編集]★ ⇒ [エンジン・トランスミッション] /
 [ステアリング] / [アクティブブレーンコントロール]★ / [コーナリングスタビリティアシスト] /

[設定を初期状態に戻す]

詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

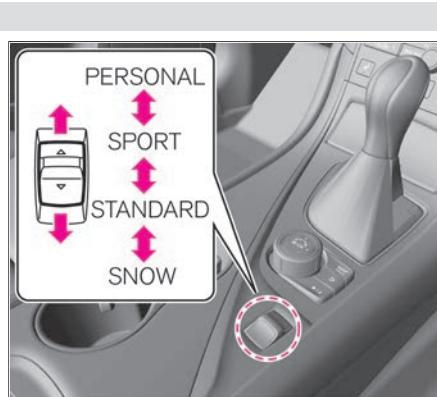
※2 SPORTを選択したままだと、燃費が悪化することがあります。

※3 エンジン始動時は、毎回STANDARDが選択されます。

※4 通常時はSTANDARDで走行することをおすすめします。

■ モードの切り替えかた

- エンジン回転中にスイッチを上側または下側に押して、モードを切り替えます。
- モードを切り替えると、ナビゲーション画面とメーター内のディスプレイにモードが表示されます。
- 走行状態によってはモードがすぐに切り替わらないことがあります。



走行する アイドリングストップ

車両を停車させると、自動的にエンジンを停止させ、再び走行するときは自動的にエンジンを始動することで、アイドリングによる排気ガスの発生や騒音を抑制するとともに燃費を向上させます。

■ アイドリングストップの使いかた

走行中にアイドリングストップする条件を満たすと、メーター内にあるアイドリングストップ表示灯が点灯します。

- 次のときに、エンジンが自動的に停止します。

- セレクトレバーが **D** またはマニュアルモードのときに、ブレーキペダルを踏んで停車したとき
- セレクトレバーを **N** にして、ブレーキペダルを踏み停車しているとき
- セレクトレバーが **P** のとき
(セレクトレバーが **P** のときは、ブレーキペダルを踏まなくてもエンジンが自動的に停止します。)

- ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが自動的に再始動します。

(セレクトレバーが **P** でアイドリングストップしているときは、ブレーキペダルから足を離しても、エンジンは再始動しません。)



注意

- アイドリングストップによるエンジン停止中に車両が動き出した場合(約2km/h以上)は、エンジンが自動的に再始動するため、すみやかにブレーキペダルを踏んでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- メーター内にあるアイドリングストップ表示灯で、アイドリングストップの状態をお知らせします。
アイドリングストップ表示灯
(☞ P.239)
- メーター内のディスプレイでアイドリングストップの積算時間と節約した燃料の量などを確認できます。
詳しくは、ドライブコンピューター
(☞ P.248) をお読みください。

走行する アイドリングストップ

■ アイドリングストップOFFスイッチ

アイドリングストップの作動を停止したいときに使います。

- アイドリングストップOFFスイッチを押すと、作動を停止します。
(スイッチの表示灯が点灯)
- もう一度スイッチを押すか、エンジンを再始動するとアイドリングストップは作動を回復します。
(スイッチの表示灯が消灯)



アドバイス

- アイドリングストップOFFスイッチを押してもアイドリングストップの作動が回復せずスイッチの表示灯が点灯し続けるときは、アイドリングストップシステムが故障しているおそれがあります。日産販売会社で点検を受けてください。

知識

- アイドリングストップ中にスイッチを押すと、エンジンは再始動します。
- アイドリングストップOFFスイッチを押すと、メーター内のディスプレイでOFFにしたことをお知らせします。再度アイドリングストップOFFスイッチを押すと、アイドリングストップがONになったことをお知らせします。

■ アイドリングストップ警告ブザー

- アイドリングストップ中にエンジンフード（☞P.371）が開いたときにブザーが鳴ります。

知識

- エンジンフードが開いていないか確認してください。エンジンフードが開いていると、通常のエンジン停止状態となります。その場合はエンジンをかけ直してください。

走行する アイドリングストップ

■ アイドリングストップについて

⚠ 注意

- アイドリングストップによるエンジン停止中に車両が動き出した場合（約2km/h以上）は、エンジンが自動的に再始動するため、すみやかにブレーキペダルを踏んでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

🚘 アドバイス

- 充放電能力と寿命性能を強化したアイドリングストップ付車専用のバッテリーをご使用ください。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが正常に作動しなくなる原因となります。
- バッテリーはお客様の車に適合した日産純正部品をおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

📖 知識

- 次のような場合は、アイドリングストップしません。（室内外の温度やエアコンの作動状況によっては下記の条件以外でも、アイドリングストップしない場合があります。）
 - エンジンを始動して、一度も走行しないでアイドリングを続けているとき
 - エンジン冷却水の温度が低いとき
 - バッテリーの容量が低いとき
 - バッテリーの温度が低いとき
 - 車両が動いているとき
 - ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
 - エンジン回転中にエンジンフードを開けたとき
 - エンジンフードを開けた状態でエンジンを始動させたとき

 知識

- 運転席のシートベルトを着用していないとき
 - 運転席ドアが開いているとき
 - ハンドルの向きが直進付近でないとき
 - ハンドル操作をしているとき
 - アイドリングストップ表示灯が遅い点滅をしたとき（約1秒間に1回）
 - アクセルペダルを踏んでいるとき
 - セレクトレバーが■のとき
 - 室内の温度が約20°C以下のとき
 - 室内の温度が約30°C以上のとき（エアコンがOFFのときはアイドリングストップします）
 - エアコンの風量が最大のとき
 - デフロスタースイッチ（➡P.354）がONのとき
 - リヤデフォッガースイッチ（➡P.355）がONのとき
 - アイドリングストップOFFスイッチがONのとき
 - パワーステアリング警告灯、VDC警告灯が点灯しているとき
 - ブレーキペダルの踏み込みが弱いとき
 - 急勾配の坂道で停車したとき
 - 消費電力が大きいとき
 - 標高約2000m以上の高地のとき
- 次のような場合は、システムが作動するまでに時間がかかる場合があります。
- バッテリーが放電しているとき
 - 外気温が低いまたは高いとき
 - バッテリー交換したあとや、長期間 バッテリー端子を外したあと
- 次のような場合は、アイドリングストップ中にブレーキから足を離しても、エンジン

走行する アイドリングストップ

知識

が再始動をしません。

- セレクトレバーが **P** のとき
- 次のような場合は、アイドリングストップ中にブレーキから足を離さなくても、エンジンが再始動をします。（室内外の温度やエアコンの作動状況によっては下記の条件以外でも、エンジンが再始動する場合があります。）
 - アイドリングストップしてから、3分以上経過したとき
 - アイドリングストップOFFスイッチを押したとき
 - 室内の温度が約20°C以下になったとき
 - 室内の温度が約30°C以上になったとき（エアコンがOFFのときはアイドリングストップし続けます）
 - エアコンスイッチ、AUTOスイッチを押したとき
 - デフロスター スイッチ（☞P.354）をONにしたとき
 - リヤデフォッガースイッチ（☞P.355）をONにしたとき
 - アクセルペダルを踏んだとき
 - ハンドル操作をしたとき（ハンドルの操作力が重く感じることがあります、異常ではありません）
 - バッテリーの容量が低くなったとき
 - 消費電力が大きいとき
 - 坂道でブレーキを緩め、車両が動き出したとき
 - セレクトレバーを **R** にしたとき
 - セレクトレバーが **N**、**D**、マニュアルモードのときにブレーキペダルを緩めたとき
 - セレクトレバーを **P** または **N** から **D** またはマニュアルモードにしたとき
 - ブレーキペダルを数回踏みなおすなどして、ブレーキ装置の負圧が不足したとき
 - 運転席シートベルトを外したり運転席ドアを開けたとき

 知識

- このシステムは、信号待ちなどのときに使用し、長時間の停車などの場合はエンジンを停止してください。
- アイドリングストップ中にエンジンフードを開けると、ブザーが鳴るとともに通常のエンジン停止状態となります。その場合は、エンジンをかけ直してください。
- アイドリングストップ中は、エアコン（冷房・暖房・除湿機能）がOFFになり、送風になります。

車両後退抑制機能

- 坂道でアイドリングストップ中から発進するときに、ブレーキペダルからアクセルペダルへの踏み替えの間に発生する車両の後退を軽減するシステムです。
- この装置はVDC (P.92) のブレーキ制御を利用しているため、VDC警告灯 (P.232) が点灯したときは作動しません。

走行する

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）

VDCは横滑りや尻振りを起こしそうになると横滑り状態をセンサーで判別し、走行時の車両安定性を向上させるシステムです。

VDCについて

- VDCの作動と表示灯
 - VDCが実際に作動しているとき、メーター内の警告灯  が点滅します。
 - VDCシステム内のトラクションコントロール機能のみが作動しているときも 警告灯  が点滅します。
 - 警告灯  が点滅したときは、車両が滑りやすい状態になっていますので特に慎重に運転してください。
- VDCには「ブレーキLSD」機能があります。これは滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、空転している駆動輪にブレーキをかけることにより、もう一輪の駆動力を確保するLSD（リミテッドスリップデフ）機能です。
- VDC作動時は、ブレーキの作動により音や振動を発生する場合がありますが異常ではありません。

⚠ 注意

- この装置は車両の走行安定性を向上させるもので事故を防止するものではありません。VDCの作動にも限界があるため、滑りやすい路面やカーブの手前では特にスピードを落とし安全運転に心がけてください。
- 次のときはVDC警告灯が点灯し、VDCが正常に作動しないことがあります。
 - サスペンション、タイヤ、ブレーキなどを純正品以外に交換したり、改造したとき
 - サスペンション、タイヤ、ブレーキなどが著しく摩耗および劣化した状態で走行したとき
- 次のような状況では、VDC警告灯が点灯することがあります。この場合は一度電源ポジションをOFFにし、再度エンジンを始動すると消灯します。
 - 駐車場の入り口などにあるターンテーブルや動く物の上に車があるとき
 - 極端に傾いた特殊な路面（サーキット路に見られるバンクなど）を走行したとき
- VDC付車でも雪道などでは冬用タイ

走行する

VDC (ビークルダイナミクスコントロール)



注意

ヤやタイヤチェーンを装着してください。

運転をするときは

走行する

VDC (ビークルダイナミクスコントロール)

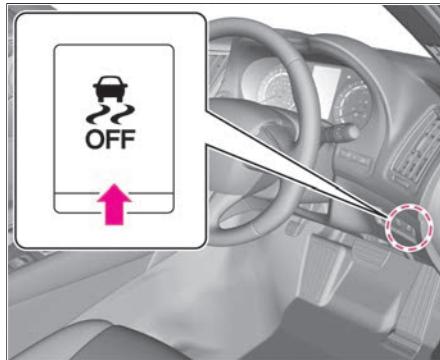
■ 左右制動力分配機能

ブレーキ操作時、カーブの大きさに応じて各車輪の制動力分配を制御することで、しっかりとブレーキをかけることができます。

■ VDC OFFスイッチの使いかた

VDCの作動を停止したいときに使います。

- VDC OFFスイッチを押すと、VDCの働きを停止します。
(メーター内の表示灯  が点灯)
- もう一度スイッチを押すか、エンジンを再始動するとVDCは作動を回復し、メーター内の表示灯が消灯します。



アドバイス

- ぬかるみや雪道から脱出するときなどは、スリップ状態を感じし、アクセルペダルを踏み込んでも出力が上がらないことがあります。回転数を上げたいときはVDC OFFスイッチを押してシステムをOFFにしてください。



知識

- VDC OFFスイッチを押すと、VDCのすべての機能と、次の機能が停止します。(ABS機能およびブレーキLSD機能を除く)
 - コーナリングスタビリティアシスト機能 (☞P.96)
 - LDP (車線逸脱防止支援システム) (☞P.107)
 - BSI (後側方衝突防止支援システム) (☞P.118)
 - インテリジェントクルーズコントロール (☞P.146)
 - インテリジェントペダル (ディス

 知識

タンスコントロールアシスト)
(⇒P.183)

- エマージェンシーブレーキ
(⇒P.207)
- PFCW（前方衝突予測警報）
(⇒P.214)

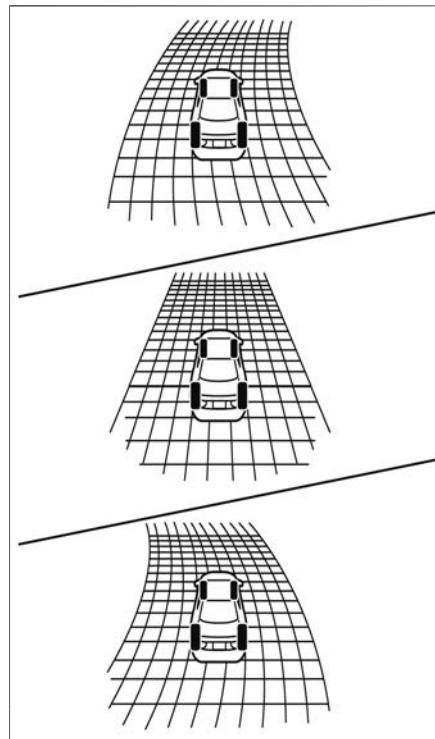
- VDCが作動すると発進時や加速時に車体およびペダルにわずかな振動と作動音が発生しますが異常ではありません。
- 電源ポジションをONにしたときや、始動後最初の発進時に、エンジンルームから音が聞こえることがあります、システムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

走行する コーナリングスタビリティアシスト機能

山道や高速道路のカーブで、運転者のハンドル操作やブレーキ操作に応じて、4輪それぞれのブレーキ制御を調整することによって、車両の動きをより滑らかにすると同時に、応答性を高めるなどして、安定感のあるコーナリングを実現します。

コーナリングスタビリティアシスト機能について

- ドライブモードセレクターでドライブモードをSPORTに設定すると、STANDARDに対し、各輪のブレーキ制御特性を変更することにより、運転者が挙動をコントロールする領域が広がります。また、PERSONALでは、コーナリングスタビリティアシスト機能のON/OFFが設定できます。
 [ドライブモードセレクター \(P.83\)](#)
- メーター内のディスプレイをシャシー制御に切り替えると、コーナリングスタビリティアシスト機能の作動を画面で確認することができます。
 [アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた \(P.240\)](#)



⚠ 注意

- コーナリングスタビリティアシスト機能は、全ての走行状況において効果があるわけではないため、機能を過信せず安全運転に心がけてください。

📖 知識

- VDCがOFFのときは、コーナリングスタビリティアシスト機能は作動しません。
 [VDC \(ビークルダイナミクスコントロール\) \(P.92\)](#)

走行する ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシストは、坂道での発進を補助します。

ヒルスタートアシストについて

- 急な上り坂での発進時に、ブレーキペダルからアクセルペダルへの踏み替えの間に発生する車両の後退を一定時間保持し、発進を容易にするシステムです。
- セレクトレバーが **P**、**N**以外のとき、ブレーキペダルから足を離すと、約2秒間ブレーキ力を保持します。

注意

- この装置は上り坂での発進を補助するのですが、機能を過信しないでください。凍結した坂や泥状の上り坂での発進は特に安全運転に心がけてください。
- この装置はブレーキペダルから足を離すと約2秒間ブレーキ力を保持しますが、その後ブレーキ力が解除されます。停車するときはブレーキペダルを踏み続けてください。駐車するときは確実にセレクトレバーを **P** に入れ、パーキングブレーキをかけてください。

アドバイス

- セレクトレバーを動かした直後は、ブレーキを踏んだ状態で約1秒待ってから発進してください。
セレクトレバーを **P** から **D** または **N** から **D** に動かした直後は、ヒルスタートアシストが作動しないことがあります。

 知識

- ヒルスタートアシストが作動しないときは、VDC警告灯が点灯します。
- ヒルスタートアシストが作動しているとき、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

走行する

ダイレクトアダプティブステアリング★

ダイレクトアダプティブステアリングは、車両の速度とハンドルの操舵量に応じて、ハンドルの操舵力と角度を制御するシステムです。

■ ダイレクトアダプティブステアリングについて

ドライブモードセレクターで、お好みの特性を選択することができます。

② ドライブモードセレクター (P.83)



アドバイス

- エンジン回転中、パワーステアリング警告灯が点灯したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。このとき、ダイレクトアダプティブステアリングは作動しませんが、マニュアルステアリングの性能は確保されています。この場合は、ハンドルの操作力が重くなります。
- 指定のサイズではないタイヤまたはホイールを装着すると、ダイレクトアダプティブステアリングが正しく作動せず、パワーステアリング警告灯が点灯することがあります。
- 次の部品を純正品以外に交換したり改造すると、ダイレクトアダプティブステアリングが正しく作動せず、パワーステアリング警告灯が点灯することがあります。
 - ステアリング関連部品（ステアリングホイールなど）
 - サスペンション関連部品（ショックアブソーバー、ストラット、スプリング、ブッシュ類など）
 - タイヤ、ホイール（指定サイズ以外）
- パワーステアリング警告灯とVDC警告灯が同時に点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、エンジンを一旦停止してから再始動してください。再始動してもパワーステアリング警告灯が点灯し続けるときは、すみやかに日産販売会社へご連絡ください。
- ステアリングホイールまたはタイヤを取り外しているときは、電源ポジションをONにしないでください。
- 電源ポジションがON以外のときは、ハンドルをいっぱいまで切らないでください。
- ステアリングホイールにアクセサリーを取り付けたり、ステアリングホイールを交換したりしないでください。

走行する ダイレクトアダプティブステアリング★

アドバイス

- 次の場合、直進中でもハンドルがまっすぐにならないことがあります、システムの保護機構によるもので異常ではありません。
 - バッテリーがあがったとき
 - エンストしたときまたはエンストしかけたとき
 - ハンドルをいっぱいまで切った状態で保持し続けたとき
 - ハンドルをいっぱいまで切った状態から、さらに切り増そうとしたとき
 - ハンドルをいっぱいまで切った状態で縁石などに乗り上げたとき安全な場所に停車してハンドルから手を離すと、ハンドルの位置は元に戻ります。
- 停車中または極低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけた状態を長く続けると、徐々にハンドルの応答速度が鈍くなり、さらにハンドル操作を繰り返すとハンドルの操作力が重くなります。同時に直進中でもハンドルがまっすぐにならなくなります。これはシステムの保護機構によるもので異常ではありません。安全な場所に停車してしばらくハンドル操作を控えると、ダイレクトアダプティブステアリングシステムの温度が下がり、通常のハンドル操作に戻ります。また、その後しばらく走行するとハンドルの位置も元に戻ります。
ダイレクトアダプティブステアリングシステムが過熱するようなハンドル操作を繰り返すと、ダイレクトアダプティブステアリングシステムが故障する原因となります。

知識

- 2輪のシャシダイナモ測定などを行うと、パワーステアリング警告灯が点灯することがあります。この場合は、エンジンを一旦停止し、再始動してからしばらく走行すると消灯します。
- 電源ポジションがONのときと比べると、OFFおよびACCのときのほうがハンドルの遊びが大きくなりますが、異常ではありません。
- エンジン始動直後、ハンドルがセンターからわずかにずれていることがあります、異常ではありません。この場合、しばらく直進するとハンドルの位置は元に戻ります。

 知識

- 4輪のシャシダイナモの上を走行すると、ハンドルがセンターからわずかにずれていますが、異常ではありません。この場合、しばらく直進するとハンドルの位置は元に戻ります。
- 電源ポジションがOFFまたはACCのとき、ハンドルをいっぱいまで切ると、電源ポジションをONにしたときハンドルが少し戻されますが、異常ではありません。
- ドライブモードセレクターでSPORTを選択しているとき、またはPERSONALを選択しハンドルの応答速度を「早い」に設定しているときは、VDC（ビーグルダイナミクスコントロール）をOFFにすると、ステアリングの応答速度が少し穏やかになります。
- 次の場合、直進中でもハンドルがまっすぐにならないことがあります、システムの保護機構によるもので異常ではありません。
 - エンジンを始動または停止したとき
 - ハンドルをいっぱいまで切ったとき

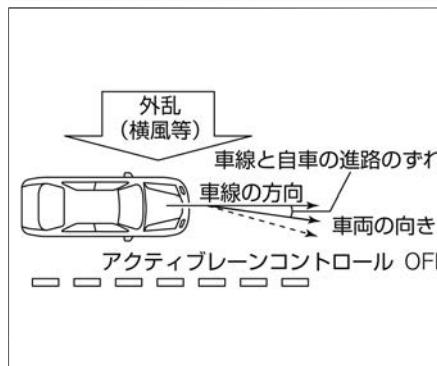
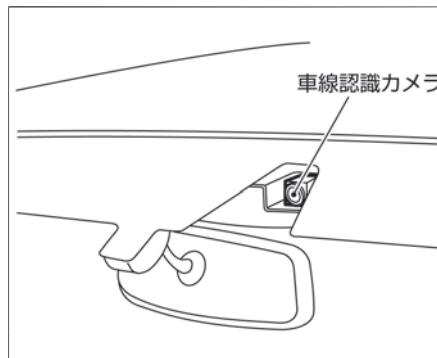
走行する

アクティブレーンコントロール（ダイレクトアダプティブステアリング付車）

アクティブレーンコントロールは、カメラによって車線に対する車両の進路のずれを検出し、高速道路などを走行するとき、より少ない修正操作で安定して走行するための機能です。

■ アクティブレーンコントロールについて

アクティブレーンコントロールは、車線認識カメラによって車線に対する車両の進路のずれを検出します。このずれを低減するために、前輪の角度とハンドルのトルクをわずかに補正することで、高速道路などを走行するとき、より少ない修正操作で安定して走行するための機能です。



! 注意

- アクティブレーンコントロールは車線からの逸脱を自動的に回避したり、車線内での走行を自動的に維持するシステムではありません。
- アクティブレーンコントロールには限界がありますので、機能を過信しないでください。
脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、常に安全運転に心がけてください。
- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、システムを使用しないでください。
 - 悪天候（雨、霧、雪など）のとき
 - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
 - 急なカーブ、急な上り坂・下り坂が繰り返されるとき
 - 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
 - 車線の幅が狭い道路を走行するとき
 - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足

⚠ 注意

- のタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、純正品以外のタイヤを使用しているとき
- 純正品以外のステアリング部品やサスペンション部品を使用しているとき
- 次のような状況では、レーンマーク（車線の右側および左側に引かれた線）を正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。
 - 検出しにくいレーンマーク（不明瞭なレーンマーク、黄色のレーンマーク、一般的でないレーンマーク、水たまり・汚れ・雪などで隠れているレーンマーク）がある道路を走行するとき
 - 急なカーブのある道路を走行するとき
 - 消されたレーンマークがまだ見えている道路を走行するとき
 - 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマークとして検出して警報したり、制御する場合があります）
 - 車線の分岐・合流のある道路を走行したとき

⚠ 注意

- 自車がレーンマークに対してまっすぐに走行していないとき
- 先行車との車間距離が短く、車線認識カメラの検出範囲が遮られるとき
- 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
- 汚れなどでヘッドライトの明るさが不十分なときやヘッドライトの光軸調整が適切に行われていないとき
- 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
- 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）
- 料金所へ進入する、または料金所を通過するとき
- 車線幅が狭くなる、または広くなる道路を走行するとき

走行する

アクティブレーンコントロール（ダイレクトアダプティブステアリング付車）

■ アクティブレーンコントロールの使いかた

- ① ナビゲーションシステムの「**ドライブモードセレクター**」をONにします。
「**アクティブレーンコントロール**」をタッチするごとにONとOFFが切り替わります。
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。
- ② 「**アクティブレーンコントロール**」がONのとき、車速が約70km/h以上になると作動します。
このとき、メーター内のディスプレイをシャシー制御画面に切り替えると、システムの作動状態を表示することができます。
 **ドライブコンピューター (P.245)**

ON/OFFの切り替え

- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、システムのON/OFFが切り替わります。
MENU ⇒ **ドライブモードセレクター** ⇒ **アクティブレーンコントロール**
- ステアリングスイッチとナビゲーションシステムで次の操作をすると、ショートカットメニューを呼び出してON/OFFを切り替えることもできます。
 **/OK** ⇒ **ALC<ON>にする**
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

知識

- エンジンを停止するとアクティブレーンコントロールは自動的にOFFになります。
- 次の場合、アクティブレーンコントロールの作動が一時中断します。
 - ABSまたはVDC（トラクションコントロールは含まない）が作動しているとき
 - 方向指示器を使用しているとき
(方向指示器を停止した後も約2秒間は作動しません)
 - 車速が約70km/hを下回っているとき
 - 炎天下に駐車したときなど、車線認識カメラが高温になったとき
作動停止となった原因が全て改善され作動条件が満たされると、アクティブレーンコントロールの作動が再開します。

■ 警告表示

- アクティブブレーンコントロールに異常があると、システムが自動的にOFFになり、メーター内のディスプレイに「シャシー制御システム故障 取扱説明書を見てください」と警告メッセージが表示されます。
警告メッセージが表示されたときは、安全な場所に停車し、エンジンを一旦停止してから再始動させ、再びアクティブブレーンコントロールをONにしてください。

アドバイス

- アクティブブレーンコントロールがONにできない、又は警告メッセージが表示し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

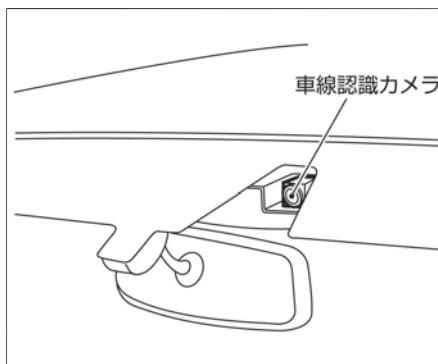
走行する

アクティブブレーンコントロール（ダイレクトアダプティブステアリング付車）

車線認識カメラの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- ルームミラー上方に装着されている車線認識カメラ周辺部のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。
- 車線認識カメラ周辺にステッカー（透明なものを含む）を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けないでください。
- 車線認識カメラ周辺に車検の検査標章（ステッカー）を貼らないでください。正しい貼り付け位置は日産販売会社にご確認ください。
- インストルメントパネル上に鏡などの光を反射しやすいものや白い紙などを置かないでください。太陽光が反射し、カメラの検知性能に影響ができるおそれがあります。
- 車線認識カメラ周辺に強い衝撃を与えないでください。また、レンズに触れたり、車線認識カメラを固定しているネジを取り外さないでください。故障、誤作動の原因になります。
事故などで車線認識カメラ周辺部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。



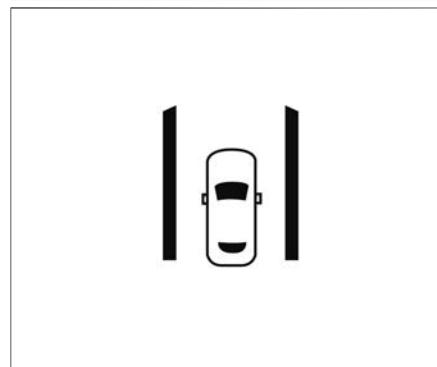
■ LDW（車線逸脱警報）について

LDW（車線逸脱警報）は、運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報によって注意を促します。

- 車速が約60km/h以上で作動します。
- ルームミラー上方に取り付けられた車線認識カメラにより走行している車線のレーンマークを検知し、右側もしくは左側のレーンマークに近づいたと判断すると運転者に警報します。

（警報音が鳴り、メーター内ディスプレイのレーンインジケーターがオレンジ色に点滅します。）

※レーンマークとは、車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。



⚠️ 警告

- LDW（車線逸脱警報）は車線からの逸脱を自動的に回避するシステムではありません。また、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨や霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、常に安全運転に心がけてください。
- カメラには限界がありますので、機能を過信しないでください。道路の状態、天候、交通状況などによりシステムが正常に作動しないことがあります。

📖 知識

- 次の場合は警報を行いません。
 - 方向指示器を使用しているとき
(方向指示器を解除した後、約2秒間は作動しません)
 - 車速が約60km/hを下回っているとき
- メーター内のディスプレイを「走行支援」に切り替えると、システムの作動状態をドライブコンピューター内で確認することができます。

走行する

LDW（車線逸脱警報）／LDP（車線逸脱防止支援システム）



知識

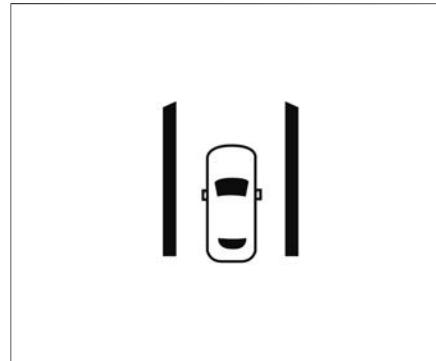
⇒ ドライブコンピューター (P.245)

LDP（車線逸脱防止支援システム）について

LDP（車線逸脱防止支援システム）は、走行している車線から逸脱しそうになると警報によって運転者に注意を促すとともに、車両の向きを変える方向に力を発生させ運転者が自車を車線内に戻す操作を支援します。

- 車速が約60km/h以上で作動します。
- ルームミラー上方に取り付けられた車線認識カメラにより走行している車線のレーンマーカーを検知し、走行している車線の右側もしくは左側のレーンマークに近づくと、警報音を鳴らすとともにメーター内のレーンインジケーターがオレンジ色に点滅します。同時にステアリングまたはブレーキを短時間制御し、車両を車線内に戻す方向に制御力を短時間発生させて車両を車線内に戻す操作を促します。

※レーンマークとは、車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。



警告

- LDP（車線逸脱防止支援システム）は車線からの逸脱を自動的に回避したり、車線内での走行を自動的に維持するシステムではありません。また、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨や霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、常に安全運転に心がけてください。
- カメラには限界がありますので機能を過信しないでください。道路の状態、天候、交通状況などによりシステムが正常に作動しないことがあります。

知識

- 方向指示器を使用している場合は、警報もステアリングまたはブレーキ制御も行いません。
(方向指示器を解除した後、約2秒間は作動しません。)
- メーター内のディスプレイを「走行支援」に切り替えると、システムの作動状態をドライブコンピューター内で確認することができます。

走行する

LDW（車線逸脱警報）／LDP（車線逸脱防止支援システム）



知識

☞ ドライブコンピューター (P.245)

運転をするときは

■ LDW（車線逸脱警報）／LDP（車線逸脱防止支援システム）について

⚠ 注意

- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、LDP（車線逸脱防止支援システム）を使用しないでください。
 - 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
 - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
 - 急なカーブ、急な上り坂・下り坂が繰り返されるとき
 - 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
 - 車線の幅が狭い道路を走行するとき
 - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、純正品以外のタイヤを使用しているとき
 - 純正品以外のステアリング部品、ブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- 次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。
 - 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり・汚れ・雪などで隠れているレーンマーク）がある道路を走行するとき
 - 急なカーブのある道路を走行するとき
 - 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
 - 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報したり、制御する場合があります）
 - 車線の分岐・合流のある道路を走行したとき
 - 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
 - 先行車との車間距離が短く、車線認識カメラの検出範囲が遮られるとき

走行する

LDW（車線逸脱警報）／LDP（車線逸脱防止支援システム）

 注意

- 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
 - 汚れなどでヘッドライトの明るさが不十分なときやヘッドライトの光軸調整が適切に行われていないとき
 - 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
 - 急な明るさの変化が起きたとき（トンネルの出入り口など）
- 状況によっては外部の騒音などにより、警報音が聞こえない場合があります。

 知識

- 次の場合は、警報もステアリング制御またはブレーキ制御も行いません。
 - 方向指示器を使用しているとき（方向指示器を解除した後、約2秒間は作動しません）
 - 車速が約60km/hを下回っているとき
- 次の場合は、ステアリング制御またはブレーキ制御を行いません。
 - ブレーキペダルを踏んでいるとき
 - 車線変更に相当する程度にハンドル操作をしたとき
 - インテリジェントクルーズコントロールの接近警報が鳴っているとき
 - PFCW（前方衝突予測警報）が作動しているとき
 - エマージェンシーブレーキが作動しているとき
 - 非常点滅表示灯を作動させているとき
 - カーブ路でスピードを出して走行しているとき
- ステアリングまたはブレーキを制御しているとき、運転者がアクセルペダルを踏み増すと制御を中止します。

走行する

LDW (車線逸脱警報) / LDP (車線逸脱防止支援システム)

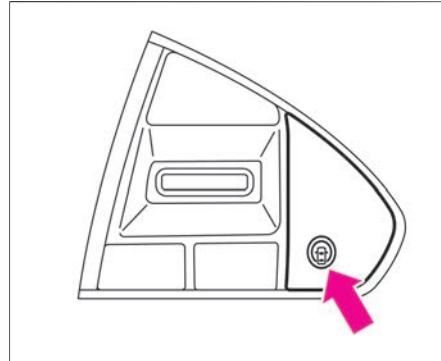
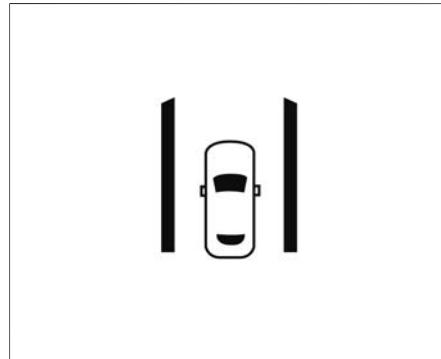
ON/OFFのしかた

LDW (車線逸脱警報)

- ナビゲーションシステムで **MENU** ⇒ **運転支援** ⇒ **側方支援** ⇒ **LDW (車線逸脱警報)** を選択すると、システムのON/OFFが切り替わります。
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。
- LDW (車線逸脱警報) をONにすると、メーター内のディスプレイのレーンインジケーターが白色に点灯します。

LDP (車線逸脱防止支援システム)

- ナビゲーションシステムの運転支援メニューでLDP (車線逸脱防止支援システム) をONにしているとき、スイッチを押すとシステムがONになります
- LDP (車線逸脱防止支援システム) をONにすると、メーター内のディスプレイのレーンインジケーターが緑色に点灯します。



知識

- ステアリングにあるスイッチを押すと、LDP (車線逸脱防止支援システム)、BSI (後側方衝突防止支援システム)、インテリジェントペダル (ディスタンスコントロールアシスト)、アクティブブレーキングコントローラ★のON/OFFを同時に切り替えることができます。
- ナビゲーションシステムで **MENU** ⇒ **運転支援** ⇒ **側方支援** ⇒ **LDP (車線逸脱防止支援システム)** でOFFを選択すると、LDP (車線逸脱防止支援システム)だけをOFFにすることができます。
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。
- エンジンを停止するとLDP (車線逸脱防止支援システム)は自動的にOFFになります。
- ナビゲーションシステムのON/OFF設定は、エンジンを停止しても再度設定を変更するまで、その状態が維持されます。また、ON/OFFの設定は、パーソナルアシスタント機能によりユーザーごとに設定が保存され

走行する

LDW（車線逸脱警報）／LDP（車線逸脱防止支援システム）

運転をするときは

知識

ます。

☞ [パーソナルアシスタント機能 \(P.273\)](#)

走行する

LDW（車線逸脱警報）／LDP（車線逸脱防止支援システム）

■ 警告表示

LDW（車線逸脱警報）

- 炎天下に駐車したときなど車線認識カメラが高温になったときは、メーター内のディスプレイに「車線認識カメラ・その周辺が高温のため使用できません」と警告が表示されると同時にレーンインジケーター（白色）が点滅し、一時的に作動が停止します。
(室内の温度が下がると、自動的に作動が復帰します。)
- システムに異常があると、メーター内のディスプレイのレーンインジケーターがオレンジ色に点灯し、自動的に作動が停止します。

LDP（車線逸脱防止支援システム）

- 次の場合は、“ポー”というブザー音とともにメーター内のディスプレイに「作動範囲外のため現在使用できません」と警告が表示され、自動的に作動を解除します。
 - ドライブモードをSNOWにしたとき
 - ABSまたはVDC（トラクションコントロールは含まない）が作動したとき
 - VDCをOFFにしたとき
- システムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、ステアリングスイッチで再びシステムをONにしてください。
- 炎天下に駐車したときなど、車線認識カメラが高温になったときは、“ポー”というブザー音とともにメーター内のディスプレイに「車線認識カメラ・その周辺が高温のため使用できません」と警告が表示され、自動的に作動を解除します。
システムを再び作動させる場合は、室内の温度が下がってからステアリングスイッチで再びシステムをONにしてください。
- システムに異常があると、メーター内のディスプレイのレーンインジケーターがオレンジ色に点灯し、自動的に作動が停止します。

■ アドバイス

- レーンインジケーターがオレンジ色に点灯したときは、安全な場所に停車し一度エンジンを停止してから再始動してください。
エンジン再始動後もシステムがONにできないまたはオレンジ色に点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

■ 知識

- LDW（車線逸脱警報）とLDP（車線逸脱防止支援システム）が同時にONのとき、LDP（車線逸脱防止支援システム）の作動が解除されてもレーンインジケーターが白色の場合は、LDW（車線逸脱警報）のみ作動します。

■ 車線認識カメラの取り扱い

☞ 車線認識カメラの取り扱い (P.106)をお読みください。

走行する

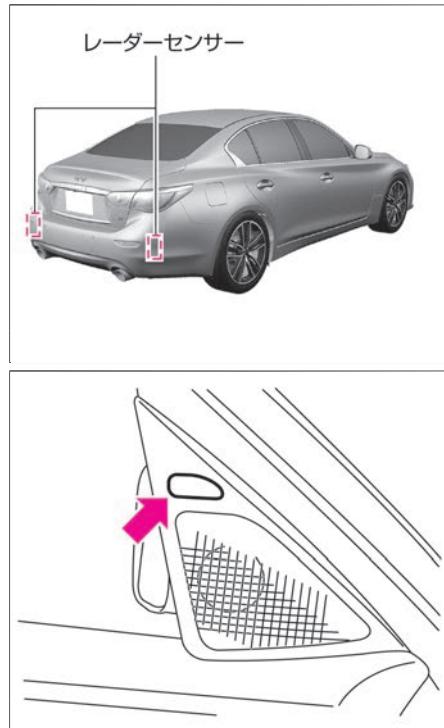
BSW（後側方車両検知警報）／BSI（後側方衝突防止支援システム）

BSW（後側方車両検知警報）について

BSW（後側方車両検知警報）は、車線変更をするとき、隣車線に車両がいる場合に警報によって運転者に注意を促します。

- BSW（後側方車両検知警報）は車速約30km/h以上で作動します。
- 車両後部に取り付けられたレーダーセンサーにより隣車線の車両を検知すると、検知した側のドアミラー付近の表示灯が点滅します。
- 隣車線の車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると、警報音が鳴るとともにドアミラー付近の表示灯が点滅します。

※レーンマーカーとは、車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。

**⚠️ 警告**

- BSW（後側方車両検知警報）は、ドアミラーによる周囲の検知を代わりに行ったり、車両や障害物との接触を防ぐ機能ではありません。車線変更を行うときは、機能に頼った確認をせず、必ずドアミラーおよびルームミラーで側方および後方の安全を確認してください。
- レーダーセンサーには限界がありますので、機能を過信しないでください。道路の状態、天候、交通状況などによりシステムが正常に作動しないことがあります。

📖 知識

- ドアミラー付近の表示灯は電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- ドアミラー付近の表示灯の明るさは車両周囲の明るさによって自動的に切り替わります。
- 方向指示器が作動しているときに、レーダーセンサーにより隣車線の車両を検知した場合には、表示灯は点滅しますが音は鳴りません。
- メーター内のディスプレイを「走行」

 知識

「支援」に切り替えると、システムの作動状態をドライブコンピューター内で確認することができます。

④ ドライブコンピューター (P.245)

走行する

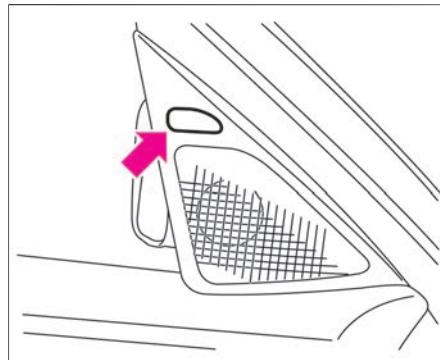
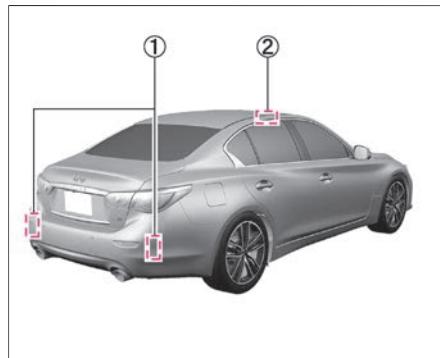
BSW（後側方車両検知警報）／BSI（後側方衝突防止支援システム）

■ BSI（後側方衝突防止支援システム）について

BSI（後側方衝突防止支援システム）は、BSW（後側方車両検知警報）に加えて隣接車線に車両がいるときに運転者が車線変更を開始した場合、警報とともに車両をもとの車線内に戻す方向に力を発生し、隣接車両との接触を回避するよう支援します。

- BSI（後側方衝突防止支援システム）は、車両後部に取り付けられたレーダーセンサー①により隣車線の車両を検知します。また、ルームミラー上方に取り付けられたカメラ②を使用し、走行している車線のレーンマーカーを検知します。
- 約60km/h以上で走行中に隣車線の車両を検知しているとき、検知している側のレーンマーカーに自車両が接近すると、警報音が鳴るとともにドアミラー付近の表示灯が点滅します。同時にブレーキまたはステアリングを制御し、車両をもとの車線に戻す方向に制御力を短時間発生させ、自車をもとの車線に戻す操作を促します。

※レーンマーカーとは、車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。



! 警告

- BSI（後側方衝突防止支援システム）は、ドアミラーによる周囲の検知を代わりに行ったり車両や障害物との接触を防ぐ機能ではありません。車線変更を行うときは機能に頼った確認をせず、必ずドアミラーおよびルームミラーで側方および後方の安全を確認してください。
- レーダーセンサーおよびカメラには限界がありますので機能を過信しないでください。道路の状態、天候、交通状況などによりシステムが正常に作動しないことがあります。

□ 知識

- あらかじめ表示灯が点灯した状態で自車両がレーンマーカーに接近すると、警報とブレーキ制御またはステアリング制御の両方が作動します。ただし、自車両がレーンマーカーと交差してから検知範囲に車両が入ってきたときは、警報とブレーキ制御またはステアリング制御は作動しません。
- BSI（後側方衝突防止支援システム）は、LDP（車線逸脱防止支援システム）よりも先に作動します。

 知識

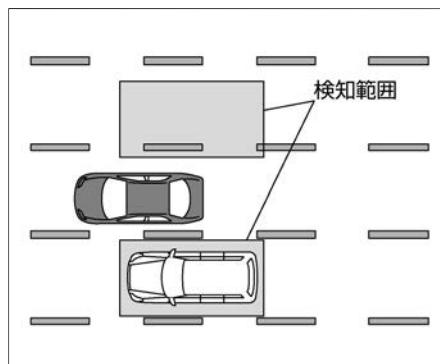
- メーター内のディスプレイを「走行支援」に切り替えると、システムの作動状態をドライブコンピューター内で確認することができます。
 [ドライブコンピューター \(P.245\)](#)

走行する

BSW（後側方車両検知警報）／BSI（後側方衝突防止支援システム）

検知範囲について

- レーダーセンサーは、自車両の左右にある範囲内にいる車両を検知します。
- 検知範囲は、自車両のドアミラーからリヤバンパーの後方約3m、車両の側面から横方向に約3mです。

**注意**

- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますのでBSI（後側方衝突防止支援システム）を使用しないでください。
 - 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
 - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
 - 急なカーブ、急な上り坂・下り坂が繰り返されるとき
 - 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
 - 車線の幅が狭い道路を走行するとき
 - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、純正品以外のタイヤを使用しているとき
 - 純正品以外のステアリング部品、ブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- レーダーセンサーは次のような障害物は検知しません。
 - 歩行者、自転車、動物など
 - 対向車

△ 注意

- 次のような車両は、検知できないことがあります。
 - 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両
 - 停車状態から検知範囲に居続ける車両
 - 後方から速い速度で接近してくる車両
 - 自車両が速い速度で追い越した車両
 - 合流や車線変更で自車両の横にほぼ同じ速度で移動してきた車両
- 次のような場合は、隣の車線の車両を検知できないことがあります。
 - 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
 - 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
 - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- 車線の幅が極端に広い道路を運転する場合、隣の車線の車両を検出できないことがあります。また、車線の幅が極端に狭い道路を運転する場合、2つの隣の車線の車両を検知することができます。
- レーダーセンサーは静止している障

△ 注意

- 害物を検知しないよう設計されていますが、状況によってはガードレール、壁、草木、駐車された車両などを検知してしまうことがあります。
- 次のような状況では、レーンマークを正確に検出できず、適切な動作ができない場合があります。
 - 検出しにくいレーンマーク（不明瞭なレーンマーク、黄色のレーンマーク、一般的でないレーンマーク、水たまり・汚れ・雪などで隠れているレーンマーク）がある道路を走行するとき
 - 急なカーブのある道路を走行するとき
 - 消されたレーンマークがまだ見えている道路を走行するとき
 - 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマークとして検出して警報したり、制御する場合があります）
 - 車線の分岐・合流のある道路を走行したとき
 - 自車がレーンマークに対してまっすぐに走行していないとき

△ 注意

- 先行車との車間距離が短く、車線認識カメラの検出範囲が遮られるとき
- 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
- 汚れなどでヘッドライトの明るさが不十分なときやヘッドライトの光軸調整が適切に行われていないとき
- 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
- 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）
- 状況によっては外部の騒音などにより、警報音が聞こえない場合があります。

□ 知識

- 次の場合はブレーキ制御またはステアリング制御を行いません。
 - ブレーキペダルを踏んでいるとき
 - 素早いハンドル操作を行ったとき
 - インテリジェントクルーズコントロールの接近警報が鳴っているとき
 - PFCW（前方衝突予測警報）が作動しているとき

走行する

BSW（後側方車両検知警報）／BSI（後側方衝突防止支援システム）

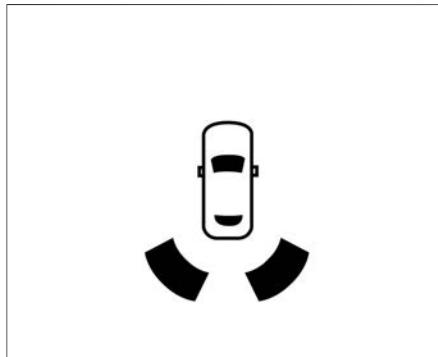
 知識

- エマージェンシーブレーキが作動しているとき
- 非常点滅表示灯を作動させているとき
- カーブ路でスピードを出して走行しているとき
- ブレーキ制御またはステアリング制御しているとき、運転者がアクセルペダルを踏み増すとブレーキ制御またはステアリング制御を中止します。

■ ON/OFFのしかた

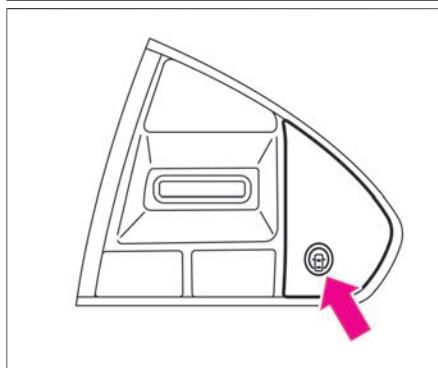
BSW（後側方車両検知警報）

- ナビゲーションシステムで **MENU** ⇒ **運転支援** ⇒ **後側方支援** ⇒ **BSW（後側方車両検知警報）** を選択すると、機能のON/OFFを切り替えることができます。
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。
- BSW（後側方車両検知警報）をONになると、メーター内のディスプレイのブラインドスポットインジケーターが白色に点灯します。



BSI（後側方衝突防止支援システム）

- ナビゲーションシステムの運転支援のメニューで BSI（後側方衝突防止支援システム）をONにしているとき、スイッチを押すとシステムがONになります。
- BSI（後側方衝突防止支援システム）をONになると、メーター内のディスプレイのブラインドスポットインジケーターが緑色に点灯します。



知識

- ステアリングにあるスイッチを押すと、LDP（車線逸脱防止支援システム）、BSI（後側方衝突防止支援システム）、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）、アクティブブレーキングコントローラ★のON/OFFを同時に切り替えることができます。
- ナビゲーションシステムで **MENU** ⇒ **運転支援** ⇒ **後側方支援** ⇒ **BSI（後側方衝突防止支援システム）** でOFFになると、BSI（後側方衝突防止支援システム）だけをOFFにできます。
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。
- エンジンを停止するとBSI（後側方衝突防止支援システム）は自動的にOFFになります。
- ナビゲーションシステムのON/OFF設定は、エンジンを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。また、ON/OFFの設定はパーソナルアシスタント機能によりユーザーごとに設定が保存されます。

走行する

BSW（後側方車両検知警報）／BSI（後側方衝突防止支援システム）



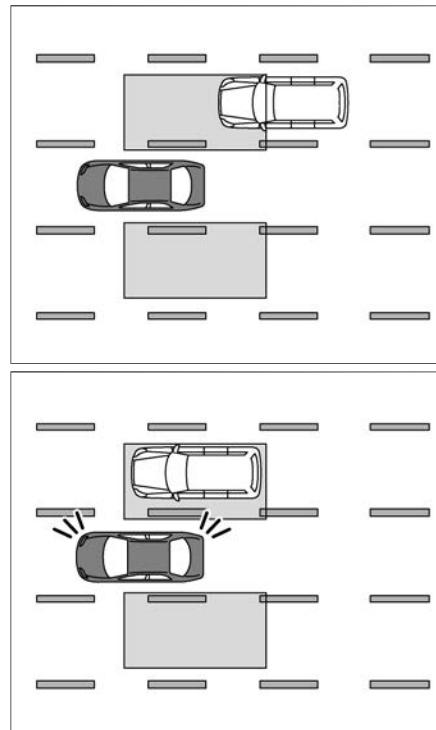
知識

☞ パーソナルアシスタント機能 (P.273)

■ システムの作動

■ 後方から車両が接近してくるとき

- 後方から車両が接近してくる場合、その車両が検知範囲内に入るとドアミラー付近の表示灯が点灯します。
- 車両を検知しているときに、検知している側の方向指示器を作動させると警報音が鳴るとともに、ドアミラー付近の表示灯が点滅します。



注意

- 車線変更を行うときは、必ずドアミラーおよびルームミラーを使用して周囲の安全を確認してください。

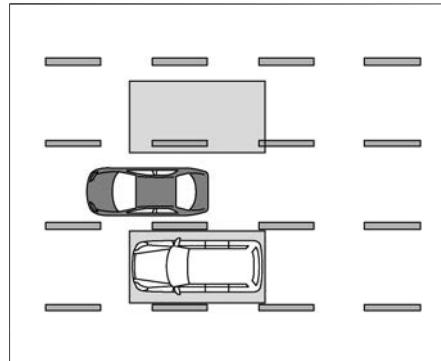
知識

- 方向指示器を作動させた後に、検知範囲に車両が入ってきたときは、表示灯は点滅しますが警報音は鳴りません。
- 自車両がレーンマーカーと交差してから検知範囲に車両が入ってきたときは、警報とブレーキ制御またはステアリング制御は作動しません。

走行する

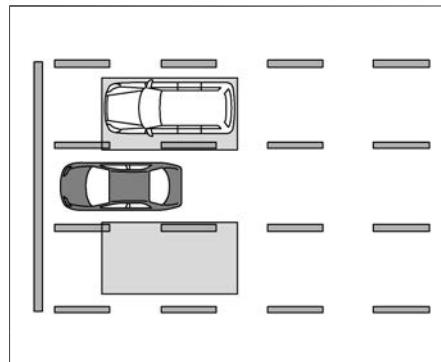
BSW（後側方車両検知警報）／BSI（後側方衝突防止支援システム）

- 車両を検知しているときに、検知している側のレーンマークに接近すると、警報音が鳴るとともにドアミラー付近の表示灯が点滅します。同時にブレーキまたはステアリングを短時間制御し、自車両を車線中央へ戻すことを補助します。



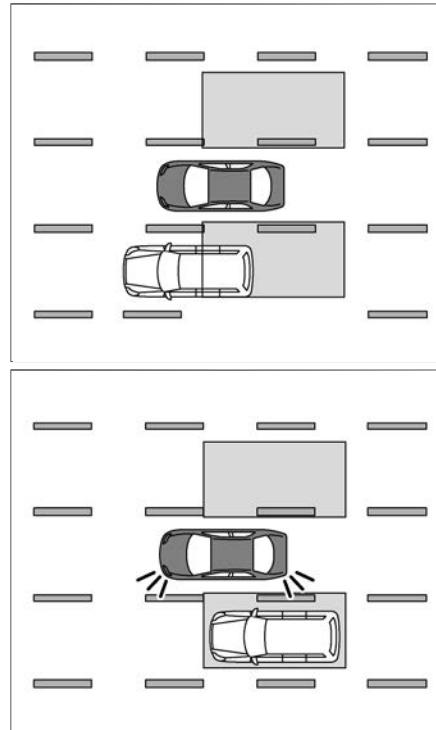
■ 発進するとき

- 停車状態から検知範囲に居続ける車両は検知できないことがあります。



■他の車両を追い越すとき

- 他の車両を追い越すとき、追い越される車両が検知範囲内に3秒以上とどまるときドアミラー付近の表示灯が点灯します。
- 車両を検知しているときに、検知している側の方向指示器を作動させると警報音が鳴るとともに、ドアミラー付近の表示灯が点滅します。



知識

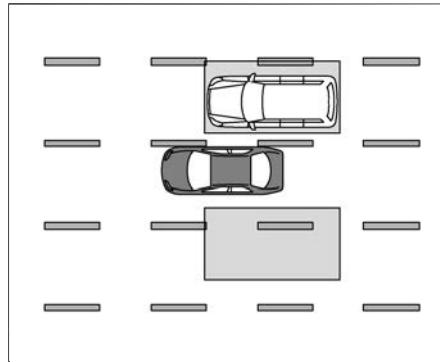
- 速度の遅い車両を素早く追い越したときは表示灯が点灯しません。

走行する

BSW（後側方車両検知警報）／BSI（後側方衝突防止支援システム）

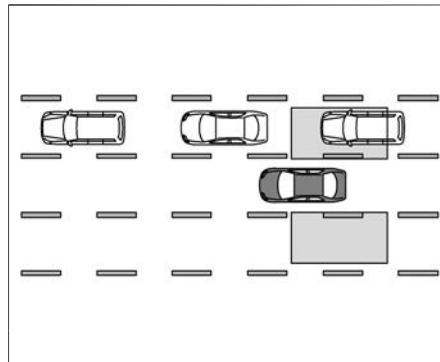
- 車両を検知しているときに、検知している側のレーンマークに接近すると、警報音が鳴るとともにドアミラー付近の表示灯が点滅します。

同時にブレーキまたはステアリングを短時間制御し、自車両を車線中央へ戻すことを補助します。



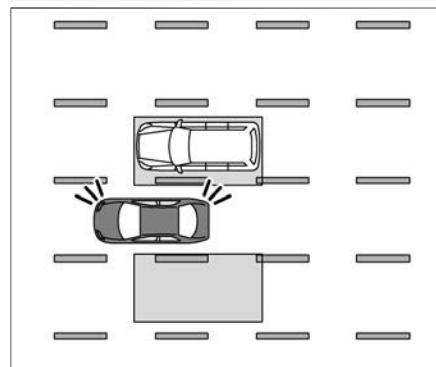
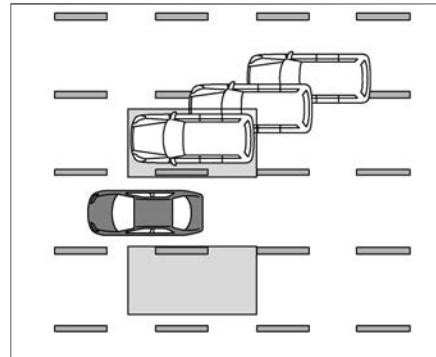
■ 他の車両に追い越されるとき

- 複数の車両に一度に追い越されるとき、追い越す車両の車間距離が短い場合は、1台目の車両以外が検出されないことがあります。



■他の車線から車両が接近してきたとき

- 車線変更などで車両が接近してきたときは、検知範囲内に入るとドアミラー付近の表示灯が点灯します。
- 車両を検知しているときに、検知している側の方向指示器を作動させると警報音が鳴るとともに、ドアミラー付近の表示灯が点滅します。



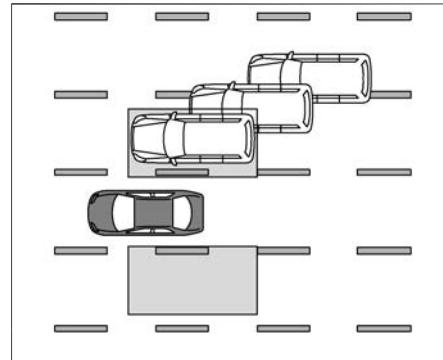
知識

- 自車両とほぼ同じ速度で走行する車両が車線変更してきた場合、検出できないことがあります。
- 方向指示器を作動させた後に、検知範囲に車両が入ってきたときは、表示灯は点滅しますが警報音は鳴りません。

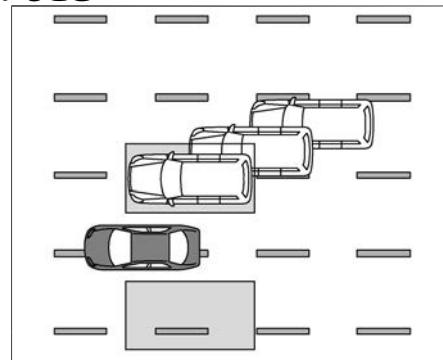
走行する

BSW（後側方車両検知警報）／BSI（後側方衝突防止支援システム）

- 車両を検知しているときに、検知している側のレーンマークに接近すると、警報音が鳴るとともにドアミラー付近の表示灯が点滅します。
同時にブレーキまたはステアリングを短時間制御し、自車両を車線中央へ戻すことを補助します。

**■ 自車両がレーンマークの上を走行しているとき**

- 検知範囲に車両が入ってもBSI（後側方衝突防止支援システム）は作動しません。
この場合、BSW（後側方車両検知警報）のみが作動します。



■ 警告表示

■ BSW（後側方車両検知警報）

- 次の場合はメーター内のディスプレイに「サイドレーダーおよびその周辺が汚れています 拭いてください」と警告が表示されるとともにブラインドスポットインジケーター（白色）が点滅し、自動的に作動が停止します。
 - － 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
 - － 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
- システムに異常があると、メーター内ディスプレイのブラインドスポットインジケーターがオレンジ色に点灯し、自動的に作動が停止します。



アドバイス

- レーダーセンサーおよびその周辺が汚れているときは安全な場所に停車して一度エンジンを停止し、レーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてからエンジンを再始動してください。
- ブラインドスポットインジケーターがオレンジ色に点灯したときは安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。エンジン再始動後もシステムがONにできない、またはオレンジ色に点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
- BSW（後側方車両検知警報）とBSI（後側方衝突防止支援システム）が同時にONのとき、BSI（後側方衝突防止支援システム）の作動が解除されてもメーター内ディスプレイのブラインドスポットインジケーターが白色の場合は、BSW（後側方車両検知警報）のみ作動します。

走行する

BSW（後側方車両検知警報）／BSI（後側方衝突防止支援システム）

■ BSI（後側方衝突防止支援システム）

- 次の場合は“ポー”というブザー音とともにメーター内のディスプレイに「作動範囲外のため現在使用できません」と警告が表示され、自動的に作動を解除します。
 - ドライブモードをSNOWにしたとき
 - ABSまたはVDC（トラクションコントロールは含まない）が作動したとき
 - VDCをOFFにしたとき
- システムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてからステアリングスイッチで再びシステムをONにしてください。
- 炎天下に駐車したときなど車線認識カメラが高温になったときは、“ポー”というブザー音とともにメーター内のディスプレイに「車線認識カメラ・その周辺が高温のため使用できません」と警告が表示され、自動的に作動を解除します。システムを再び作動させる場合は、室内的温度が下がってからステアリングスイッチで再びシステムをONにしてください。
- 次の場合は“ポー”というブザー音とともにメーター内のディスプレイに「サイドレーダーおよびその周辺が汚れています拭いてください」と警告が表示され、システムが自動的に停止します。
 - レーダーセンサーが汚れているとき
 - レーダーセンサーに雨、雪、氷などが付着しているとき
- システムに異常があると、メーター内ディスプレイのブラインドスポットインジケーターがオレンジ色に点灯し、自動的に作動が停止します。

知識

- BSW（後側方車両検知警報）とBSI（後側方衝突防止支援システム）が同時にONのとき、BSI（後側方衝突防止支援システム）の作動が解除されてもメーター内ディスプレイのブラインドスポットインジケーターが白色の場合は、BSW（後側方車両検知警報）のみ作動します。

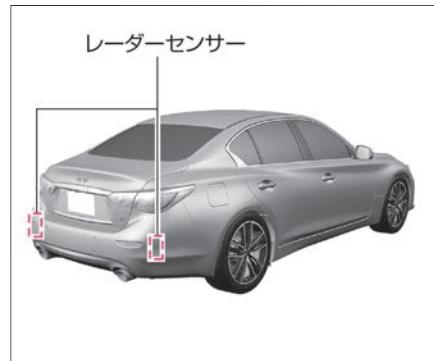
■ 車線認識カメラの取り扱い

☞ 車線認識カメラの取り扱い(P.106)をお読みください。

■ レーダーセンサーの取り扱い

システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- レーダーセンサー周辺部はいつもきれいにしておいてください。
- レーダーセンサー周辺に強い衝撃を与えないでください。衝突などでレーダーセンサー周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。
- レーダーセンサー周辺にステッカー（透明な物を含む）を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けたり、塗料を塗ったりしないでください。誤作動の原因になります。
- リヤバンパーを改造、脱着したり、塗装しないでください。リヤバンパーを改造したり塗装する場合は、日産販売会社にご相談ください。



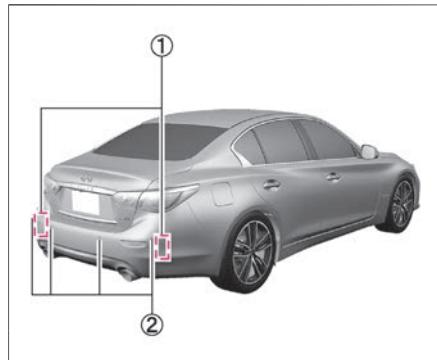
走行する

BCI（後退時衝突防止支援システム）

BCI（後退時衝突防止支援システム）は、後退時に後方の障害物や、後方を横切ろうとする車両に衝突するおそれがあるとき、警報と短時間のブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援するシステムです。

BCI（後退時衝突防止支援システム）について

- BCI（後退時衝突防止支援システム）はセレクトレバーがRで、車速約8km/h以下で作動します。
- BCI（後退時衝突防止支援システム）はリヤバンパー付近に取り付けられたレーダーセンサー①により、後方を横切ろうとする車両を検知します。また、リヤバンパーに取り付けられたソナーセンサー②により、後方の障害物を検知します。



⚠️ 警告

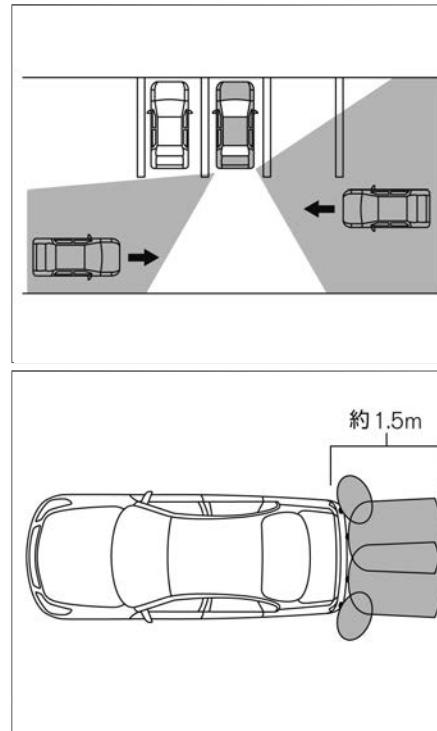
- BCI（後退時衝突防止支援システム）は、運転者の代わりに周囲を確認したり、車両や障害物との接触を防ぐ機能ではありません。駐車スペースから後退するときは、機能に頼った確認をせず、必ず運転者自身で周囲の安全を確認してください。
- レーダーセンサーおよびソナーセンサーには限界がありますので、機能を過信しないでください。道路の状態、天候、交通状況などにより、システムが正常に作動しないことがあります。

走行する

BCI（後退時衝突防止支援システム）

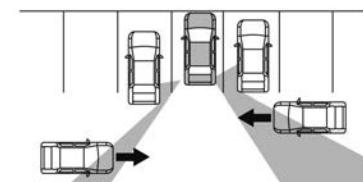
■ 検知範囲について

- レーダーセンサーは、約15m先から近づいてくる車両を検知します。
- ソナーセンサーは、リヤバンパーから約1.5m以内の障害物を検知します。



⚠ 注意

- レーダーセンサーは、次のようなものを検知できないことがあります。
 - 歩行者、自転車、動物など
 - 約24km/h以上の速度で通過する車両
- 次のような状況では、レーダーセンサーが接近する車両を検知できないことがあります。
 - 隣に駐車している車両などが、レーダーセンサーの検出エリアを妨げているとき

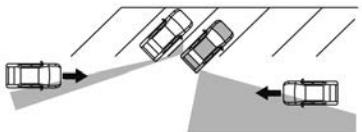


- 駐車枠線が斜めに引かれた駐車場に駐車しているとき

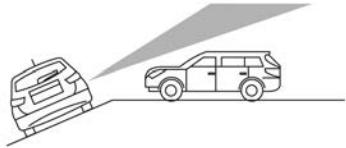
走行する BCI（後退時衝突防止支援システム）

運転をするとき

⚠ 注意

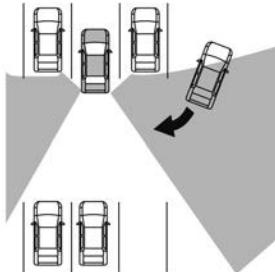


- 傾斜した地面に駐車しているとき

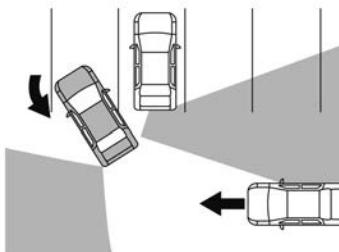


- 回り込むようにして自車両後方へ車両が接近してきたとき

⚠ 注意



- 接近してきた車両の向きが、自車両の向きと同じまたはそれに近いとき



- 次のような場合は、思わぬ事故につながるおそれがありますので、システムを使用しないでください。

⚠ 注意

- 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
- 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
- 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、純正品以外のタイヤを使用しているとき
- 純正品以外のブレーキ部品やサスペンション部品を使用しているとき
- レーダーセンサーは静止している障害物を検知しないよう設計されていますが、状況によってはガードレール、壁、駐車された車両などを検知することがあります。
- ソナーセンサーは、次のようなものを検知できないことがあります。
 - 小さいもの、または動いているもの
 - <くさび形のもの
 - リヤバンパーに極端に近い障害物（約30cm未満）
 - ロープ、チェーン、ワイヤーなど

 注意

の細いもの

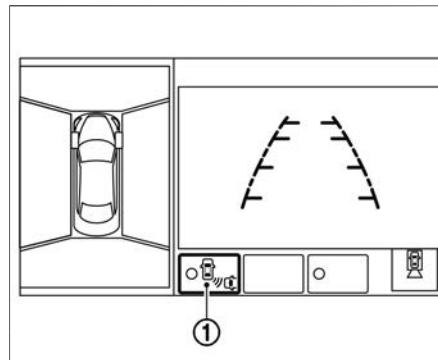
- 急斜面ではシステムによるブレーキの効きが弱くなることがあります。
- 状況によっては外部の騒音などにより、警報音が聞こえない場合があります。

走行する BCI（後退時衝突防止支援システム）

■ システムの作動

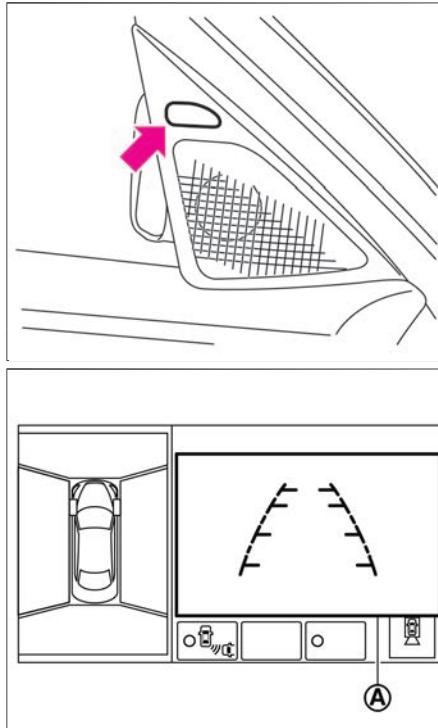
■ 使いかた

- セレクトレバーを **R** になると、ナビゲーション画面がバックビューに切り替わり、BCI（後退時衝突防止支援システム）の表示灯①が点灯します。
- レーダーセンサーおよびソナーセンサーが、接近する車両または後方の障害物を検知するとシステムが作動します。



■ 検知したとき

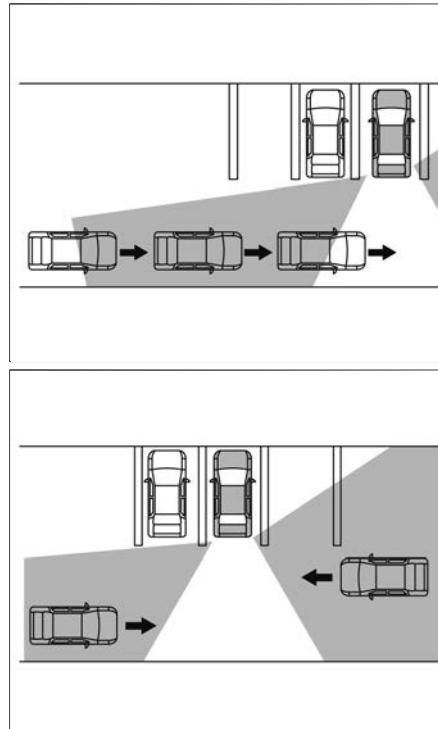
- レーダーセンサーが後方を通り過ぎようとする車両を検知すると、警報音が鳴るとともに車両が接近している側のドアミラー付近の表示灯が点滅します。同時にナビゲーションシステムのバックビューモニターのフレームⒶが黄色くなります。



走行する BCI（後退時衝突防止支援システム）

■ 作動しないとき

- 複数の車両が連続して後方を通過する場合や、最初に検知した車両と逆方向からも車両が接近してきた場合、2台目以降に対して警報が作動しない場合があります。
- ソナーセンサーによる警報（MOD（移動物検知機能））が作動しているときは、車両の接近による警報は作動しません。

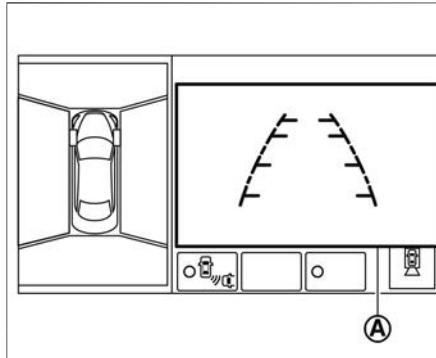


走行する

BCI（後退時衝突防止支援システム）

■ 検知して制御するとき

- 後方を通り過ぎようとする車両を検知している、または後方の障害物を検知しているときに、自車両が後退すると警報音が鳴り、ナビゲーション画面のバックビューモニターのフレームⒶが赤色になるとともに、システムがブレーキをかけ、運転者の回避操作を支援します。システムによるブレーキは短時間で解除されます。停車するためには、運転者はブレーキペダルを踏んでください。
- システムが作動したとき、運転者がアクセルペダルを踏んでいると、ブレーキペダルへの踏み替えを促すため、アクセルペダルを押し戻す方向に力を発生させます。このとき、運転者がアクセルペダルを踏み続けると、ブレーキは作動しません。



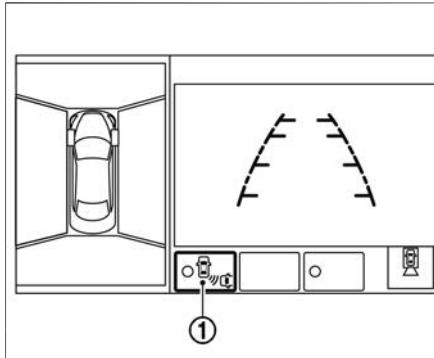
知識

- 後方の障害物と車両のリヤバンパーの距離が非常に近い場合は、BCI（後退時衝突防止支援システム）は作動しません。

走行する BCI（後退時衝突防止支援システム）

■ ON/OFFのしかた

- セレクトレバーが**R**でナビゲーション画面にバックビューが表示されているとき、BCI（後退時衝突防止支援システム）のアイコン①にタッチすると、システムを一時的にOFFにできます。



知識

- BCI（後退時衝突防止支援システム）を一時的にOFFにしたときは、セレクトレバーを一旦**R**以外にしてから再度**R**にするか、エンジンを一旦停止してから再始動すると、システムは自動的にONになります。
- 次の操作でシステムのON/OFFが切り替わります。
MENU ⇒ **設定** ⇒ **カメラ・ソナー** ⇒ **カメラ** ⇒ **BCI（後退時衝突防止支援システム）**
- ナビゲーションシステムの設定でON/OFFを変更した場合は、セレクトレバーを一旦**R**以外にしてから再度**R**にする、またはエンジンを一旦停止してから再始動しても再度設定を変更するまで、その状態が維持されます。また、ON/OFFの設定は、パーソナルアシスタント機能によりユーザーごとに設定が保存されます。
☞ **パーソナルアシスタント機能 (P.273)**
- 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「カメラシステム、ETC」の章をお読みください。

走行する

BCI（後退時衝突防止支援システム）

■ 警告表示

- 次の場合は、メーター内のディスプレイに「アクセルペダルが高温のため使用できません」と警告が表示され、システムが自動的に停止します。
 - アクセルペダルを戻す力を発生させているモーターが高温になったとき
モーターの温度が下がると、システムは自動的に作動を再開します。
- 次の場合、メーター内のディスプレイに「サイドレーダーおよびその周辺が汚れています 拭いてください」と警告が表示され、システムが自動的に停止します。
 - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
 - 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、エンジンを再始動してください。
- 次の場合は、エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯するとともにメーター内のディスプレイに「システム故障 取扱説明書を見てください」と警告が表示され、システムが自動的に停止します。
 - BCI（後退時衝突防止支援システム）に異常があるとき
上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。

アドバイス

- システムをONにできない、または警告が表示し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

■ レーダーセンサーの取り扱い

- ☞ レーダーセンサーの取り扱い (P.135)をお読みください。

走行する インテリジェントクルーズコントロール

インテリジェントクルーズコントロールは、先行車との距離を測定し、運転者がセットした車速を上限として、車速に応じた車間距離を自動的に保ちながら走行するシステムです。

■ インテリジェントクルーズコントロールについて

インテリジェントクルーズコントロールには、以下のような機能があります。

- インテリジェントクルーズコントロール
 - 先行車を検出していない場合は、運転者がセットした車速で定速走行します。
 - 先行車を検出している場合は、先行車との距離を測定し、運転者がセットした車速を上限として車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行います。
- ナビ協調機能
 - ナビゲーションシステムからの情報をもとに、運転者がセットした車速を上限として、前方のカーブの大きさに応じた車速で走行できるように車速制御を行います。
- 定速制御機能
 - 運転者がセットした車速（約40km/h～100km/h）で定速走行します。
(車間距離の制御は、行いません。)



注意

- 機能によって制御内容が異なります。
インテリジェントクルーズコントロールを使用するときは、どの機能が選択されているかをメーター内のディスプレイで必ず確認してください。
 [アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた \(P.240\)](#)

■ インテリジェントクルーズコントロールの使いかた

先行車との距離を測定し、運転者がセットした車速を上限として車速に応じた車間距離を自動的に保ちながら走行することができます。

セレクトレバーが 又はマニュアルモードのときに以下の制御を行います。

- 先行車を検出していなければ、運転者がセットした車速（約32km/h～100km/h）で定速走行します。
- 先行車を検出しているときは、運転者がセットした車速（約32km/h～100km/h）を上限として、車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。
また、先行車両が停止したときには、自車もそれに応じて停止します。
(停止後はシステムが自動的に解除されます。)
- 先行車を検出しなくなったときは、セットした速度までゆっくりと加速し、定速走行を行います。
なお、車速が約24km/hを下回っている場合は、システムが自動的に解除されます。

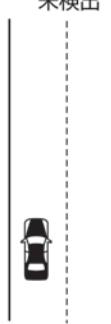
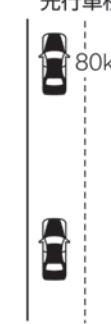
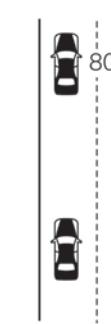
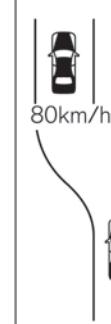


注意

- インテリジェントクルーズコントロールは高速道路や自動車専用道路でご使用ください。
- インテリジェントクルーズコントロールにより停止までブレーキ制御を行いますが、停止状態を保持する機能はありません。自車が停止したとシステムが判断すると、ブザー音とともにブレーキ制御が解除され、クリープ現象によりゆっくりと車両が動き出します。停止状態を保持す

△ 注意

るためのブレーキ操作は、必ず運転者が行ってください。（先行車との車間距離が短いときや下り坂で追従走行しているときなど、状況により停止できない場合もあります。）

走行状況	定速走行 先行車を検出していないとき	減速走行 設定した車速より遅い先行車が検出されたとき	追従走行 設定した車速より遅い先行車に追従するとき	加速走行 設定した車速より遅い先行車を検出しなくなったとき
	100km/hに設定	100km/hで定速走行時に、80km/hの先行車を検出したとき	100km/hに設定しているときに、80km/hの先行車がいるとき	100km/hに設定しているときに、80km/hの先行車を検出しなくなったとき
例	<p>未検出</p>  <p>100km/h (設定車速)</p>	<p>先行車検出</p>  <p>100km/h→80km/h</p>	 <p>80km/h</p>	 <p>80km/h→100km/h (設定車速)</p>

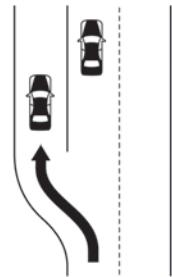
走行する インテリジェントクルーズコントロール

⚠ 注意

- インテリジェントクルーズコントロールには限界がありますので、機能を過信しないでください。脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨・霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転に心がけてください。
- インテリジェントクルーズコントロールの減速能力には限界がありますので、自車の前へ他車が割り込んだときや先行車が急ブレーキをかけたとき、下り坂で追従走行しているときなどは、十分に減速できず先行車に接近することがあります。この場合は、ブザー音および表示による警報で注意を促します。
- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますのでインテリジェントクルーズコントロールを使わないでください。
 - **交通量の多い道や急カーブのある道**
道路状況にあった速度で走行できないため事故につながるおそれがあります。
 - **凍結路や積雪路など滑りやすい路面**
タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
 - **悪天候（雨、霧、雪など）のとき**
先行車との車間距離が正確に検出できない場合があります。
 - **センサー部に雨滴、雪などが付着しているとき**
先行車との距離が正確に検出できない場合があります。
 - **急な下り坂**
先行車を検出していない場合はインテリジェントクルーズコントロールの制御によるブレーキ操作を行わないと、セットした車速を超えてしまうおそれがあります。
また、先行車を検出していて追従走行している場合には、ブレーキが過熱してしまうおそれがあります。

 注意

- **急な上り坂、下り坂が繰り返される道**
先行車を正確に検出できず、先行車に近づきすぎて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況のとき**
交通状況にあった速度で走行できないため、事故につながるおそれがあります。
- 高速道路などで、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなどに進入する（本線から出る）とき本線上でインテリジェントクルーズコントロールによりセット車速よりも遅い車速で走行する先行車に追従走行している場合には、自車又は先行車の車線変更などで、自車線上に先行車を検出しなくなることによりセット車速まで自動的に加速するため、思わぬ事故につながるおそれがあります。



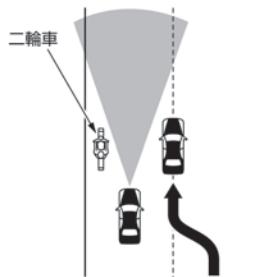
- 停止中の車両や自車速より極端に遅い車両に対しては、インテリジェントクルーズコントロールによる制御も接近警報も行いません。料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両や極端に速度の遅い車両などには十分注意してください。
- 急な割り込み車両や、歩行者などの車両以外のものに対しては、制御又は接近警報を行いません。

走行する インテリジェントクルーズコントロール



注意

- 次の場合には、先行車を正確に検出できず、車間距離が適切に保てなくなる場合があります。周囲の状況に十分注意し、必要に応じてブレーキ操作をしてください。
 - 先行車や他車線の車が路上の水や雪などを巻き上げて走っているとき
 - 後席やトランクに極端に重い荷物を積んだとき
 - 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
- 近距離ではセンサーの検出エリアが狭いため、自車線の端を走行する二輪車を検出できなかったり、間近に割り込んでくる先行車の検出が遅れたりして、車間距離が適切に保てない場合があります。



- センサーの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。状況によってはセンサーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。このような状況では、適切な作動ができないくなるおそれがありますので、常に前方に注意して走行してください。また、レーダーセンサーおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。なお、汚れを判定した場合は、インテリジェントクルーズコントロールは自動的に解除されます。
- 道路形状（カーブ路、カーブの出入り口、車線規制や工事中などで車線の幅が狭く

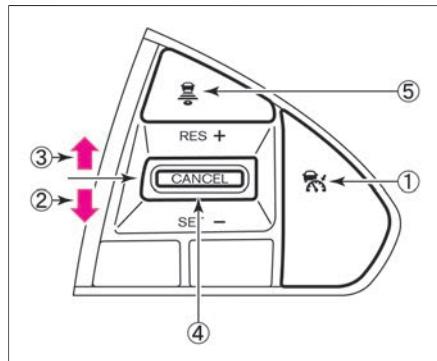
 注意

なっている道) や自車の状況 (ハンドル操作、車線内の位置、事故や故障で走行が不安定な場合など) によっては、一時的に先行車を検出できなくなったり、隣の車線の車両や周辺のものを検出して制御したり、警報が作動する場合があります。
また、一時的に先行車を検出できず、先行車に近づく場合があります。

走行する インテリジェントクルーズコントロール

■ ステアリングスイッチ（インテリジェントクルーズコントロール）

- ① メインスイッチ
インテリジェントクルーズコントロールのON・OFFができます。
- ② SET-（下押し）
インテリジェントクルーズコントロールのセットができます。
設定車速を下げることができます。
- ③ RES+（上押し）
インテリジェントクルーズコントロールを解除後、解除前の設定車速に再びセットすることができます。
設定車速を上げることができます。
- ④ キャンセルスイッチ
インテリジェントクルーズコントロールの解除ができます。
- ⑤ 車間設定スイッチ
車間設定を「長」「中」「短」の3段階に切り替えることができます。



走行する

インテリジェントクルーズコントロール

■ アドバンスドドライブアシストディスプレイ

アドバンスドドライブアシストディスプレイはメーター内にあります。

① インテリジェントクルーズコントロール警告灯

システムの作動状態を色で表示します。

白色:

メインスイッチを押し、システムがONになると表示します。

緑色:

車速を設定すると表示します。

オレンジ色:

システムが故障すると表示します。

② 先行車検出表示

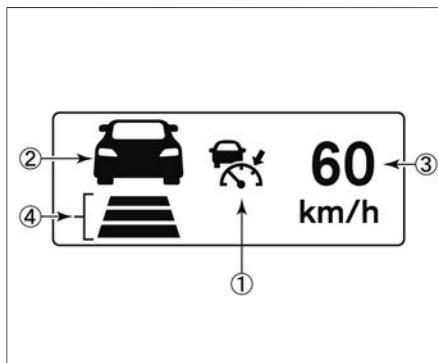
先行車検出の有無をお知らせします。

③ 設定車速表示

設定した車速を表示します。

④ 車間設定表示

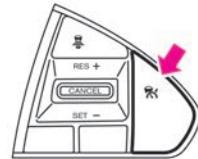
車間設定スイッチで設定した車間設定を表示します。



走行する インテリジェントクルーズコントロール

セットのしかた

- 1** メインスイッチを押してインテリジェントクルーズコントロールをONにします。（1.5秒未満押す）
(クルーズ表示灯、車間設定表示、設定車速表示が点灯し、セット待機状態になります。)
- 2** 設定したい車速まで加速又は減速します。
- 3** SET-(下押し) 側に押します。
・スイッチを押したときの車速が設定車速になります。
・車速が約32km/h以下で先行車を検出しているときにスイッチを押した場合、設定車速は32km/hになります。
(先行車検出の有無、車間設定、設定車速を表示)
- 4** 制御を開始します。



注意

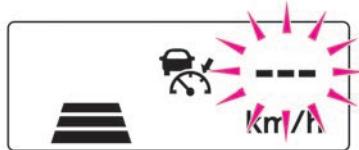
- インテリジェントクルーズコントロールを使用しないときは、メインスイッチをOFFにしてください。
間違ってスイッチを押してしまった場合、インテリジェントクルーズコントロールがセットされてしまい思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- 次の場合はメーター内のディスプレイの警告灯が約2秒間点滅し、セットすることができません。
 - 車速が約32km/hを下回っていて、先行車を検出していないとき
 - セレクトレバーが■又はマニュアルモード以外のとき
 - パーキングブレーキがかかっているとき
 - ブレーキを踏んでいるとき

走行する

インテリジェントクルーズコントロール

 知識

- 次の場合は“ピー”というブザー音とともに、メーター内のディスプレイに“作動範囲外のため現在使用できません”と表示され、セットすることができません。
 - ドライブモードをSNOWにしているとき
 [ドライブモードセレクター \(P.83\)](#)
 - VDCをOFFにしているとき
 [VDC \(ビーグルダイナミクスコントロール\) \(P.92\)](#)
 - ABS又はVDC（トラクションコントロールを含む）が作動しているとき
 - タイヤが空転しているとき
 - エンジンを停止するとインテリジェ

 知識

ントクルーズコントロールは自動的に解除されます。

- 車間設定はエンジンを始動するたびに「長」に設定されます。「中」又は「短」に切り替えたいときは車間設定スイッチを操作します。

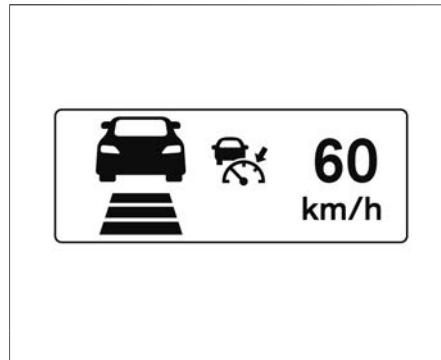
走行する インテリジェントクルーズコントロール

■ システムの作動

■ 先行車を検出しているとき

運転者が設定した車間距離を保つように制御します。

(先行車検出表示が点灯)



知識

- 設定車速（約32km/h～100km/h）を上限とする範囲で制御します。
- インテリジェントクルーズコントロールの制御によりブレーキが作動したときは、自車の制動灯が点灯します。
- ブレーキが作動したとき、音がありますが異常ではありません。

走行する

インテリジェントクルーズコントロール

■ 先行車を検出しなくなったとき

設定車速までゆっくりと加速し、定速走行します。

(先行車検出表示が消灯)



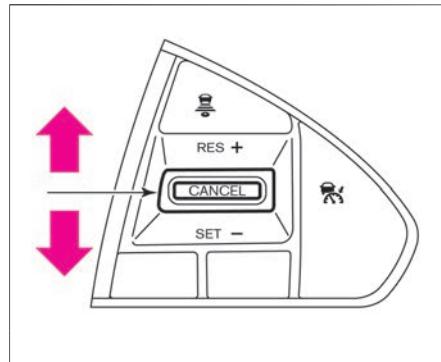
知識

- 設定車速までの加速中に先行車を検出すると、再び車間制御を行います。
- 設定車速までは機能の制御によって加速しますが、素早く加速したいときはアクセルペダルを踏んで加速してください。
- 車速が約24km/hを下回ったときに、先行車を検出しなくなると自動的に制御を解除します。

■ 設定車速の変えかた

■ 設定車速を変えたいとき

- 設定車速を上げたいときは、RES+（上押し）側に押します。
- 設定車速を下げたいときは、SET-（下押し）側に押します。



⚠ 注意

- 車間制御しているときは、先行車に合わせた車速に制御されるため、RES+（上押し）側に押して、設定車速を上げても加速しません。しかしこのとき機能上は設定車速を変更しているため、先行車を検出しなくなるとその設定した車速まで加速します。設定車速はメーター内のディスプレイの設定車速表示を確認しながら変更してください。

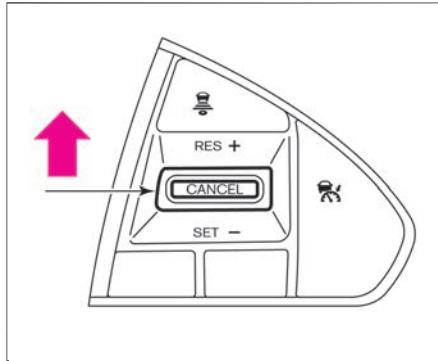
■一時的に加速、減速をしたいとき

加速したいとき

- アクセルペダルを踏むと、加速します。アクセルペダルを離すと、元の制御状態に戻ります。

減速したいとき

- ブレーキペダルを踏むと、減速（制御が解除）します。
(設定車速表示の車速値が消灯し、セット待機状態になります。)
- 解除前の設定車速で再びセットしたいときは、RES+（上押し）側に押します。
(メーター内のディスプレイが再びセット状態の表示になります。)



注意

- アクセルペダルを踏んでいるときは、インテリジェントクルーズコントロールによるブレーキ操作も警報も行いません。インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）がONの場合、アクセルペダルを踏んでいるときはインテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）が作動します。
② インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）
(P.183)
- 通常、車間制御中は先行車の速度に合わせて自動的に加速、減速を行います。しかし車線変更などで加速が必要なときや、先行車が急減速したり、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときはアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏んで周囲の状況に応じた適切な加速、減速を行ってください。

走行する インテリジェントクルーズコントロール

知識

- アクセルペダルを踏んで加速した場合や、SET-（下押し）で設定車速を下げた場合などで設定車速より実際の車速の方が高くなったときは、設定車速表示が点滅します。

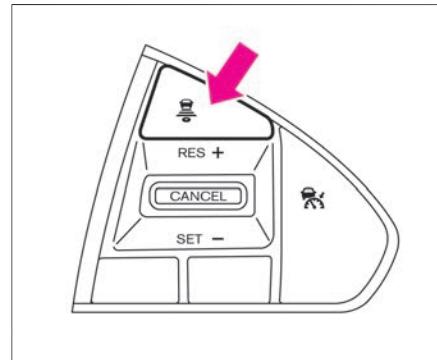


- アクセルペダルを戻したあとに定速走行し、車速が設定車速となった場合や、車間制御で車速が設定車速以下となったときは、設定車速が点灯状態に戻ります。

■ 車間距離設定の変えかた

先行車との車間距離を交通状況に応じて選ぶことができます。制御中又はセット待機状態のときに車間設定を切り替えることができます。

- 車間設定スイッチを押すごとに「長」→「中」→「短」→「長」の順に切り替わります。



車間設定	ディスプレイ
長	
中	
短	

走行する インテリジェントクルーズコントロール

アドバイス

- エンジンを停止すると、車間設定は「長」に戻ります。
(エンジンを始動するたびに初期の車間設定は「長」になります。)

知識

- 各制御は車速に応じて変わり、車速が高いほど長くなります。
- 車速100km/hで走行しているとき、車間設定での制御車間距離の目安は次のとおりです。

長： 約60m

中： 約45m

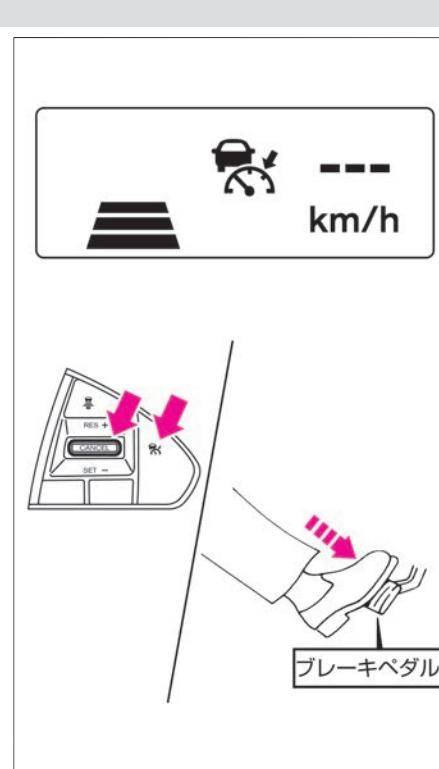
短： 約30m

走行する

インテリジェントクルーズコントロール

■ 解除のしかた

- 次の操作でインテリジェントクルーズコントロールが解除されます。
 - キャンセルスイッチを押す
 - メインスイッチを押す
 - ブレーキペダルを踏む
- 次の場合は“ピー”というブザー音とともに制御が自動的に解除されます。
 - 先行車を検出していないときに、車速が約24km/hを下回ったとき
 - インテリジェントクルーズコントロールにより自車が停止したとき
 - セレクトレバーをDまたはマニュアルモード以外にしたとき
 - パーキングブレーキをかけたとき
 - ドライブモードをSNOWにしたとき
 - ABS又はVDC（トラクションコントロールを含む）が作動したとき
 - VDCをOFFにしたとき
 - センサー部が汚れ、車間距離の測定が困難になったとき
 - タイヤが空転したとき



知識

- キャンセルスイッチで解除したときやブレーキペダルを踏んで解除したときは、セット待機状態になります。

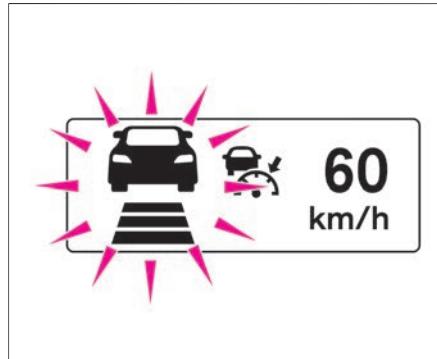
走行する インテリジェントクルーズコントロール

接近警報

車間制御中に先行車の減速度合いが大きい場合や他車の割り込みなどによって、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、次のようにブザーとメーター内のディスプレイの表示によって運転者に注意を促します。

この場合は、ブレーキを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。

- 先行車に接近し、車間距離が十分でないと判断されるときはブザーが“ピッ、ピッ、ピッ、ピッ…”と鳴り、メーター内のディスプレイの先行車検出表示、車間設定表示が点滅します。



注意

- 警報ブザーが頻繁に鳴るような状況では、インテリジェントクルーズコントロールを使用しないでください。
- 短い車間距離でも、次の場合には警報が作動しないことがあります。
 - 先行車との相対速度が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
 - 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れていくとき）
 - 他車が至近距離に割り込んできたとき
- 料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両や、自車速より極端に車速が遅い車両に対しては警報が作動しません。
- 道路形状（カーブ路、カーブの出入り口、車線規制や工事中などで車線の幅が狭くなっている道）や、自車および周辺車両の状況（ハンドル操作、車線内の位置、事故や故障で走行が不安定な場合など）によっては、一時的に隣車線の車両や、車道脇に設置されている物体などを検出



注意

して、接近警報が作動する場合があります。

走行する インテリジェントクルーズコントロール

■ 警告表示

- 次の場合は、“ピー”というブザー音とともにインテリジェントクルーズコントロールが自動的に解除され、インテリジェントクルーズコントロール警告灯およびメーター内のディスプレイの一部が点灯又は点滅しセットできなくなります。
 - ABS又はVDC（トラクションコントロールを含む）が作動したとき
 - VDCをOFFにしたとき
 - ドライブモードをSNOWにしたとき
 - タイヤが空転したとき

システムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、メインスイッチでシステムを一旦OFFにしたあと、再びセット操作を行ってください。
- 次の場合は、“ピー”というブザー音とともにメーター内のディスプレイに「フロントレーダーおよびその周辺が汚れています 拭いてください」と表示され、警告灯が点灯し、自動的に作動が停止します。
 - センサー部が汚れ、先行車の検出が困難になったとき

システムを再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、エンジンを一旦停止してレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから再始動し、再びシステムをONにしてください。
- 次の場合は、“ピー”というブザー音とともに警告灯がオレンジ色に点灯し、自動的に作動が停止します。
 - インテリジェントクルーズコントロールシステムに異常があるとき

システムを再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、エンジンを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。



走行する インテリジェントクルーズコントロール

運転をするときは

アドバイス

- システムをONにできない、または警告が表示し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

走行する インテリジェントクルーズコントロール

レーダーセンサーの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- フロントバンパーに取り付けられたレーダーセンサー周辺はいつもきれいにしておいてください。強い力で乾拭きしないでください。また、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーで清掃するときは、センサーから十分に離して使用してください。レーダーセンサーを損傷するおそれがあります。
- レーダーセンサーおよびレーダーセンサー部周辺に強い衝撃を与えないでください。事故などでレーダーセンサー取り付け部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。
- レーダーセンサーおよびその周辺は、ステッカー（透明なものを含む）を貼ったりアクセサリーなどを取り付けないでください。故障、誤作動の原因になります。
- フロントバンパーを改造、脱着したり、塗装しないでください。フロントバンパーをカスタマイズしたり、復元する前に日産販売会社にご相談ください。



走行する

ナビ協調機能（インテリジェントクルーズコントロール）

ナビ協調機能は、ナビゲーションシステムからの情報をもとに、運転者がセットした車速（約32km/h～100km/h）を上限として、前方のカーブの大きさに応じて自車の車速を制御することで、運転者の加速・減速操作を支援する機能です。

■ ナビ協調機能について

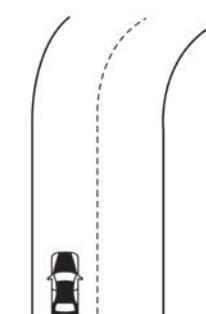
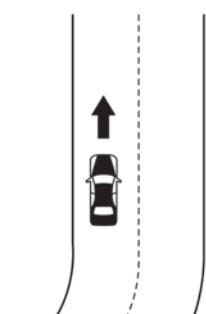
具体的には次の制御を行います。

- 前方のカーブの大きさに応じて、緩やかに減速します。
- カーブ路を出て直線路になると、再びセット車速まで加速します。

■ 作動条件

ナビ協調機能は、次の条件が全て満たされている場合に作動します。

- ナビ協調機能がONのとき
- インテリジェントクルーズコントロールを使用して、定速走行しているとき（先行車を検出していないとき）
- ナビゲーションシステムによる目的地へのルートガイドを行っていて、そのルート上を走行しているとき

走行状況	減速走行 カーブ路に近づいたとき	加速走行 カーブ路を出て直線路へ戻ったとき
例	 <p>前方のカーブに応じて減速</p>	 <p>セット車速まで加速</p>

走行する

ナビ協調機能（インテリジェントクルーズコントロール）

⚠ 注意	⚠ 注意
<ul style="list-style-type: none">● ナビ協調機能は、高速道路や自動車専用道路でご使用ください。● ナビ協調機能は、前方のカーブの大きさに応じて、システムの減速能力の範囲内で減速するものであり、カーブを自動的に走行したり、法定速度を順守した走行を支援するものではありません。 法定速度を守り、安全にカーブを行なうためのブレーキ操作は、必ず運転者が行ってください。● ナビ協調機能には限界があります。また、状況により作動しない場合がありますので、ナビ協調機能を過信しないでください。 脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨・霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。 周囲の状況に十分注意し、安全運転を心がけてください。● ナビ協調機能の減速能力には限界があります。十分に減速できないとシステムが判断した場合は、ブザーおよび表示による警報で注意を促します。● ナビ協調機能の減速により車速が約24km/hを下回った場合、インテリ	<p>ジェントクルーズコントロールは自動的に解除されます。（ナビ協調機能による減速制御も解除されます）</p> <ul style="list-style-type: none">● この機能はナビゲーションシステムからのカーブ情報を利用しているため、次のような状況では制御や警報のタイミングがすれたり、適切に制御や警報を行えない場合があります。周囲の状況に十分注意し、必要に応じてブレーキまたはアクセル操作を行って走行してください。<ul style="list-style-type: none">– ナビゲーションシステムの位置検出が正しく行えないとき– ナビゲーションシステムの地図に無い道路を走行しているとき– 車線規制や工事などで、ナビゲーションシステムの地図情報と実際の道路形状が異なっているとき 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ナビゲーション」の章をお読みください。– 分岐路等前方に複数の道路があるとき

■ ON/OFFのしかた

- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、ナビ協調システムのON/OFFが切り替わります。

MENU ⇒ [運転支援] ⇒ [インテリジェントクルーズコントロール] ⇒ [ナビ協調機能]

詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。



注意

- ナビ協調機能を使用しないときは、設定をOFFにしてください。
- 設定をOFFにした場合、ナビ協調機能による制御も警報も行いません。ナビ協調機能を作動させたいときは、設定をONに戻してください。



知識

- ナビ協調機能のON/OFF設定は、エンジンを停止しても、再度設定を変更するまで、その状態が維持されます。

走行する

ナビ協調機能（インテリジェントクルーズコントロール）

■ ナビ協調機能の作動

制限対象となるカーブを検出しているとき

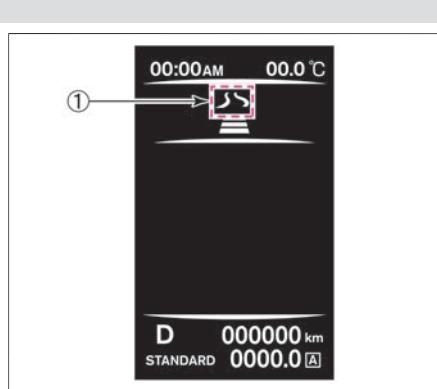
前方のカーブの大きさに応じて緩やかに減速します。

（メーター内のディスプレイにナビ協調機能表示①が白色で表示されます。）

制御対象となるカーブを検出しなくなったとき

カーブ路を出て直線路になると、再びセット車速までゆっくりと加速し、定速走行します。

（メーター内のディスプレイのナビ協調機能表示①が消灯します。）



！ 注意

- ナビ協調機能は、ルートガイド中のルート上を走行している場合のみ作動します。ルートガイドを開始していないときや、ガイド中のルートと異なる道路を走行している場合、ナビ協調機能は作動しません。
- ナビ協調機能作動中に先行車を検出した場合は、先行車に対する車間制御を優先するため、ナビ協調機能は作動しません。（ナビ協調機能表示が消灯します。）
機能によって制御内容が異なりますので、作動中の機能をメーター内のディスプレイの表示で必ず確認してください。
- ナビ協調機能の減速により車速が約24km/hを下回った場合、インテリジェントクルーズコントロールは自動的に解除されます。（ナビ協調機能による減速制御も解除されます。）
- アクセルペダルを踏んでいるときは、ナビ協調制御によるブレーキ制御も警報も行いません。

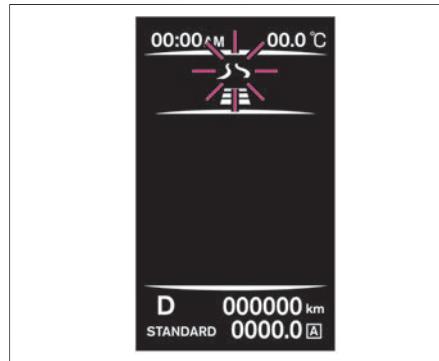
 知識

- ナビ協調機能の制御によりブレーキが作動したときは、自車の制動灯が点灯します。
- 設定車速までの加速中に、減速対象となるカーブを新たに検出すると、再び減速制御を行います。
- 設定車速までは機能の制御によって加速しますが、すばやく加速したいときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

走行する ナビ協調機能（インテリジェントクルーズコントロール）

■ 警告表示

- 次の場合は、ブザーが“ピッ、ピッ、ピッ、ピッ…”と鳴り、メーター内のディスプレイのナビ協調機能表示がオレンジ色で表示されます。
 - ナビ協調機能により十分に減速できないとシステムが判断した場合この場合は、ブレーキを踏んで減速し、適切な車速で走行してください。



走行する

定速制御機能（インテリジェントクルーズコントロール）

定速制御機能を使用すると、セレクトレバーが■またはマニュアルモードのとき、アクセルペダルを踏まなくても、一定の速度で走行することができます。

約40km/h～100km/hの間で任意の速度にセットできます。

定速制御機能の注意事項



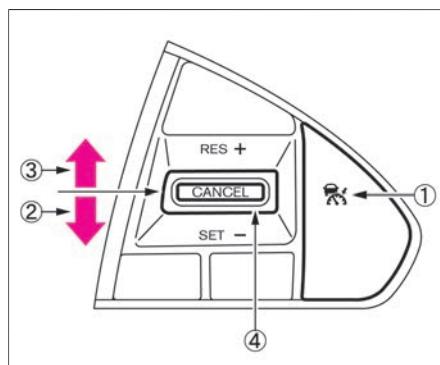
注意

- 定速制御中は車間制御を行わないため、ブレーキ操作も警報も行いません。
先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転に心がけてください。
- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、定速制御機能を使わないでください。
 - **交通量の多い道や急カーブのある道**
交通状況にあった速度で走行できないため事故につながるおそれがあります。
 - **凍結路や積雪路など滑りやすい路面**
タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
 - **急な下り坂**
急な下り坂ではエンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度を超えてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行する 定速制御機能（インテリジェントクルーズコントロール）

■ ステアリングスイッチ（定速制御機能）

- ① メインスイッチ
定速制御機能のON・OFFができます。
- ② SET-（下押し）
定速制御機能のセットができます。
設定車速を下げることができます。
- ③ RES+（上押し）
定速制御機能を解除後、解除前の設
定車速に再びセットすることができます。
設定車速を上げることができます。
- ④ CANCEL
定速制御機能の解除ができます。



■ アドバンスドドライブアシストディスプレイ

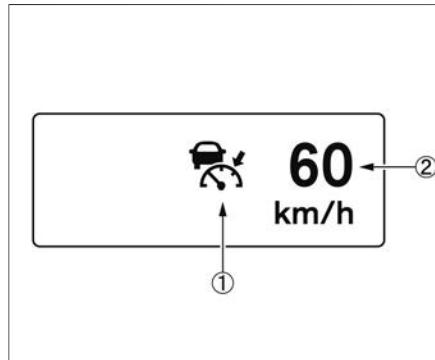
- ① インテリジェントクルーズコントロール警告灯
システムの作動状態を色で表示します。

白色:
メインスイッチを押し、システムがONになると表示します。

緑色:
車速を設定すると表示します。

オレンジ色:
システムが故障すると表示します。

- ② 設定車速表示
設定した車速を表示します。



走行する 定速制御機能（インテリジェントクルーズコントロール）

セットのしかた

1

メインスイッチを1.5秒以上押して定速制御機能をONにします。
(クルーズ表示灯、設定車速表示が点灯し、セット待機状態になります。)



2

設定したい車速まで加速又は減速します。



3

SET-（下押し）側に押します。
・スイッチを押したときの車速が設定車速になります。
(設定車速が表示)



4

制御を開始します。

注意

- 定速制御機能を使用しないときは、メインスイッチをOFFにしてください。
間違ってスイッチを押してしまった場合、定速制御機能がセットされてしまい思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

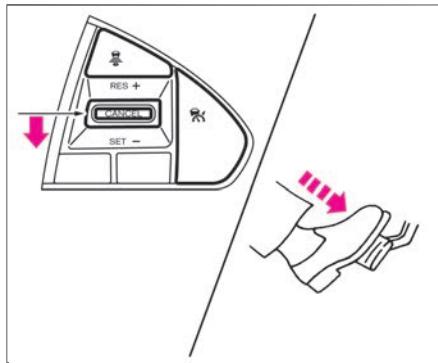
- 定速で走行中、アクセルペダルを踏むと加速しますが、アクセルペダルを戻すとセットした速度で定速走行に戻ります。
- インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）がONの場合は、メインスイッチを1.5秒以上押し続けても、定速制御機能には切り替わりません。定速制御機能を使用するときは、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）を一旦OFFにし、再度①から操作し直してください。
**② インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）
(P.183)**

■ 設定車速の変えかた

定速走行中に次の操作をします。

■ ペダルで変えるとき

- ① アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏み、速度を変えます。
- ② 希望の速度になったら、SET-（下押し）側に押します。



走行する

定速制御機能（インテリジェントクルーズコントロール）

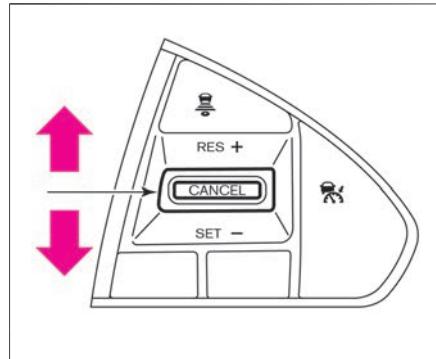
■ ステアリングスイッチで変えるとき

設定車速を上げたいとき

- ① RES+（上押し）側に押し続けると加速します。
- ② 希望の速度になったら、手を離します。

設定車速を下げたいとき

- ① SET-（下押し）側に押し続けると減速します。
- ② 希望の速度になったら、手を離します。



■一時的に加速、減速をしたいとき**加速したいとき**

- アクセルペダルを踏むと、加速します。

減速したいとき

- ブレーキペダルを踏むと、減速（制御が解除）します。

■もう一度、定速走行に戻したいとき

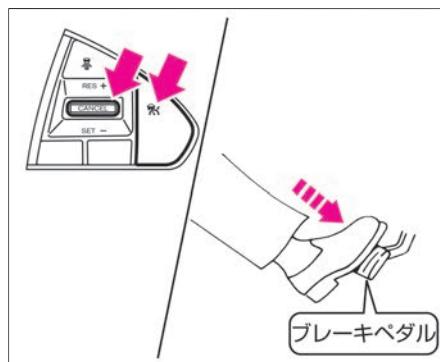
解除前の設定車速で再びセットしたいときは、RES+（上押し）側に押します。
(車速が約40～100km/hのとき戻せます。)

走行する

定速制御機能（インテリジェントクルーズコントロール）

解除のしかた

- 次の操作で定速制御機能が解除されます。
 - キャンセルスイッチを押す
 - メインスイッチを押す
 - ブレーキペダルを踏む
- 次の場合は“ピー”というブザー音とともに制御が自動的に解除されます。
 - 車速が約27km/h以下になったとき
 - 設定車速より約13km/h以上車速が低下したとき
 - セレクトレバーを■またはマニュアルモード以外にしたとき
 - VDC（トラクションコントロールを含む）が作動したとき
 - タイヤが空転したとき



知識

- キャンセルスイッチで解除したときやブレーキペダルを踏んで解除したときは、セット待機状態になります。

走行する

インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）

インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）は、先行車との車間距離や相対速度に応じてブレーキを制御するとともに、アクセルペダルを踏んでいる場合には、アクセルペダルを押し戻す力を発生させることで、運転者の車間距離維持操作を支援するシステムです。

ナビ協調機能

- ナビゲーションシステムからの情報をもとに前方のカーブの大きさに応じてブレーキを制御するとともに、アクセルペダルを踏んでいる場合には、アクセルペダルを押し戻す力を発生させることで、運転者の減速操作の支援を行います。

インテリジェントペダルについて

一定速走行するとき、加速したいとき

- 運転者自身がアクセルペダルを踏んで走行します。

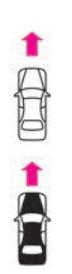
追従走行中の先行車に近づいたとき

- 運転者がアクセルペダルを戻すと、システムが滑らかにブレーキをかけて減速します。
また先行車両が停止したときには、自車もそれに応じて停止します。
- 運転者がアクセルペダルを踏んだままの場合は、システムがペダルを押し戻す方向に力を発生させ、アクセルペダルを戻す操作を支援します。

運転者によるブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき

- ブザーと表示で注意を促すとともに、運転者がアクセルペダルを踏んだままのときは、アクセルペダルを押し戻す力を発生させ、運転者がアクセルペダルからブレーキペダルへ踏み替える操作を支援します。

走行する インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）

先行者が一定速度で走行している場合	先行車が加速した場合
 <p>運転者のアクセル操作により走行します。</p>	 <p>運転者のアクセル操作により加速します。</p>
先行車に近づいた場合	運転者によるブレーキ操作が必要だと判断した場合
 <p>運転者のアクセルを戻すと減速します。 アクセル踏んだままの場合は、ペダルを押し戻す力を発生させ、アクセルを戻す操作を支援します。</p>	 <p>ブザーと表示で注意を促すとともに、アクセルを踏んだままの場合は、ペダルを押し戻す力を発生させ、ブレーキへの踏み替え操作を支援します。</p>

△ 注意

- システムにより停止までブレーキ制御を行いますが、停止状態を保持する機能はありません。自車が停止したとシステムが判断すると、ブザー音とともにブレーキ制御が解除され、クリープ現象によりゆっくりと車両が動き出します。停止状態を保持するためのブレーキ操作は、必ず運転者が行ってください。
- アクセルペダルを踏んでいるときは、システムの制御によるブレーキ操作は行いません。
- インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）には限界がありますので、機能を過信しないでください。脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨・霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。また、追突を防止する機能はありません。
- インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）の減速能力には限界がありますので、自車の前へ他車が割り込んだときや先行車が急ブレーキをかけたとき、先行車との車間距離が十分でないとき、下り坂で追従走行しているときなどは、十分に減速できず先行車に接近

△ 注意

することがあります。

先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転に心がけてください。

- 先行車が停止した場合、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）によるブレーキ制御により停止まで制御を行いますが、状況（先行車との車間距離が短いときや、下り坂を走行しているときなど）により停止できないことがあります。このような場合には、停止させるためのブレーキ操作を、必ず運転者が行ってください。
- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）を使わないでください。
 - **凍結路や積雪路など滑りやすい路面**
 - **悪天候（雨、霧、雪など）のとき**
先行車との車間距離が正確に検出できない場合があります
 - **センサー部に雨滴、雪などが付着しているとき**
先行車との車間距離が正確に検出できない場合があります

△ 注意

- 急な下り坂

先行車を検出していてブレーキ制御をしている場合、ブレーキが過熱してしまうおそれがあります

- 急なカーブ、急な上り坂、下り坂が繰り返される道

先行車を正確に検出できず、先行車に近づきすぎて思わぬ事故につながるおそれがあります

- 思わぬ事故につながるおそれがありますので、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）を使用しない場合はシステムをOFFにしてください。

- 停止中の車両や自車速より極端に遅い車両に対しては、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）による制御も接近警報も行いません。料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両や極端に速度の遅い車両などには十分注意してください。

- 急な割り込み車両、歩行者や自転車などの車両以外のものに対しては、制御又は接近警報を行いません。

- 次の場合には、先行車を正確に検出できず、車間距離が適切に保てなくなる場合があります。周囲の状況に

△ 注意

十分注意し、必要に応じてブレーキ操作をしてください。

- 先行車や他車線の車が路上の水や雪などを巻き上げて走っているとき
- 後席やトランク内に極端に重い荷物を積んだとき
- 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
- 近距離ではセンサーの検出エリアが狭いため、自車線の端を走行する二輪車を検出できなかったり、間近に割り込んでくる先行車の検出が遅れたりして、適切な作動ができない場合があります。
- センサーの汚れを自動で判定する機能を備えていますが、万全ではありません。状況によってはセンサーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。このような状況では、適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に前方に注意して走行してください。また、レーダーセンサー部の周辺バンパーはいつもきれいにしておいてください。なお、汚れを判定した場合は、インテリジェント

走行する

インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）

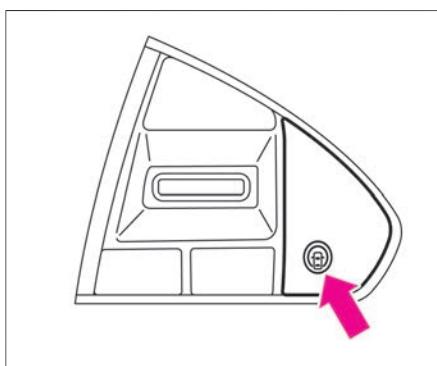
⚠ 注意

ペダル（ディスタンスコントロールアシスト）は自動的に作動を中止します。

- 道路形状（急な上り坂や下り坂、カーブ路、カーブの出入口、車線規制や工事中などで車線の幅が狭くなっている道）や自車の状況（ハンドル操作、車線内の位置、事故や故障で走行が不安定な場合など）によっては、一時的に先行車を検出できなくなったり、隣の車線の車両や周辺のものを検出して制御したり、警報が作動する場合があります。また、一時的に先行車を検出できず、適切な作動ができなくなる場合があります。

■ ステアリングスイッチ

- システムのON／OFFができます。



走行する インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）

■ アドバンスドドライブアシストディスプレイ

アドバンスドドライブアシストディスプレイはメーター内にあります。

- ① インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）表示灯
システムの作動状態を色で表示します。

緑色点灯:
メインスイッチを押し、システムがONになると表示します。

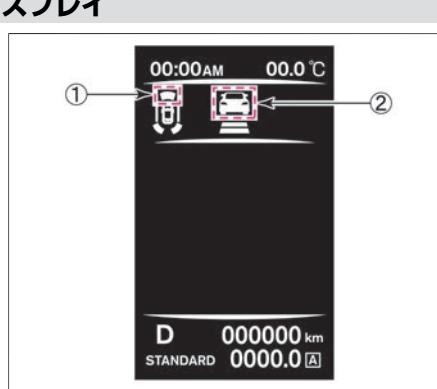
黄色点滅:
システムが作動すると点滅します。

黄色点灯:
システムが故障すると点灯します。

- ② 先行車検出表示
先行車検出の有無をお知らせします。

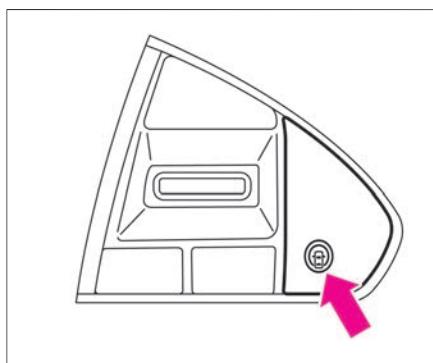
点灯:
先行車を検出すると点灯します。

黄色点滅:
システムが作動すると点滅します。



■ インテリジェントペダルの使いかた

- ① スイッチを押してシステムをONにします。
(表示が緑色に点灯します。)
- ② 車速が約5km/h以上になると、制御を開始します。



走行する

インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）

■ ON/OFFのしかた

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、システムのON/OFFが切り替わります。

MENU ⇒ **運転支援** ⇒ **前方支援** ⇒ **DCA (インテリジェントペダル)**

詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。



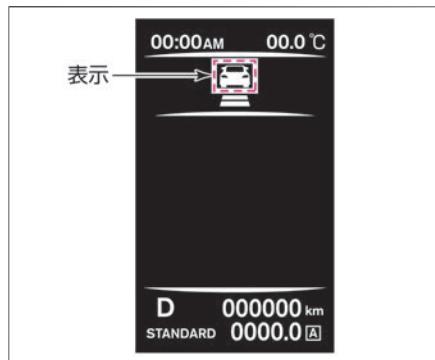
知識

- ステアリングにあるスイッチを押すと、LDP（車線逸脱防止支援システム）、BSI（後側方衝突防止支援システム）、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）のON/OFFを同時に切り替えることができます。
- ナビゲーションシステムのON/OFF設定は、エンジンを停止しても再度設定を変更するまで、その状態が維持されます。
- エンジンを停止するとインテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）は自動的にOFFになります。

■ システムの作動

■ 先行車を検出したとき

- 先行車検出表示が点灯します。



■ 先行車に近づいたとき

- アクセルペダルを戻すと、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）がブレーキをかけ減速します。先行車が停止した場合は、停止まで制御を行います。
- 運転者がアクセルペダルを踏んだままの場合は、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）がペダルを押し戻し、アクセルペダルを戻す操作を支援します。

⚠ 注意

- 先行車検出表示が点灯していないときは、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）による制御も警報も行いません。
- アクセルペダルの踏み方や踏み込み量により、アクセルペダルを押し戻す力が十分に発生できない場合があります。
- インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）の制御

走行する

インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）

 注意

により自車が停止したときは、“ピー”というブザー音とともにシステムは自動的に作動を中止します。（車速が再び約5km/hを上回ると、自動的に作動が復帰します。）

- 停止状態を保持する機能はありません。自車が停止したときは、ブレーキを踏んで車両を停止させてください。また、状況によって停止できない場合があります。必要に応じてブレーキを踏み、車両を停止させてください。

 知識

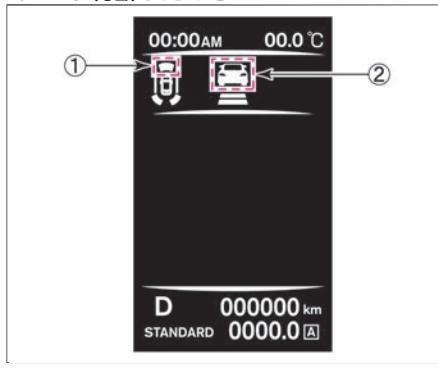
- インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）の制御によりブレーキが作動したときは、自車の制動灯が点灯します。
- ブレーキが作動したとき、音がすることがありますが異常ではありません。

■ 運転者によるブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき

- メーター内のディスプレイの①および②を黄色に点滅させるとともにブザーを鳴らして警告を行います。

同時に、ブレーキペダルへの踏み替えを促すため、アクセルペダルが自動的に上向きに押し上げられます。

⇒ ドライブコンピューター (P.245)



■ 運転者操作時の作動

次の場合は運転者の操作を優先します。

- アクセルペダルを踏み増したとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき

⚠ 注意

- アクセルペダルを押し戻す力が発生（ペダル制御）しているときに、運転者がアクセルペダルを踏み増すと、ペダル制御を中止します。
- アクセルペダルを踏んでいるときは、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）の制御によるブレーキ操作は行いません。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）の

走行する

インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）

⚠ 注意

制御によるブレーキ操作も警報も行いません。

（先行車検出表示が消灯します。）

- インテリジェントクルーズコントロールをセットしたときは、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）の作動が停止します。

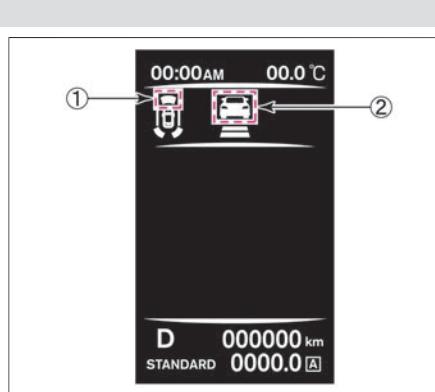
走行する

インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）

■ 接近警報

先行車の減速度合いが大きい場合や他車の割り込みなどによって、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、次のようにブザーとメーター内のディスプレイの表示によって運転者に注意を促します。

- ブザーが“ピッ、ピッ、ピッ…”と鳴ります。
 - メーター内のディスプレイの①および②が黄色に点滅します。
- この場合は、ブレーキを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。



注意

- 警報ブザーが頻繁に鳴るような状況では、システムを使用しないでください。
- 短い車間距離でも、次の場合には警報が作動しないことがあります。
 - 先行車との相対速度が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
 - 先行車のほうが自車より早いとき（車間距離が次第に離れているとき）
 - 他車が至近距離に割り込んできたとき
- 料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両や、自車速より極端に車速が遅い車両に対しては警報が作動しません。
- 道路形状（カーブ路、カーブの出入り口、車線規制や工事中などで車線の幅が狭くなっている道）や、自車および周辺車両の状況（ハンドル操作、車線内の位置、事故や故障で走行が不安定な場合など）によっては、一時的に隣車線の車両や、車道脇に設置されている物体などを検出して、接近警報が作動する場合があ

走行する

インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）



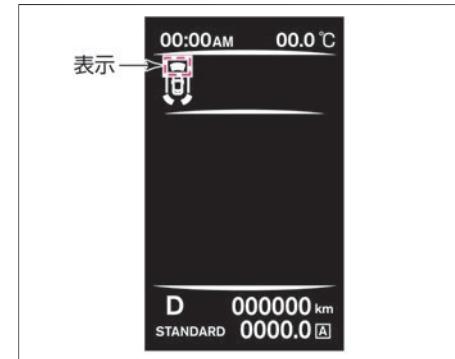
ります。

走行する

インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）

■ 警告表示

- 次の場合は、“ピー”というブザー音とともにメーター内のディスプレイに「作動範囲外のため現在使用できません」と警告が表示され、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）が自動的に解除されます。
 - ABS又はVDC（トラクションコントロールを含む）が作動したとき
 - VDCをOFFにしたとき
 - ドライブモードをSNOWにしたとき
 - タイヤが空転したとき
 システムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、スイッチで再びONにしてください。
- 次の場合は、“ピー”というブザー音とともにメーター内のディスプレイに「フロントレーダーおよびその周辺が汚れています 拭いてください」と警告が表示され、表示が点灯し、自動的に作動が停止します。
 - センサー部が汚れ、車間距離の測定が困難になったとき
 システムを再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、エンジンを一旦停止してレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから再始動し、再びシステムをONにしてください。
- 次の場合は、“ピー”というブザー音とともにメーター内のディスプレイに「システム故障 取扱説明書を見てください」と警告が表示され、自動的に作動が停止します。
 - インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）に異常があるとき
 システムを再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、エンジンを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。



走行する

インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）

アドバイス

- システムをONにできない、または警告が表示し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

レーダーセンサーの取り扱い

- ⌚ レーダーセンサーの取り扱い (P.168)をお読みください。

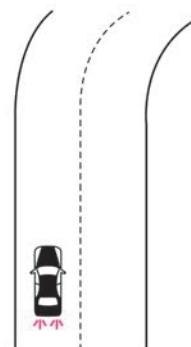
ナビ協調機能（インテリジェントペダル）

ナビゲーションシステムからの情報をもとに前方のカーブの大きさに応じてブレーキを制御するとともに、アクセルペダルを踏んでいる場合には、アクセルペダルを押し戻す力を発生させることで、運転者の減速操作の支援を行う機能です。

作動条件

ナビ協調機能は、次の条件が全て満たされている場合に作動します。

- インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）を使用しているとき。
(先行車を検出していないとき)
- ナビ協調機能がONのとき。  ON/OFFのしかた (P.201)

走行状況	カーブ路に近づいたとき
例	 <p>カーブに近づいた場合は、運転者がアクセルを戻すと、カーブの大きさに応じて滑らかにブレーキをかけ減速します。 運転者がアクセルを踏んだままの場合には、アクセルペダルを押し戻す力を発生させ、運転者がアクセルペダルを戻す操作を支援します。</p>

注意

- ナビ協調機能は、前方のカーブの大きさに応じて、システムの減速能力の範囲内で減速するものであり、カーブを自動的に走行したり、法定速度を遵守した走行を支援するものではありません。
法定速度を守り、安全にカーブを行なうためのブレーキ操作は、必ず運転者が行ってください。
- アクセルペダルを踏んでいるときは、システムの制御によるブレーキ操作は行いません。
- ナビ協調機能には限界があります。また、状況により作動しない場合がありますので、ナビ協調機能を過信しないでください。
脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨・霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。
周囲の状況に十分注意し、安全運転に心がけてください。
- ナビ協調機能の減速能力には限界があります。十分に減速できないとシステムが判断した場合は、ブザーおよび表示による警報で注意を促します。

走行する ナビ協調機能（インテリジェントペダル）

⚠ 注意	⚠ 注意
<p>す。</p> <ul style="list-style-type: none">この機能はナビゲーションシステムからのカーブ情報を利用しているため、次のような状況では制御や警報のタイミングがずれたり、適切に制御や警報を行えない場合があります。周囲の状況に十分注意し、必要に応じてブレーキまたはアクセル操作を行って走行してください。<ul style="list-style-type: none">ナビゲーションシステムの位置検出が正しく行えないときナビゲーションシステムの地図に無い道路を走行しているとき車線規制や工事などで、ナビゲーションシステムの地図情報と実際の道路形状が異なっているとき 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ナビゲーション」の章をお読みください。分岐路等前方に複数の道路があるときカーブ走行路での運転支援を目的としているので、それ以外の道路（カーブと認識されないT字路や交差点）では作動しません。道路形状（急な上り坂や下り坂のカーブ路など）によっては、制御や警報のタイミングがずれたり、適切	<p>に制御や警報を行えない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none">次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、システムを使わないでください。<ul style="list-style-type: none">凍結路や積雪路など滑りやすい路面急な下り坂でカーブが連続する道 カーブを検出してブレーキ制御をしている場合、ブレーキが加熱してしまうおそれがあります。道路から自車マークが外れた状態から、道路上に戻ってきたあとしばらくの間は制御が作動しない場合があります。<ul style="list-style-type: none">駐車場を出たあとSA（サービスエリア）、PA（パー キングエリア）を出たあと地図にない道路を走行したあと

■ ON/OFFのしかた

- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、システムのON/OFFが切り替わります。

MENU ⇒ [情報] ⇒ [運転支援] ⇒ [前方支援] ⇒ [ナビ協調機能]

詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。



注意

- ナビ協調機能を使用しないときは、設定をOFFにしてください。
- 設定をOFFにした場合、ナビ協調機能による制御も警報も行いません。ナビ協調機能を作動させたいときは、設定をONに戻してください。



知識

- ナビ協調機能のON/OFF設定は、エンジンを停止しても、再度設定を変更するまで、その状態が維持されます。

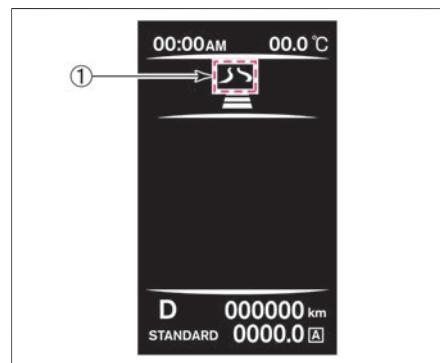
走行する
ナビ協調機能（インテリジェントペダル）

運転をするときは

■ アドバンスドドライブアシストディスプレイ

①ナビ協調機能表示

制御対象となるカーブを検出している場合、表示します。



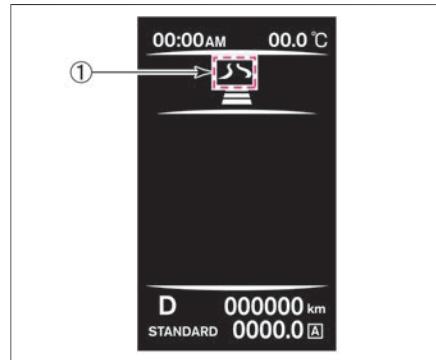
■ ナビ協調機能の作動

制御対象となるカーブを検出したとき

ナビ協調機能表示①が点灯します。

制御対象となるカーブに近づいたとき

- アクセルペダルを戻すと、システムがブレーキをかけて減速します。
- 運転者がアクセルペダルを踏んだままの場合は、システムがペダルを押し戻し、アクセルペダルを戻す操作を支援します。



知識

- 自車の推定進路は以下のように判定します。

ルートガイドを行っている場合

- ナビゲーションシステムのルートを進路と推定します。

ルートガイドを行っていない場合

- ナビゲーションシステムの自車マーク 前方道路を進路と推定します。また、分岐路の場合は以下のように進路方向の推定を行います。

道路種別による進路方向の推定

- 例：国道と県道での分岐路の場合は、国道を進路方向として推定します。

- 道路種別が同様の場合は、みちなりの道路を進路方向として推定します。

走行する ナビ協調機能（インテリジェントペダル）

■ 運転車操作時の作動

次の場合は運転者の操作を優先します。

- アクセルペダルを踏み増ししたとき。
- ブレーキペダルを踏んでいるとき。

⚠ 注意

- アクセルペダルを押し戻す力が発生（ペダル制御）しているときに、運転者がアクセルペダルを踏み増すと、ペダル制御を中止します。
- アクセルペダルを踏んでいるときは、システムの制御によるブレーキ操作は行いません。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、システムの制御によるブレーキ操作も警報も行いません。（ナビ協調機能表示が消灯します。）
- インテリジェントクルーズコントロールをセットしたときは、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）の作動が中止されるため、ナビ協調機能の作動も中止します。
- ナビ協調機能表示が点灯していないときは、システムによる制御も警報も行いません。
- ナビ協調機能作動中に先行車を検出した場合は、先行車に対する車間制御を優先するため、ナビ協調機能は作動しません。（ナビ協調機能表示が消灯します。）機能によって制御

 注意

内容が異なりますので、作動中の機能をメーター内のディスプレイの表示で必ず確認してください。

 知識

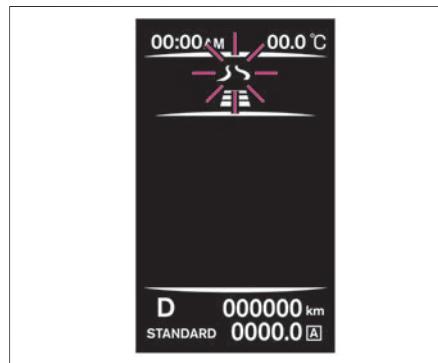
ナビ協調機能の制御によりブレーキが作動したときは、自車の制動灯が点灯します。

走行する ナビ協調機能（インテリジェントペダル）

■ 警告表示

- 次の場合は、ブザーが“ピッ、ピッ、ピッ、ピッ…”と鳴り、メーター内ディスプレイのナビ協調機能表示がオレンジ色で点滅表示されます。
 - ナビ協調機能により十分に減速できないとシステムが判断した場合

この場合は、ブレーキを踏んで減速し、適切な車速で走行してください。



走行する

エマージェンシーブレーキ

エマージェンシーブレーキは、前方の車両と衝突のおそれがあるとき、警報と自動ブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。

■ エマージェンシーブレーキについて

- エマージェンシーブレーキは車速約5km/h以上で作動します。
- フロントバンパー下部に取り付けられたレーダーセンサーにより前方の車両との距離を計測します。



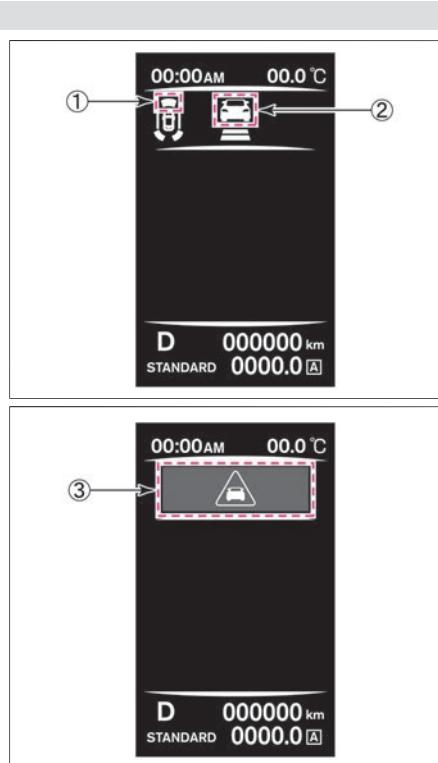
⚠ 警告

- エマージェンシーブレーキは、前方の車両との衝突回避操作を支援、または衝突時の被害の軽減を目的としています。あらゆる状況で効果があるわけではありませんので、機能を過信せず、運転者は周囲の安全確認を行い、前方車両との車間距離を維持し、常に安全運転を心がけて走行してください。

走行する エマージェンシーブレーキ

システムの作動

- システムが衝突するおそれがあると判断すると、メーター内のディスプレイの①および②がオレンジ色に点滅し、警報音とともに、自動的にブレーキをかけて衝突回避操作を促します。
アクセルペダルを踏んでいる場合には、アクセルペダルを押し戻す力を発生させ、ブレーキペダルへの踏み替え操作を支援します。
- 警報の後、運転者が素早く、強くブレーキを踏み込んだにもかかわらず衝突するおそれがあるときには、自動的に制動力を高めて衝突回避操作を支援します。
- 運転者の衝突回避操作が不十分で、衝突の危険性が高まったときには、メーター内のディスプレイに③を表示させるとともに警報音が鳴り、衝突の直前に自動的に急ブレーキを作動させ、衝突の回避または被害の軽減を行います。



知識

- 次の場合、システムによるブレーキの作動が解除されます。
 - アクセルペダルを強く踏み込んだとき
 - ハンドルを大きく、または素早くきったとき
 - 前方の車両と衝突の危険がなくなったと判断したとき
- システムによるブレーキで車両が停止したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが自動的に解除されます。
- 運転者がハンドルやアクセル、ブレーキを操作している場合は、エマージェンシーブレーキの作動が遅れる、または作動しない場合があります。
- システムによるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。
- メーター内のディスプレイを「走行支援」に切り替えると、システムの作動状態をドライブコンピューター内で確認することができます。➡[ドライブコンピューター \(P.245\)](#)

走行する

エマージェンシーブレーキ

⚠ 注意

- 次のような障害物は検知しません。
 - 歩行者、自転車、動物
 - 対向車両
 - 前方を横切って通過する車両
- 次のような場合は、前方の車両を検知できないことがあります。
 - 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
 - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
 - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
 - 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
 - オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行しているとき
 - 急なカーブを走行しているとき
 - 勾配の変化があるところを走行しているとき
- 道路状況、交通状況などによっては、システムが不必要的警報を行い、アクセルペダルを押し戻したり、自動的にブレーキを作動してしまいます。警報が行われた場合には、周囲の状況を確認し、加速が必要な場合はアクセルペダル

⚠ 注意

- を踏んでください。
- 次のような場合は、システムが機能を十分に発揮できないことがあります。
 - 滑りやすい路面を走行しているとき
 - 勾配のある路面を走行しているとき
 - 後席やトランク内に極端に重い荷物を積んでいるとき
 - 状況によっては外部の騒音などにより、警報音が聞こえない場合があります。

走行する エマージェンシーブレーキ

■ ON/OFFのしかた

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、システムのON/OFFが切り替わります。

MENU ⇒ **運転支援** ⇒ **緊急支援** ⇒ **エマージェンシーブレーキ**

詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

エマージェンシーブレーキのシステムがOFFになると、エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯します。

知識

- ナビゲーションシステムの設定で機能をOFFにしても、一度電源ボタンをOFFにし、再度エンジンを始動すると自動的にONに切り替わります。
- エマージェンシーブレーキのON/OFFを切り替えると、PFCW（前方衝突予測警報）も連動してON/OFFされます。

→ PFCW（前方衝突予測警報）
(P.214)

走行する エマージェンシーブレーキ

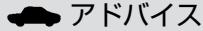
運転をするときは

■ 警告表示

- 次の場合は、エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯し、自動的に作動が停止します。
 - エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしたとき
 - VDCをOFFにしたとき
 - 周辺の電波源の影響を受けているとき
- この場合は、停止したときの状態が改善または変更されるとシステムは自動的に作動を再開します。
- 次の場合は、メーター内のディスプレイに「アクセルペダルが高温のため使用できません」と表示され、警告灯が点灯し、自動的に作動が停止します
 - アクセルペダルを戻す力を発生させているモーターが高温になったとき
モーターの温度が下がると、システムは自動的に作動を再開します。
- 次の場合は、メーター内のディスプレイに「フロントレーダーおよびその周辺が汚れています 拭いてください」と表示され、警告灯が点灯し、自動的に作動が停止します
 - フロントバンパーに取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき
システムを再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、エンジンを一旦停止してレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから再始動し、再びエマージェンシーブレーキのシステムをONにしてください。
- 次の場合は、メーター内のディスプレイに「システム故障 取扱説明書を見てください」と表示され、警告灯が点灯し、自動的に作動が停止します
 - エマージェンシーブレーキシステムに異常があるとき
システムを再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、エンジンを一旦停止して再始動し、再びエマージェンシーブレーキのシステムをONにしてください。



走行する エマージェンシーブレーキ



アドバイス

- エマージェンシーブレーキをONにできない、または警告が表示し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

走行する エマージェンシーブレーキ

運転をするときは

■ レーダーセンサーの取り扱い

☞ レーダーセンサーの取り扱い (P.168)をお読みください。

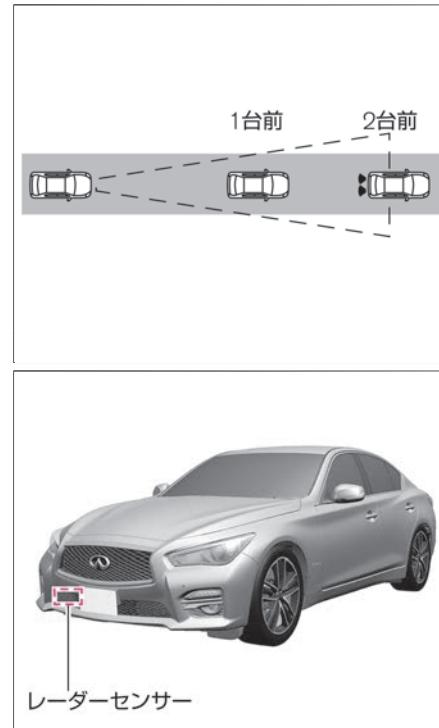
走行する

PFCW（前方衝突予測警報）

前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、
自車の回避操作が必要と判断した場合には、警報によって運転者に注意を促します。

PFCW（前方衝突予測警報）について

- PFCW（前方衝突予測警報）は車速約5km/h以上で作動します。
- フロントバンパー下部に取り付けられたレーダーセンサーにより前方の2台前の車両との距離を計測します。

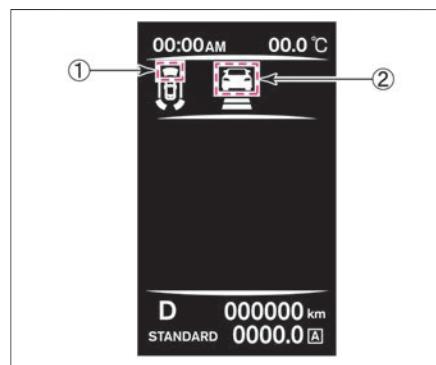


⚠️ 警告

- PFCW（前方衝突予測警報）は前方を走行する2台前の車両の急な減速などを検知したとき運転者に警報を行いますが、衝突を回避する機能はありません。
- PFCW（前方衝突予測警報）は脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。前方の車両との車間距離、周囲の状態に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

■ システムの作動

- 自車の回避操作が必要と判断すると、メーター内のディスプレイの①および②がオレンジ色に点滅するとともに警報音を鳴らして、運転者に注意を促します。



注意

- 次のような障害物は検知しません。
 - 歩行者、自転車、動物、道路上に落ちている障害物
 - 対向車両
 - 前方を横切って通過する車両
- 次のような場合は、前方の2台前の車両を検知できないことがあります。
 - 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
 - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
 - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
 - 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
 - トンネル内を走行しているとき
 - 前方の車両が牽引を行っているとき

走行する PFCW（前方衝突予測警報）

運転をするときは

⚠ 注意

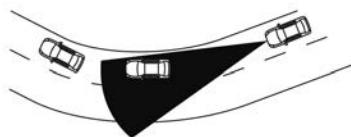


- 前方の車両との距離が極端に近いとき

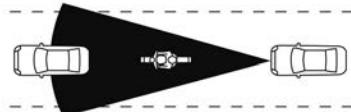


- 急なカーブや、勾配の変化があるところを走行しているとき

⚠ 注意



- 前方の車両がオートバイのような幅の狭い車両のときは、前方の車両を検知できず、PFCW（前方衝突予測警報）により警報を行わないことがあります。



⚠ 注意

- 状況によっては外部の騒音などにより、警報音が聞こえない場合があります。

📖 知識

- エマージェンシーブレーキのON/OFFを切り替えると、PFCW（前方衝突予測警報）も運動してON/OFFされます。

⇒ エマージェンシーブレーキ
(P.207)

■ 警告表示

- 次の場合、エマージェンシーブレーキ/PFCW（前方衝突予測警報）警告灯が点灯し、自動的に作動が停止します。
 - エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしたとき
 - エマージェンシーブレーキが異常により作動を停止したとき
 - VDCをOFFにしたとき
 - 周辺の電波源の影響を受けているとき
 停止したときの状態が改善されるとシステムは自動的に作動を再開します。
- 次の場合、エマージェンシーブレーキ/PFCW（前方衝突予測警報）警告灯が点灯するとともにメーター内のディスプレイに「フロントレーダーおよびその周辺が汚れています」と警告が表示され、システムが自動的に停止します。
 - フロントバンパーに取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき
 上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、エンジンを再始動してください。
- 次の場合、エマージェンシーブレーキ/PFCW（前方衝突予測警報）警告灯が点灯するとともにメーター内のディスプレイに「システム故障 取扱説明書を見てください」と警告が表示され、システムが自動的に停止します。
 - PFCW（前方衝突予測警報）に異常があるとき
 上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。



 アドバイス

- システムをONにできない、または警告が表示し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

■ レーダーセンサーの取り扱い

☞ レーダーセンサーの取り扱い (P.168)をお読みください。

走行する エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、急ブレーキを踏んだとき、後続車に追突される可能性を低減させるため、制動灯を点滅させて後方へ急ブレーキを知らせます。

エマージェンシーストップシグナルについて

- 60km/h以上の速度で走行中、急ブレーキを踏むと作動します。
- 次の場合は作動が停止します。
 - ブレーキペダルから足を離したとき
 - ブレーキペダルを踏んでいても急ブレーキではなくなったとき
 - 非常点滅表示灯をONにしたとき

ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABSとは急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時に、タイヤのロックを防止して、車両の安定性を向上させると共にハンドル操作による障害物回避をしやすくするシステムです。

ABSについて

急ブレーキを踏まなければいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけることが大切です。万一の危険な状況では次のようにしてください。

- 危険だと感じたら、ためらわず思い切りブレーキペダルを踏み込んでください。
- ABSが作動すると、ブレーキペダルに振動が伝わったり、作動音が聞こえたりします。これはABSの正常な作動によるものです。そのままブレーキペダルを踏み続けてください。
- 障害物回避の際には、ブレーキペダルを踏みながらハンドル操作をしてください。
- 電源ポジションをONにしたときや、始動後最初の発進時に、エンジンルームから音が聞こえることがあります、これはシステムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

なお、車両を確実に停止させるため、ABSは低速では作動しません。路面の状況により異なりますが約10km/h以下では作動しません。



警告

- ABSはあくまでも運転者のブレーキ操作を補助するシステムです。ABSの付いていない車と同様に、カーブの手前では十分な減速が必要です。早め早めの操作で安全運転をしてください。
- ABSはブレーキ時の車両の安定性、操舵性を確保しようとするための装置で、制動距離が短くなるとは限りません。でこぼこ道、じゃり道、積雪路などでは、ABSの付いていない車より制動距離が長くなることがあります。このような道を走行するときは、特に速度を控えめにし、車間距離を十分とって運転してください。
- ABSは各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。タイヤ交換時は、必ず指定サイズのタイヤを4輪に装着してください。指定サイズ以外ではABSが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

MEMO

運転をやめじきせん

メーター

メーターの見かた

各部名称と機能

P.224

警告灯・表示灯

警告灯の表示位置

P.229

警告灯

P.230

表示灯の表示位置

P.237

表示灯

P.238

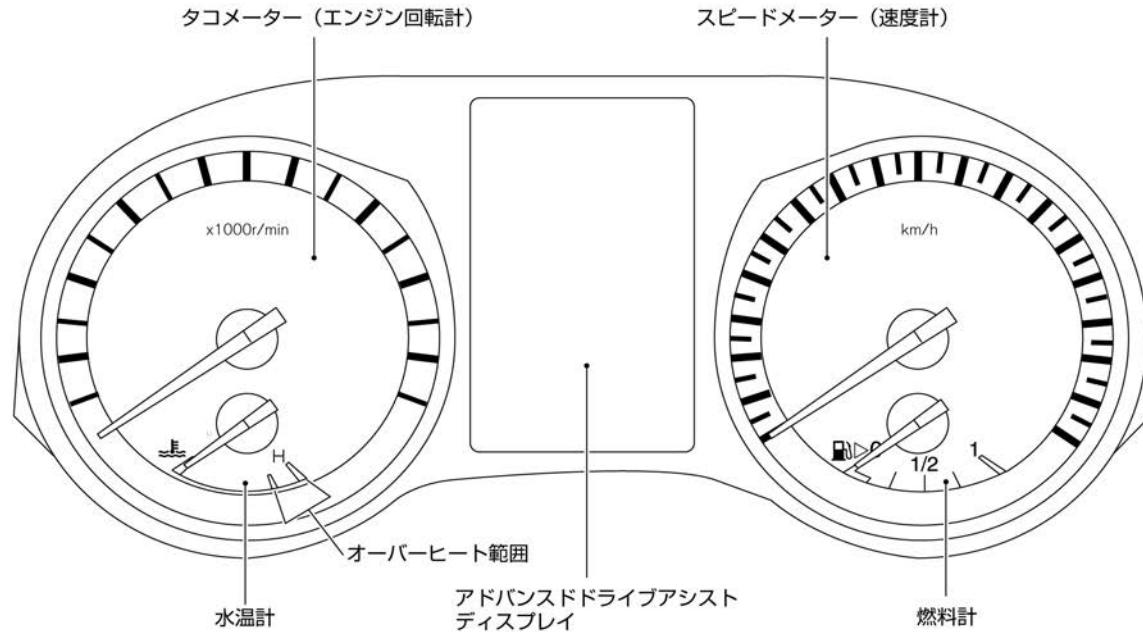
アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた

各部機能と名称

P.240

メーター

メーターの見かた 各部名称と機能



■ スピードメーター（速度計）

走行速度を表示します。

知識

- メーター演出がONのときは、エンジンを始動すると指針がスイープ動作（スピードメーターおよびタコメーターの指針が一度最大値付近を指し戻る）します。
- 電源ポジションをOFFにしてからしばらくして指針が振れることがありますが故障ではありません。

■ タコメーター（エンジン回転計）

1分間あたりのエンジン回転数を表示します。

注意

- レッドゾーン（赤色表示部）に入らないように運転してください。レッドゾーンではエンジンが過回転となり故障の原因になります。

■ 水温計

電源ポジションがONのとき、エンジン冷却水の温度を表示します。

⚠ 注意

- オーバーヒートを示したときは、ただちに安全な場所に車を止めて処置してください。そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。
詳しくは、オーバーヒートしたとき(→P.356)をお読みください。

■ 燃料計

燃料の残量を表示します。

- 燃料タンクの容量は約80 ℥です。

□ 知識

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、表示が振れることがあります。

■ アドバンスドドライブアシストディスプレイ

電源ポジションがONのとき、次の項目を表示します。

- オドメーター（積算距離計）／トリップメーター（区間距離計）(P.241)
- ポジションインジケーター (P.242)
- ドライブモードセレクター表示 (P.242)
- 時計 (P.243)
- 外気温計 (P.243)
- ITS統合インジケーター (P.244)
- インテリジェントクルーズコントロール表示 (P.245)
- ドライブコンピューター (P.245)
- ドライブインジケーター (P.251)

イルミネーションコントロール

自動調節

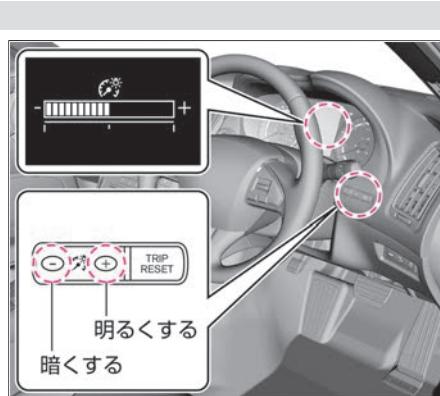
電源ポジションがONでライトが点灯しているとき、車外の明るさに応じて照明の明るさを自動的に調節します。

ライト	車外の明るさ	照明の明るさ
消灯	-	明
点灯	明るいとき 暗いとき	明 暗

手動調節

電源ポジションがONのとき調節できます。

- スイッチを押して調節します。
- 明るさのレベル表示は、メーター内のディスプレイに表示されます。



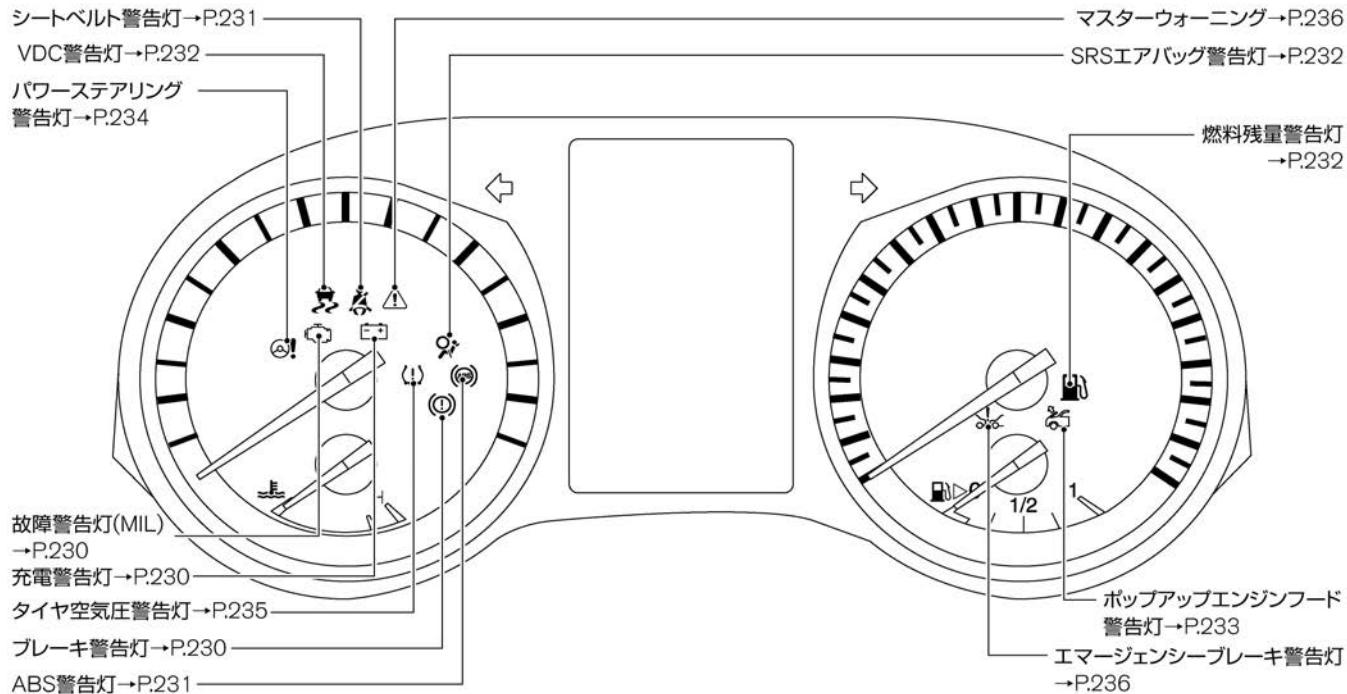
アドバイス

- センサーの上に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。



知識

- バッテリーを外すと調節した記憶は消去されます。
- 照明の明るさを、明るいときと暗いときそれぞれに調節できます。調節した内容は自動的に記憶されます。



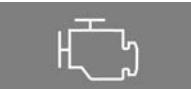
警告灯・表示灯

警告灯

警告灯が点灯または点滅したときは、すみやかに適切な処置をしてください。

放置すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

メーター内の装備は、車種、グレードなどの違いにより異なります。

名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
故障警告灯 (MIL) 	<ul style="list-style-type: none">正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。電源ポジションがONのとき、エンジン電子制御システムに異常があると点灯または点滅します。	<ul style="list-style-type: none">点灯または点滅したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。
充電警告灯 	<ul style="list-style-type: none">正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。電源ポジションがONのとき、バッテリーの充電系統に異常があると点灯します。	<ul style="list-style-type: none">点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。 <p>△ 注意</p> <ul style="list-style-type: none">充電警告灯が点灯したまま走行しないでください。エンジンが不意に停止するなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
ブレーキ警告灯 	<ul style="list-style-type: none">正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。（パーキングブレーキをかけているときは消灯しません）電源ポジションがONのとき、次の場合に点灯します。<ul style="list-style-type: none">パーキングブレーキをかけたときブレーキ液が不足しているときブレーキシステムに異常があるとき	<ul style="list-style-type: none">パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除します。パーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ただちに安全な場所に停車して、日産販売会社に連絡してください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。ブレーキ液が正常でABS警告灯と同時に点灯したときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 <p>△ 警告</p> <ul style="list-style-type: none">エンジン始動後でパーキングブレーキを解除しても、ブレーキ警告灯が点灯し続けるときは、走行しないでください。ブレーキの効きが極度に悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告灯・表示灯

警告灯

メータ

名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
ABS警告灯 	<ul style="list-style-type: none"> 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ABSのシステムに異常があると点灯します。 	<ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 <p> アドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ABS警告灯が点灯したときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。この場合、滑りやすい路面でのブレーキ時や急ブレーキ時にタイヤがロックすることがあります。
シートベルト 警告灯 	<ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションがONのとき、前席シートベルトを着用していないと点灯します。 点灯したまま走行すると、シートベルト非着用警報（シートベルトリマインダー）が鳴ります。 シートベルト警告灯は各座席ごとに点灯し、後席のシートベルト警告灯は、前席灰皿の上部にあります。 	<ul style="list-style-type: none"> シートベルトを着用してください。 後席のシートベルト警告灯は、電源ポジションをONにしたあとに初めて車速が約15km/h以上になったとき、後席シートベルトを着用していない座席の警告灯が約35秒間点灯します。 <p> 警告</p> <ul style="list-style-type: none"> 走行中は全員がシートベルトを着用してください。着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。 <u>シートベルト非着用警報（シートベルトリマインダー）</u> 運転者がシートベルトを着用していない状態で走行すると（約15km/h以上）、約95秒間ブザーが鳴ります。

警告灯・表示灯

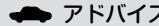
警告灯

メ
タ
ー

名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
燃料残量 警告灯 	<ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションがONのとき、燃料の残量が少ないと点灯します。 	<ul style="list-style-type: none"> すみやかに指定の燃料を補給してください。 <p>知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃料の残量が約11 l 以下で点灯します。なお、走行に使用できる燃料容量は、上記残量より若干少なくなります。 車両姿勢、走行状況などによっては燃料がタンク内で移動するため、警告灯の点灯するタイミングが変わることがあります。
SRSエアバッグ 警告灯 	<ul style="list-style-type: none"> 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、約7秒後に消灯します。 電源ポジションがONのとき、SRSエアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると、点灯または点滅を続けます。 	<ul style="list-style-type: none"> すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 <p>警告</p> <ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションをONにしても点灯しないときや、点灯または点滅を続けるときは、放置したまま走行しないでください。万一のときはSRSエアバッグ、プリテンショナーシートベルトが作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。
VDC警告灯 	<ul style="list-style-type: none"> 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 VDC作動中に点滅します。 電源ポジションがONのとき、次のシステムに異常があると点灯します。 <ul style="list-style-type: none"> – VDC – 左右制動力分配機能 – ブレーキアシスト機能 	<ul style="list-style-type: none"> 点灯中は、左記のシステムとコーナリングスタビリティーアシスト機能およびアクティブブレーンコントロール★の作動は停止しますが、それらのシステムのない普通の車として走行できます。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

警告灯・表示灯 警告灯

名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
ポップアップエンジン フード警告灯 	<ul style="list-style-type: none">正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。電源ポジションがONのとき、ポップアップエンジンフードの電子制御システムに異常があると点灯します。	<ul style="list-style-type: none">電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。▲ 警告電源ポジションをONにしても点灯しないときや、点灯を続けるときは、放置したままで走行しないでください。 万一のときポップアップエンジンフードが正常に作動せず、歩行者の頭部への衝撃を緩和できないおそれがあります。

名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
<p>パワーステアリング 警告灯</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。 パワーステアリングのシステムに異常があると点灯します。 	<ul style="list-style-type: none"> すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 点灯しているときは、パワーステアリングは作動しませんが、マニュアルステアリングの性能は確保されています。この場合は、ハンドルの操作力が重くなります。また、アクティブブレーキコントロール★の作動も停止します。 <p> アドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ハンドルに長時間力をかけた状態が続いたり停車中に操作を繰り返すと、システムの過熱を防ぐためハンドル操作力が重くなりますが、異常ではありません。しばらくハンドル操作を控え、システムの温度が下がると、通常のハンドル操作に戻ります。 システムが過熱するような操作を繰り返すと故障の原因になります。 <p> 知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ハンドル操作時に、車両前方から機械が作動するような音が聞こえることがあります、異常ではありません。 すばやいハンドル操作を行うと、ハンドル付近から擦れるような音が聞こえてくることがあります、異常ではありません。

警告灯・表示灯

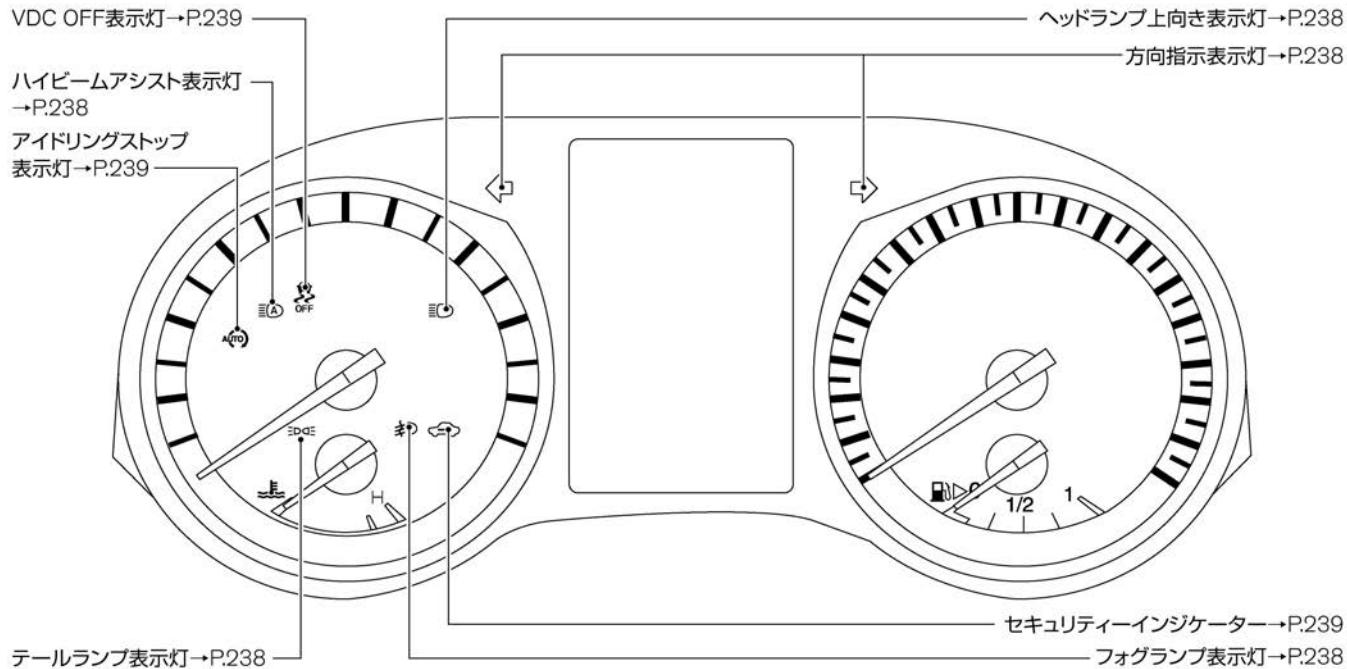
警告灯

名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
タイヤ空気圧 警告灯 	<ul style="list-style-type: none">正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。タイヤ空気圧警報システムに異常があると、約1分間点滅したあと点灯します。タイヤ空気圧が低下すると点灯し、メーター内のディスプレイに警告が表示されます。タイヤがパンクすると点灯し、メーター内のディスプレイに警告が表示され、タイヤ空気圧警報が約10秒間鳴ります。	<ul style="list-style-type: none">タイヤ空気圧警報システムに異常があったときは、日産販売会社で点検を受けてください。タイヤ空気圧が低下したときは、安全な場所に停車し、タイヤを確認してください。パンクではなく、タイヤ空気圧が低下しているときは、指定の空気圧に調整してください。 ☞ タイヤ空気圧の点検 (P.378)タイヤがパンクしたときは、すみやかに日産販売店で点検を受けてください。タイヤ空気圧の調整後は、必ずシステムのリセット操作をしてください。 ☞ タイヤ空気圧警報システム (P.382) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 知識</div> <ul style="list-style-type: none">高速走行時はタイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあと点灯することがありますが、減速して消灯すれば故障ではありません。

名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
エマージェンシーブレーキ警告灯 	<ul style="list-style-type: none"> 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。 エンジンを始動しても点灯し続けるときは、次のことが考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> ナビゲーションシステムで、エマージェンシーブレーキをOFFにしている VDCをOFFにしている 周辺の電波源の影響を受けているとき センサーの汚れなどで、エマージェンシーブレーキが一時的に作動できない状態になっている エマージェンシーブレーキのシステムに異常が発生している 	<ul style="list-style-type: none"> ナビゲーションシステムでエマージェンシーブレーキをONにすると消灯します。 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。 一時的に作動できない状態になっていないか確認してください。  エマージェンシーブレーキ (P.207) VDCをONにしてください。  VDC (ビーグルダイナミクスコントロール) (P.92) 上記のことを確認しても点灯しているときは、日産販売会社で点検を受けてください。
マスター オーニング 	<ul style="list-style-type: none"> メーターのディスプレイに警告メッセージが表示されたときに同時に点灯します。 	<ul style="list-style-type: none"> 警告メッセージを確認し、それぞれの対処方法に従ってください。 警告が表示されたときは、すみやかに適切な処置をしてください。放置すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告灯・表示灯 表示灯の表示位置

メーター



警告灯・表示灯 表示灯

メーター内の装備は、車種、グレードなどの違いにより異なります。

名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
方向指示表示灯 	● 方向指示器または非常点滅表示灯を作動させると点滅します。	● 方向指示器の電球（バルブ）が切れたときは点滅が速くなります。電球を交換してください。
ヘッドライト上向き表示灯 	● ヘッドライトの上向きを点灯させると点灯します。	☞ ヘッドライトの上向き、下向き切り替え (P.303)
テールランプ表示灯 	● 車幅灯、尾灯、番号灯を点灯させると点灯します。	☞ ライトの点灯・消灯 (P.296)
フォグランプ表示灯 	● フォグランプを点灯させると点灯します。	☞ フォグランプの点灯・消灯 (P.303)
ハイビームアシスト表示灯★ 	● ハイビームアシストがONのときヘッドライトが点灯していると、ヘッドライトの上向き、下向きにかわらず点灯します。	☞ ハイビームアシスト★について (P.301)

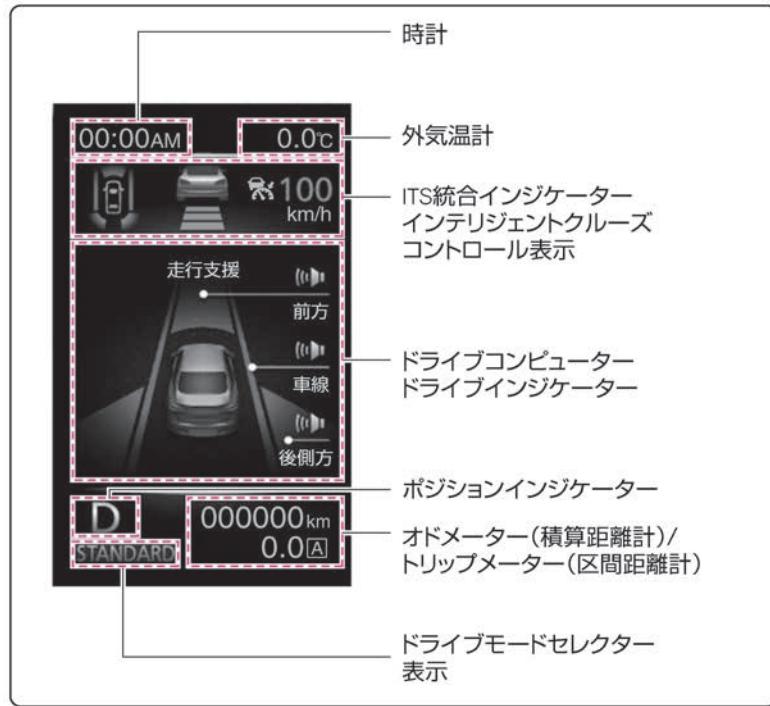
警告灯・表示灯

表示灯

メーター

名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
VDC OFF表示灯 	<ul style="list-style-type: none"> 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 VDC OFFスイッチを押すと点灯します。 	 VDC (ピークルダイナミクスコントロール) (P.92)
セキュリティーアンジケーター 	<ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションがON以外のときに点滅します。  イモビライザー (盗難防止装置) (P.66) 	<ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションをONにしたあとも点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。
アイドリングストップ表示灯 	<ul style="list-style-type: none"> アイドリングストップ中またはアイドリングストップが可能な状態のときに点灯します。 アイドリングストップ中にエンジンフードが開いていると早く点滅します。 アイドリングストップに異常があると遅く点滅します。 	<p> 知識</p> <ul style="list-style-type: none"> アイドリングストップ表示灯が早く点滅したとき（約1秒間に2回）は、エンジンフードが開いていないか確認してください。エンジンフードが開いていると、エンジンは通常のエンジン停止状態になります。その場合は、エンジンをかけ直してください。 アイドリングストップ表示灯が遅く点滅したとき（約1秒間に1回）は、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 停車前にアイドリングストップ表示灯が点灯しても、坂道やハンドル操作などによってはアイドリングストップしないことがあります。

■ ディスプレイ表示について



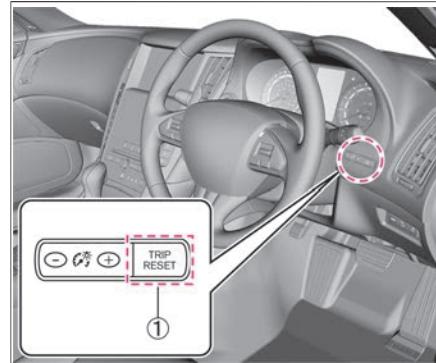
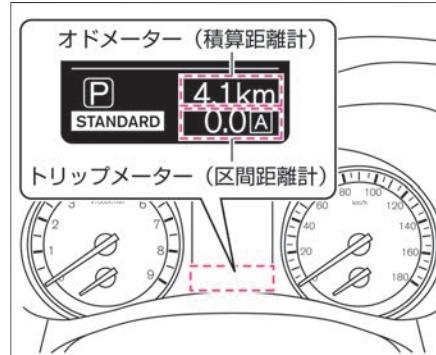
■ オドメーター（積算距離計）／トリップメーター（区間距離計）

オドメーター（積算距離計）

- 総走行距離をkmでメーター内のディスプレイに表示します。

トリップメーター（区間距離計）

- [A]と[B]の2種類の区間走行距離をkmでメーター内のディスプレイに表示します。
- トリップ切り替えスイッチ①を押すごとに[A]と[B]が切り替わります。
- リセットするときは0にしたいほうを表示させ、トリップ切り替えスイッチ①を1秒以上押します。



知識

- バッテリーを外したときは、トリップメーターの[A]と[B]の記憶が消去され0に戻ります。

■ ポジションインジケーター

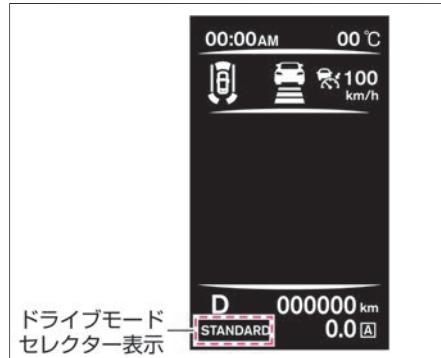
- セレクトレバーのポジションをメーター内のディスプレイに表示します。



■ ドライブモードセレクター表示

- 現在のドライブモードセレクターのモードをメーター内のディスプレイに表示します。

⇒ ドライブモードセレクター (P.83)



時計

- 時刻を表示します。
- 時刻はナビゲーションシステムの時計と連動しており、自動的に調整されます。
- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、表示を切り替えることができます。

MENU ⇒ **設定** ⇒ **時計設定**

詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。



外気温計

外気温を表示します。



知識

- 外気温センサー取付部の温度を表示するため、実際の外気温とは異なることがあります。

アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた
各部機能と名称

メタリ

■ ITS統合インジケーター

次のシステムの作動状態を簡易的に表示します。

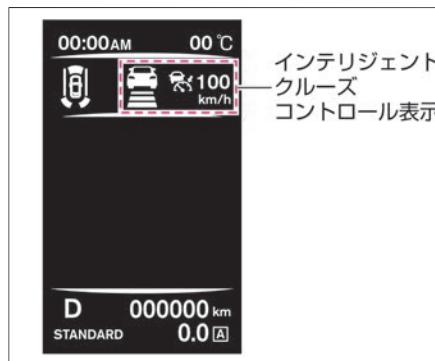
- LDP（車線逸脱防止支援システム）
(☞P.107)
- LDW（車線逸脱警報）(☞P.107)
- BSI（後側方衝突防止支援システム）
(☞P.118)
- BSW（後側方車両検知警報）
(☞P.118)
- PFCW（前方衝突予測警報）
(☞P.214)
- インテリジェントペダル（ディスタンス
コントロールアシスト）(☞P.183)



■ インテリジェントクルーズコントロール表示

インテリジェントクルーズコントロールの状態を表示します。

➡ インテリジェントクルーズコントロール (P.146)



■ ドライブコンピューター

- 電源ポジションをONにすると、選択スイッチ □ を押すごとに表示が切り替わります。
- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、表示したい項目を選択することができます。

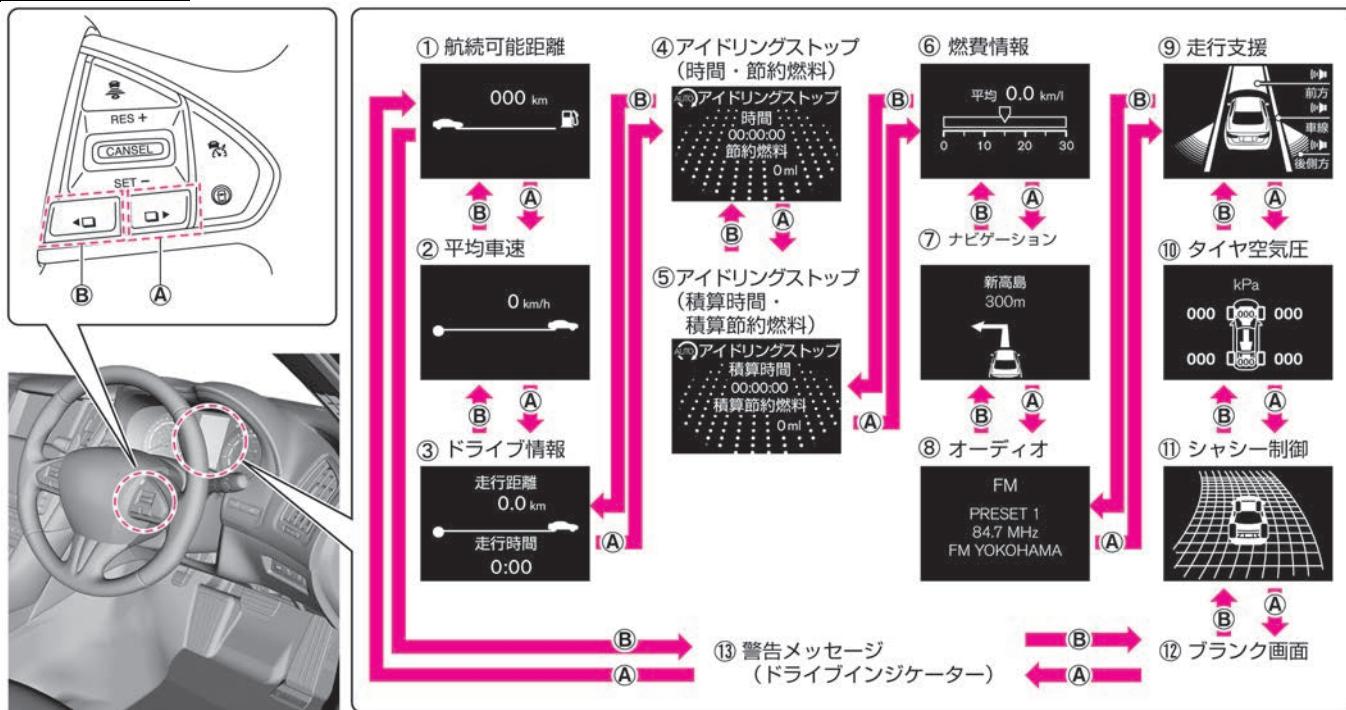
MENU ⇒ 設定 ⇒ メーター設定 ⇒ メインメニュー選択

詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた 各部機能と名称

メーター

画面の切り替えかた



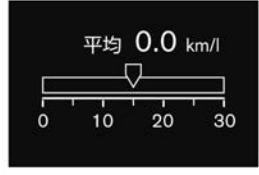
車両情報

項目	概要	詳細説明
航続可能距離	<p> 000 km</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の燃料残量と平均燃費から航続可能な距離を表示します。 燃料残量警告灯（➡ P.232）が表示されると、航続可能距離の距離表示が点滅します。 燃料残量警告表示後も燃料を補給しないと「---」と表示します。 	<p> 知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 数値は約30秒ごとに算出しています。 電源ポジションがONのときに給油を行うと、正常な数値が表示されません。給油は電源ポジションをOFFにして行ってください。
平均車速	<p> 0 km/h</p> <ul style="list-style-type: none"> リセットしてからの平均車速を表示します。 リセットするときは、選択スイッチのⒶまたはⒷを1秒以上押します。 	<p> 知識</p> <ul style="list-style-type: none"> バッテリー接続後やリセット後は「---」と表示します。 数値は約30秒ごとに更新しています。
ドライブ情報 (走行距離／走行時間)	<p> 走行距離 0.0 km</p> <p> 走行時間 0:00</p> <ul style="list-style-type: none"> リセットしてからの走行距離、走行時間を表示します。 リセットするときは、選択スイッチのⒶまたはⒷを1秒以上押します。 (走行距離と走行時間を同時にリセットします。) 	-

アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた

各部機能と名称

メ
タ
ー

項目	概要	詳細説明
アイドリングストップ（時間・節約燃料）	<ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションをONにするごとのアイドリングストップしている時間と節約燃料の量を表示します。 リセットするときは、選択スイッチのⒶまたはⒷを1秒以上押します。 	知識 <ul style="list-style-type: none"> アイドリングストップについては、(☞P.85)をお読みください。
アイドリングストップ（積算時間・積算節約燃料）	<ul style="list-style-type: none"> リセットしてからのアイドリングストップしている時間と、節約燃料の量を表示します。 リセットするときは、選択スイッチのⒶまたはⒷを1秒以上押します。 	知識 <ul style="list-style-type: none"> アイドリングストップについては、(☞P.85)をお読みください。
燃費情報	<ul style="list-style-type: none"> リセットしてからの平均燃費、および走行中の瞬間燃費を表示します。 平均燃費をリセットするときは、選択スイッチのⒶまたはⒷを1秒以上押します。 	知識 <ul style="list-style-type: none"> 平均燃費は、バッテリー接続後やリセット後は「--」と表示します。 平均燃費は約30秒ごとに更新します。

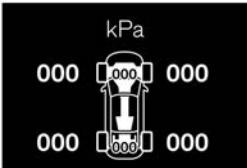
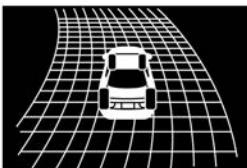
各部機能と名称

メタリック

項目	概要	詳細説明
ナビゲーション 	● ナビゲーションシステムでルートガイドを設定していると、ルート案内を表示します。	● ナビゲーションシステムの取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ナビゲーション」の章をお読みください。 ● ナビゲーションシステムで目的地を設定していないときは、コンパス（車両の進行方位）を表示します。
オーディオ 	● オーディオの情報を表示します。	● オーディオの取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「エアコン、オーディオ」の章をお読みください。
走行支援 	● 次のシステムの作動状態を表示します。 – LDP（車線逸脱防止支援システム） – LDW（車線逸脱警報） – BSI（後側方衝突防止支援システム） – BSW（後側方車両検知警報） – PFCW（前方衝突予測警報） – インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）	● 詳しくは、各システムの説明をお読みください。 –  LDW（車線逸脱警報）／LDP（車線逸脱防止支援システム） (P.107) –  BSW（後側方車両検知警報）／BSI（後側方衝突防止支援システム） (P.118) –  PFCW（前方衝突予測警報） (P.214) –  インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト） (P.183)

アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた
各部機能と名称

メタリ

項目	概要	詳細説明
タイヤ空気圧	<ul style="list-style-type: none">走行中のタイヤ空気圧を表示します。 	<ul style="list-style-type: none">タイヤ空気圧は走行中に計測されるため、電源ポジションをONにしてから25km/h以上で走行するまでは、「空気圧は走行時に計測後表示されます」というメッセージが表示され、タイヤ空気圧は表示されません。
シャシー制御	<ul style="list-style-type: none">走行中、コーナリングスタビリティアシスト機能およびアクティブブレーンコントロール★の作動状態を表示します。 	<ul style="list-style-type: none">詳しくは、各システムの説明をお読みください。<ul style="list-style-type: none">→ コーナリングスタビリティアシスト機能 (P.96)→ アクティブブレーンコントロール (ダイレクトアダプティブステアリング付車) (P.102)

■ ドライブインジケーター

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明・対処方法
 	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルを踏みながらエンジンスイッチを押し、エンジンを始動することを表示します。 	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルを踏みながらエンジンスイッチを押してください。エンジンが始動します。 <p> 知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の場合、表示が消えます。 <ul style="list-style-type: none"> エンジンを始動したとき 表示から約15秒経過したとき リモートコントロールエントリー機能、またはリクエストスイッチでドアを施錠したとき セレクトレバーが P 以外になったとき
	<ul style="list-style-type: none"> インテリジェントキーの電池が切れたときや、使用環境により、インテリジェントキーと車両の通信が正常に行われないときに表示します。 	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルを踏みながら、インテリジェントキーのロゴマーク裏面をエンジンスイッチに接触させてください。
 キー電池残量が低下しています	<ul style="list-style-type: none"> インテリジェントキーの電池切れが近くなると電池の交換を知らせます。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい電池に交換してください。  インテリジェントキーの電池交換 (P.274) <p> 知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の場合、インテリジェントキー電池切れ表示が消えます。 <ul style="list-style-type: none"> 表示から約30秒経過したとき 電源ポジションをON以外にしたとき

アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた 各部機能と名称

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明・対処方法
 キーが 見つかりません	<ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションがACCまたはONのとき、インテリジェントキーが車外に持ち出されると表示します。 	<ul style="list-style-type: none"> インテリジェントキーが車外に持ち出されていないか確認してください。
	<ul style="list-style-type: none"> ドアまたはトランクが確実に閉まっていないとき、開いている位置を表示します。 	<ul style="list-style-type: none"> ドアやトランクを確実に閉めてください。 <p> 知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 走行前に表示が消えていることを確認してください。ドア、トランクが完全に閉まっていない（半ドア）と走行中に突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 キーシステム故障 <small>取扱説明書を見てください</small>	<ul style="list-style-type: none"> ステアリングロックやインテリジェントキーのシステムに異常があると表示します。 	<ul style="list-style-type: none"> 日産販売会社に連絡してください。エンジンが始動できないことや電源ポジションが切り替わらないことがあります。
 Pレンジに 入れてください	<ul style="list-style-type: none"> セレクトレバーがP以外のとき、電源ポジションをONからOFFにすると表示します。 	<ul style="list-style-type: none"> セレクトレバーをPにしてください。 電源ポジションをONにしたときも表示が消えます。

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションがACCでメーター内のディスプレイに「Pレンジに入れてください」のメッセージが表示されているとき、セレクトレバーを操作してPにすると表示します。 上記を操作後、エンジンスイッチを押して電源ポジションをONにしたときに表示します。 	<ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションをOFFにしてください。 <p> 知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の場合に表示が消えます。 <ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションをOFFにしたとき エンジンを始動したとき セレクトレバーをP以外にしたとき
 キーIDが 正しくありません	<ul style="list-style-type: none"> 次のときに電源ポジションを切り替えようすると表示します。 <ul style="list-style-type: none"> インテリジェントキーを携帯していないとき 登録されていないインテリジェントキーを携帯しているとき 	<ul style="list-style-type: none"> インテリジェントキーを携帯してください。 新しい電池に交換してください。  インテリジェントキーの電池交換 (P.274) 自車のインテリジェントキーで有ることを確認してください。
パーキングブレーキを 解除してください	<ul style="list-style-type: none"> パーキングブレーキを戻し忘れたまま走行すると(約7km/h以上) 表示し、ブザーが鳴ります。 	<p> 警告</p> <ul style="list-style-type: none"> すみやかにパーキングブレーキを解除してください。 パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキが過熱することによってブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた
各部機能と名称

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ステアリングロックを解除できないときに表示します。 	<ul style="list-style-type: none"> ハンドルを軽く左右に回しながらエンジンスイッチを押してください。ステアリングロックを解除すると表示が消えます。
 航続可能距離 000 km	<ul style="list-style-type: none"> 燃料が少なくなると表示します。 残っている燃料で航続可能な距離を表示します。 	<ul style="list-style-type: none"> すみやかに指定の燃料を補給してください。 <p> 知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃料の残量が約11 l 以下で表示します。 車両姿勢、走行状況によっては、燃料がタンク内で移動するため、警告が表示されるタイミングが変わることがあります。
シャシー制御 システム故障 取扱説明書を見てください	<ul style="list-style-type: none"> コーナリングスタビリティアシスト機能、エマージェンシーストップシグナル機能、アクティブレーンコントロール★のシステムのいずれかに異常があると表示します。 	<ul style="list-style-type: none"> すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた

各部機能と名称

メタリック

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明・対処方法
 タイヤ空気圧不足 点検してください	<ul style="list-style-type: none"> ● タイヤ空気圧が低下すると、表示します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全な場所に停車し、タイヤを確認してください。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">  知識 </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 同時にタイヤ空気圧警告灯が点灯します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">  ◆ タイヤ空気圧警報システム (P.382) </div>
 パンク！ 販売店で点検を受けて ください	<ul style="list-style-type: none"> ● タイヤ空気圧が大きく低下すると、表示します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● パンクしているおそれがあるため、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">  知識 </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 同時にタイヤ空気圧警告灯が点灯し、警報が鳴ります。しばらくすると警報は止まりますが、警告灯は点灯し続けます。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">  ◆ タイヤ空気圧警報システム (P.382) </div>
 油量低下 取扱説明書を 見てください	<ul style="list-style-type: none"> ● エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの油量が低下すると表示します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して日産販売会社に連絡してください。 <div style="background-color: #f0e6ff; border: 1px solid #d9b48c; padding: 2px;">  △ 注意 </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損し発火するおそれがあります。

アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた

各部機能と名称

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明・対処方法
 エンジン再始動しません	<ul style="list-style-type: none"> アイドリングストップシステム作動中にエンジンフードを開くと表示します。 	<ul style="list-style-type: none"> エンジンフードが開いていないか確認してください。エンジンフードが開いていると通常のエンジン停止状態となります。その場合はエンジンをかけ直してください。 ② アイドリングストップ (P.85)
 エンジンスイッチを押してください	<ul style="list-style-type: none"> 「エンジン再始動しません」というメッセージの約5秒後に表示されます。 	<ul style="list-style-type: none"> 通常のエンジン停止状態となっているため、エンジンスイッチを押して電源ポジションをOFFにしたあとに、エンジンをかけ直してください。 ② アイドリングストップ (P.85)
 ON	<ul style="list-style-type: none"> アイドリングストップシステムをOFFからONにしたときに表示します。 	<ul style="list-style-type: none"> ② アイドリングストップOFFスイッチ (P.86)
 OFF	<ul style="list-style-type: none"> アイドリングストップシステムをOFFにしたときに表示します。 	<ul style="list-style-type: none"> ② アイドリングストップOFFスイッチ (P.86)

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明・対処方法
 システム異常	<ul style="list-style-type: none"> アイドリングストップシステムに異常があると表示します。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。 ☞アイドリングストップ (P.85)
 設定画面でシステムを選択してください	<ul style="list-style-type: none"> ナビゲーションシステムで次のシステムを全てOFFにしているとき、ステアリングにあるONスイッチを押すと表示します。 <ul style="list-style-type: none"> LDW（車線逸脱防止支援システム） ☞P.107 BSI（後側方衝突防止支援システム） ☞P.118 インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト） ☞P.183 エマージェンシーブレーキ ☞P.207 	<ul style="list-style-type: none"> ナビゲーションシステムで次の操作をして、ご使用になりたいシステムをONにしてください。 MENU ⇒ 運転支援 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた

各部機能と名称

メ
タ
ー

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明・対処方法
システム故障 取扱説明書を見てください	<ul style="list-style-type: none"> 次のいずれかのシステムが故障すると表示します。 <ul style="list-style-type: none"> LD P（車線逸脱防止支援システム）(☞P.107) LDW（車線逸脱警報）(☞P.107) BSI（後側方衝突防止支援システム）(☞P.118) BSW（後側方車両検知警報）(☞P.118) PFCW（前方衝突予測警報）(☞P.214) インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）(☞P.183) 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な場所に停車して一度エンジンを停止させ、再始動してからいずれかのシステムをONにしてください。 上記の操作をしてもONにできない、または表示が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
アクセルペダルが高温のため 使用できません	<ul style="list-style-type: none"> アクセルペダルを戻す力を発生させているモーターが高温になり、次のシステムが作動を停止すると表示します。 <ul style="list-style-type: none"> インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）(☞P.183) BCI（後退時衝突防止支援システム）(☞P.136) 	<ul style="list-style-type: none"> モーターの温度が下がると、システムは自動的に作動を再開します。

各部機能と名称

メーター

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明・対処方法
フロントレーダー及び その周辺が汚れています 拭いてください	<ul style="list-style-type: none"> フロントバンパーに取り付けられた レーダーセンサー周辺に雪や氷、泥 などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。 <ul style="list-style-type: none"> – PFCW（前方衝突予測警報）(☞P.214) – インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）(☞P.183) – インテリジェントクルーズコントロール(☞P.146) – エマージェンシーブレーキ (☞P.207) 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、エンジンを再始動してください。
サイドレーダー及び その周辺が汚れています 拭いてください	<ul style="list-style-type: none"> リヤバンパー付近に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥 などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。 <ul style="list-style-type: none"> – BSI（後側方衝突防止支援システム）(☞P.118) – BSW（後側方車両検知警報）(☞P.118) – BCI（後退時衝突防止支援システム）(☞P.136) 	<ul style="list-style-type: none"> レーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから、システムを一旦OFFにしたあと、再びONにしてください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた

各部機能と名称

メ
タ
ー

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明・対処方法
作動範囲外のため 現在使用できません	<ul style="list-style-type: none"> 次のシステムが停止すると表示します。 停止する条件については、各システムをお読みください。 <ul style="list-style-type: none"> LD P（車線逸脱防止支援システム） (☞P.107) B S I（後側方衝突防止支援システム） (☞P.118) インテリジェントクルーズコントロール (☞P.146) 	<ul style="list-style-type: none"> 停止したシステムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、スイッチで再びONにしてください。
車線認識カメラ・その周辺が 高温のため使用できません	<ul style="list-style-type: none"> 炎天下に駐車したときなど、車線認識カメラが高温になり、次のシステムが停止すると表示します。 <ul style="list-style-type: none"> LD P（車線逸脱防止支援システム） (☞P.107) LDW（車線逸脱警報） (☞P.107) B S I（後側方衝突防止支援システム） (☞P.118) 	<ul style="list-style-type: none"> 停止したシステムを再び作動させる場合は、車線認識カメラ周辺の温度が下がってから、スイッチで再びONにしてください。
システムOFF	<ul style="list-style-type: none"> BCI（後退時衝突防止支援システム）の作動が停止すると表示します。☞BCI（後退時衝突防止支援システム）(P.136) 	<ul style="list-style-type: none"> ナビゲーションシステムで再びBCI（後退時衝突防止支援システム）をONにすると消灯します。 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「カメラシステム、ETC」の章をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた

各部機能と名称

メタリック

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明・対処方法
ヘッドランプシステム異常 取扱説明書を見てください	● LEDヘッドランプに異常があると表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
AFSシステム異常 取扱説明書を見てください	● アクティブAFS★に異常があると表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
省電源のため自動的に 電源OFFします	● セレクトレバーをPにしたまましばらくすると表示します。	● そのまま電源ポジションを切り替えたり、セレクトレバーを動かしたりしないと、省エネのため自動的に電源ポジションがOFFになります。
省電源のため自動的に 電源OFFしました	● セレクトレバーがPのまま時間が経過し、自動的に電源ポジションがOFFになると表示します。	—

アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた

各部機能と名称

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明・対処方法
 ライト消灯して ください	<ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションがON以外で運転席ドアを開けたとき、ライトスイッチがAUTO以外のON位置にあると表示し、ブザーが鳴ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ライトスイッチをOFFにしてください。
 メンテナンス オイル/オイルフィルター 交換してください	<ul style="list-style-type: none"> 設定したオイル/オイルフィルター交換距離に達すると表示します。 	<ul style="list-style-type: none"> オイル/オイルフィルター交換距離は、設定したりリセットしたりできます。 走行距離を元にお知らせしているもので、実際の車両状態を示したものではありません。目安としてお使いください。 ナビゲーションシステムで次の操作をすると設定できます。 MENU ⇒ 設定 ⇒ メーター設定 ⇒ メンテナンス ⇒ オイル/オイルフィルター 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた

各部機能と名称

メータ

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明・対処方法
メンテナンス  タイヤ	<ul style="list-style-type: none"> ● 設定したタイヤ交換距離に達すると表示します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● タイヤ交換距離は、設定したりリセットしたりできます。 ● 走行距離を元にお知らせしているもので、実際の車両状態を示したものではありません。目安としてお使いください。 ● ナビゲーションシステムで次の操作をすると設定できます。 MENU ⇒ 設定 ⇒ メーター設定 ⇒ メンテナンス ⇒ タイヤ 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。
メンテナンス  ユーザー	<ul style="list-style-type: none"> ● オイル/オイルフィルター、タイヤ以外の整備項目の点検距離または交換距離に達すると表示します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● その他の整備項目には、たとえばタイヤのローテーションを行う距離の設定ができます。項目の点検／交換距離は設定したり、リセットしたりできます。 ● 走行距離を元にお知らせしているもので、実際の車両状態を示したものではありません。目安としてお使いください。 ● ナビゲーションシステムで次の操作をすると設定できます。 MENU ⇒ 設定 ⇒ メーター設定 ⇒ メンテナンス ⇒ ユーザー 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた

各部機能と名称

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明・対処方法
 凍結注意	<ul style="list-style-type: none"> 外気温が3°C以下になったことを知らせます。 	<ul style="list-style-type: none"> ナビゲーションシステムで次の操作をすると、ON／OFFを切り替えることができます。（初期設定はONに設定されています。） MENU ⇒ 設定 ⇒ メーター設定 ⇒ アラーム 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。
 休息してください	<ul style="list-style-type: none"> 設定した時間まで連続走行したことを知らせます。 	<ul style="list-style-type: none"> ナビゲーションシステムで次の操作をすると、ON／OFFを切り替えることができます。（初期設定はONに設定されています。） MENU ⇒ 設定 ⇒ メーター設定 ⇒ アラーム 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

各部の操作

ドアの施錠と解錠

インテリジェントキー	P.266
インテリジェントキーの電池交換	P.274
ドア	P.275

各部の開閉

トランクの開閉	P.281
燃料補給口	P.284

ウインドーの開閉

パワーウィンドー	P.288
電動ガラスサンルーフ★	P.290

エアコンの使いかた

吹き出し口	P.295
-------	-------

スイッチの操作

ライトスイッチ	P.296
ワイパー・ウォッシャースイッチ	P.305

室内装置

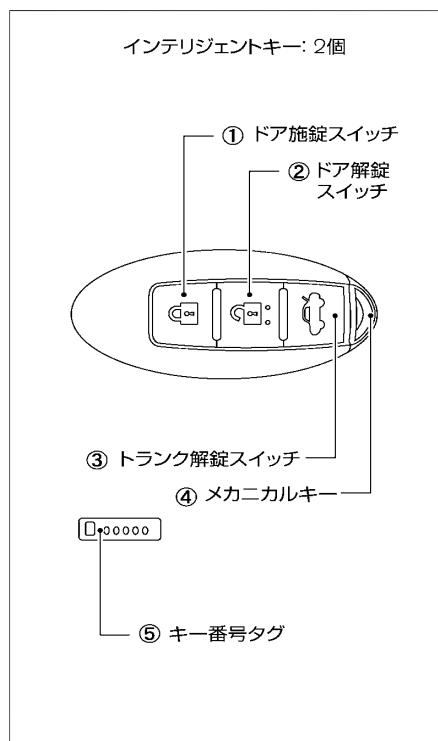
サンバイザー／バニティミラー	P.309
マップランプ／リヤパーソナルランプ	P.311
オーバーヘッドコンソール	P.315
グローブボックス	P.316
センターコンソールボックス	P.317
カップホルダー／ボトルホルダー	P.318
灰皿	P.321
シガーライター	P.323
電源ソケット	P.325
アシストグリップ／コートハンガー	P.326
トランクフック	P.327
アクティブ・ノイズ・コントロール／ アクティブ・サウンド・コントロール	P.328
フロアカーペット	P.330

ドアの施錠と解錠 インテリジェントキー

インテリジェントキーを携帯することにより、キーを取り出すことなくドアの施錠・解錠（☞P.266）やエンジンの始動（☞P.76）ができます。

各部名称と機能

- ① ドア施錠スイッチ
- スイッチを押すと、全ドアおよび燃料補給口が施錠されます。
- ② ドア解錠スイッチ
- スイッチを押すと、全ドアおよび燃料補給口が解錠されます。
- ③ トランク解錠スイッチ
- スイッチを1秒以上押すと、トランクが解錠されます。
- ④ メカニカルキー
- インテリジェントキーの電池が切れたときや、バッテリーがあがったときなどにドアの施錠・解錠ができます。
- ⑤ キー番号タグ
- キーを紛失した場合、キー番号から日産販売会社でスペアキーを作成できますので、大切に保管してください。



知識

アンサーバック機能

- ドアの施錠・解錠時に、作動確認のためのブザーと非常点滅表示灯が作動します。（施錠時1回、解錠時2回）
- トランク解錠時に、作動確認のためのブザーが作動します。（解錠時4回）
- アンサーバック機能のブザーを停止することができます。日産販売会社にご相談ください。

アンサーバックエクステリアライト機能

- ドアの解錠時に、車幅灯、尾灯、番号灯が約30秒間点灯します。
- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、アンサーバックエクステリアライト機能のON・OFFを切り替えることができます。

MENU ⇒ [設定] ⇒ [車両設定] ⇒

[アンサーバックエクステリアライト]

詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

オートロック機能

- タッチセンサーまたはリクエストスイッ

知識

チ（またはインテリジェントキーのドア解錠スイッチ）を押して、解錠後約30秒以内に以下のいずれかの操作も行わなかった場合は、盗難防止のため自動的に全ドアが施錠されます。（施錠されるまでの間に、再度インテリジェントキーの解錠スイッチを押すと、その時点から約30秒後に施錠されます。）

- ドアを開ける
- エンジンスイッチを押す

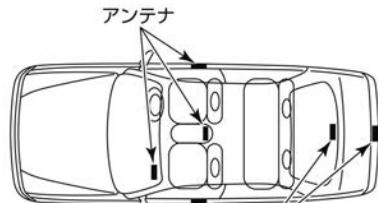
■ インテリジェントキーに関する注意事項



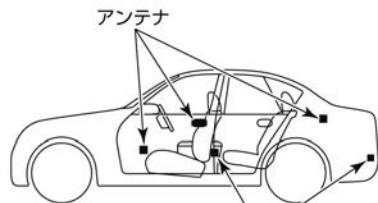
警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）を使用している方は、アンテナから約22cm以内の範囲に装着部位が近づかないようにしてください。ドア開閉時、各タッチセンサーおよびリクエストスイッチ操作時、エンジン始動時などにインテリジェントキーの電波が植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 警告



アンテナ



アンテナ

ドアの施錠と解錠 インテリジェントキー

⚠ 警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用している方は、インテリジェントキーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があるため、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してからご使用ください。
- 航空機内ではインテリジェントキーのスイッチを押さないでください。また、バッグなどに収納するときは、荷物などでスイッチが押されないようにしてください。万一スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあります。

⚠ 注意

- インテリジェントキーは運転者が必ず携帯してください。
- インテリジェントキーは、エンジンの始動やドアの施錠・解錠など、車を操作するためにはなくてはならないものです。大切に保管してください。
- インテリジェントキーは、必ずメカニカルキーを内蔵した状態で携帯してください。

🚗 アドバイス

- インテリジェントキーは微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では機能に障害が起こるため、インテリジェントキー機能やリモートコントロールエントリー機能が正常に作動しない場合があります。
 - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波を発生する設備があるとき
 - 無線機や携帯電話などの無線通信機器と一緒に携帯しているとき
 - インテリジェントキーが金属製の物に接したり、覆われたりしているとき
 - 近くで電波式リモートコントロールエントリーを使用しているとき
 - インテリジェントキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき

ドアの施錠と解錠 インテリジェントキー

アドバイス

- コインパーキングに駐車したとき（車両検出用の電波の影響があるため）
 - 近くで電波式侵入警報装置を使用しているとき
 - 極端に気温が低いとき（電池の性能が低下するため）
- インテリジェントキーは電波法の認証に適合しています。次のことを必ずお守りください。
 - 電池を交換するとき以外は分解しない（分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています）
 - 日本国内のみで使用する
- インテリジェントキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況によりますが約2年程度です。電池が切れた場合、新しい電池と交換してください。
 [インテリジェントキーの電池交換 \(P.274\)](#)
 - インテリジェントキーの電池が切れたときは、応急処置としてエンジンの始動やドアの施錠・解錠を行うことができます。
 [インテリジェントキーで始動できない \(P.337\)](#)
 [インテリジェントキーでドアが開かない \(P.336\)](#)
 - インテリジェントキーをテレビやパソコンなどの電化製品の近くに置かないでください。電池を著しく消耗することがあります。
 - インテリジェントキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所では、作動範囲が狭くなったり、作動しないことがあります。
 - インテリジェントキーは送信機を内蔵している精密機械です。故障を防止するため、次のことをお守りください。
 - 長時間高温になる場所に置かない
 - 分解しない

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバイス

- 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えることない
 - 水にぬらさない
 - 超音波洗浄器などにかけない
 - 磁気を帯びたキーホルダーなどをつけない
 - テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かない
- インテリジェントキーはドアポケットに入れないでください。ドアを閉めるとき衝撃により破損するおそれがあります。また、ドアポケット内に一緒に置いておいた物がドアを閉めた衝撃で当たるなどして勝手にスイッチが入り、キーを車室内に封じ込むおそれがあります。

知識

- インテリジェントキーは同じ車両で最大4個まで使うことができます。ご購入やご使用開始方法については、日産販売会社にご相談ください。
- インテリジェントキーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちに日産販売会社にご相談ください。
- キー番号を打刻したタグは大切に保管してください。キー番号を日産販売会社に連絡すると購入できます。
- インテリジェントキーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。日産販売会社にご相談ください。
 インテリジェントキーの電池交換 (P.274)

■ パーソナルアシスタント機能

あらかじめユーザー情報を登録しておくと、インテリジェントキーを携帯して車両へ乗り込んだとき、自動的にユーザーを認識します。

- 電源ポジションをONにすると、インテリジェントキーで認識したユーザーへの挨拶画面をナビゲーションシステム画面に表示し、ログインすることができます。
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。
- 前回とインテリジェントキーの使用者が異なるときは、ユーザーへの挨拶画面からユーザーを切り替えることができます。
- ユーザー情報は最大4人まで登録でき、ドライブモード、運転ポジション★（シート、ハンドル位置、ドアミラー鏡面角度）、エアコンの設定、オーディオの設定、ナビの設定などの各種設定を記憶します。
- パーソナルアシスタント機能では、次の機能について設定することができます。
 - エンジン・トランスミッション
 - ステアリング
 - 運転支援の設定
 - コーナリングスタビリティアシスト機能 (☞P.96)
 - アクティブレーンコントロール★ (☞P.102)
 - 運転ポジション★（シート、ハンドル位置、ドアミラー鏡面角度） (☞P.46)
 - メーターの設定※
 - エアコンの設定※
 - ナビゲーションシステムの設定※
 - オーディオの設定※

※別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

知識

- 4人目のユーザー（ゲスト）の名前と写真是変更できません。

ドアの施錠と解錠

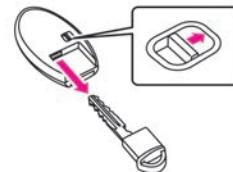
インテリジェントキーの電池交換

インテリジェントキーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。

交換のしかた

1

キー裏側のロックを外しながら、メカニカルキーを引き抜きます。



2

スリットにマイナスドライバーを差し込み、ひねってカバーを取り外します。（カバーが傷つかないように、マイナスドライバーに布を巻いてください。）



3

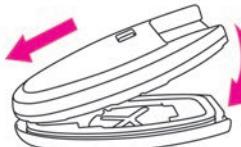
消耗した電池を取り外し、新しい電池をはめ込みます。（新しい電池は、+極を下にして取り付けてください。）

使用電池：CR2032



4

カバーの先端を合わせて上下のカバーを組み付けます。確実に取り付けられたことを確認してください。



警告

- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意してください。

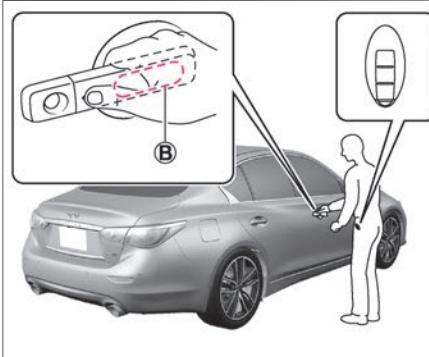
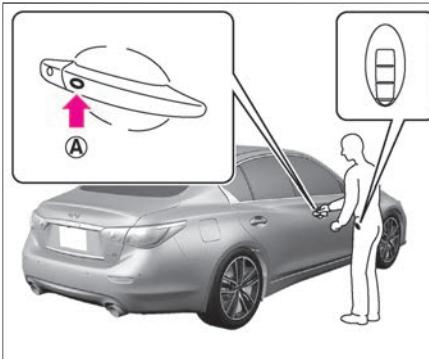
アドバイス

- 電池交換の際、キーを破損するおそれがあります。日産販売会社での交換をおすすめします。
- 本体に傷をつけるおそれがあるため、ドライバーに布などを当てて外してください。ドライバーを奥に差し込みすぎると内部の基板を傷つけるおそれがあります。
- 内部回路、電子端子などに触れないでください。故障の原因となります。
- 電池交換後は、インテリジェントキーシステムの各機能が正常に作動するか必ず確認してください。

■ インテリジェントキー機能による施錠・解錠

■ 前席ドア／後席ドア

- 施錠するときは、運転席または助手席ドアのリクエストスイッチⒶを押します。
- 解錠するときは、運転席または助手席ドアのドアハンドルを握ります。
ドアハンドル裏側のタッチセンサーⒷに触れるようにドアハンドルを握ると解錠されます。
(施錠した直後の約2秒間は解錠できません)



アドバイス

- 車両に近づきすぎている場合などは作動しないことがあります。
- 作動範囲は各リクエストスイッチを中心にして約80cmの球状になっているため、地面近くや高い場所では作動しないことがあります。
- 手袋などを着用したままドアハンドルを握ると、タッチセンサーが反応しないことがあります。
- 急にドアハンドルを引くと、ドアが解錠される前にドアハンドルが引かれるため、解錠できないことがあります。その場合、一度ドアハンドルを戻すと解錠されます。再度ドアハンドルを引いてください。
- ドアハンドルを握る前にリクエストスイッチを押してしまうと、約2秒間解錠できなくなります。また、解錠できないときにドアハンドルを握った場合、約2秒経過しても解錠することができません。一旦ドアハンドルから手を離し、約2秒経過してからもう一度ドアハンドルを握ってください。
- インテリジェントキーが施錠・解錠の

ドアの施錠と解錠

ドア

アドバイス

作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などで多量の水がドアハンドルにかかるとドアが施錠・解錠されることがあります。

知識

- インテリジェントキーを検知しているセンサーおよびリクエストスイッチでのみ施錠・解錠を行うことができます。
- ドアの施錠・解錠時には、アンサーバック機能、オートロック機能、アンサーバックエクステリアライト機能が作動します。
 各部名称と機能 (P.266)
- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、ドアハンドル裏側のセンサーの作動をOFFにし、リクエストスイッチで解錠できるように設定を変更できます。
MENU ⇒ **設定** ⇒ **車両設定** ⇒ **タッチドアセンサー**
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。
- 次のような場合は、作動しません。
 - 電源ポジションがACC、ONのとき

知識

- ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
- インテリジェントキーが施錠・解錠の作動範囲内にないとき
- 携帯しているインテリジェントキー以外に自車のインテリジェントキーが車内またはトランク内にあるとき
(解錠のみできます)
- インテリジェントキーの電池が切れているとき

衝撃感知式ドアロック解除システム

- 電源ポジションがONのとき、車両が前後方向または側面から強い衝撃を受けるとシステムが作動し、約3秒後に全ドアが自動的に解錠されます。衝撃の強さなどによっては、作動しないことがあります。システム作動後にシステムを解除させる（ドアをロックする）には、一旦電源ポジションをOFFにしてください。

電源ポジション運動ドアロック解除システム

- 電源ポジションをONからOFFにすると全ドアが自動的に解錠されます。
- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、車速感知式オート集中ドアロック機能の作動・非作動を切り替えることができます。

知識

ロック解除システムの作動・非作動を切り替えることができます。

MENU ⇒ **設定** ⇒ **車両設定** ⇒ **オートアンロック(I-key)**

詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

車速感知式オート集中ドアロック

- 車速が約25km/h以上になると、全ドアが自動的に施錠されます。ただし、そのあと解錠すると、再度施錠はされません。再度作動させるには、いずれかのドアを開けるか、電源ポジションをOFFにします。
- 衝撃感知式ドアロック解除システム作動後は、一旦電源ポジションをOFFにするまでは作動しません。
- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、車速感知式オート集中ドアロック機能の作動・非作動を切り替えることができます。

MENU ⇒ **設定** ⇒ **車両設定** ⇒ **オートロック**

詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

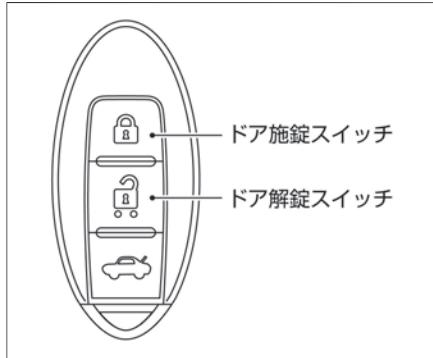
■ リモコンによる施錠・解錠

車に近づき、リモコンスイッチを押します。

作動範囲は、車両から約1mです。（作動範囲は周囲の状況によって変化します。）

ドア施錠スイッチ  を押すと全ドアが施錠されます。

ドア解錠スイッチ  を押すと全ドアが解錠されます。



知識

- 次のような場合は、インテリジェントキーのスイッチを押しても作動しません。
 - 電源ポジションがACC、ONのとき
 - ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
(解錠のみできます)
 - 車から離れすぎているとき
 - インテリジェントキーの電池が切れているとき

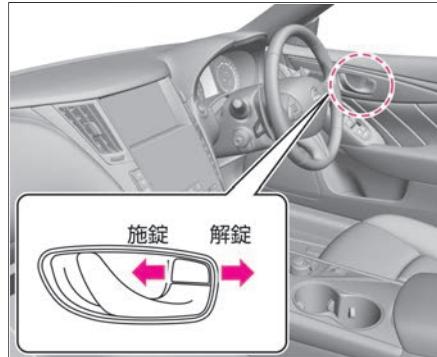
■ ドアロックスイッチによる施錠・解錠

運転席のドアロックスイッチを押します。
ドアロックスイッチの左側  を押すと施錠されます。
ドアロックスイッチ右側  を押すと解錠されます。



■ ロックノブによる施錠・解錠

ロックノブを前に押し込むと施錠されます。
ロックノブを手前に引くと解錠されます。



知識

- 運転席のロックノブで全ドアが施錠または解錠されます。
- 運転席ドアは、施錠したままでもドアハンドルを引くとドアが開けられます。そのとき、全ドアが解錠されます。

キーを使わない施錠

- 前席ドア
車室内のロックノブを押し込み、ドアハンドルを引きながらドアを閉めます。
- 後席ドア
車室内のロックノブを押し込み、そのままドアを閉めます。

知識

キー封じ込み防止機能

- インテリジェントキーが車内（トランク内も）にあるときは、施錠できません。キーインテリジェントキーを車室内に置き忘れたまま施錠することを防ぐ機能です。

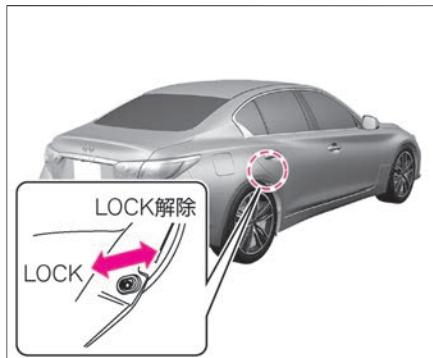
知識

- 車室内から開けるときは、窓ガラスを下げ、手を外に出して車外のドアハンドルを引きます。

チャイルドセーフティドアロック

車室内のロックノブの位置に関係なく、後席ドアを車室内から開けられなくできます。

- ドアロックのしかた
後席ドアにあるロックレバーをLOCK位置にしてドアを閉めます。
- ドアを開けるとき
ロック作動中にドアを開けるときは、ドアが解錠していることを確認し、車外からドアハンドルを引きます。

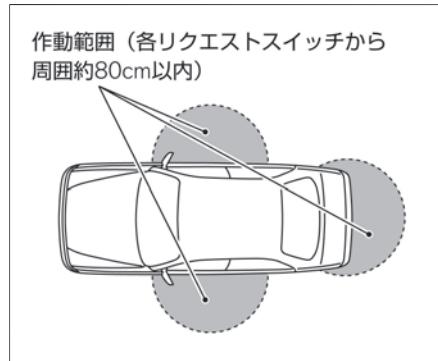


■ ドアの施錠・解錠の作動範囲

作動範囲は各リクエストスイッチから周囲約80cm以内です。作動範囲は各リクエストスイッチを中心に球状になっているため、地面近くや高い場所では作動しないことがあります。

インテリジェントキーが作動範囲内にある場合は、インテリジェントキーを携帯している人以外でも施錠・解錠の操作ができます。

- ドアハンドルのリクエストスイッチを押してドアを施錠したあとは、ドアが確実に施錠されていることを確認してください。
- 解錠される前にドアハンドルを引かないでください。ドアは解錠されますが、開きません。一度ドアハンドルを離してから再び引いて開けてください。
- 車から離れるときは、盗難や事故防止のため、必ず電源ポジションをOFFにして施錠してください。



! 警告

- ドアの開閉はお子さまにはさせないでください。手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を十分に注意してください。後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。
- 走行する前にドアを確実に閉めてください。走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ インテリジェントキーによる解錠

- インテリジェントキーを携帯し、トランクオープン・リクエストスイッチを押すと、トランクが解錠されます。



アドバイス

- 車両に近づきすぎている場合などは作動しないことがあります。
- 作動範囲はトランクオープン・リクエストスイッチを中心に約80cmの球状になっているため、地面近くや高い場所では作動しないことがあります。

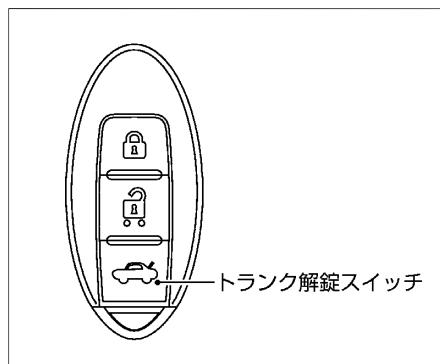


知識

- 次のような場合は作動しません。
 - インテリジェントキーが作動範囲にないとき
 - インテリジェントキーの電池が切れているとき

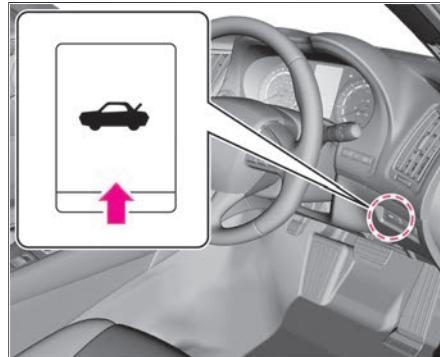
■ リモコンによる解錠

車に近づき、インテリジェントキーのスイッチを1秒以上押します。
作動範囲は、車両から約1mです。（作動範囲は周囲の状況によって変化します。）



■ トランクオープナースイッチによる解錠

トランクオープナースイッチを押すと解錠されます。



アドバイス

- 以下の場合は、解錠してもトランクリッドが半ドア状態になることがあります。その場合は、トランクオープン・リクエストスイッチで再度解錠し、手でトランクリッドを持ち上げてください。
 - トランクリッドに雪やアクセサリーなどの重量物が付いているとき
 - トランクリッドが凍結しているとき

■ 開閉のしかた

- 開けるときは、解錠後トランクリッドを持ち上げ、全開にします。
- 閉めるときは、トランクリッドを降ろし、確実にロックするまで押し付けます。

⚠ 警告

- 走行前にトランクが確実に閉まっていることを確認してください。トランクを開けたまま走行すると、車室内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- トランクリッドは必ず全開してください。途中で止めると突然閉まるおそれがあります。
- 風が強いときに開けると、風にあおられ急に閉まることがありますので特に注意してください。
- トランクを閉めるときは、手などを挟まないよう注意してください。

アドバイス

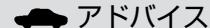
- キーをトランク内に置き忘れないでください。

燃料補給口は運転席側の車両後方にあります。

燃料の補給

燃料タンクの容量は、約80ℓです。

エンジン	指定燃料
2.0L ターボ ガソリン エンジン	無鉛プレミアム（無鉛ハイオク）ガソリン



アドバイス

- 指定以外の燃料は補給しないでください。
- 無鉛プレミアムガソリンが入手できない場合、無鉛レギュラーガソリンも使用できますが、エンジン出力低下などの現象が発生します。
- やむをえず無鉛レギュラーガソリンを給油するときは満タンにせず、できるだけ早く無鉛プレミアムガソリンを補給してください。
- やむをえず無鉛レギュラーガソリンを使用するときは、キックダウンなどの急加速は避けてください。

燃料補給時の注意事項

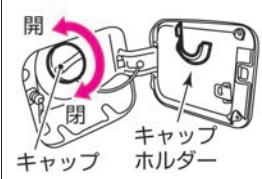


警告

- 燃料補給時は、以下のことを必ずお守りください。
 - 電源ポジションをOFFにする
 - 車のドアや窓を閉める
 - タバコなどの火気を近づけない
 - 気化した燃料を吸わない
- 補給作業を行う前に、金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。放電による火花で燃料に引火したり、やけどをするおそれがあります。
- 補給作業はひとりで行ってください。作業中に車内に戻ったり、帯電している人や物に触れると再帯電するおそれがあります。
- キャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げるから外してください。急に開けると、燃料が補給口から吹き返すおそれがあります。
- 給油ノズルは確実に給油口へ挿入してください。給油ノズルの挿入が浅いと、給油の自動停止が遅れるため、燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。
- 給油ノズルの自動停止後は、給油の継ぎ足しをしないでください。継ぎ足しをすると、燃料があふれて火災につながるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

■ 開閉のしかた

■ 開けかた

1	運転席のドアロックスイッチを押して解錠します。 燃料補給口のリッドロックは、ドアロックスイッチの施錠・解錠に連動しています。	
2	リッドを開けます。 リッドの車両後方上側を押すとリッドが少し開きます。開いたすき間に手を入れて全開します。	 
3	キャップを左にゆっくり回して開けます。 補給時、キャップはリッドのキャップホルダーに置きます。	

■ 閉めかた

- ① キャップを“カチッ、カチッ”と、2回以上音がするまで右に回して閉めます。
- ② リッドを閉めます。



警告

- キャップは確実に閉めてください。閉まってないと走行中に燃料が漏れ、火災につながるおそれがあります。
- 日産純正品以外のキャップは使用しないでください。

ウインドーの開閉 パワーウィンドー

電源ポジションがONのとき操作できます。

開閉のしかた

運転席のスイッチで、各席の窓ガラスの開閉ができます。また、助手席のスイッチおよび後席のスイッチで自席の窓ガラスの開閉ができます。

- スイッチを押している間、開きます。
- スイッチを引き上げている間、閉まります。

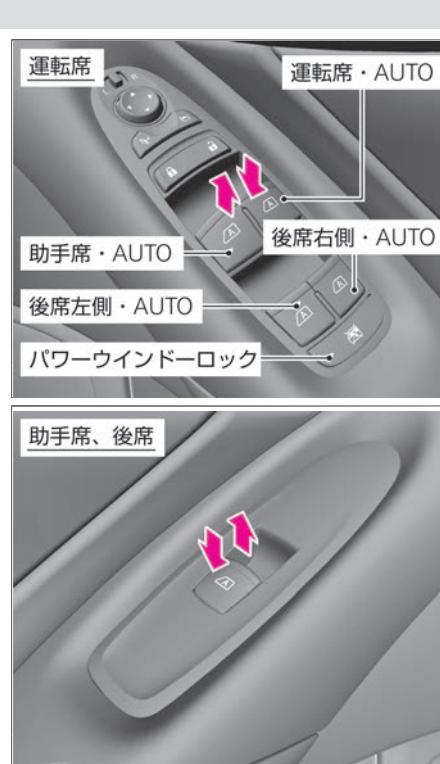
ワンタッチ開閉のしかた（AUTO）

窓ガラスは、ワンタッチで開閉できます。

- スイッチを強く押すと全開します。
- スイッチを強く引き上げると全閉します。
- 途中で止めたいときは、スイッチを操作した反対側に軽く押すか引きます。

ロックのしかた

- 運転席のパワーウィンドーロックスイッチを押し込むと、助手席と後席の窓ガラスの開閉ができなくなります。
- スイッチを押し戻すと開閉できます。



警告

- 走行中は顔や手、物などを車外に出さないでください。走行時に車外のものに当たる、また急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- 窓ガラスを閉めるときは、手や首などを挟まないよう注意してください。
- お子さまを乗せているときは、パワーウィンドーロックスイッチを押し込み、操作させないようにしてください。重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

キーOFF後動作機構

- 窓ガラスは、電源ポジションをACCまたはOFFにしたあとでも、約15分間は開閉することができます。ただし、その約15分間に運転席ドアを開けて閉める（ドアが開いているときは閉める）と、窓ガラスの開閉はできなくなります。

■ 挟み込み防止機構

- 窓ガラスをワンタッチ開閉で閉めているときやキーOFF後作動機構で閉めているときに、車体と窓ガラスの間に異物の挟み込みを感じると、窓ガラスの上昇が停止し、自動で少し下降し止まります。
- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重が窓ガラスに加わると作動することがあります。
- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、窓ガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを上側へ引き続けて閉めてください。

■ 正常に作動しないとき

バッテリーの取り外しや開閉操作を連続して行うと、窓ガラスのワンタッチ開閉、挟み込み防止機構、キーOFF後作動機構が正常に作動しないことがあります。以下の操作を行い、初期設定してください。

- ① エンジンを始動します。
- ② スイッチを押して、窓ガラスを全開にします。
- ③ スイッチを引き上げ続け、窓ガラスが全閉して3秒以上たってから手を離します。
- ④ 正常に作動することを確認します。正常に作動しないときは、再度上記の操作を行ってください。

上記の操作で作動できない場合は、早めに日産販売会社で点検を受けてください。

⚠ 注意

- 窓ガラスを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感じできない領域があります。指などを挟まれないように注意してください。



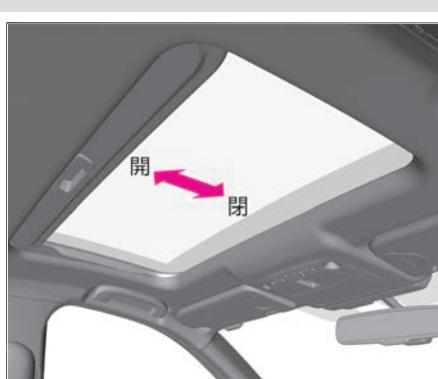
アドバイス

- 初期設定を行うときは、ドアを閉めて操作してください。

ウインドーの開閉 電動ガラスサンルーフ★

サンシェードの開閉

- 手動で開閉します。
- サンルーフを開けると連動して開きます。
- サンルーフを開けているときは、開けているところまで閉めることができます。



⚠ 警告

- 走行中は手や顔、物などを車外に出さないでください。走行時に車外のものに当たる、また急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- サンルーフを開閉するときは、手や首などを挟まないよう注意してください。また、お子さまには操作させないでください。重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 運転中はサンルーフの開閉操作を行わないでください。前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。操作は信号待ちなどの停車中に行ってください。
- ルーフに水や雪などがあるときは開けないでください。突然の水や雪に驚き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 アドバイス

- 開口部に腰を掛ける、または荷物を載せるなど、大きな力をかけないでください。ルーフが変形するおそれがあります。
- 車から離れるときや洗車するときは、盗難や故障などを防ぐためサンルーフを必ず閉めてください。

サンルーフの開閉

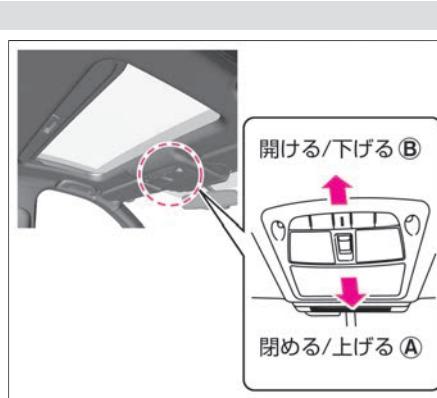
電源ポジションがONのときに操作できます。

チルトアップのしかた

- スイッチをⒶ側に押すと、後部が上がります。
- スイッチをⒷ側に押すと、後部が下がります。

開閉のしかた

- スイッチをⒷ側に押すと、自動で全開します。
- スイッチをⒶ側に押すと、自動で全閉します。
- 途中で止めたいときは、再度スイッチを押します。



知識

- チルトアップしているときは、前後の開閉はできません。

ウインドーの開閉 電動ガラスサンルーフ★

■ 挟み込み防止機構

自動でサンルーフを閉めるときに、車体とサンルーフの間に異物の挟み込みを感じると、サンルーフが停止し、自動で開き始めます。

⚠ 注意

- サンルーフを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感じできない領域があります。指などを挟まれないように注意してください。

🚗 アドバイス

- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、サンルーフを自動で閉めることができないときは、サンルーフスイッチを閉方向に繰り返し押して閉めてください。

📖 知識

- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重がサンルーフに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

ウインドーの開閉 電動ガラスサンルーフ★

■ 正常に作動しないとき

サンルーフが正常に作動しないときは、以下の操作を行い初期設定し直してください。

- ① サンルーフをチルトアップ状態にします。
サンルーフが動かなくなるまでスイッチをⒶ側に繰り返し押し、チルトアップ状態にします。
- ② スイッチをⒶ側に押し続けます。
サンルーフが上下に少し動くまでスイッチを押し続けます。
- ③ スイッチをⒷ側に押し、全閉状態にしてから正常に作動するか確認します。

アドバイス

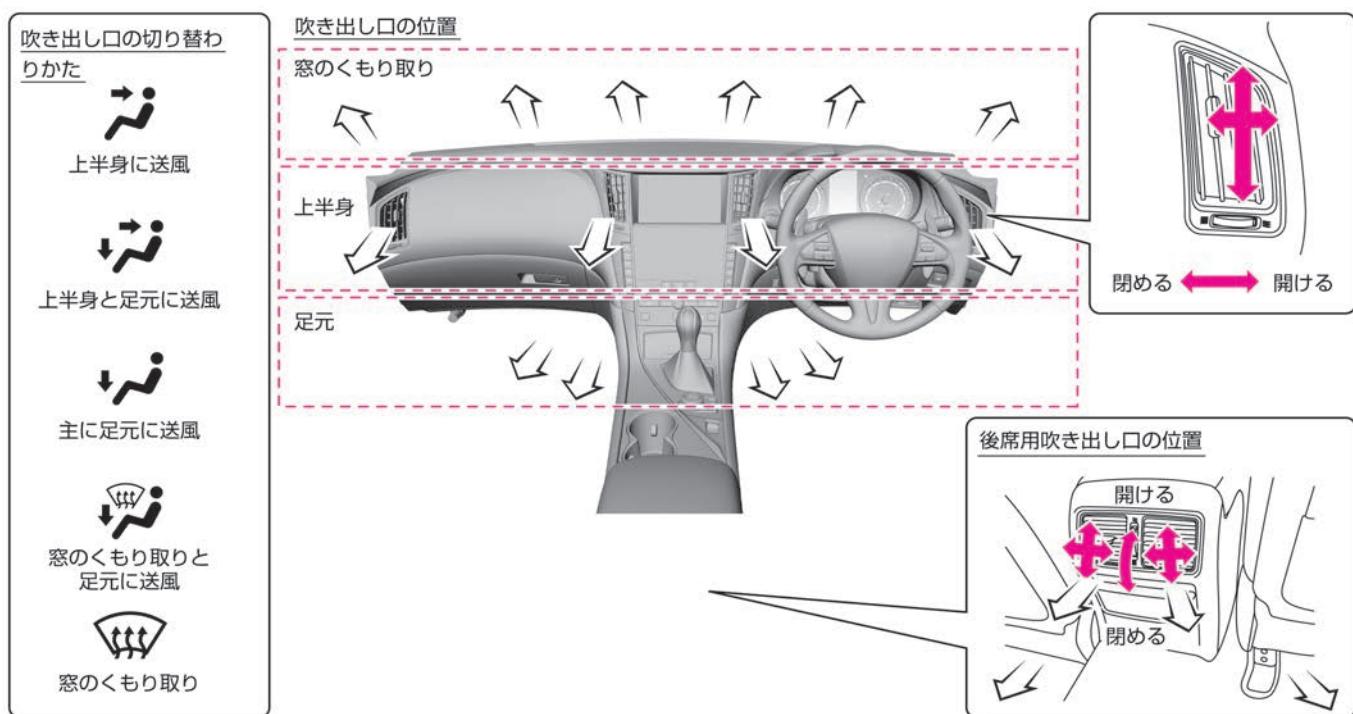
- 手順①から③の操作で作動できない場合は、早めに日産販売会社で点検を受けてください。

エアコンの使いかた

吹き出し口

この車のエアコンは、ナビゲーションシステム取扱説明書で説明しています。

詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「エアコン、オーディオ」の章をお読みください。



ライトの点灯・消灯

スイッチを回し、●の位置にマークを合わせます。

スイッチ位置	点灯する灯火
OFF	全ライトが消灯
AUTO	自動点灯・消灯
■■■	車幅灯、尾灯、番号灯が点灯
□□□	ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯

オートレベライザー

- ヘッドライトが下向き点灯時に乗車人員や荷物量の違いにより車両姿勢が変化すると自動的に照射方向を調整するシステムです。



注意

- 夕暮れや夜間時はデイライトの点灯だけで走行しないでください。必ずヘッドライトを点灯して走行してください。

アドバイス

- エンジン停止時に長時間点灯させないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知識

- ヘッドライト、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがあります。異常ではありません。

バッテリーセーバー

- ライトを点灯したまま電源ポジションをOFFにし、リモコンまたはリクエストスイッチで施錠するとバッテリーあがりを防止するためライトが消灯します。（次回、運転席ドアを開けるとライトが再点灯します。）
- 次回、次のことを行うとライトが再点灯します。
 - エンジンを始動する

知識

- 電源ポジションをACCにする
- ライトスイッチを操作する

デイライト

- 周囲の車や歩行者などからの視認性を向上させます。
 - 電源ポジションをONにすると点灯し、OFFにすると消灯します。
 - ナビゲーションシステムで次の操作をすると、デイライトのON/OFFを切り替えることができます。
[MENU] ⇒ [設定] ⇒ [車両設定] ⇒
[デイライト]
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

■ オートライトシステムについて

- 電源ポジションがONのときに使えます。
- 電源ポジションをOFFにすると消灯します。
- スイッチを回し、●の位置にマーク (AUTO) を合わせると、次のように点灯・消灯します。

車外の明るさ	ワイパー作動中	ワイパー停止
明るいとき	点灯	消灯
薄暗いとき	点灯	点灯
暗いとき	点灯	点灯

アドバイス

- センサーの上に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。



知識

- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、オートライトの感度を調整することができます。

MENU ⇒ **設定** ⇒ **車両設定** ⇒

オートライト感度調整

詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

フロントワイパー連動、薄暮れ感知機能

- 夜間やトンネルなどの走行時に加え、歩行者事故などが多く発生しているタ暮れ時や雨天でのフロントワイパー作動時もライトを点灯させることによ

知識

り、自車両を目立たせ、周囲の歩行者やドライバーへの注意を喚起します。

■ アクティブAFS[★]について

ヘッドライトが自動的に進行方向を照射し、夜間走行時に曲路の視覚認識を高めるシステムです。

- ヘッドライト点灯時、カーブや交差点などでハンドルを操作すると作動します。

! 警告

- ランプの脱着、バルブの交換は、日産販売会社にご相談ください。

! 知識

- アクティブAFSはセレクトレバーがP、R以外のとき、次のように作動します。
 - － 車速が0km/hでも左側のヘッドライトは作動します。
 - － 車速が約5km/h以上になると、右側のヘッドライトも作動します。
 - － 減速して車速が約0km/hになる（停車する）と、右側のヘッドライトは再び作動を停止します。
- エンジン始動時、ヘッドライトが細かく動きますが、システムの作動をチェックしているため異常ではありません。
- AFSに異常があるときは、メーター内のディスプレイに警告(☞P.261)が表示されます。

スイッチの操作

ライトスイッチ

■ ハイビームアシスト[★]について

先行車または対向車や周囲の明るさなどに応じ、自動的に上向きと下向きを切り替えます。

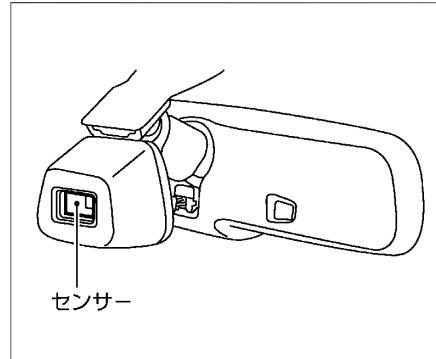
- ライトスイッチがAUTOの位置でレバーを前に押すとハイビームアシストがONになります。
- 約30km/h以上で走行中、ヘッドライトが点灯すると作動します。
(メーターのハイビームアシスト表示灯が点灯)
ハイビームアシスト表示灯 (☞P.238)
- 約10km/h以下になると、下向きに切り替わります。

センサーについて

ルームミラーの前方に周囲の状況を感知するためのセンサーがあります。

ハイビームアシストを正しく作動させるため、次のことをお守りください。

- フロントガラスが汚れたら清掃してください。
- センサーの周辺にアクセサリーやステッカーなどを取り付けないでください。
- センサーのレンズには触れないでください。
- センサーおよびその周囲に強い衝撃を与えないでください。



⚠ 警告

- システムを過信しないでください。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替えてください。
- 次のようなときは、ハイビームアシストが正常に作動しないことがあります。その場合、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替えてください。
 - 悪天候のとき（雨、霧、雪、強風など）
 - 周囲にヘッドライトや尾灯に似た光源があるとき
 - 対向車または先行車が無灯火のとき
 - 対向車または先行車のヘッドライトが汚れていったり、光軸がずれているとき
 - 明るさの急激な変化が連続しているとき
 - 段差や起伏のある道路を走行しているとき
 - カーブが多い道路を走行しているとき
 - ミラーや標識など反射の強いものが前方にあるとき

⚠ 警告

- レーラーやコンテナなど、先行車両の後部の反射が強いとき
- ヘッドライトが破損または汚れているとき
- パンクやけん引などで車両が傾いているとき
- 次のような原因で、上向きと下向きの切り替わるタイミングが変化することがあります。
 - 対向車または先行車のライトの明るさ
 - 対向車または先行車の向きや動き
 - 対向車または先行車のライトが片側のみ点灯している
 - 対向車または先行車が二輪車
 - 道路状況（カーブやこう配、路面状況など）
 - 乗車している人数や荷物の量

 アドバイス

- ハイビームアシストが正しく作動しなかったり、作動中にメーターにハイビームアシスト表示灯が点灯しないときは、ハイビームアシストが故障しているおそれがあります。日産販売会社で点検を受けてください。
- ハイビームアシスト表示灯
(P.238)

■ ヘッドライトの上向き、下向き切り替え

下向き：

レバーを中立位置にします。

上向き：

ヘッドライト点灯時にレバーを前方に押します。ライトスイッチがAUTOのときは、ハイビームアシスト★が作動します。

パッシング：

スイッチ位置に関係なく、レバーを手前に引きます。



アドバイス

- 対向車があるときや市街地走行などでは下向きにしてください。

■ フォグランプの点灯・消灯

ライトが点灯しているときに使えます。

霧などで視界が悪いときに使います。

- スイッチを回してマークを●の位置にあわせると点灯します。
(メーター内のフォグランプ表示灯が点灯)
- 消灯するときは、OFFに合わせます。
(メーター内のフォグランプ表示灯が消灯)



スイッチの操作 ライトスイッチ

電源ポジションがONのとき使えます。

方向指示器スイッチ

- スイッチを①の位置まで上または下に動かすと、方向指示器のランプが点滅します。
(メーター内の表示灯が点滅)
- 車線変更などのときには、スイッチを②の位置まで上または下に軽く押さえます。
スイッチを押さえている間は点滅し、手を離すと消灯します。
また、スイッチを②の位置まで上または下に押さえたあと、すぐに手を離したときは3回点滅し消灯します。



アドバイス

- 方向指示器のランプとメーター内の方向指示表示灯の点滅が速くなったときは、方向指示器のランプの電球切れなどのおそれがあります。電球を交換してください。
● 電球（バルブ）交換 (P.398)

スイッチの操作

ワイパー・ウォッシャースイッチ

電源ポジションがONのときに作動します。

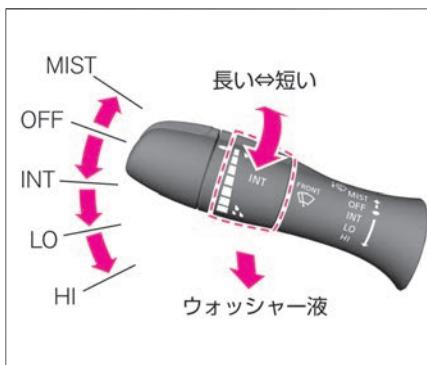
■ ワイパーの使いかた

スイッチを上下に動かします。

スイッチ位置	作動
MIST	1回作動
OFF	停止
INT	間けつ作動
LO	低速連続作動
HI	高速連続作動

ウォッシャーの使いかた

- スイッチを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射しワイパーが数回作動します。



知識

- MISTの位置では、スイッチを押し上げている間ワイパーは作動し、手を離すと自動的にOFF位置に戻り停止します。
- ウォッシャースイッチを操作したあと、ガラスに残ったウォッシャー液をふき取るため、約3秒後に一度ワイパーが作動します。また、ナビゲーションシステムで次の操作をすると、作動・非作動を切り替えることができます。

MENU ⇒ **設定** ⇒ **車両設定** ⇒ **ワイブドリップ**

詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

- 間けつ作動のときは、スイッチを回して作動間隔の長い、短いを調節することができます。
- 間けつ作動のときは、車速に応じてワイパー作動の調節を自動で行います。ナビゲーションシステムで次の操作をすると、車速感知機能のON/OFFを切り替えることができます。

MENU ⇒ **設定** ⇒ **車両設定** ⇒

 知識

 **車速運動間欠ワイパー**

詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

- ライトスイッチがAUTO位置のときにワイパーが数回作動すると、車外の明るさに関係なくライトが点灯します。
 [オートライトシステムについて](#)
(P.298)

スイッチの操作

ワイパー・ウォッシャースイッチ

■ ワイパー アームを起こすとき（ライズアップ機能の使いかた）

1

電源ポジションをONからOFFにします。



2

OFFにしてから1分以内にスイッチを2回連続で素早く(0.5秒以内)上に上げます。



3

ワイパー アームの作動が途中で止まった後、ワイパー アームを起こします。



4

元に戻すときは、ワイパー アームを倒してから、電源ポジションをONにし、ワイパーを1回作動させます。

注意

- 電源ポジションがONでもライズアップ機能を作動させることができます。が、ワイパー アームを起こすとき、思わぬ事故やケガをしないように次のことを必ずお守りください。
 - セレクトレバーが P にあることを確認する。
 - 同乗者が誤ってスイッチ操作しないように注意する。

アドバイス

- ワイパー アームを起こした状態でワイパーを作動させると、破損するおそれがあります。

知識

- **ライズアップ機能**
ワイパー アームを起こすために、ワイパーの作動を途中で止める機能です。寒冷時の駐車やワイパー交換などのときに使用します。

■ ワイパー・ウォッシャーを使うときの注意事項



警告

- 寒冷時は、ガラスに吹きつけられたウォッシャー液が凍結し、視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあります。ウォッシャー液を噴射する前に、ヒーターを使ってガラスを温めてください。また、ウォッシャー液は外気温に合わせた希釈割合にしてください。

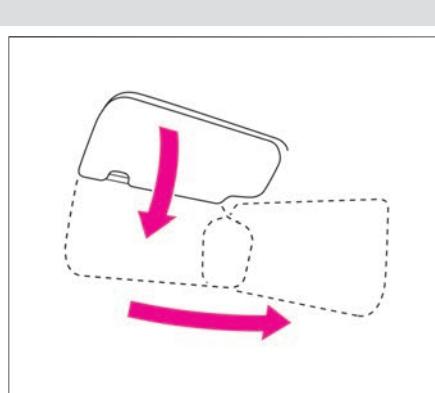


アドバイス

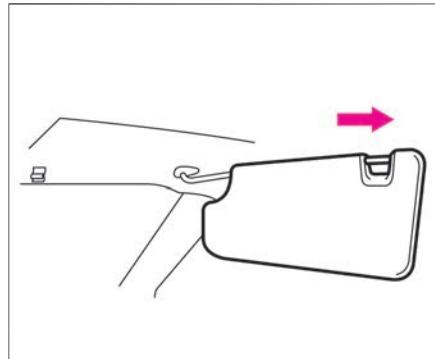
- 雪が降りそうなどきや降雪時にはワイパー アームを起こしておいてください。ワイパーに雪が積もり、破損するおそれがあります。
- ワイパー作動中、雪などの障害物によりワイパーが作動できなくなると、モーター保護のためにワイパーの作動が停止することがあります。その場合は、スイッチをOFFにし障害物を取り除いたあと、モーターが冷えるまで（約1分程度）待ってから、再度スイッチをONにしてください。ワイパーが作動を開始します。
- 凍結などでブレードがガラスに張り付いているときは、作動させないでください。ワイパーが損傷したり、モーターが故障するおそれがあります。
- 窓ガラスが乾いているときは、ウォッシャー液を噴射してからワイパーを使ってください。ガラスが乾いた状態でワイパーを使用すると、ガラスやブレード（ゴム部）を傷つけるおそれがあります。
- ウォッシャー液が出ないときは、そのままで30秒以上作動させないでください。モーターが故障する原因となります。
- ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、日産販売会社にご相談ください。

サンバイザー

- 前方からの日差しを防ぐときは、下に下げて使います。
- 横からの日差しを防ぐときは、下に下げてフックから外し、横にして使います。

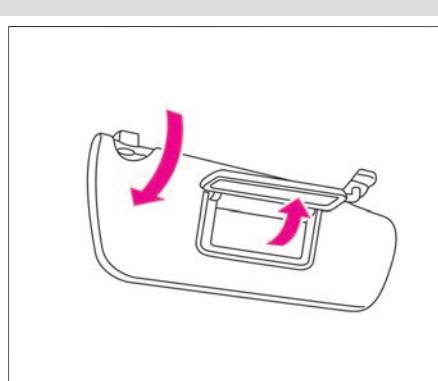


- サンバイザーを横方向に引き出すと、より横からの日差しを防ぐことができます。



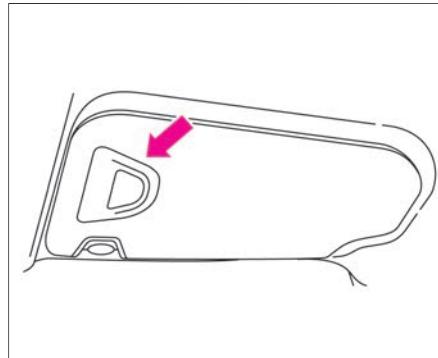
■ 照明付きバニティミラー

- サンバイザー裏側にバニティミラー（鏡）が付いています。
- サンバイザーを下に下げ、ふたを開けて使います。



■ カードホルダー

- 領収書や通行券などを挟みます。



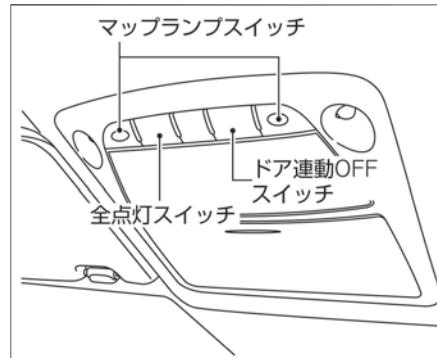
アドバイス

- 炎天下での駐車は車内が大変高温になるため、カードを入れたままにしてください。カードが変形するおそれがあります。

マップランプ

- 次のようにマップランプの点灯・消灯のしかたを変えられます。

スイッチ	点灯・消灯のしかた
全点灯スイッチ	スイッチを押すと、マップランプおよびリヤパーソナルランプが常時点灯します。もう一度押すと消灯します。
ドア連動OFFスイッチ	スイッチを押すと、常時消灯します。
マップランプスイッチ	スイッチを押した方のマップランプが点灯します。もう一度押すと消灯します。



アドバイス

- 電源ポジションがOFFのときは、マップランプを長時間点灯させないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知識

- ドア連動OFFスイッチが押し込まれていないときは、次の条件で点灯します。
 - ドアが開いているとき
 - 電源ポジションをOFFにしてから約15秒間
 - 電源ポジションがOFFのとき、ドアを解錠してから約15秒間
 - 電源ポジションがOFFのとき、ドアを閉めてから約15秒間
- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、室内照明の設定ができます。

MENU ⇒ [設定] ⇒ [車両設定] ⇒

[ドアロック解除時自動ルームランプ点灯]

詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

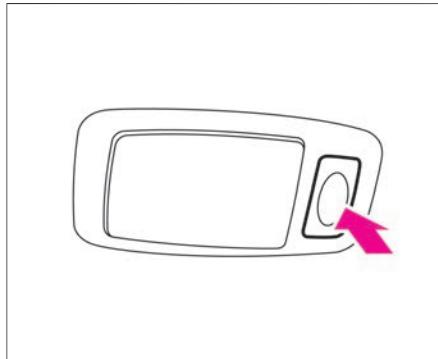
 知識

バッテリーセーバー

- バッテリーあがりを防止するため、
室内照明は15分以上点灯し続ける
と、自動的に消灯します。

■ リヤパーソナルランプ

- スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。



アドバイス

- 電源ポジションがOFFのときは、リヤパーソナルランプを長時間点灯させないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知識

- マップランプのドア運動OFFスイッチが押し込まれていないときは、次の条件で点灯します。
 - ドアが開いているとき
 - 電源ポジションをOFFにしてから約15秒間
 - 電源ポジションがOFFのとき、ドアを解錠してから約15秒間
 - 電源ポジションがOFFのとき、ドアを閉めてから約15秒間
- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、室内照明の設定ができます。

MENU ⇒ **設定** ⇒ **車両設定** ⇒

ドアロック解除時自動ルームランプ点灯

詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

 知識

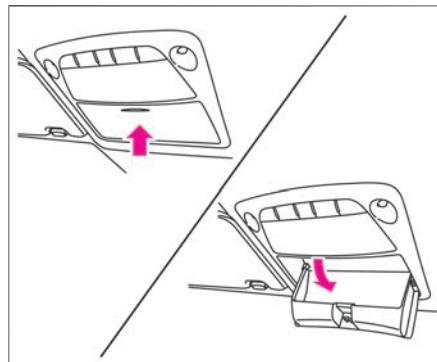
バッテリーセーバー

- バッテリーあがりを防止するため、室内照明は15分以上点灯し続けると、自動的に消灯します。

■ オーバーヘッドコンソールについて

サングラスなどを収納することができます。

- 開けるときは、ふたを押します。
- 閉めるときは、ロックするまで押し戻します。

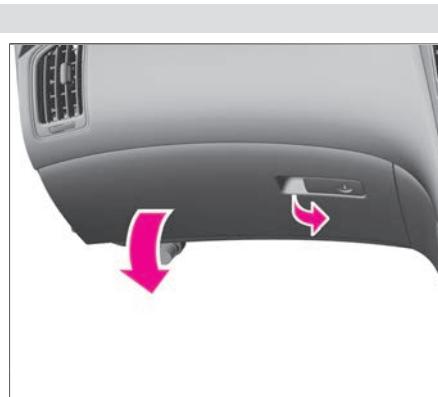


注意

- 開閉は停車中にを行い、開けたまま走行しないでください。また、重量のある物を入れないでください。落下して思わぬケガにつながるおそれがあります。
- 炎天下での駐車は大変高温になりますので、サングラス、メガネ、ライターなどを入れたままにしないでください。変形するおそれがあります。

■ 開閉のしかた

- 開けるときは、ノブを手前に引きます。
- 閉めるときは、ロックするまでふたを押します。

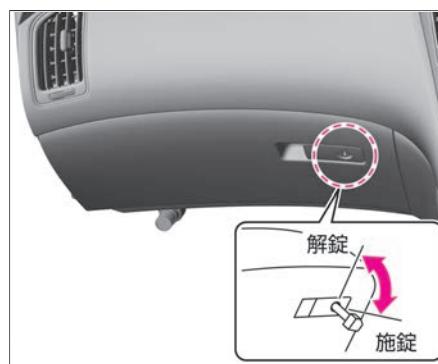


注意

- グローブボックスを開けたまま走行しないでください。ブレーキをかけたとき収納した物が飛び出したり、ふたに当たるなどして、思わぬケガをするおそれがあります。
- ふたを開けるときは、ゆっくり開けてください。ふたを全開にしたとき、身体に当たるおそれがあります。

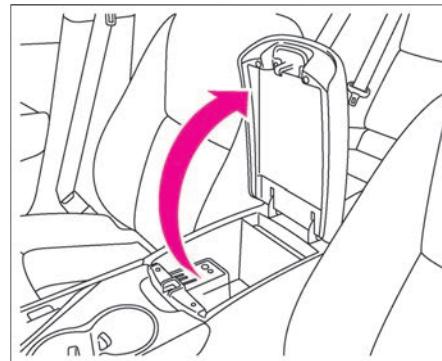
■ 施錠・解錠のしかた

- メカニカルキー（P.336）で施錠・解錠します。
- メカニカルキーは半分ぐらい差し込んだ状態で止まります。



■ センターコンソールボックスについて

- 開けるときは、ロックノブを引き上げながら、ふたを開けます。
- 閉めるときは、ロックするまでふたを押します。



⚠ 注意

- コンソールボックスを開けたままにしないでください。開けたふたで思わぬケガをするおそれがあります。

📖 知識

- コンソールボックス内には、電源ソケット、USBコネクタ、外部機器の入力端子（オーディオ、ビデオ）、SDカード挿し込み口があります。USBコネクタ、外部機器の入力端子（オーディオ、ビデオ）、SDカード挿し込み口については別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

⇒ 電源ソケット (P.325)

■ カップホルダー（前席）

- センターコンソールにあります。



⚠ 警告

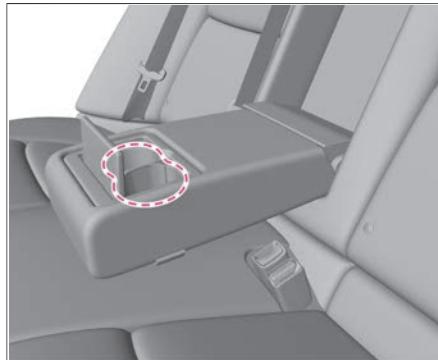
- 運転中は、信号待ちなどの停車中に使ってください。走行中に飲み物を出し入れすると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 飲物の容器によっては確実に固定されないことがあるため、こぼさないよう注意してください。
- 車室内のスイッチや画面などに飲み物をこぼさないようにしてください。故障や火災のおそれがあります。

■ カップホルダー（後席）

- リヤセンターアームレストにあります。
- ふたを開けて使います。
- 使わないときは、ふたを閉めます。



■ ボトルホルダー

- ボトルホルダーは、運転席および助手席のドアポケットにあります。



⚠ 警告

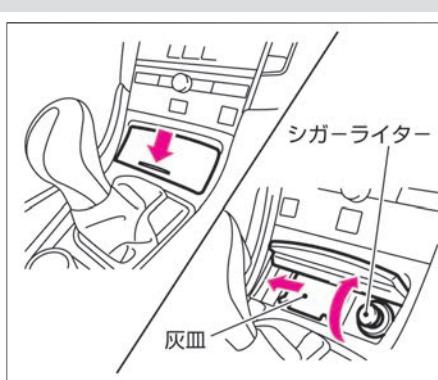
- 運転中は、信号待ちなどの停車中に使ってください。走行中に飲み物を出し入れすると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ピンなどの硬いものは入れないでください。側面衝突などの事故のとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 飲物の容器によっては確実に固定されないことがあるため、こぼさないよう注意してください。
- 車室内のスイッチや画面などに飲み物をこぼさないようにしてください。故障や火災のおそれがあります。

■ 前席用灰皿

- センターコンソール前方にあります。
- 開けるときは、ふたを押します。
- 閉めるときは、ふたを押し戻します。
- 取り外すときは、灰皿内側のケースを持って引き出します。
- 取り付けるときは、そのまま押し込みます。



注意

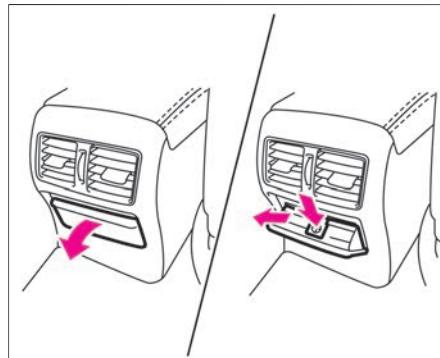
- 灰皿を使ったあとはマッチやタバコの火が消えていることを確認し、ふたを必ず閉めてください。また、紙くずなど燃えやすい物は入れないでください。出火するおそれがあります。

アドバイス

- 灰皿内側のケースを水洗いしたときは、必ず完全に乾かしてから取り付けてください。水で濡れたまま取り付けると故障の原因になります。

後席用灰皿

- コンソールボックスの後ろにあります。
- ふたを引いて開けます。
- 取り外すときは、火消しの部分を押さえながら引き出します。
- 取り付けるときは、灰皿の下側を先に入れ、火消しの部分を押さえながら押し込みます。



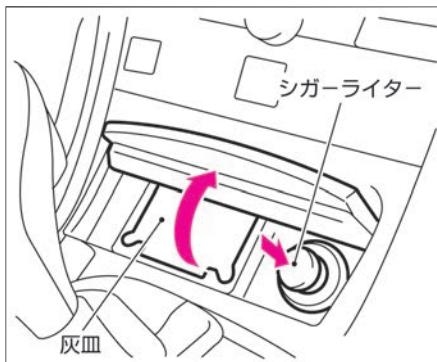
注意

- 灰皿を取り外すために火消しの部分を押さえるときは、火消しの部分が確実に冷えていることを確認してください。タバコの火を消した直後は高温になるため、すぐに触るとやけどのおそれがあります。

■ シガーライターについて

電源ポジションがACCまたはONのとき使えます。

- ① 前席用灰皿のふたを開けます。
- ② シガーライターを押し込み、手を離して約10秒待ちます。
- ③ 自動的に元の位置に戻ったら引き抜いて使います。



⚠ 注意

- シガーライターは信号待ちなどの停車中に使ってください。走行中に使うと前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シガーライターの金属部分に触れないでください。やけどをするおそれがあります。
- シガーライターを押し込んだまま押さえないでください。過熱して焼損するおそれがあります。
- 他車のシガーライターを差し込んでください。また、シガーライターの差し込み口からは、日産純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。焼損や火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シガーライターを使用したあとは、必ずソケットへ戻してください。センター・コンソールなどに放置すると、焼損や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

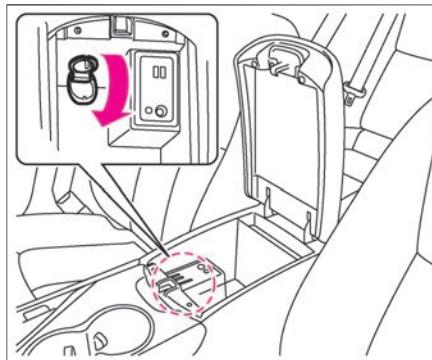
 アドバイス

- 30秒たっても自動的に戻らないときは、元の位置まで引き戻し、日産販売会社で点検を受けてください。

カーアクセサリーの電源をとるときに使います。
電源ポジションがACCまたはONのとき使えます。

電源ソケットについて

- センターコンソールボックス内にあります。
- ふたを開けて使います。
- 使わないときは、ふたを閉めます。
- 容量は、12V（ボルト）、10A（アンペア）、120W（ワット）です。
- プラグを挿入したり抜いたりするときは、使用機器側の電源スイッチをOFFにするか、電源ポジションをOFFにしてください。



注意

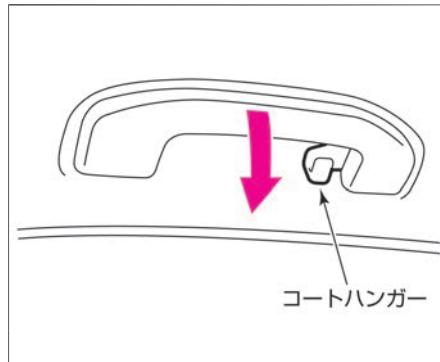
- 2マツソケットなどでタコ足配線をしないでください。
- 安全のため、消費電力120W以下のものを使ってください。
- プラグをソケットの奥まできちんと挿入して使ってください。挿入が不完全だと、発熱し車両のヒューズが切れる場合があります。
- 使用中や使用直後はソケットやプラグが熱くなっていることがあるため、注意してください。
- シガーライターをソケットに差し込まないでください。
- ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしないでください。

アドバイス

- バッテリー上がりを防止するため、エンジンを始動した状態で使用してください。また、長時間使ったり、エアコン、ヘッドライト、リヤデフオッガーなどを同時に使わないでください。

■ アシストグリップ／コートハンガーについて

- アシストグリップは前席および後席左右にあります。
- 後席左右にはコートハンガーが付いています。



⚠ 注意

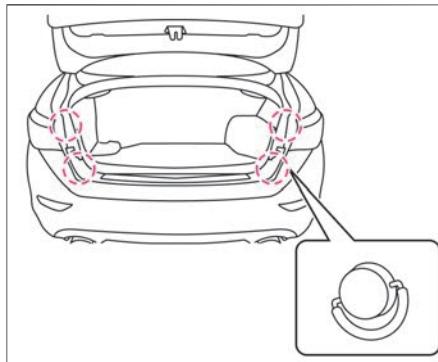
- コートハンガーにハンガーなど先のとがった物をかけないでください。SRSエアバッグが作動したときに飛ばされて、思わぬ傷害につながるおそれがあります。

🚗 アドバイス

- コートハンガーには1kg以上の物をかけないでください。

トランクフックについて

- 荷物の固定用としてネットなどをかけるときに使います。

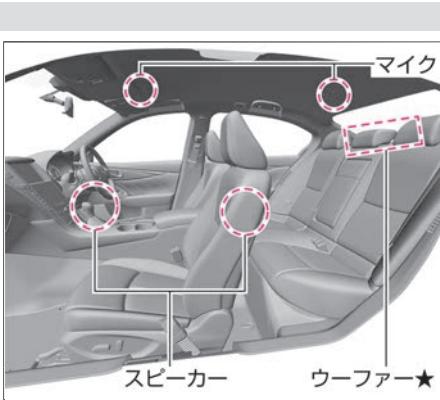


アドバイス

- フックには大きな力がかかるないようにしてください。破損するおそれがあります。
- 3kg以上の物をかけないでください。フックが破損するおそれがあります。

■ アクティブ・ノイズ・コントロール

- 天井のマイクでエンジンのこもり音を検知し、スピーカーから自動的にこもり音を打ち消す音を出すことで車内の静謐性を高めます。



アドバイス

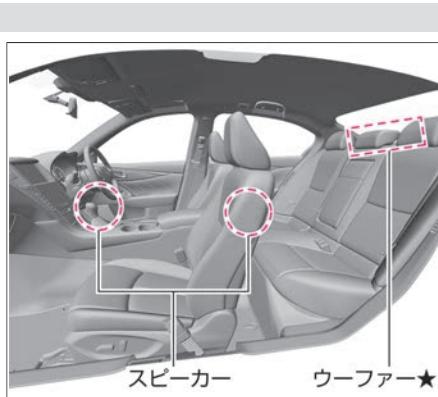
- アクティブ・ノイズ・コントロールを正常に作動させるために以下のことをお守りください。
 - スピーカーの周辺に物を置かない
 - マイクの穴をふさがない
 - スピーカー（BOSE®サウンドシステム付車はウーファーも含む）、パワーアンプなどのオーディオ機器を交換または改造しない
 - スピーカーやマイク取り付け部周辺を改造（デッドニングなど）しない

知識

- 車両前方のマイクはマップランプにあります。
- スピーカーは全ドアにあります。
- マイクおよびマイク周辺をたたくと、スピーカーから音が出ることがありますが、異常ではありません。

■ アクティブ・サウンド・コントロール

- 走行時、エンジン回転数やドライブモードに応じた音をスピーカーから出すことで、車内で聞こえるエンジンサウンドの音質を高めます。



アドバイス

- アクティブ・サウンド・コントロールを正常に作動させるために次のことをお守りください。
 - スピーカーの周辺に物を置かない
 - スピーカー（BOSE®サウンドシステム付車はウーファーも含む）、パワーアンプなどのオーディオ機器を交換または改造しない
 - スピーカー取り付け部周辺を改造（デッドニングなど）しない

知識

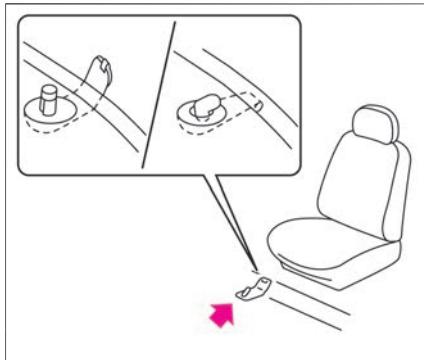
- スピーカーは全ドアにあります。

室内装置 フロアカーペット

この車（年式）専用のフロアカーペットが設定されています。
床の上にしっかりと固定して正しく使用してください。

固定のしかた

- 床面には日産純正フロアカーペット用の固定クリップが付いています。
- フロアカーペットを床の形状に合わせて敷き、取り付け穴に固定クリップのピンを通して確実に固定します。
- 車種により、固定クリップ・ピンの形状や、各シートごとに設定されている数量は異なります。詳しい固定方法は、日産販売会社にお問い合わせください。



警告

- この車（年式）専用のフロアカーペットを、床の上にしっかりと固定して正しく使用してください。フロアカーペットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出る、またはブレーキが効きづらくなるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 運転席にフロアカーペットを敷くときは、次のことをお守りください。
 - 日産純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアカーペットは使用しない
 - フロアカーペットでペダルを覆わない
 - フロアカーペットを重ねて敷かない
 - フロアカーペットがずれないよう固定クリップで確実に固定する
 - 運転席専用のフロアカーペットを使用する
 - フロアカーペットを前後さかさまにしたり、裏返して使用しない
- 運転する前にフロアカーペットが正しく固定されていることを定期的に確認し、洗車後は必ず確認してください

 警告

さい。

- 運転する前、電源ポジションがOFFの状態でセレクトレバーが**P**のときに各ペダルをいっぱいに踏み込み、フロアカーペットと干渉しないで運転に支障がないことを確認してください。

MEMO

トラブルがおきたときは

タイヤのパンク

ランフラットタイヤ	P.334
-----------	-------

ドア／トランクが開かない

インテリジェントキーでドアが開かない	P.336
--------------------	-------

始動しないとき

インテリジェントキーで始動できない	P.337
-------------------	-------

ジャンプスタートのしかた	P.338
--------------	-------

各種警告機能について

警告灯がついたときは	P.346
------------	-------

ブザー（警報音）が鳴ったときは	P.351
-----------------	-------

くもりが取れない

窓ガラスのくもりの取りかた	P.354
---------------	-------

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときの対処方法	P.356
------------------	-------

動かないとき

セレクトレバーが動かない	P.358
--------------	-------

雪道やぬかるみからの脱出のしかた	P.359
------------------	-------

けん引について	P.360
---------	-------

故障したとき

発炎筒の使いかた	P.364
----------	-------

故障したときの対処方法	P.365
-------------	-------

ランフラットタイヤについて

この車両はランフラットタイヤを装着しているため、スペアタイヤを搭載していません。ランフラットタイヤは、パンクした場合でも一時的に走行することができます。

- パンクしたときは、タイヤ空気圧警告灯（☞P.235）の点灯およびメーター内のディスプレイの警告表示（☞P.255）と合わせて警報が鳴ります。
- 次のことを守って走行し、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
 - 急加速、急ハンドル、急ブレーキを避ける
 - 時速80km/h以下で走行する
 - タイヤ交換まで150km以上走行しない
 - 段差などの乗り越えに注意する
- タイヤの損傷が激しいときは、タイヤを交換してください。

！ 注意

- パンクした状態での走行は一時的な応急用です。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- パンクした状態での走行中、異常な音や振動を感じたときは、ただちに安全な場所へ停車し、日産販売会社へご連絡ください。
- 走行中に異常を感じる場合はトレー ラーに車載してください。
- パンクした状態での走行可能距離は外気温や路面状況、その他の走行条件により変化します。
- 正常時に比べ、走行安定性が損なわれるため、規定の速度内においても急加速や急ブレーキ、急旋回は避け注意して走行してください。
- パンク修理剤は使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが故障する原因になります。
☞タイヤ空気圧警報システム（P.382）
- パンクした状態で、タイヤチェーンは使用しないでください。
- パンクした状態で、洗車機に入れな いでください。車が洗車機と干渉し、損傷するおそれがあります。

 知識

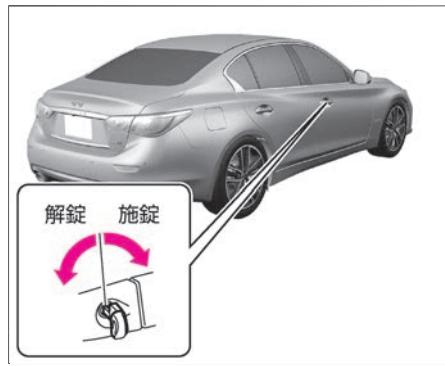
- メーター内のディスプレイで4輪のタイヤ内圧を確認することができます。
ドライブコンピューター (→P.250)

ドア／トランクが開かない インテリジェントキーでドアが開かない

メカニカルキーによる施錠・解錠

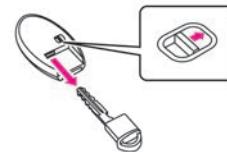
運転席ドアにある鍵穴にメカニカルキーを差し込んで回します。

- 車両前方にキーを回すと施錠されます。
- 車両後方にキーを回すと解錠されます。



知識

- メカニカルキーはインテリジェントキーに内蔵されています。

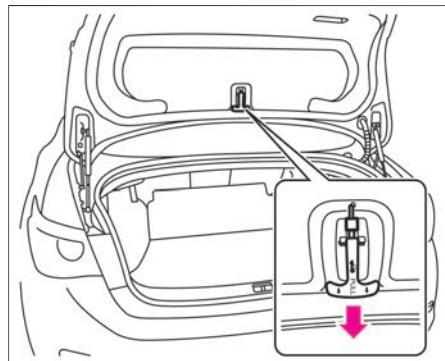


トランクの開けかた

バッテリー上がりなどにより、トランクを開けられなくなったときは、緊急用オーブナーで開けることができます。

② 後席シートの調節 (P.50)

手が届かない場合は、後席シートを取り外す必要がありますので、日産販売会社にご相談ください。



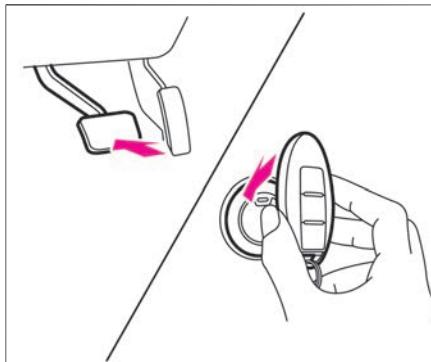
始動しないとき

インテリジェントキーで始動できない

インテリジェントキーの電池が切れたときや、使用環境によりインテリジェントキーと車両の通信が正常に行われていないときは、次の手順で始動してください。

始動のしかた

- ① ブレーキペダルを踏み、インテリジェントキーのロゴマーク裏面をエンジンスイッチに接触させます。
(ブザーが“ピピッ”と鳴ります。)
- ② ブザーが鳴ってから10秒以内に、ブレーキペダルを踏んだままエンジンスイッチを押すと、電源ポジションが切り替わります。



アドバイス

- 左記の手順で始動できない場合は、早めに日産販売会社に連絡してください。

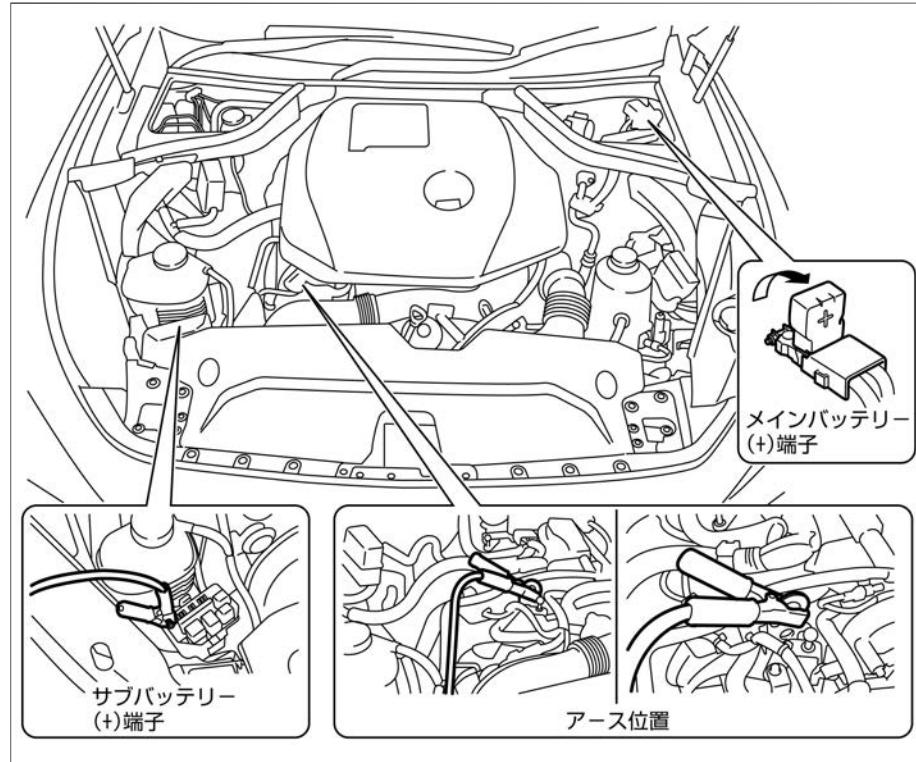
知識

- 停止操作は通常と同じ手順です。
- ドアの施錠・解錠は、メカニカルキー(☞P.336)を使って行ってください。
- インテリジェントキーの電池が切れたときは、早めに電池を交換してください。
☞ インテリジェントキーの電池交換(P.274)

始動しないとき ジャンプスタートのしかた

バッテリーがあがり、エンジンの始動ができなくなったときは救援車を依頼し、ブースターケーブル（別売り）をつないで始動してください。この車両は2つのバッテリーを使用しており、どちらかのバッテリーがあがるとエンジンを始動できません。

■ ジャンプスタートについて



トラブルがおきたときは

注意

- ブースターケーブルのワニグチクリップは、車体に触れたり、他のワニグチクリップと接触しないように注意してください。
- ブースターケーブルは、エンジン始動時の振動で外れたりしないよう、確実につないでください。
- ブースターケーブルをつなぐときや外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まないように注意してください。

アドバイス

- この車両は、メインバッテリーとサブバッテリーの2つのバッテリーを使用しています。どちらかのバッテリーがあがるとエンジンを始動できません。バッテリーがあがったときは、メインバッテリーから処置をしてください。
- 押しがけでの始動はできません。
- 救援車には12V（ボルト）バッテリー仕様の車両を使用してください。
- この車両には、充放電能力と寿命性能を強化したアイドリングストップ付車専用のバッテリーをご使用くだ

始動しないとき ジャンプスタートのしかた

アドバイス

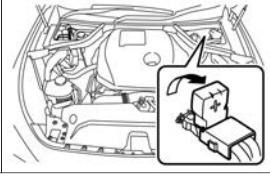
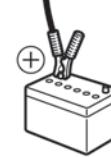
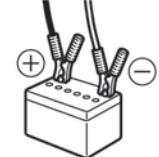
さい。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップ機能が正常に作動しなくなる原因となります。

- バッテリーはお客様の車に適合した日産純正部品をおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。
- バッテリーがあがるとステアリングロックの解除が行えず、電源ポジションが切り替わらなくなります。すみやかにバッテリーを充電してください。

始動しないとき ジャンプスタートのしかた

トラブルがおきたときは

処置のしかた（メインバッテリー）

1	自車と救援車の電源ポジションをOFFにし、エンジンフードを開けます。 ➡ エンジンスイッチ (P.65)	
2	バッテリーカバーを外し、ブースターケーブルを自車のメインバッテリーの(+)端子に接続します。	
3	手順2のケーブルの反対側を救援車のバッテリーの(+)端子に接続します。	
4	もう1本のブースターケーブルを救援車のバッテリーの(-)端子に接続します。	

⚠ 警告

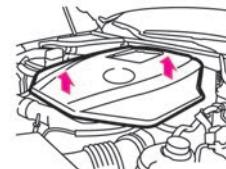
- バッテリーを充電するときは換気を十分に行い、火気は近づけないでください。バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。万一、付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診療を受けてください。
- ブースターケーブルをつなぐときは、以下のことを必ずお守りください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
 - ブースターケーブルを正しい順番と位置でつなぐ
 - ブースターケーブルを自車バッテリーの(-)端子に直接つながない
 - ブースターケーブルの(+)端子と(-)端子を接触させない



前のページから

5

エンジンカバーを上に引き上げて取り外します。



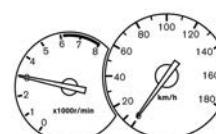
6

手順4のケーブルの反対側を自車の車体（バッテリーから離れたステーなど）に接続します。



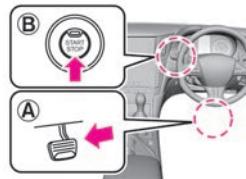
7

救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。



8

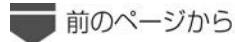
ブレーキペダルⒶをしっかりと踏みながら、エンジンスイッチⒷを1回押します。



次のページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

始動しないとき ジャンプスタートのしかた



前のページから

9

エンジンが始動したらブースターケーブルをつないだときと逆の手順で外し、カバー類を取り付けます。

アドバイス

- エンジンが始動できない場合は、サブバッテリーあがりが考えられます。サブバッテリーにブースターケーブルをつなぎエンジンを始動してください。

☞ 処置のしかた（サブバッテリー）
(P.343)

処置のしかた（サブバッテリー）

1

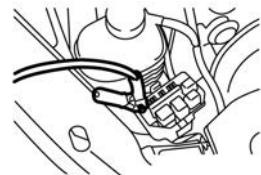
自車と救援車の電源ポジションをOFFにし、エンジンフードを開けます。

➡ エンジンスイッチ (P.65)



2

ブースターケーブルを自車のヒューズボックスの(+)端子に接続します。



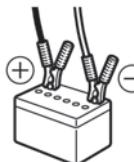
3

手順2のケーブルの反対側を救援車のバッテリーの(+)端子に接続します。



4

もう1本のブースターケーブルを救援車のバッテリーの(-)端子に接続します。



⚠ 警告

- バッテリーを充電するときは換気を十分に行い、火気は近づけないでください。バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。万一、付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診療を受けてください。
- ブースターケーブルをつなぐときは、以下のことを必ずお守りください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
 - ブースターケーブルを正しい順番と位置でつなぐ
 - ブースターケーブルを自車バッテリーの(-)端子に直接つながない
 - ブースターケーブルの(+)端子と(-)端子を接触させない

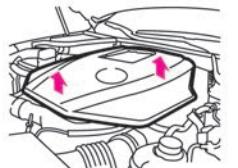
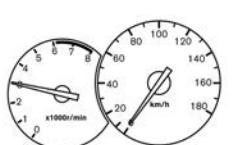
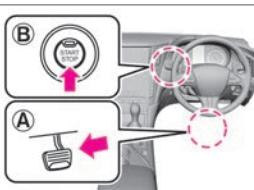
次のページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

始動しないとき ジャンプスタートのしかた

トラブルがおきたときは

前のページから

5	エンジンカバーを上に引き上げて取り外します。	
6	手順4のケーブルの反対側を自車の車体（バッテリーから離れたステーなど）に接続します。	
7	救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。	
8	ブレーキペダルⒶをしっかりと踏みながら、エンジンスイッチⒷを1回押します。	

次のページに続く

始動しないとき ジャンプスタートのしかた

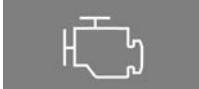
 前のページから

9

エンジンが始動したらブースターケーブルをつないだときと逆の手順で外し、カバー類を取り付けます。

各種警告機能について 警告灯がついたときは

運転中に警告灯・表示灯が点灯または点滅したときは、次の対処方法に従ってください。
車両故障のおそれがない表示灯の説明は、(●P.237)をお読みください。

名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
故障警告灯 (MIL) 	<ul style="list-style-type: none">正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。電源ポジションがONのとき、エンジン電子制御システムに異常があると点灯または点滅します。	<ul style="list-style-type: none">点灯または点滅したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。
充電警告灯 	<ul style="list-style-type: none">正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。電源ポジションがONのとき、バッテリーの充電系統に異常があると点灯します。	<ul style="list-style-type: none">点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。
ブレーキ警告灯 	<ul style="list-style-type: none">正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。(パーキングブレーキをかけているときは消灯しません)電源ポジションがONのとき、次の場合に点灯します。<ul style="list-style-type: none">パーキングブレーキをかけたときブレーキ液が不足しているときブレーキシステムに異常があるとき	<ul style="list-style-type: none">パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除します。パーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ただちに安全な場所に停車して、日産販売会社に連絡してください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。ブレーキ液が正常でABS警告灯と同時に点灯したときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
ABS警告灯 	<ul style="list-style-type: none">正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。ABSのシステムに異常があると点灯します。	<ul style="list-style-type: none">電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

各種警告機能について

警告灯がついたときは

名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
シートベルト 警告灯 	<ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションがONのとき、シートベルトを着用していないと点灯します。 点灯したまま走行すると、シートベルト非着用警報（シートベルトリマインダー）が鳴ります。 シートベルト警告灯は各座席ごとに点灯し、後席のシートベルト警告灯は、前席灰皿の上部にあります。 後席シートベルトを外すと前席灰皿上部の警告灯が点灯します。 	<ul style="list-style-type: none"> シートベルトを着用してください。
燃料残量 警告灯 	<ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションがONのとき、燃料の残量が少ないとき点灯します。 	<ul style="list-style-type: none"> すみやかに指定の燃料を補給してください。
SRSエアバッグ 警告灯 	<ul style="list-style-type: none"> 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、約7秒後に消灯します。 電源ポジションがONのとき、SRSエアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると、点灯または点滅を続けます。 	<ul style="list-style-type: none"> すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

トラブルがおきたときは

各種警告機能について 警告灯がついたときは

トラブルがおきたときは

名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
VDC警告灯 	<ul style="list-style-type: none"> 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 VDC作動中に点滅します。 電源ポジションがONのとき、次のシステムに異常があると点灯します。 <ul style="list-style-type: none"> – VDC – 左右制動力分配機能 – ブレーキアシスト機能 	<ul style="list-style-type: none"> 点灯中は、左記のシステムとコーナリングスタビリティーアシスト機能およびアクティブブレーンコントロール★の作動は停止しますが、それらのシステムのない普通の車として走行できます。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
ポップアップエンジン フード警告灯 	<ul style="list-style-type: none"> 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 電源ポジションがONのとき、ポップアップエンジンフードの電子制御システムに異常があると点灯します。 	<ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
パワーステアリング 警告灯 	<ul style="list-style-type: none"> 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。 パワーステアリングのシステムに異常があると点灯します。 	<ul style="list-style-type: none"> すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 点灯しているときは、パワーステアリングは作動しませんが、マニュアルステアリングの性能は確保されています。この場合は、ハンドルの操作力が重くなります。

各種警告機能について 警告灯がついたときは

名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
タイヤ空気圧 警告灯 	<ul style="list-style-type: none"> 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 タイヤ空気圧警報システムに異常があると、約1分間点滅したあと点灯します。 タイヤ空気圧が低下すると点灯し、メーター内のディスプレイに警告が表示されます。 タイヤがパンクすると点灯し、メーター内のディスプレイに警告が表示され、タイヤ空気圧警報が約10秒間鳴ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● タイヤ空気圧警報システムに異常があったときは、日産販売会社で点検を受けてください。 ● タイヤ空気圧が低下したときは、安全な場所に停車し、タイヤを確認してください。 ● パンクではなく、タイヤ空気圧が低下しているときは、指定の空気圧に調整してください。 ● タイヤがパンクしたときは、すみやかに日産販売店で点検を受けてください。 ● タイヤ空気圧の調整後は、必ずシステムのリセット操作をしてください。
エマージェンシーブレーキ警告灯 	<ul style="list-style-type: none"> 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。 エンジンを始動しても点灯し続けるときは、次のことが考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> – ナビゲーションシステムで、エマージェンシーブレーキをOFFにしている – VDCをOFFにしている – 周辺の電波源の影響を受けているとき – センサーの汚れなどで、エマージェンシーブレーキが一時的に作動できない状態になっている – エマージェンシーブレーキのシステムに異常が発生している 	<ul style="list-style-type: none"> ● ナビゲーションシステムでエマージェンシーブレーキをONにすると消灯します。 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。 ● 一時的に作動できない状態になっていないか確認してください。 ● VDCをONにしてください。 ● 上記のことを確認しても点灯しているときは、日産販売会社で点検を受けてください。

各種警告機能について 警告灯がついたときは

名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
マスター ウォーニング	 <ul style="list-style-type: none">メーターのディスプレイに警告メッセージが表示されたときに同時に点灯します。	<ul style="list-style-type: none">警告メッセージを確認し、それぞれの対処方法に従ってください。警告が表示されたときは、すみやかに適切な処置をしてください。放置すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

各種警告機能について

ブザー（警報音）が鳴ったときは

車両盗難などを防ぐため、車内外でブザー（警報音）が鳴ることがあります。

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車外 ピピピピピ…	ピピピピピ…	ドアハンドルのリクエストスイッチを押したとき	<ul style="list-style-type: none">● 電源ポジションはOFFになっているか● インテリジェントキーを車室内またはトランク内に置き忘れていないか● いずれかのドアが半ドアになっていないか● ドアを閉める前にリクエストスイッチを押していないか
		インテリジェントキーのドア施錠スイッチを押したとき	<ul style="list-style-type: none">● いずれかのドアが半ドアになっていないか● ドアを閉める前に施錠スイッチを押してはいないか
		ドアを閉めたとき	<ul style="list-style-type: none">● 無意識にリクエストスイッチを押していないか
	ピッピッピッ	ドアを閉めたとき	<ul style="list-style-type: none">● 電源ポジションがACCまたはONのまま、インテリジェントキーが車外に持ち出されていないか

各種警告機能について ブザー（警報音）が鳴ったときは

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車外	ピー	ドアを閉めたとき	<ul style="list-style-type: none"> セレクトレバーがPになっているか
		トランクを閉めたとき	<ul style="list-style-type: none"> インテリジェントキーをトランク内または車内に置き忘れていないか
	キー(金属音)	走行中にブレーキペダルを踏んだとき	<ul style="list-style-type: none"> ディスクブレーキのパッド(摩擦材)が摩耗していないか <ul style="list-style-type: none"> 金属音が発生したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。そのまま走行を続けると、ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。
車室内	ローン、ローン、ローン…	エンジンスイッチを押したとき	<ul style="list-style-type: none"> 運転席ドアが開いていないか
		ドアを閉めたとき	<ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションがACCまたはONのまま、インテリジェントキーが車外に持ち出されていないか
	ピピッピピッピピッ…	エンジンスイッチを押したとき	<ul style="list-style-type: none"> インテリジェントキーを携帯しているか <ul style="list-style-type: none"> インテリジェントキーを携帯してもブザーが鳴るときは、インテリジェントキーの電池を交換してください。
		運転席ドアを開けたとき	<ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションがONのままになっていないか セレクトレバーがPになっているか

ブザー（警報音）が鳴ったときは

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車室内	ピー	発進または停車させようとしたとき	<ul style="list-style-type: none"> ● ソナーセンサー周辺に雨、雪、泥などが付着していないか <ul style="list-style-type: none"> - 付着しているときは、取り除いてください。 ● ソナー機能が作動していないか <ul style="list-style-type: none"> - アラウンドビューモニター画面の  を押すと、一時的に機能を停止することができます。 - ソナー機能の取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書「カメラシステム、ETC ⇒ アラウンドビューモニター ⇒ カメラ補助ソナー機能」の項目をお読みください。

くもりが取れない 窓ガラスのくもりの取りかた

フロントの窓ガラスがくもるときは、デフロスター スイッチを押します。
電源ポジションがONのとき使えます。

■ デフロスター スイッチ

- スイッチを押すとデフロスターから風が吹き出し、吸い込み口が外気導入になります。
(表示灯が点灯)
- 止めるときは、もう一度スイッチを押します。
(表示灯が消灯)



⚠ 注意

- デフロスター スイッチをONにしているときはエアコンの設定温度を低くすると、フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

🚗 アドバイス

- デフロスター スイッチをONにしているときは、内気循環にしないでください。くもりが取れにくくなります。

📖 知識

- エアコンがOFFのときは、デフロスター スイッチを押すとエアコンも自動的に作動します。
- 早くくもりを取りたいときは、風量を強くしてください。
風量の調節のしかたは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「エアコン、オーディオ」の章をお読みください。

くもりが取れない 窓ガラスのくもりの取りかた

リヤの窓ガラスがくもるときは、リヤデフォッガースイッチを押します。
電源ポジションがONのときに使えます。

■ リヤデフォッガースイッチ

- スイッチを押すと約15分間作動します。
(表示灯が点灯)
- 止めるときは、もう一度スイッチを押します。
(表示灯が消灯)



アドバイス

- 連続して長時間使用しないでください。消費電力が大きいためバッテリーあがりの原因になります。

知識

- リヤデフォッガースイッチを押すと、ドアミラーヒーターも同時に作動します。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- ・水温計がオーバーヒートの範囲 (☞P.224) を示したとき
- ・エンジンルームのすき間から蒸気が出ているとき

処置のしかた

1	ただちに安全な場所に停車します。	
2	エンジンをかけたままエンジンフードを開け、風通しをよくしてエンジンを冷やします。 万一、冷却ファンが回っていないときは、ただちにエンジンを停止し、自然冷却してください。	
3	水温計がオーバーヒートの範囲 (☞P.224) より下がったら、エンジンを止めしばらく待ちます。 エンジンが十分冷えてから冷却水の量、ホースなどからの水漏れを点検してください。	
4	冷却水が不足しているときは、加圧式ラジエーターリザーバータンクに冷却水を補充してください。 補充後は、しっかりキャップを閉めてください。	

警告

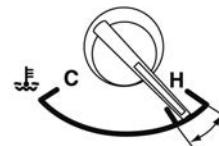
- エンジンルーム内は高温になっているため、エンジンフードを開けるときは十分に注意してください。やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- 蒸気が出ているときは、エンジンフードを開けないでください。やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
エンジンを止め、蒸気が出なくなるまで待ち、エンジンフードを開けてください。
- エンジンが十分に冷えていないときは、ラジエーターやリザーバータンクのキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が噴き出し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。



 前のページから

5

走行中、再度水温計がオーバーヒートの範囲を示したときは、手順1～手順4の作業を繰り返し行ってください。



6

早めに日産販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

- 応急的に水だけを補充したときは、できるだけ早くエンジンクーラントを交換してください。

動かないとき

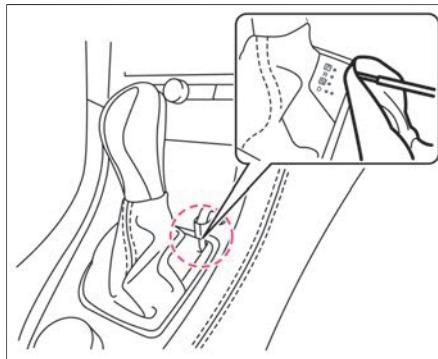
セレクトレバーが動かない

■ シフトロックの解除のしかた

万一セレクトレバーを P から動かせないときには、

- ① 安全のためパーキングブレーキをかけ、ブレーキペダルを踏み続けます。
- ② お手持ちのマイナスドライバーなどでふたを外します。
傷つきを防ぐため、ドライバーに布などを当てて外してください。
- ③ メカニカルキーでシフトロック解除ボタンを押しながらセレクトレバーのボタンを押して、セレクトレバーを動かします。

☞ メカニカルキーによる施錠・解錠
(P.336)



アドバイス

- セレクトレバーを P から動かせないときは、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

動かないとき 雪道やぬかるみからの脱出のしかた

砂地、雪道、ぬかるみなどから抜け出せなくなったときは、次の方法で脱出してください。

1	VDC OFFスイッチを押して、VDCをOFFにします。	
2	車両の前後に障害物が無いことを確認し、ハンドルを左右に回し、前輪の周囲をならします。 後輪周辺の雪や土を取り除き、必要に応じてタイヤの下に木材などをそえてください。	
3	ゆっくりとアクセルペダルを踏み、前進または後退します。 周囲の安全を確認したうえで、前進と後退を繰り返してください。	

⚠ 警告

- 周囲の人や物との衝突を避けるため、前進と後退を繰り返すときは、周囲に何もないことを確認してください。特に脱出の瞬間は、車両が前方または後方に飛び出すおそれがあります。
- 必要以上にアクセルペダルを踏み込まないでください。急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ぬかるみ、砂地、積雪路、側溝などから脱出すると、過度にタイヤを空転させると、タイヤがバースト（破裂）したり駆動部品の異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

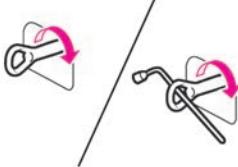
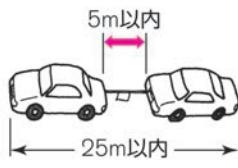
アドバイス

- 数回試しても脱出できないときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに連絡してください。

動かないとき けん引について

けん引が必要なときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに依頼してください。

他車にけん引してもらうとき

1	先の細いお手持ちの工具を布などで覆い、フロントバンパーのカバーの溝に差し込んでカバーを外します。	
2	ホイールナットレンチを使って、けん引フックを取り付けます。  工具類の格納場所 (P.368)	
3	自車および他車のけん引フックにロープを掛け、ロープ中央に30cm×30cm以上の白い布を取り付けます。 ロープをかけるときは、できるだけ同じ側で水平になるように掛けてください。	
4	エンジンを始動させ、セレクトレバーを N にし、パーキングブレーキを解除します。 エンジンが始動できないときは、電源ポジションをACCまたはONにしてください。	

トラブルがおきたときは

⚠ 警告

- 電源ポジションがLOCKでバッテリーがあがると、ステアリングロックの解除ができなくなるため、このままの状態でけん引しないでください。けん引するときは救援車のバッテリーとつなぎ、電源ポジションをACCまたはONにしてハンドル操作ができる状態で行ってください。また、けん引中は電源ポジションをLOCKにしないでください。ハンドル操作ができなくなり危険です。

⚠ 注意

- エンジンが停止していると、ブレーキやパワーステアリングの倍力装置が働かなくなるため、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作力が重くなりますので注意してください。
- 長い下り坂では、ブレーキが過熱して効かなくなり、事故につながるおそれがあります。このような場所でけん引するときは、レッカー車で引いてもらってください。
- けん引フックに指定以外のフックは絶対に使わないでください。フック

⚠ 注意

- 部が破損するおそれがあります。
- 前輪を上げてけん引するときは、電源ポジションをONにしないでください。VDCが作動しブレーキがかかることがあります。

🚗 アドバイス

- けん引してもらうときは、速度30km/h以下、距離30km以内にしてください。高速走行や長距離走行をすると、トランスマッisionが破損するおそれがあります。できるだけレッカー車、またはトレーラーを依頼してください。
- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。

📖 知識

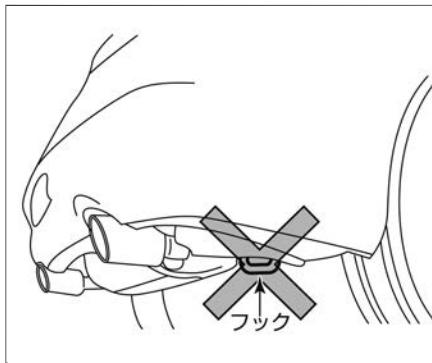
- けん引が終わったら、けん引フックを取り付けたときと逆の手順で取り外します。

■ けん引するときは

- けん引が必要なときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに依頼してください。やむを得ずけん引するときは、できる限り短距離の移動のみとしてください。
- 車両が動かなかつたり、異常な音がするときは、けん引せずに日産販売会社へご連絡ください。
- 車両を運搬するときは、後輪または4輪を持ち上げてください。

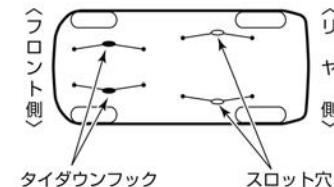
■ 後ろ側のフックについて

- 後ろ側のフックは船舶輸送時の固定専用です。けん引やトレーラー輸送時などの固定には絶対に使わないでください。この車で他車をけん引することはできません。



アドバイス

- けん引用として使うと、車両を損傷するおそれがあります。
- トレーラーなどで輸送するときは、車両下側のタイダウソフックを使い固定してください。



- 船舶輸送時は、フロントのけん引フックとリヤのタイダウソフックを使い固定してください。

故障したとき 発炎筒の使いかた

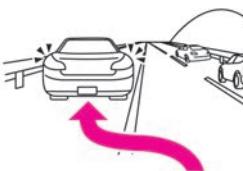
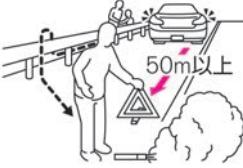
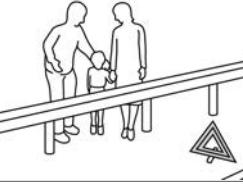
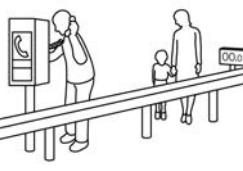
故障や事故などで緊急停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。

1	助手席足元部のホルダーから発炎筒を外します。		⚠️ 警告 <ul style="list-style-type: none">お子さまには触らせないでください。いたずらなどで発火するおそれがあり危険です。可燃物の近くで使わないでください。引火する危険があります。点火は必ず車外で行い、点火後は顔や身体に近づけないでください。やけどをする危険があります。トンネル内では使わないでください。煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり事故をまねくおそれがあります。このときは非常点滅表示灯を使ってください。
2	本体を回しながらケースから引き抜きます。		アドバイス <ul style="list-style-type: none">点火後は約5分間燃え続けます。発炎筒に記載されている使用方法、注意をあらかじめ確認しておいてください。発炎筒には有効期限があります。期限が切れる前に日産販売会社でお買い求めください。
3	ケースのすり薬で先端をこすって点火します。		

故障したとき

故障したときの対処方法

車両が故障したときは、次の手順を実施してください。

1	非常点滅表示灯で後続車に危険を知らせながら、できるだけ路肩に寄せて停車します。 路肩が無い場所では、可能な限り広いところまで自走します。	
2	同乗者をガードレールの外側などに避難させ、発炎筒（P.364）や停止表示板（停止表示灯）を車両の後方に置きます。 高速道路や自動車専用道路では、50m以上後方に置いてください。	
3	運転者もガードレールの外側などに避難します。 ガードレールの外側に避難ができない場所では、車両から離れてガードレールに身を寄せます。	
4	非常電話や携帯電話などで救援依頼をします。	

△ 注意

- エンジンが停止していると、ブレーキやパワーステアリングの倍力装置が働かなくなるため、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルの操作力が重くなりますので注意してください。

アドバイス

- 高速道路や自動車専用道路では、停止表示板（停止表示灯）の表示が法律で義務づけられています。
- ガードレールの外側などに退避するときは、停止車両への追突事故が発生したときに巻き込まれないよう、車両の後方に避難してください。
- 非常電話は、高速道路上に1kmごとに設置されています。

MEMO

トラブルがおきたときは

メンテナンス

点検・整備

点検・整備について	P.368
ジャッキアップ	P.369
エンジンルーム	P.371
寒冷時のメンテナンス	P.375
タイヤ	P.378
タイヤチェーンについて	P.387
ワイパー	P.389
ヒューズ	P.391
電球（バルブ）交換	P.398
その他の点検整備について	P.402

清掃・お手入れ

洗車のしかた	P.404
内装のお手入れ	P.408

サービスデータ

点検値／交換油脂類	P.412
車両仕様	P.415
イベントデータレコーダ（EDR）	P.417

点検・整備

点検・整備について

点検・整備の実施、記録、保存は法律で義務づけられています。
点検・整備については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

■ 点検・整備の種類

● 日常点検

走行距離や使用時の状態から判断し、適切な時期にお客さまご自身で行う点検です。いつもと違うことに気がついたら日産販売会社で点検を受けてください。（音、振動、におい、水もれ、油もれなど）

● 定期点検

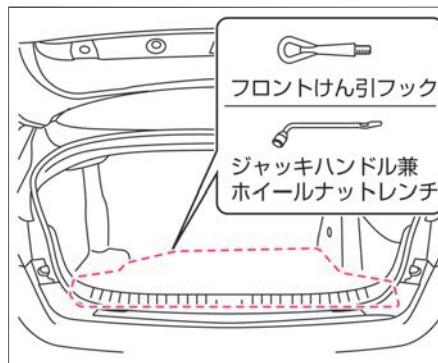
1年ごとに実施する点検です。12か月点検および24か月点検があります。

● その他の点検

日産自動車が指定している、新車時の点検や厳しい使われかたをした場合に必要な点検があります。

■ 工具類の格納場所

- 工具は、トランクルーム下部に格納されています。



■ 知識

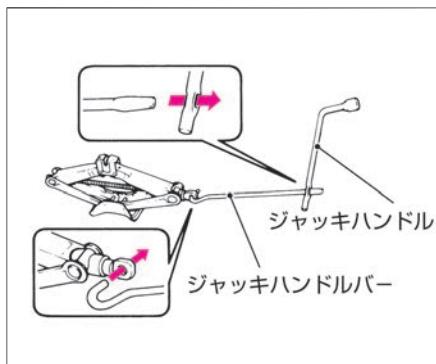
- 点検・整備および保証の内容は、別冊のメンテナンスノートに詳しく記載されていますので、必ずお読みください。

■ 知識

- ジャッキとジャッキハンドルバーは標準で搭載されていませんので、必要に応じて準備してください。ジャッキ、ジャッキハンドルバーのご購入については、日産販売会社にご相談ください。

■ ジャッキハンドルのセットのしかた

- ジャッキにジャッキハンドルバーとジャッキハンドルをセットします。



注意

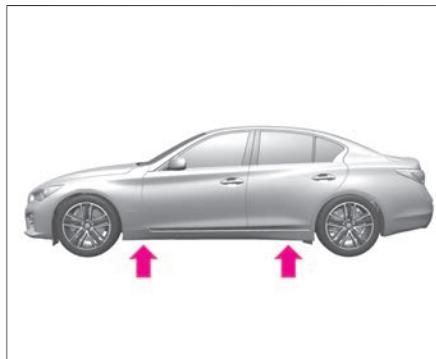
- ジャッキハンドルを回すときは、ジャッキハンドルバーをしっかりと握って回してください。ジャッキハンドルバーが回転中に外れると、思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- ジャッキハンドルバーは、確実にジャッキハンドルの穴に差し込んでください。

■ ジャッキアップポイント

- ジャッキアップポイント以外のところにはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。



点検・整備 ジャッキアップ

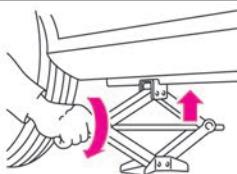
ジャッキアップのしかた

1 交通の妨げにならぬ、安全に作業ができる地面(平坦な硬い場所)に停車し、人や荷物を車から降ろします。
② 停車・駐車のしかた (P.81)

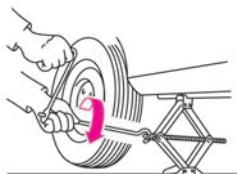
2 ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤに輪止めをします。
輪止めは、前輪をジャッキアップするときは後輪の後ろ側、後輪をジャッキアップするときは前輪の前側に置きます。



3 ジャッキを手で回し、ジャッキの溝がジャッキアップポイントの中央に入るまで上げます。



4 ジャッキハンドルを回して、タイヤと地面が少し離れるまで、ジャッキアップします。



! 注意

- やわらかい地面の上では行わないでください。ジャッキが倒れ、事故につながるおそれがあります。
- やむを得ず傾斜地で作業する場合は、ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤの下側に輪止めをし、車が動き出さないようにしてください。

アドバイス

- ジャッキアップポイント以外のところにはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。

知識

- 輪止めは標準で搭載されていませんので必要に応じて準備してください。なお、輪止めはタイヤを固定できる大きな石、木片などで代用できます。

エンジンルームを点検するときは安全な場所に駐車し、パーキングブレーキをかけた状態でエンジンフードを開けます。

エンジンフードの開閉

1

運転席右下にあるフードオープナーを引きます。エンジンフードの先端が少し浮き上がります。



2

エンジンフード先端のすき間に手を入れ、レバーを引き上げながらエンジンフードを持ち上げます。



3

閉めるときは、エンジンフードをゆっくり降ろし、左右の先端を押しつけ、確実にロックします。



警告

- 走行前に、エンジンフードが確実に閉まっていることを、必ず確認してください。ロックされていないと、走行中エンジンフードが開いて、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ポップアップエンジンフードが作動したときは、フードオープナーを引かないでください。
フードオープナーを引くと、さらにフードが上がり視界の妨げとなるため危険です。また、フードを無理に押し戻さないでください。手動では下げることができないため、フードが変形したり、思わぬケガをするおそれがあります。
ポップアップエンジンフードが作動したときは、必ず日産販売会社にご相談ください。

注意

- 風が強いときに開けると、風にあおられますので、しっかり持ってゆっくり開けてください。
- エンジンフードを開けたときは、エンジンフードに頭などをぶつけない

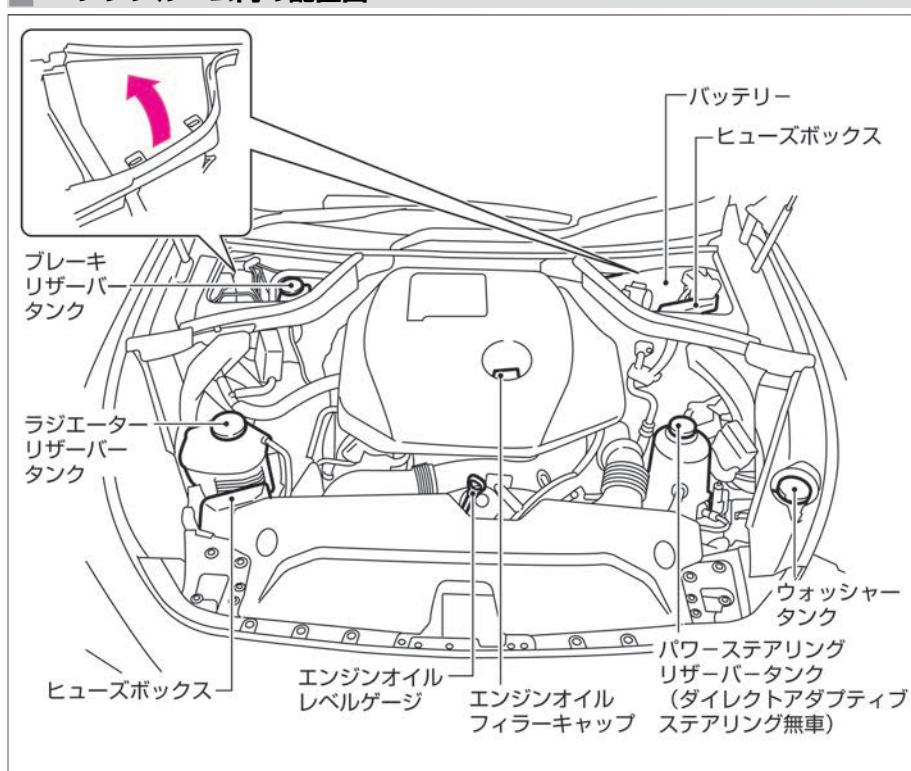
⚠ 注意

- ように注意してください。
- ラジエーターなどの高温部に触れな
いでください。やけどをするおそれ
があります。
 - エンジンフードを閉めるときは、手
などを挟まないように注意して降ろ
してください。

 アドバイス

- ワイパー アームを起こしたままフー
ドを開けないでください。エンジン
フードやワイパーを損傷します。

■ エンジンルーム内の配置図



★ : 車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 警告

- エンジンルーム内の作業をするときは、電源ポジションをOFFにしてください。エンジン回転中にエンジンルーム内に手、衣服、工具などを入れると思わぬケガをするおそれがあります。

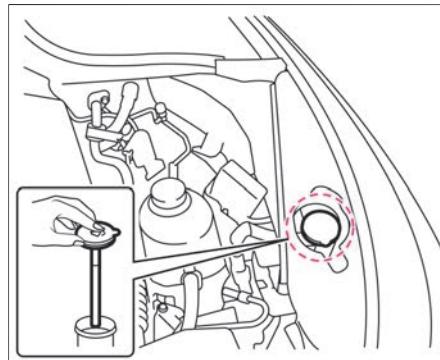
⚠ 注意

- 点検や清掃に使用した工具、布、紙類などを、エンジンルーム内に置き忘れないようにしてください。故障や車両火災につながるおそれがあります。

■ ウオッシャー液の補給

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

- ウォッシャータンクのキャップを外し、ウォッシャー液を補給してください。ウォッシャー液容器に記載してある凍結温度を参考に、外気温に応じた希釈割合（濃度）にして補給します。
- ふたの穴を押さえ、引き抜くと、スポット式にウォッシャー液の残量が点検できます。
- 引き抜いたときにウォッシャー液がチューブ下端にしか入らないと、ウォッシャータンクはほぼ空の状態です。
- 日産純正ウインドーウォッシャー液をおすすめします。
 [交換油脂類 \(P.413\)](#)



⚠ 注意

- ウォッシャー液を補給するときは、液を高温部にかけないようにしてください。出火するおそれがあります。

🚗 アドバイス

- ウォッシャー液の代わりに石けん水などを入れないでください。塗装面がしみになるおそれがあります。

冷却水の濃度点検

- 冷却水の凍結を防ぐため、クーラントの濃度を点検してください。

クーラントの濃度	凍結温度
50%	約-35°C

- 冷却水を補充・交換するときは、ロングライフクーラントBASF®G48[®]を50%に希釈してお使いください。

●  交換油脂類 (P.413)

アドバイス

- 工場出荷時は、50%にしてあります。
- 冷却水の点検・補充・交換は日産販売会社にご相談ください。

車が凍結したら

- 凍った部分にお湯をかけて氷を溶かしてください。溶けたらすぐにふき取ってください。

アドバイス

- ドアなどの開閉部分を無理に開けないでください。ゴムがはがれたり損傷するおそれがあります。
- ワイパー、ドアミラー、パワーウィンドーなどを無理に動かさないでください。装置が損傷するおそれがあります。
- ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結するおそれがあります。

靴の雪を落とす

- 乗車時、靴に付いた雪はよく落としてください。ペダル類の操作時に滑ったり、窓ガラスのくもりの原因となります。

窓ガラスの雪や霜を落とす

- プラスチックの板などを使って、ガラスを傷つけないように落としてください。

⚠ 警告

- ルーフに積もった雪は落としてください。窓ガラスに雪が滑り落ちると視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

足回りの着氷を落とす

- 足回り（ブレーキホース、フェンダー裏側など）に付着した氷塊を、部品を破損しないように注意して取り除いてください。

滑りやすい路面の走りかた

- 滑りやすい路面での急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど無理な運転は危険ですのでしないでください。雪道や凍結路では速度を落とし、車間距離を取り、ゆとりある運転をしてください。
- 雪道、凍結路では早めに冬用タイヤ、タイヤチェーンなどを装着して走行してください。

☞ タイヤチェーンについて (P.387)

■ 走行中の雪の付着に注意

- ブレーキに付着した雪が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ときどきブレーキの効き具合を確認してください。効きが悪いときは、前後の車との距離を十分とり、低速走行で効きが回復するまでブレーキペダルを軽く踏んでください。
- フェンダーの裏側に付いた雪が積もり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。時々確認して雪を取り除いてください。

■ 長時間駐車するとき

- セレクトレバーを □に入れ、パーキングブレーキをかけずに輪止めをしてください。パーキングブレーキをかけると、ブレーキが凍結して解除できなくなるおそれがあります。
- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。落雪で車が損傷するおそれがあります。
- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーームを起こしておいてください。ブレードと窓ガラスが凍結し、破損するおそれがあります。

点検・整備 タイヤ

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができず乗り心地も損なわれます。日常的に点検を行ってください。

タイヤの点検項目

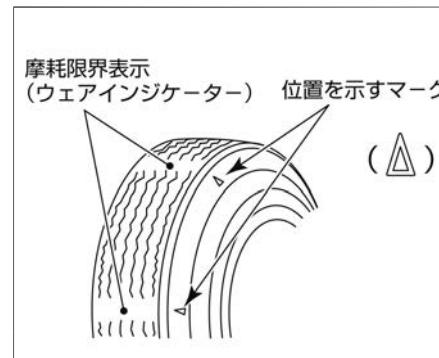
■ タイヤ空気圧の点検

- タイヤの空気圧は、走行前のタイヤが冷えているときに点検・調整してください。タイヤ接地部のたわみが大きいときは、空気圧が不足しています。すみやかに調整するか、日産販売会社にご相談ください。偏平タイヤの空気圧はたわみ状態ではわかりにくいため、タイヤエアゲージを使用し点検してください。
- タイヤ空気圧は自然に少しずつ低下します。月に一度はタイヤエアゲージを使用してタイヤ空気圧が適正であるか点検してください。
- タイヤ空気圧は走行に伴い約1割程度上がることがあります。
- タイヤの指定空気圧は運転席ドア開口部に表示してあります。
- タイヤ空気圧の調整後は、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。

☞ タイヤ空気圧警報システム (P.382)

■ タイヤ摩耗の点検

- 摩耗限界表示（ウェインジケーター）が表れたら、タイヤを交換してください。



⚠ 注意

- タイヤの空気圧が不足したまま走行すると、バースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤはゴム製品のため、徐々に劣化します。5~7年を目安に必ず点検してください。

■ タイヤ・ロードホイールを交換するとき

- タイヤサイズは運転席ドア開口部のタイヤの指定空気圧表示を参照してください。
- ロードホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のロードホイールを取り付けてください。ロードホイールのサイズは巻末のサービスデータに記載してあります。
- タイヤまたはロードホイールを交換したときは、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。
 [タイヤ空気圧警報システム \(P.382\)](#)

△ 注意

- 指定サイズ以外のタイヤ・ロードホイールは絶対に取り付けないでください。不適合なタイヤ・ロードホイールを取り付けると、安全性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付けてください。径が異なるタイヤを装着すると、車の機構に無理がかかり、重大な故障につながります。また、VDCシステムが正常に作動しないことがあります。次のようなタイヤの装着はしないでください。回転差を吸収する機構に無理がかかり、過熱し火災につながるおそれがあります。
 - 摩耗差の大きいタイヤの装着
 - 前輪または後輪だけに冬用タイヤを装着
 - サイズや種類の異なるタイヤを個々に装着
- タイヤの交換をするときは、日産販売会社にご相談ください。



アドバイス

- ロードホイールは、リムサイズやインセットが同じでも、他の車の物は使えない場合があります。お手持ちの物をご使用になるときは、日産販売会社にご相談ください。
- アルミロードホイールには荷重制限がありますので、交換するときは日産販売会社にご相談ください。
- タイヤやロードホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実に取ってください。
- ホイールナットの締め付けトルクは、 $108\text{N}\cdot\text{m}$ ($11\text{kg}\cdot\text{m}$) です。

タイヤ空気圧警報システムについて

- タイヤ空気圧センサーが付いていないロードホイールを装着すると、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅後、点灯します。
元のタイヤ空気圧センサーが付いているロードホイールを取り付けたあとは、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。
リセット後、タイヤ空気圧警告灯は消灯します。
- 新しいタイヤ空気圧センサーを取り付けた場合は、専用のIDコードを登録する必要があります。詳しくは、

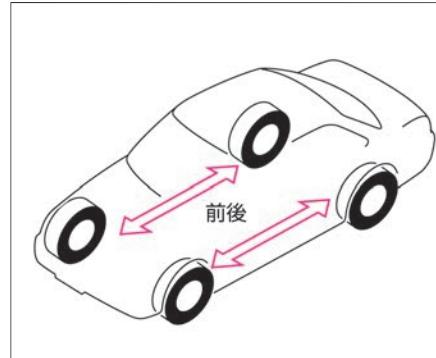


アドバイス

日産販売会社にご相談ください。

■ タイヤの位置交換（ローテーション）

左右それぞれで、前後タイヤの交換を行ってください。タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を延ばすために、約5,000kmごとにタイヤのローテーション（位置交換）を行うことをおすすめします。



注意

- タイヤ間に著しい摩耗差があり、空気圧が規定値より著しく異なると、車の性能が十分に発揮できなくなり、安全性を損なったり故障の原因になります。



アドバイス

- タイヤの位置交換と同時に空気圧も点検してください。
- タイヤの位置交換をしたときは、タイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。
 [タイヤ空気圧警報システム
\(P.382\)](#)
- タイヤの位置交換については、日産販売会社にご相談ください。

■ タイヤ空気圧警報システム

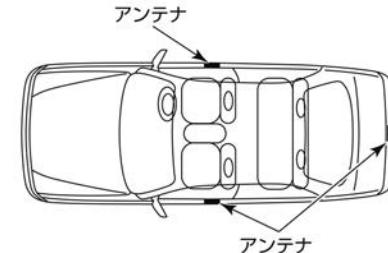
■ タイヤ空気圧警報システム

タイヤ空気圧警報システムは、タイヤ空気圧が不足していることを知らせるシステムです。

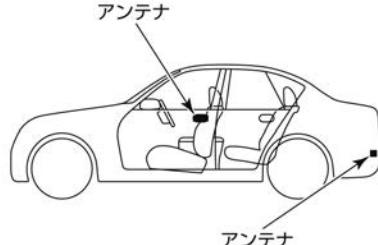
- 25km/h以上で走行したときに、作動します。
- タイヤ空気圧が低下すると、メーター内のタイヤ空気圧警告灯が点灯し、メーター内のディスプレイに警告を表示します。
- 空気圧を正しく調整したあと、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。リセット後、タイヤ空気圧警告灯とメーター内のディスプレイの警告表示（☞P.255）が消灯します。
- バーストや急激な空気圧低下をした場合は、メーター内の警告表示がすぐに作動しないことがあります。
- システムに異常があるときは、タイヤ空気圧警告灯（☞P.235）が約1分間点滅したあとに点灯を続けます。

⚠ 警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）を使用している方は、アンテナから約22cm以内の範囲に装着部位が近づかないようにしてください。タイヤ空気圧警報システムの電波が植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。



⚠ 警告



⚠ 警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用している方は、インテリジェントキーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があるため、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してからご使用ください。

⚠ 注意

- タイヤ空気圧警告灯が点灯し、警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、タイヤを確認してください。放置して走行し続けると、タイヤがバースト（破裂）したり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあとに点灯を続けたときは、日産販売会社で点検を受けてください。
- パンク修理剤を使用する場合は、必ず日産正品を使用してください。

⚠ アドバイス

- タイヤ空気圧警報システムは、日常点検を補助するものです。必ず日常点検でタイヤの空気圧を点検してください。
- タイヤ空気圧センサーは、日本の電

⚠ アドバイス

波法の認証に適合しています。次のことを必ずお守りください。

- 日本国内のみで使用する。
- 正しい使用方法以外では使用しない。
- 分解や改造はしない。（分解や改造したものを使用することは法律で禁止されています。）

- タイヤ空気圧センサーにはお客様の車に適合する固有のIDコードが登録されています。他の車のタイヤ空気圧センサーを使用すると、システムが作動しません。

- タイヤを修理・交換するときはタイヤ空気圧センサーの取り付けやIDコードの登録をする必要があるため、日産販売会社へご相談ください。

- 以下の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しない場合があります。

- タイヤ交換後や空気圧調整後に、タイヤ空気圧警報システムのリセットを行っていないとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 日産正品以外のタイヤやロードホイールを使用したとき。

 アドバイス

- 近くに同じような無線周波数を使っている施設や器具があるとき。
- 車両、特にロードホイールハウスの周りに多くの雪や氷などが付いたとき。
- タイヤ空気圧センサーのIDコードがシステムに登録されていないとき。
- タイヤ空気圧センサーの電池が消耗したとき。
- 窓ガラスに金属性の部品を装着しているとき
- タイヤ空気圧センサーには、車両と通信するための電池が内蔵されています。走行中は、常時車両と通信しているため電池を消耗しており、電池が切れると、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅後、点灯します。電池が消耗したときは、日産販売会社にご相談ください。電池単品での交換はできません。
- 凹凸のある道路を走行するときは注意して走行してください。タイヤ空気圧センサーを破損させるおそれがあります。

 知識

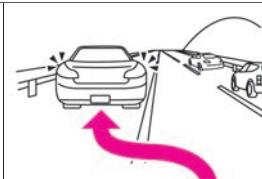
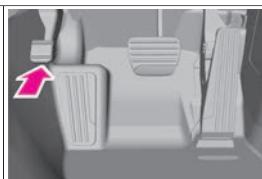
- 温度による空気圧の変化や自然に空気圧が減少したときにもタイヤ空気圧警告灯が点灯しますが、適切な空気圧に調整して消灯すれば故障ではありません。
 **②タイヤ空気圧の点検 (P.378)**
- 高速走行時はタイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあと点灯することがあります。減速して消灯すれば故障ではありません。

■ タイヤ空気圧警報システムのリセット

以下の場合はタイヤ空気圧警報システムのリセット操作が必要となります。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- タイヤまたはホイールを交換したとき
- タイヤの位置交換（ローテーション）をしたとき

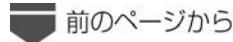
以下の手順に従って、タイヤ空気圧警報システムのリセット操作を行ってください。

1	安全な場所に停車します。	
2	パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーをPにします。	
3	4輪すべてのタイヤを指定の空気圧に調整し、タイヤエアゲージを使用して確認します。	



次のページに続く

★ : 車両型式、オプションなどで異なる装備



4

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押して、電源ポジションをONにします。エンジンは始動させないでください。



5

ナビゲーションシステムで次の操作をして、タイヤ空気圧警報システムをリセットします。

MENU ⇒ **設定** ⇒ **メーター設定** ⇒ **タイヤ空気圧警報システム設定** ⇒ **システムリセット** ⇒
はい ⇒ **OK**

詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

6

リセット操作後、タイヤ空気圧警告灯とメーター内のディスプレイの警告表示が消灯します。

リセット操作後も警告灯が点灯する場合は、日産販売会社で点検を受けてください。

タイヤ空気圧警告灯 (☞ P.235)

タイヤチェーンについて

タイヤチェーンは必ず後2輪に装着してください。

■ 装着の前に

安全に作業できる平坦な場所に停車してください。

パーキングブレーキをかけエンジンを停止します。さらに、非常点滅表示灯を点滅させ、必要に応じて停止表示板（または停止表示灯）を置きます。

- お客様のタイヤサイズに合ったタイヤチェーンでも使用できない場合があります。タイヤチェーンはお客様の車に適合した日産純正品をおすすめします。適合するタイヤチェーンについては日産販売会社にご相談ください。

■ 装着のしかた

- タイヤチェーンは付属の取扱説明書に従って正しく装着してください。



注意

- 不適正に装着したり、タイヤサイズに合わないものなどを使用すると、ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。



アドバイス

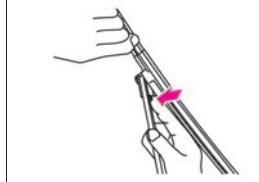
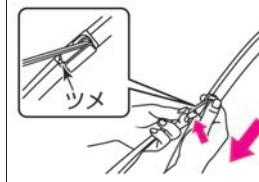
- タイヤチェーンを装着すると、アルミホイールを傷つけるおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときはタイヤチェーンに付属の取扱説明書で指示された速度で走行してください。安全が損なわれたりタイヤチェーンが切れやすくなります。
- 雪のない舗装路ではチェーンを装着したまま走行しないでください。路面を損傷したり、チェーンの摩耗を早め、寿命が短くなります。

アドバイス

- タイヤチェーンを装着しているときは、突起しているところや穴の上を走行したり、急ハンドルやタイヤがロックするようなブレーキ操作をしないでください。

ワイパープレードを交換するときは、次の手順に従ってください。

■ ワイパープレードの交換のしかた

- | | | |
|----------|---|---|
| 1 | ワイパーアームを起こし、ブレードを少し傾けます。
 |  |
| 2 | ワイパープレードのツメを押したままにします。 |  |
| 3 | ワイパープレードを矢印の方向に動かして取り外します。 |  |
| 4 | 新しいワイパープレードを取り付けます。取り付けは取り外したときと逆の手順で行い、ワイパープレードが確実に固定されていることを確認します。 |  |

⚠ 注意

- 交換するときは、ワイパーアームおよびワイパープレードがガラスに当たらないよう気をつけてください。ガラスに当たるとガラスが破損するおそれがあります。

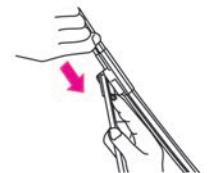
🚗 アドバイス

- ワイパープレードに大きな力を加えて変形させないでください。ふき取りにくくなったり、破損するおそれがあります。

■ ワイパーゴムの交換のしかた

1

ワイパー アームからワイパープレードを取り外します。

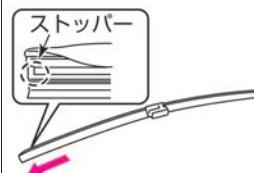


知識

- ワイパーゴムに石けん水を塗ると脱着しやすくなります。

2

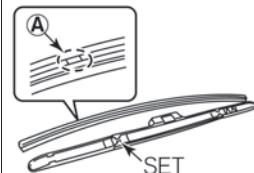
ワイパーゴムを矢印方向にスライドし、取り外します。



3

取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で行います。

- ワイパーゴムのストッパーがない方からブレードに沿って差し込みます。
- ワイパーゴムのⒶ部をワイパープレードの「SET」の位置で確実に押し込み、固定します。



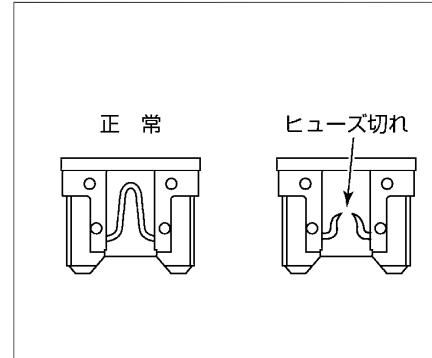
ランプがつかないときや電気系統の装置が作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。
故障の状況から、関係するヒューズを確認してください。

■ ヒューズを確認する前に

- ヒューズが切れているときは、同じ容量のヒューズと交換します。

■ ヒューズボックスの位置

- ヒューズボックスはエンジンルームと運転席足元、トランクルームにあります。
- 各ヒューズの位置は、エンジンルームおよび運転席足元はヒューズボックスのふたの裏側、トランクルームはふたの表側に表示してあります。

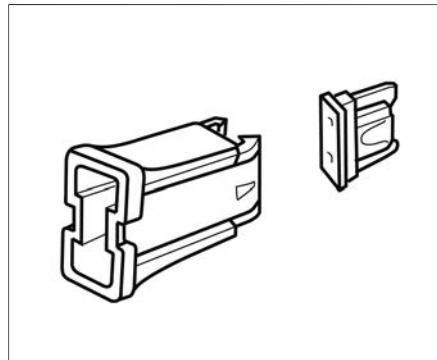


⚠ 警告

- 規定容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使わないでください。電装システムの故障や、配線などが過熱して火災につながるおそれがあります。

■ ヒューズ抜きについて

- 運転席足元のヒューズボックス内にヒューズ抜きがあります。
- 電源ポジションをOFFにしてから、ヒューズ抜きをヒューズに差し込んで引き抜き、ヒューズが切れていないか確認します。

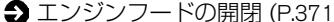
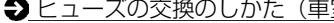
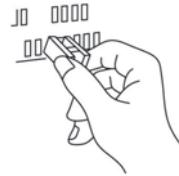


アドバイス

- 交換してもヒューズが切れるとときは、日産販売会社で点検を受けてください。
- ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。

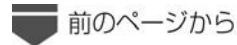
■ ヒューズの交換のしかた（エンジンルーム）

エンジンルームのヒューズを点検・交換するときは、次の手順に従ってください。

- | | | |
|---|---|---|
| 1 | 電源ポジションをOFFにし、エンジンフードを開けます。
 エンジンフードの開閉 (P.371) |  |
| 2 | ツメを押しながら持ち上げ、ふたを外します。 |  |
| 3 | 運転席足元のヒューズボックスにあるヒューズ抜きを使ってヒューズを取り外します。
 ヒューズの交換のしかた（車室内） (P.395) |  |

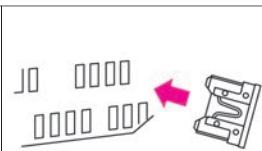


★：車両型式、オプションなどで異なる装備



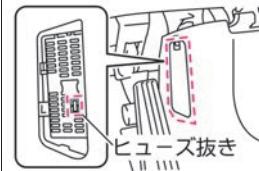
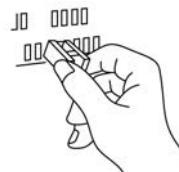
4

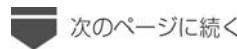
新しいヒューズと交換します。
交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。



■ ヒューズの交換のしかた（車室内）

車室内のヒューズを点検・交換するときは、次の手順に従ってください。

- | | | |
|---|--------------------------------|---|
| 1 | 電源ポジションをOFFにします。 |  |
| 2 | 運転席足元にあるふたのツメを押しながら手前に引いて外します。 |  |
| 3 | ヒューズ抜きでヒューズを取り外します。 |  |



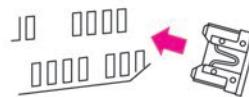
次のページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備



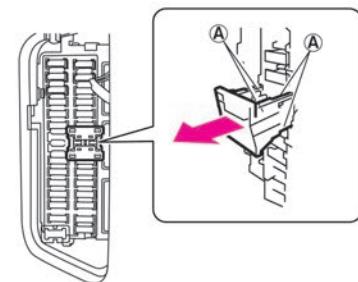
4

新しいヒューズと交換します。交換したあとは、確
実に差し込まれていることを確認してください。



アドバイス

- 次のイラストのような部品が付いて
いる場合は、その部品の中にも
ヒューズがあります。中のヒューズ
を点検・交換するときは、Ⓐを上下に
つまみながら矢印の方向に引き抜い
てください。



■ ヒューズの交換のしかた（トランクルーム）

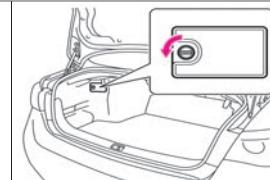
1

- 電源ポジションをOFFにし、トランクを開けます。
 [トランクの開閉 \(P.281\)](#)



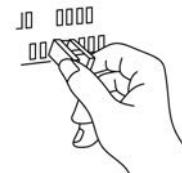
2

- クリップを外してカバーを開けます。



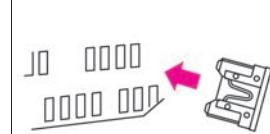
3

- ヒューズ抜きでヒューズを取り外します。



4

- 新しいヒューズと交換します。交換したあとは、確実に差し込まれていることを確認してください。



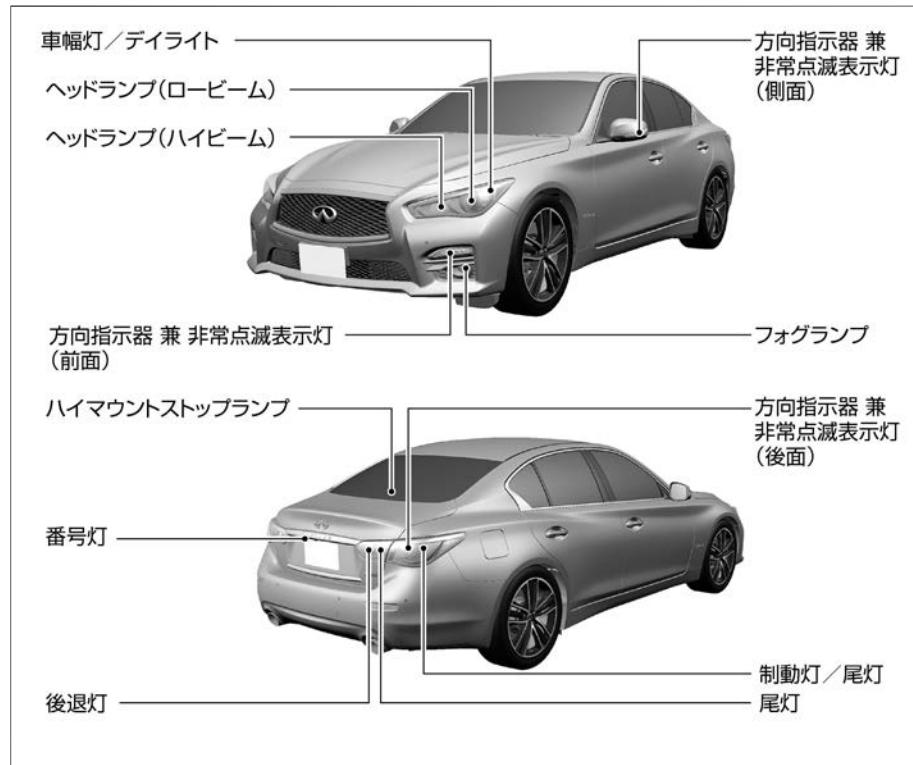
点検・整備

電球（バルブ）交換

外装ランプが点灯しないときは、バルブ切れが考えられます。

バルブの交換作業が不慣れな方や部品の破損などが心配な方は、日産販売会社にご相談ください。

各電球（バルブ）の位置



注意

- バルブ交換は、エンジンルームやバルブが冷えた状態で行ってください。やけどをするおそれがあります。
- バルブ交換をするときは、軍手などを着用して作業してください。
- ステーなどの端で指や腕をケガしないように十分注意してください。
- バルブは点灯中、表面が高温になります。バルブが正しく取り付けられていないと、走行中にバルブが外れ、周辺の部品に接触するなどし、発熱、発火につながるおそれがあります。

アドバイス

- 外した部品は確実に取り付けてください。水が入り故障の原因になるおそれがあります。
- バルブに油が付着したときは柔らかい布などでふき取ってください。また、素手でガラス部分に触れないでください。バルブの寿命が短くなったりバルブが破損するおそれがあります。

■ 方向指示器兼非常点滅表示灯（後面）

1

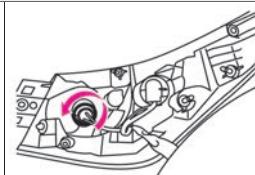
トランクを開け、カバーⒶを外します。

**2**

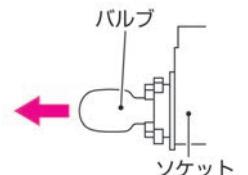
ボルトを2本外し、レンズを車両外側に引いて取り外します。

**3**

バルブのソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。

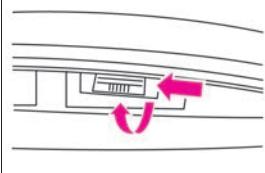
**4**

古いバルブを引き抜き、新しいバルブをソケットに取り付けます。
取り外したときと逆の手順で取り付けます。

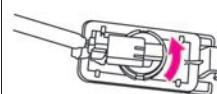


番号灯**1**

カバーを左側に押しながら下側に引き抜きます。

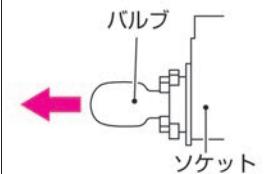
**2**

ソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。

**3**

古いバルブを引き抜き、新しいバルブをソケットに取り付けます。

取り付けるときは、カバーの右側を入れてから押し込みます。



■ その他の電球（バルブ）

以下の電球が点灯しないときは日産販売会社で点検を受けてください。

- ヘッドライト（ハイビーム／ロービーム）（LED）
- フォグランプ（LED）
- 車幅灯／デイライト（LED）
- 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（前面）（LED）
- 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（側面）（LED）
- 制動灯／尾灯（LED）
- ハイマウントストップランプ（LED）
- 後退灯（LED）

エンジンオイルについて

- 交換時期についてはメンテナスノートをお読みください。また、指定のエンジンオイルについては、巻末のサービスデータをお読みください。

☞ 交換油脂類 (P.413)

詳しくは日産販売会社にご相談ください。

⚠ 注意

- 適切なオイル交換が行われないと、エンジンの破損や火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- オイルの点検をしたあとは、オイルレベルゲージを確実に差し込んでください。オイルレベルゲージが根元まで差し込まれていないと、オイルが噴き出し火災の原因になるおそれがあります。
- エンジンオイルフィラーキャップは確実に閉めてください。走行時にキャップが外れエンジンオイルが噴き出すと、火災の原因になるおそれがあります。

■ バッテリーについて

- バッテリーのメンテナンスについては、メンテナンスノートをお読みください。
詳しくは日産販売会社にご相談ください。

警告

- バッテリーを充電するときは換気を十分に行い、火気は近づけないでください。バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。万一、付着したときは、すぐに 多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診療を受けてください。

注意

- バッテリーの(+)側端子が周辺の金属と接触しないようにしてください。接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、バッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。
- バッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定してください。しっかりと固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

知識

- バッテリー交換したあとや長期間バッテリー端子を外したあとは、アイドリングストップのシステムが作動するまでに時間がかかる場合があります。

清掃・お手入れ 洗車のしかた

塗装面の変色やサビなどを防止するために、適切なお手入れが大切です。

洗車のしかた

- 塗装面に付着した汚れをそのままにすると、変色やサビの原因となります。次のような場合は、すぐに洗車してください。
 - － ばい煙、虫の死骸いや鳥のふん、樹液、鉄粉、コールタールなどが付着したとき
 - － 海岸地区、凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - － ほこり、汚れがひどいとき

⚠ 注意

- 下回りを洗うときはケガをしないよう注意してください。
- エンジンルーム内に水をかけないでください。エンジンの始動不良や不調、電気部品の故障などの原因になるおそれがあります。また、電装品などに水がかかると、故障したり電気部品のショートにより車両火災につながるおそれがあり危険です。

🚗 アドバイス

- ケミカル用品などは用途により使い分けが必要です。用途にあった物をお使いください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使わないでください。変色やしみの原因となります。
- 硬いブラシや、たわしなどは使わないでください。塗装面を傷つけるおそれがあります。
- 寒冷時に洗車をするときは、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置に水が入ると凍結し、走行できなくなるおそれがあります。

■ 水洗いするとき

- ① 水をかけながら下回りの汚れを洗い流します。
- ② 水をかけながら塗装面の高い位置から低い位置の順にセーム皮や柔らかいスポンジなどで汚れを落とします。汚れがひどいときは、ボディーシャンプーなどを使い、その後十分に水で洗い流します。
- ③ はん点が残らないように水をふき取ります。

■ 洗車機を使うとき

- 自動洗車機を使用するときは、ドアミラー（ P.62）を格納してください。
- 高圧（コイン）洗車機を使用するときは、洗車ノズルと車体の距離を十分離して洗車してください。

アドバイス

- 自動洗車機で洗車すると、ブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることができます。
- ドアガラスのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。車内に水が漏れるおそれがあります。

■ ワックスをかけるとき

塗装面の変色やサビなどを防止するために、適切なお手入れが大切です。

- ワックス掛けは1か月に1回程度、または水はじきが悪くなったときに行ってください。かけかたは普通塗装車、メタリックおよびパール塗装車とも同じです。

■ ワックスのかけかた

- ① 塗装面の汚れを洗車などで取り除きます。
- ② 塗装面が冷えているとき（体温以下が目安）にワックスをかけます。かけかたはワックス容器に記載してある説明に従ってください。

■ ワックスの選びかた

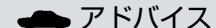
- コンパウンド（研磨剤）の入っていない、塗装に適したワックスを使ってください。日産純正カーワックスをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

■ アドバイス

- 塗装されていないバンパー、スポイラーなどの樹脂部品には、ワックスを使用しないでください。ムラになることがあります。
- コンパウンド（研磨剤）の入ったワックスを使うと、塗装面の光沢や水をはじく特性が失われることがあります。
- カメラのレンズ部にワックスを付けないでください。ワックスが付いた場合は、中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、ふき取ってください。

■ アルミロードホイールのお手入れ

- 中性洗剤を含ませたスポンジなどを使い、汚れを落としてください。日産純正クリーナーをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。



アドバイス

- 変色やしみの原因になったり、傷をつけるおそれがあるため、次のことをお守りください。
 - 強酸性、強アルカリ性の洗剤は使わない
 - 洗剤はホイールの表面が冷えているときに使用する（体温以下が目安）
 - 洗剤を使用したあとは、早めに十分洗い流す
 - 硬いブラシやコンパウンド（研磨剤）の入った洗剤などは使わない

■ 軽い補修のしかた

- 塗装面の小さい傷はタッチアップペイントを使い、早めに傷部を補修してください。サビの発生を防ぎ、塗装面を長持ちさせます。

カーペットの汚れ取り

- 電気掃除機でほこりを取り除き、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。フロアカーペットを取り外したときは、敷き直すときにフロアカーペットがずれないように固定クリップで正しく確実に固定してください。

● フロアカーペット (P.330)

⚠ 注意

- 車室内に水をかけないでください。オーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。

🚘 アドバイス

- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使わないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますので確認してから使ってください。

■ 布、ビニールレザーの汚れ取り

- 中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、軽くふき取ります。さらに水に浸した布を固くしぼってふき取ります。汚れがひどいときは、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。

△ 注意

- 車室内に水をかけないでください。
オーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。

車 アドバイス

- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使わないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますので確認してから使ってください。

■ 本革シートのお手入れ★

通常のお手入れ

- ガーゼなど柔らかい布でふきます。

水溶性の汚れを取るとき

- 柔らかい布をぬるま湯に浸し、固くしぼってからふき取ります。次に乾いた柔らかい布でふきます。

油性の汚れを取るとき

- ① ぬるま湯に中性洗剤を溶かし（濃度2～3%）、柔らかい布に含ませ汚れを取ります。
- ② 真水に浸した布を固くしぼってふき取ります。
- ③ 乾いた柔らかい布でふき、風通しのよい日陰で乾燥させます。

⚠ 注意

- 車室内に水をかけないでください。オーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。

☁ アドバイス

- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使わないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますので確認してから使ってください。
- 本革シートは、直射日光により変色、変質することがあるため、日よけに心がけてください。
- 本革シートが水などでぬれたときは早めにふき取ってください。皮革が硬化、収縮する原因となります。

📖 知識

- 本革シートのお手入れ用品（クリーナーなど）のご購入については、日产販売会社にご相談ください。

リヤウインドーの清掃

- ガラスの内側を清掃するときは、熱線やアンテナ線を切らないように水を含ませた柔らかい布で熱線やアンテナ線にそって軽くふいてください。
- ガラスクリーナー、洗剤などは使わないでください。

メーター表面の汚れ取り

- 柔らかい布を真水に浸し、固くしぼってからふき取ります。



アドバイス

- 乾いた布やウェットティッシュなどを使用しないでください。傷がついたり、変色の原因になります。
- ワックスやコーティング剤、油などが付着した布ではふかないでください。変色の原因になります。

点検値

項目	点検値
補機ベルト	調整不要※1
ブレーキペダル※2	遊び
	床板とのすき間 約196N (20kg) で踏んだとき
パーキングブレーキ	踏みしろ 約196N (20kg) で踏んだとき

※1：補機ベルトは、ベルトオートテンショナー（自動張力調整機構）を採用しており、ベルト張力調整は不要です。また、パワーステアリングおよび冷却ファンは、ベルト駆動ではないためベルトの張力調整は不要です。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

※2：ブレーキが正常に作動しないときは、必ず日産販売会社で点検を受けてください。また、ブレーキペダルの床板とのすき間の調節が必要なときも、日産販売会社にご相談ください。

■ 交換油脂類

お車の性能を適正に保つため、弊社指定銘柄のご使用をおすすめします。
指定銘柄以外をお使いになる場合、指定銘柄に相当する品質のものをお使いください。
下記は、およその規定量です。実際の量は、わずかに異なることがあります。
交換時期についてはメンテナントノートをお読みください。

■ エンジンオイルについて

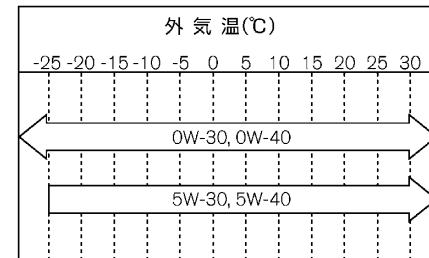
項目	適用	規定量 (℥)		指定銘柄
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換	
エンジンオイル	2.0L ターボ ガソリンエンジン	5.8	6.3	日産純正エクストラセーブ・X Mスペシャル 0W-30 (SAE: 0W-30)

■ 指定銘柄以外のエンジンオイルについて

指定銘柄以外をお使いになる場合は、下記に適合したエンジンオイルをお使いください。

規格： MB229.5規格をお使いください。

粘度： 右表に基づき外気温に適した粘度（SAE規格）のものをご使用ください。



サービスデータ 点検値／交換油脂類

■ その他の交換油脂類について

項目	適用	規定量 (℥)	指定銘柄
オートマチックトランスマッ션フルード	全車	9.9	マチックフルードG ^{※1}
リヤディファレンシャルオイル	全車	1.05	日産純正デフオイルハイポイドスーパーS (API: GL-5、SAE: 75W-90)
パワーステアリングフルード	ダイレクトアダプティブステアリング 無車	1.0	日産純正パワーステアリングフルードE-PSF ^{※2}
ブレーキフルード	全車	—	日産純正ブレーキフルードNo.2500 (DOT3)
エンジン冷却水	全車	9.0 ^{※3}	ロングライフケラントBASF [®] G48 [®] ^{※4}
ウォッシャー液	全車	4.5	日産純正ウインドウォッシャー液 ^{※5}

※1：必ずマチックフルードGを使用してください。マチックフルードG以外のフルードを使用するとオートマチックトランスマッションが破損するおそれがあります。

※2：パワーステアリングフルードは、電動パワーステアリング専用のパワーステアリングフルードE-PSFを必ずご使用ください。それ以外のフルードを使用すると、操舵力が著しく重くなる場合があります。

※3：リザーバータンクのMAXレベル容量 (0.9 ℥) を含みます。

※4：エンジンやトランスマッションなどが破損するおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水は、ロングライフケラントBASF[®]G48[®]を必ずご使用ください。

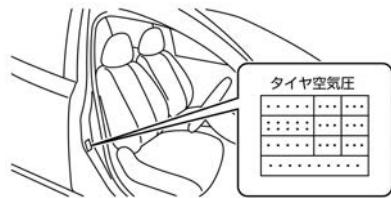
※5：外気温に応じて濃度を調節してください。

■ 電球（バルブ）の容量

電球（バルブ）		容量（V-W）	バルブタイプ
前照灯（ヘッドライト）	ロービーム	—	LED
	ハイビーム	—	LED
前部霧灯（フォグランプ）		—	LED
車幅灯／デイライト		—	LED
番号灯		12-5	W5W
制動灯／尾灯		—	LED
ハイマウントストップランプ		—	LED
後退灯		—	LED
方向指示器 兼 非常点滅表示灯	前面、側面	—	LED
	後面	12-21（アンバー）	WY21W

■ タイヤ・ロードホイールサイズ

タイヤサイズ	ロードホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D.	インセット
245/40RF19	19x8-1/2J	114.3mm (5穴)	50mm
225/55RF17	17x7-1/2J		45mm



※ タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示しておりますので、確認してください。

サービスデータ イベントデータレコーダ (EDR)

メンテナンス

■ 車両データの記録・蓄積について

この車両に装備されている以下システムの各コンピューターはEDR（イベントデータレコーダ）機能を備えています。

以下システムの各コンピューターは正常に作動しているかどうかを常に診断し、EDRで車両が衝突したときの車両データを記録・蓄積しています。

知識

- EDR（イベントデータレコーダ）は一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

■ SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムが作動したときに下記車両データを記録・蓄積します。

- エアバッグシステムの作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

■ ポップアップエンジンフード

ポップアップエンジンフードが作動したときに下記車両データを記録・蓄積します。

- 車両速度
- ポップアップエンジンフードの作動に関する情報
- ポップアップエンジンフードの故障診断情報

■ データの扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、EDRに記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得・利用することができます。

なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

MEMO

メンテナンス

A

ABS

ABS P.221

ABS警告灯 P.229

ALC (アクティブブレーンコントロール) P.102

B

BCI (後退時衝突防止支援システム) P.136

BSI (後側方衝突防止支援システム)

BSI (後側方衝突防止支援システム) P.118

BSI (後側方衝突防止支援システム)

表示 P.244

BSW (後側方車両検知警報)

BSW (後側方車両検知警報) P.118

BSW (後側方車両検知警報) 表示 P.244

E

EDR(イベントデータレコーダ) P.417

ELR (緊急固定) 付3点式シートベルト P.52

I

ISO FIX対応チャイルドシート用アンカー P.34

L

LDP (車線逸脱防止支援システム)

LDP (車線逸脱防止支援システム) P.107

LDP (車線逸脱防止支援システム)

表示 P.244

LDW (車線逸脱警報)

LDW (車線逸脱警報) P.107

LDW (車線逸脱警報) 表示 P.244

O

ODOメーター P.241

P

PERSONALモード P.83

PFCW (前方衝突予測警報)

PFCW (前方衝突予測警報) P.214

PFCW (前方衝突予測警報) 表示 P.244

S

SRSエアバッグ P.11

SRSエアバッグ警告灯 P.229

T

TRIP(トリップメーター) P.241

V

VDC

VDC P.92

VDC OFFスイッチ P.94

VDC OFF表示灯 P.237

VDC警告灯 P.229

ア

アームレスト P.50

アイドリングストップ P.85

アイドリングストップOFFスイッチ P.86

アウターミラー (ドアミラー) P.62

アクティブ・サウンド・コントロール P.329

アクティブ・ノイズ・コントロール P.328

アクティブAFS P.300

アクティブレーンコントロール	P.102
アクティブレーンコントロール	P.102
カメラ（車線認識カメラ）	P.106
アシストグリップ	P.326
アドバンスドドライブアシストディスプレー	P.240
イ	P.240
アラーム	
インテリジェントキー	P.351
メーター（ドライブインジケーター）	P.251
アルミロードホイールのお手入れ	P.407
アンサーバックエクステリアライト機能	P.266
アンサーバック機能	P.266



イベントデータレコーダー(EDR)	P.417
イモビライザー	
イモビライザー	P.66
表示灯（セキュリティーインジケーター）	P.237
イルミネーションコントロール	P.228
イルミネーションコントロールスイッチ	P.228
インテリジェントキー	
イモビライザー（盗難防止装置）	P.66
キー	P.266
作動範囲（エンジン始動）	P.76
作動範囲（施錠・解錠）	P.280
始動しないとき	P.337

電池交換のしかた P.274

ドアの施錠・解錠 P.275

トランクの解錠 P.281

メカニカルキー機能 P.336

リモコンによる施錠・解錠 P.277

インテリジェントキー【警報が鳴ったとき】 P.351

インテリジェントクルーズコントロール

 インテリジェントクルーズコントロール P.146

 ステアリングスイッチ P.152

 ナビ協調機能 P.169

インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）

 インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト） P.183

 インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）表示 P.244

 ステアリングスイッチ P.187

 ナビ強調機能 P.199

インナーミラー（ルームミラー） P.60



ウインカー（方向指示器） P.304

ウインドーガラス（パワーウィンドー） P.288

ウォーニング（警告灯） P.229

ウォッシャー

 ウォッシャー液（規定量） P.413

 ウォッシャー液の補給 P.374

 スイッチ P.305

動かないとき P.358

動けなくなったときは P.365

運転

 運転するときに注意すること P.38

 正しい運転姿勢について P.41

運転支援（車両情報） P.245



エアコンの使いかた

 吹き出し口 P.295

エアバッグ

 SRSカーテンエアバッグシステム P.22

 運転席・助手席SRSエアバッグシステム P.15

 運転席・助手席SRSサイドエアバッグシステム P.20

 SRSエアバッグ P.11

 SRSエアバッグ警告灯 P.229

ABS

 ABS P.221

 ABS警告灯 P.229

エマージェンシーストップシグナル P.220

エマージェンシーブレーキ

エマージェンシーブレーキ P.207

エマージェンシーブレーキ警告灯 P.229

エマージェンシーブレーキ警告灯 P.229

エンジン

エンジンオイル P.413

エンジンが始動しないときは P.337

エンジンスイッチ P.65

エンジンのかけかた P.76

エンジンフード P.371

エンジンルームから蒸気が出ていると
き P.356

エンジンルーム内配置図 P.373

エンジンの始動のしかた P.76

エンストして始動できなくなったとき P.365

才

オイル P.413

オートマチック車の運転のしかた P.78

オートライトシステムについて P.298

オートレベルライザー P.296

オートロック機能 P.266

オーバーヒートしたときは P.356

オーバーヘッドコンソール P.315

お子さまを乗せるときは P.28

オドメーター（積算距離計） P.241

カ

外気温表示 P.243

外装のお手入れ P.404

カギ P.266

各種警告灯について P.346

ガソリン（使用燃料、燃料補給口、
タンク容量） P.284

カップホルダー P.318

カメラ（車線認識カメラ） P.106

ガラスのお手入れ（リヤウインドー） P.411

ガラスルーフ P.290

寒冷時のメンテナンス P.375

キ

インテリジェントキー P.266

メカニカルキー P.336

リモートコントロールエントリー機
能 P.277

キー連動室内照明システム P.311

キックダウン P.79

緊急ブレーキ感応型プリクラッシュシート

ベルト P.54

ク

空気圧（タイヤ） P.378

くもりが取れないときは P.354

クラクション（ホーン） P.59

クリアランスランプ（車幅灯）

電球（バルブ）交換 P.401

電球（バルブ）容量 P.415

クリープ現象 P.78

車のお手入れ P.404

グローブボックス P.316

ケ

警告（アドバンスドドライブアシスト
ディスプレイ） P.251

警告灯 P.229

警告表示 P.251

警報ブザー音別一覧表 P.351

けん引について P.360

コ

工具（格納場所） P.368

高水温警告 P.251

高水温警告が表示されたとき P.356

後席シート P.50

後席用パーソナルランプ P.313

航続可能距離	P.251
航続可能距離警告	P.245
航続可能距離表示	P.245
後側方車両検知警報（BSW）	P.118
後側方衝突防止支援システム（BSI）	P.118
後退時衝突防止支援システム（BCI）	P.136
後退灯	
電球（バルブ）交換	P.401
電球（バルブ）容量	P.415
コートハンガー	P.326
コーナリングスタビリティアシスト機能	P.96
故障警告灯（MIL）	P.229
故障したときの対処方法	P.365
コンソールボックス	P.317

サ

サービスデータ（車両仕様）	P.415
サイドミラー（ドアミラー）	P.62
サイドレーダー	P.135
サンシェード	P.290
サンバイザー	P.309
サンルーフ	P.290
サンルーフ [正常に作動しないとき]	P.294

シ

シート

お手入れ	P.409, P.410
後席シートの調節	P.50
シートヒーター	P.44
前席シートの調節	P.42
チャイルドシート	P.31
パーソナルドライビングポジション	
メモリーシステム	P.46
シートヒーター	P.44
シートベルト	
シートベルト警告灯	P.229
シートベルトのつけかた	P.52
前席緊急ブレーキ感応型プリクラッシュ	
シートベルト	P.54
ダブルプリテンショナー機構	P.53
ロードリミッター付プリテンショナー	
シートベルト	P.53
シガーライター	P.323
室内照明	P.311
シフトロック	
シフトロック解除ボタン	P.358
シフトロックシステム	P.358
車載工具	P.368
車線逸脱警報（LDW）	P.107
車線逸脱防止支援システム（LDP）	P.107
車速感知式オート集中ドアロック	P.275

ジャッキ	P.368
ジャッキアップポイント	P.369
車幅灯	
電球（バルブ）交換	P.401
電球（バルブ）容量	P.415
車両情報	P.245
ジャンプスタートのしかた	P.338
充電警告灯	P.229
衝撃感知式ドアロック解除システム	P.275

ス

水温計	P.226
水温計の針が赤い目盛りに入ったとき	P.356
スイッチ	
VDC OFFスイッチ	P.94
アイドリングストップOFFスイッチ	P.86
エンジンスイッチ	P.65
サンルーフスイッチ	P.292
ステアリングスイッチ（マーター）	P.245
デフロスタースイッチ	P.354
ドアミラースイッチ	P.62
ドアロックスイッチ	P.278
トランクオープナースイッチ	P.282
トリップ切り替えスイッチ	P.241
パワーウィンドースイッチ	P.288
パワーウィンドーロックスイッチ	P.288
非常点滅表示灯スイッチ	P.7

フォグランプスイッチ	P.303
方向指示器スイッチ	P.304
ライトスイッチ	P.296
リクエストスイッチ	P.275, P.281
リヤデフォッガースイッチ	P.355
ワイパー・ウォッシャースイッチ	P.305
ステアリング（ハンドル）	P.58
ステアリングスイッチ	
インテリジェントクルーズコントロー ル	P.152
インテリジェントペダル	P.187
メーター	P.245
スピードメーター	P.225
スライド（シート前後位置調節）	P.42

セ

制動灯	
電球（バルブ）交換	P.401
電球（バルブ）容量	P.415
セキュリティーアンジケーター	P.237
セレクトレバー	
セレクトレバーが動かない	P.358
セレクトレバーの操作	P.67
マニュアルモード	P.70
洗車のしかた	P.404
前席・後席ドア	P.275

前席緊急ブレーキ感応型プリクラッシュ	
シートベルト	P.54
前席シート	P.42
センターコンソールボックス	P.317
前部霧灯（フォグランプ）	P.303
前方衝突予測警報（PFCW）	P.214

ソ

走行距離、走行時間表示	P.245
走行中にブレーキを踏んだとき、ペダルが 振動する（ABS）	P.221
走行のしかた	P.79
速度計（スピードメーター）	P.225

タ

タイヤ	
アルミロードホイールのお手入れ	P.407
空気圧	P.378, P.416
タイヤ・ホイールサイズ	P.416
タイヤ・ホイールを交換するとき	P.379
タイヤ空気圧警報システム	P.382
タイヤチェーンについて	P.387
タイヤの位置交換（ローテーション）	P.381
タイヤの点検項目	P.378
パンク	P.334

ダイレクトアダプティブステアリング	P.99
タコメーター	P.225
ダブルプリテンショナー機構	P.53

チ

チャージランプ（充電警告灯）	P.229
チャイルドシート	
ISO FIX対応チャイルドセーフシート用 アンカーについて	P.34
チャイルドシート適合表	P.35
チャイルドセーフティードアロック	P.279
駐車のしかた	P.81
チルト・レスコピックステアリング	P.58
チルトアップ	P.292

テ

停車のしかた	P.81
ディスプレイ（アドバンスドドライブ アシストディスプレイ）	P.240
定速制御機能（インテリジェントクルーズ コントロール）	P.175
テールランプ表示灯	P.237
デフロスター・スイッチ	P.354
電球（バルブ）交換	P.398
電球（バルブ）容量	P.415
点検・整備について	P.368

電源ソケット	P.325
点検値／交換油脂類	P.412
電池交換	P.274
電動格納式ドアミラー	P.62
電動ガラスサンルーフ	P.290

T

ドア	P.275
ドア、トランク開き警告	P.251
ドアが開かない	P.336
ドアポケット	P.320
ドアミラー	P.62
ドアロックスイッチ	P.278
ドアを室内から開けられないとき (チャイルドセーフティードアロック)	P.279
盗難防止装置（イモビライザー）	P.66
時計	P.243
ドライビングポジションメモリーシステム	P.46
トランク	P.281
開かない	P.336
トランクオープナースイッチ	P.282
トランクオープン・リクエストスイッチ	P.281

ナ

内装のお手入れ	P.408
ナビ協調機能	
インテリジェントクルーズコントロール	P.169
インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）	P.199
ナンバー灯	
電球（バルブ）交換	P.400
電球（バルブ）容量	P.415

ネ

燃費情報表示	P.245
燃料	
燃料	P.284
燃料計	P.226
燃料残量警告灯	P.229
燃料タンク容量	P.284
燃料補給口	P.284

八

トランクの開閉	P.281
トランクフック	P.327
トリップ切り替えスイッチ	P.241
トリップメーター	P.241
後席	P.322
前席	P.321
ハイビームアシスト表示灯	P.237
ハイマウントストップランプ	
電球（バルブ）交換	P.401
電球（バルブ）容量	P.415
挟み込み防止機構	
サンルーフ	P.293
パワーウィンドー	P.289
発炎筒の使いかた	P.364
バックミラー（ルームミラー）	P.60
バッテリーがあがったときは	P.338
バッテリーセーバー	
ヘッドランプ	P.296
マップランプ	P.311
リヤパーソナルランプ	P.313
パッド摩耗警報	P.351
パドルシフト	P.70
バニティミラー	P.310
バルブ（電球）交換	P.398
バルブ（電球）容量	P.415

パワーウィンドー	P.288
パワーウィンドーが正常に作動しないとき	P.289
パワーシート	P.42
パワーステアリング警告灯	P.229
番号灯	
電球（バルブ）交換	P.400
電球（バルブ）容量	P.415
半ドア警告	P.251
ハンドル	P.58



ヒーター付ドアミラー	P.62
非常点滅表示灯	
電球（バルブ）交換	P.399, P.401
電球（バルブ）容量	P.415
非常点滅表示灯スイッチ	P.7
尾灯	
電球（バルブ）交換	P.401
電球（バルブ）容量	P.415
ヒューズ	P.391
表示灯	P.237
ヒルスタートアシスト	P.97



VDC	P.92
VDC OFF表示灯	P.237
VDC警告灯	P.229
ブースターケーブルのつなぎかた	P.338
フードの開閉	P.371
フォグランプ	
電球（バルブ）交換	P.401
電球（バルブ）容量	P.415
フォグランプ表示灯	P.237
フォグランプスイッチ	P.303
吹き出しき	P.295
ブザー（警報音）が鳴ったときは	P.351
フューエルフィラーリッド（燃料補給口）	P.284
フューエルメーター（燃料計）	P.226
ブレーキ警告灯	P.229
ブレーキパッド摩耗警報	P.351
フロアカーペット	P.330
フロントシート	P.42
フロントレーダー	P.168



平均燃費表示、平均車速表示	P.245
ヘッドライト	
オートライトシステム	P.298

ヘッドランプレバイザー	P.296
-------------	-------

電球（バルブ）交換	P.401
-----------	-------

電球（バルブ）容量	P.415
-----------	-------

ヘッドランプ上向き表示灯	P.237
--------------	-------

ヘッドランプスイッチ	P.296
------------	-------

ヘッドライト

後席シート	P.50
前席シート	P.42



ホイールサイズ	P.416
ホイールナットレンチ	P.368

防眩式ルームミラー	P.60
-----------	------

方向指示器

電球（バルブ）交換	P.399, P.401
電球（バルブ）容量	P.415
方向指示器スイッチ	P.304

方向指示表示灯	P.237
---------	-------

防犯装置

イモビライザー（盗難防止装置）	P.66
セキュリティーインジケーター	P.237

ホーン	P.59
-----	------

ポジションインジケーター	P.242
--------------	-------

ポップアップエンジンフード警告灯	P.229
------------------	-------

ボトルホールダー	P.320
----------	-------

ボンネット（フード）	P.371
------------	-------

索引

索引



- マ
マスター オーニング P.229
マップランプ P.311
窓ガラスのくもりの取りかた P.354
マニュアルモード P.70



- ミラー
ドアミラースイッチ P.62
バニティミラー P.310
ルームミラー P.60



- メーター
アドバンスド ドライブアシスト
ディスプレイ P.240
警告灯 P.229
警告表示 P.251
ドライブインジケーター P.251
ドライブコンピューター P.245
表示灯 P.237
メーターの見かた P.224
メンテナンスデータ（サービスデータ） P.412



- ユ
雪道やぬかるみからの脱出のしかた P.359
雪道を走行するとき P.375



- ライター（シガーライター） P.323
ライトスイッチ P.296
ランプ（室内照明）
マップランプ P.311
リヤパーソナルランプ P.313
ランプが点灯しないとき（バルブの交換） P.398
ランプ消し忘れ警告 P.251



- リクエストスイッチ
ドア P.275
トランク P.281
リクライニング（背もたれの角度調節） P.42
リフター（シートの上下調節） P.42
リモートコントロールエントリー機能 P.277
リモコン P.277, P.282
リヤシート P.50
リヤデフォッガースイッチ P.355
リヤパーソナルランプ P.313



- ル
ルームミラー P.60
ルームランプ P.311



- 冷却水
寒冷時の取り扱い P.375
冷却水（規定量） P.413
レーダーセンサー
サイドレーダー P.135
フロントレーダー P.168
レバー（セレクトレバー） P.67



- ロードホイール
お手入れ P.407
交換 P.379
サイズ P.416
ロードリミッター付プリテンショナー
シートベルト P.53
路上で故障したときは P.365



- ワイパー
ワイパー ゴムの交換 P.390

ワイパー・スイッチ	P.305
ワイパー・ブレードの交換	P.389
ワイパー・ウォッシャースイッチ	P.305
ワックスをかけるとき	P.406

MEMO

索引